平成21年度

新潟県中越沖地震
「被災者こころと身体の健康調査」

報 告 書



平成22年3月

新潟県精神保健福祉協会 こころのケアセンター
新潟県柏崎市
新潟県出雲崎町
新潟県刈羽村

は　じ　め　に

平成 19 年 7 月 16 日 10 時 13 分に発生した中越沖地震から 2 年半が過ぎようとしています。この 2 年半の間、被災された皆様におかれましては住宅再建や生活再建に向け、大変なご苦労の連続であったこととお察し申し上げます。

また、被災市町村および関係機関の皆様には、復興に向け、たゆまぬご努力をされてこられたことに心より感謝申し上げます。

さて、新潟県精神保健福祉協会こころのケアセンターでは、平成 20 年から地震がもたらした様々なストレスがこころや身体にどのような影響を与えるかを調べるために、「被災者こころと身体の健康調査」を実施しております。この調査は 3 年間連続して行うもので、平成 20 年 6 月に柏崎市と刈羽村、同年 10 月に出雲崎町にて 1 年目の調査を実施いたしました。調査結果に基づき、被災市町村とも連携を深めながらこころのケア事業を展開してまいりました。

この度、平成 21 年 7 月に 2 年目の調査を柏崎市、出雲崎町、刈羽村にて実施し、その調査結果及び考察が報告書という形で完成いたしました。

本報告書をまとめるにあたりご協力・ご指導いただいた国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 鈴木友理子氏、深澤舞子氏、茨内地域生活支援センター臨床心理技術者 五十嵐晃子氏にこの場をおかりして厚くお礼申し上げます。

最後に、この報告書が、被災された皆様のこころと身体の健康回復に役立っていただければ幸いです。1 日も早く皆様の生活が再建されますことを心よりお祈り申し上げます。

平成 22 年 3 月

新潟県精神保健福祉協会

こころのケアセンター長　染矢 俊幸

柏崎地域こころのケアセンター

事業運営委員長　松田 ひろし

目　次

はじめに

Ⅰ　中越沖地震被害概要 …… 1

Ⅱ　調査概要 …… 3

Ⅲ　柏崎市の調査内容と結果

1. 柏崎市の概要と復興の状況 …… 7
2. 調査結果の分析と考察
（1）回収結果（2）調査参加者の属性 …… 9
（3）調査結果 …… 13
（4）K6 分析 …… 18
（5）IES-R 分析と考察 …… 41
3. 自由記載・こころのケア事業からみた柏崎市の状況 …… 57
4. まとめと今後のこころのケアの課題 …… 58

Ⅳ　出雲崎町の調査内容と結果

1. 出雲崎町の概要と復興の状況 …… 61
2. 調査結果の分析と考察
（1）回収結果（2）調査参加者の属性 …… 62
（3）調査結果 …… 66
（4）K6 分析 …… 71
（5）IES-R 分析と考察 …… 93
3. 自由記載・こころのケア事業からみた出雲崎町の状況 …… 108
4. まとめと今後のこころのケアの課題 …… 109

Ⅴ 刈羽村の調査内容と結果

1. 刈羽村の概要と復興の状況 …… *111*

2. 調査結果の分析と考察

（1）回収結果（2）調査参加者の属性 …… *112*

（3）調査結果 …… *116*

（4）K6 分析 …… *121*

（5）IES-R 分析と考察 …… *144*

3. 自由記載・こころのケア事業からみた刈羽村の状況 …… *160*

4. まとめと今後のこころのケアの課題 …… *161*

巻末資料： …… *163*

各市町村の中越沖地震「被災者こころと身体の健康調査」関係書類

（調査の主旨とご協力のお願い、調査用紙、調査結果速報、健康調査の結果のお知らせ）

Ⅰ中越沖地震被害概要（※ 新潟県土木部 HP 公開資料より抜粋・編集）

平成 19 年 7 月 16 日午前 10 時 13 分に新潟県上中越沖（北緯 37 度 33.4 分、東経 138 度 36.5 分）の、深さ約 17km でマグニチュード 6.8 の地震が発生し、新潟県と長野県で最大震度 6 強を観測した。新潟県内では、長岡市、柏崎市、刈羽村で震度 6 強、上越市、小千谷市、出雲崎町で震度 6 弱を記録したほか、県内の広い地域で震度 5 強から 4 の強い揺れが観測された。

新潟県で震度 6 以上の地震を観測したのは、平成 16 年の新潟県中越地震（中越大震災）で震度 7 を記録して以来であり、気象庁は「平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震」と命名した。今回の地震に伴い、柏崎市西山町池浦観測点で 1,000gal を超えるなど、大きな加速度の地震動が観測された。また 10 時 14 分に新潟県上中越と佐渡に津波注意報が発表され、柏崎と佐渡（小木）で高さ 0.3m など、新潟県沿岸を中心に弱い津波を観測したが、柏崎（新潟県管轄）では高さ約 1m の津波を観測した。

新潟県災害対策本部の報道資料（※ 下記転載参照）によると、死者 15 名（柏崎市 14 名・刈羽村 1 名）重軽傷者 2,316 名、被害を受けた住宅は 43,689 棟（43,493 世帯）に上った。

中越沖地震の被害の特徴は、個人住宅や中心市街地の商店街をはじめとして、多数の建築物が液状化等による地盤災害により被害を受けたことである。また、東京電力㈱柏崎刈羽原子力発電所が被災し、全号機の運転操業を停止した。

新潟県

新潟県報道資料

平成 19 年 7 月 16 日に発生した新潟県中越沖地震による被害状況について(第 274 報)

新潟県中越沖地震による被害情報について、市町村等から報告のあったものを取りまとめましたのでお知らせします。住家被害の合計は 43,689 棟です。

○ **被害総数**　　新潟県災害対策本部　平成 21 年 8 月 12 日現在

区分	人的被害（人）		住家被害								非住家被害
	死者	重軽傷者	全壊		大規模半壊		半壊		一部損壊		公共施設+その他
単位	人	人	棟数	世帯	棟数	世帯	棟数	世帯	棟数	世帯	棟数
新潟県計	15	2,316	1,331	1,199	856	835	4,853	4,739	36,649	36,720	31,524

○ 各市町村別の被害

区分	人的被害（人）		住家被害								非住家被害
	死者	重軽傷者	全壊		大規模半壊		半壊		一部損壊		公共施設+その他
単位	人	人	棟数	世帯	棟数	世帯	棟数	世帯	棟数	世帯	棟数
新潟市		9			1	1			66	66	20
長岡市		243	10	12	25	25	434	434	6,934	6,934	2,269
三条市		32					1	1	126	126	1
柏崎市	14	1,664	1,121	986	676	655	3,907	3,785	22,719	22,719	24,359
小千谷市		40							251	251	69
十日町市		8	1	1			14	16	360	424	116
燕　市		10	2	2	1	1	12	12	877	877	208
妙高市							2	2	33	34	12
上越市		158	14	15	1	1	62	68	2,708	2,707	1,776
魚沼市		6							9	9	21
南魚沼市		4							17	17	6
出雲崎町		10	17	17	16	16	115	115	1,383	1,390	348
川口町							1	1	8	8	
刈羽村	1	116	166	166	136	136	305	305	654	654	2,228
加茂市											7
湯沢町		1									
見附市		14							497	497	75
佐渡市											1
阿賀野市									1	1	1
糸魚川市		1							6	6	7

※ 数値については速報値であり、今後変更される可能性があります。

※ 被災者については、被災地別で計上（例：A町の住民がB町において被災及び発症した場合、B町における計上とする。）

○ 被害の詳細について

（1）柏崎市

76歳男性が建物の下敷きになって死亡。

72歳女性が建物の下敷きになって死亡。

78歳女性が建物の下敷きになって死亡。

81歳女性が建物の下敷きになって死亡。

83歳男性が建物の下敷きになって死亡。

83歳男性が建物の下敷きになって死亡。

77歳女性が外傷性硬膜下血腫により死亡。

71歳女性が建物の下敷きになって死亡。

76歳男性が建物の下敷きになって死亡。

47歳男性が熱傷により死亡。

62歳男性が被災によるストレスのため
急性心筋梗塞で死亡。

70歳女性が被災によるストレスのため脳出血で死亡。

59歳男性が被災によるストレスのため胃潰瘍（大量出血）で死亡。

59歳男性が地震や長期入院による
ストレスのため死亡。

（2）刈羽村

79 歳女性が建物の下敷きになって死亡。

○ 災害救助法の適用状況について

平成 19 年 7 月 16 日、以下の市町村に対し、災害救助法の適用を決定。

長岡市、柏崎市、小千谷市、上越市、出雲崎町、刈羽村
三条市、十日町市、燕市、南魚沼市（合計 10 市町村）

○ 市町村災害対策本部設置状況

県内 13 市町村において災害対策本部を設置

（設置中）　長岡市、柏崎市、出雲崎町、刈羽村

（解散済み）　新潟市、三条市、小千谷市、上越市
南魚沼市、燕市、川口町、見附市、十日町市

Ⅱ調査概要

1） 目的

中越沖地震の与えた住民のメンタルヘルスへの影響は、次の三つの側面を重視しながら評価しなくてはならない。第一に、平成 16 年 10 月に約 70 名の死者を出した中越大震災の経験、第二に、今回の中越沖地震そのものが与えた影響である。三つ目は、世界で最も大規模な原子力発電所である柏崎刈羽原子力発電所のトラブルによる影響である。原子力事故の不安が精神健康に及ぼす影響は、1986 年のチェルノブイリ原子力発電所の放射能漏れ事故後、高被ばく線量地域において住民の精神不健康が報告されている。また、低被ばく線量地域においても、本人および家族における被ばくの事実の不確実性が増し、身体症状の発現のたびに原子力の影響に対する不安が強まると報告されている。

このように、二回の巨大地震の被災と原発トラブルに対する不安という、三重の不安と恐怖に晒されたこれら住民の状況を明らかにし、対策を練ることは、被災地域の住民にとって、更には国際的にも重要な情報となり、これら地震における精神保健的考察及びサービス提供は重要な案件である。

そこで、本調査は、以下を目的とする。

1. 精神保健関連の問題について K6*や IES-R*を指標としてスクリーニングすることにより、ハイリスク者を同定し適切な医療・保健サービスにつなげる。

2. K6 や IES-R を指標として精神健康不良のハイリスク者の特徴を人口統計学的・社会経済的要因やその他の要因（中越大震災など）について検討する。特に被災前の脆弱性、修飾可能な要因について検討し、スクリーニングのあり方、その後の介入プログラムの開発につなげる。

3. 精神保健や地域復興の付随的事象としてのソーシャルサポートについても同様に上記要因との関連をみる。

4. ３年間の縦断調査を行うことにより、精神保健に影響を与える経時的な要因を探り、その後の介入プログラムに反映させる。

5. 地域全体の精神健康回復状況を評価するとともに、介入の効果を測定する。

*: K6 (Kessler, 2003)

本尺度は、非特異的な精神健康の問題の程度を測定する 6 項目の簡便なスクリーニング尺度である。我が国の精神障害の有病率調査（WMH-J 調査）（川上、平成 18 年）で用いられており、平常時の地域住民においてその感度、特異性、SSLR（層別尤度比）、種々のカットオフポイントを満たす住民の割合などが既に検討されている（川上、平成 18 年、古川、他、平成 14 年）。平成 18 年厚生労働科学研究の川上の報告では、K6 合計点（範囲 0-24）5 点以上は心理ストレス相当、10 点以上が気分・不安障害相当、13 点以上が重症精神障害相当として分析されている。

*: IES-R (Impact of Event Scale-Revised) 改訂版出来事インパクト尺度(Weiss, D. & Marmar, C. 1997 ; Asukai, et al. 2002)

トラウマ（心的外傷）を生む特定の要因による現在の精神状態を測定する指標。PTSD（ Posttraumatic stress disorder, 心的外傷後ストレス障害 ）のハイリスク者をスクリーニングする方法として多くの現場で用いられており、感度と特異性に優れているといわれている。

IES-R は、特定のストレス状況を限定して、それに伴う心身のショック状態や PTSD の傾向を測定する尺度である。22 項目で各 5 段階評価となっており、得点は 0 点から 88 点満点で、得点が高いほどショック状態が強いことを示す。PTSD のハイリスク傾向は、IES-R が 25 点以上を用いることが多い。

2）対象者

柏崎市・出雲崎町・刈羽村をそれぞれ母集団として、柏崎市以外は全世帯の 16 歳以上の世帯構成員すべてを対象とした（出雲崎町 1,711 世帯・4,544 名、刈羽村 1,554 世帯・4,301 名）。柏崎市については、仮設住宅入居世帯および入居経験世帯（796 世帯）と住基ネットで無作為抽出した 1,941 世帯の、16 歳以上の世帯構成員すべてを対象とした（計 2,737 世帯・6,718 名、対象地区は限定しない）。

そして、16 歳以上の家族全員分の質問票を対象世帯に郵送し、返信用封筒を対象人数分同封して個人別に返送してもらうことで、各世帯内におけるプライバシー保護の配慮をした。

3）調査項目

主要測定項目：精神健康指標として、K6 と IES-R を用いた。

その他の変数：

i） 社会経済学的変数：性、年齢、教育年数、世帯主か否か、主たる家計者および回答者の就労状況等

ii） 災害の影響に関する変数：家屋被害認定区分（中越大震災、中越沖地震）、中越大震災・中越沖地震による暮らし向きの変化、中越沖地震後の雇用状況の変化

iii） 健康行動関連変数：喫煙の有無とその変化、飲酒の有無とその変化・体調の変化・体重の変化（中越沖地震前後）、定期的な受診の有無（現在）

iv） ソーシャルサポート変数：ソーシャルサポートに関する認識（現在）

なお、調査項目数は、柏崎市・出雲崎町は 55、刈羽村は 54 である。
（刈羽村のみ食育に関する 14 項目を追加）

4）調査実施期間

平成 21 年 7 月 1 日（水）～31 日（金）

5）分析方法

χ2 乗検定、t 検定、Fisher の正確検定を用いて行い、有意水準は 5%とした（※ 検定方法等の詳細は各表下部に記載。なお、図表中の分析対象者数と項目ごとの合計人数は、欠損値があったために必ずしも一致していない箇所もある）。

6）倫理的配慮

本事業は新潟県精神保健福祉協会 こころのケアセンター・柏崎市・出雲崎町・刈羽村の共同保健事業であるので、疫学研究の倫理指針の対象外となる。しかし、保健事業として、情報管理および個人情報保護には細心の注意を払って実施した。調査結果の分析は元データを連結不可能な匿名化データに加工して、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 成人精神保健研究部と医療法人立川メディカルセンター・茨内地域生活支援センター担当者に委託して実施した。

（参考文献）

① Kessler RC, Barker PR, Colpe LJ, et al. Screening for serious mental illness in the general population. Arch Gen Psychiatry. 2003;60(2):184-9.

② 古川壽亮, 大野裕, 宇田英典,中根允文. 一般人口中の精神疾患の簡便なスクリーニングに関する研究. 平成 14 年度厚生労働科学研究補助金（厚生労働科学特別研究事業）心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究. 研究協力報告書. (http://mental.m.u-tokyo.ac.jp/h14tokubetsu/)

③ 川上憲人. 全国調査における K6 調査票による心の健康状態の分布と関連要因. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報高度利用総合研究事業） 国民の健康状況に関する統計情報を世帯面から把握・分析するシステムの検討に関する研究. 分担研究書.

④ Weiss, D. & Marmar, C. The Impact of Event Scale -Revised. In J. Wilson & T. Keane (Eds), Assessing psychological trauma and PTSD. 1997. New York: Guildford.

⑤ Asukai N, Kato H, Kawamura N, et al. Reliability and validity of the Japanese-language version of the impact of event scale-revised (IES-R-J): four studies of different traumatic events. J Nerv Ment Dis. 2002;190(3):175-82.

⑥ 心理アセスメントハンドブック (Handbook of Psychological Assessment) 第 2 版　監修：上里一郎　2001 年　西村書店

Ⅲ 柏崎市の調査内容と結果

Ⅲ 柏崎市の調査内容と結果

1.柏崎市の概要と復興の状況（H.21.7 月末現在）

■ 概要

新潟県の海岸沿いのほぼ真中に位置し、米山・黒姫・八石の刈羽三山に囲まれた刈羽平野に位置する。中心市街地は砂丘上に発展した。稲作が盛んであるため、市街地から離れると田園が広がっている。新潟県内では 6 番目の人口を擁する。刈羽地区、柏崎地域広域圏の中心地で、国・県の出先機関も数多く置かれている。また観光資源も豊富で、市域の一部は佐渡弥彦米山国定公園に指定されている。平成 17 年 5 月 1 日、刈羽郡西山町、高柳町を編入合併。

人口	92,176 人
世帯数	34,116 世帯
面積	442,70 平方キロメートル
海岸線	およそ 42 キロメートル

■ 復興の状況

（1）応急仮設住宅

建設箇所	39 箇所	1,007 戸
入居者数	255 戸	543 人
（ピーク時　平成 19 年 11 月	981 戸	2,477 人）
入居率		25.3%
（ピーク時　平成 19 年 11 月		97.4%）

(2) 復興公営住宅

建設箇所　　4 箇所　　200 戸

入居開始予定

駅前住宅 1 号棟他　10 棟　平成 21 年 8 月下旬～9 月上旬

(3) 住宅再建

応急仮設住宅入居世帯の住宅再建状況

累計入居世帯 976 世帯のうち、731 世帯（74.9%）が住宅再建・購入等により応急仮設住宅を退去された。

再建状況	区分	世帯数	構成比
未	応急仮設住宅入居世帯	245	25.1%
済	①自宅再建・購入	581	59.5%
	②公営住宅入居	25	2.6%
	③民間賃貸住宅入居	57	5.8%
	④避難勧告・指示解除	26	2.7%
	⑤その他	42	4.3%
合計		976	100.0%

2.調査結果の分析

（1）回収結果

1）調査対象人数・世帯数

対象世帯数			対象人数
仮設住宅	無作為抽出	合計	
796 世帯（1,943 名）	1,941 世帯（4,775 名）	2,737 世帯	6,718 名

2）回収状況

調査対象人数	回答者数	回収率
6,718 名	3,229 名	48.1%

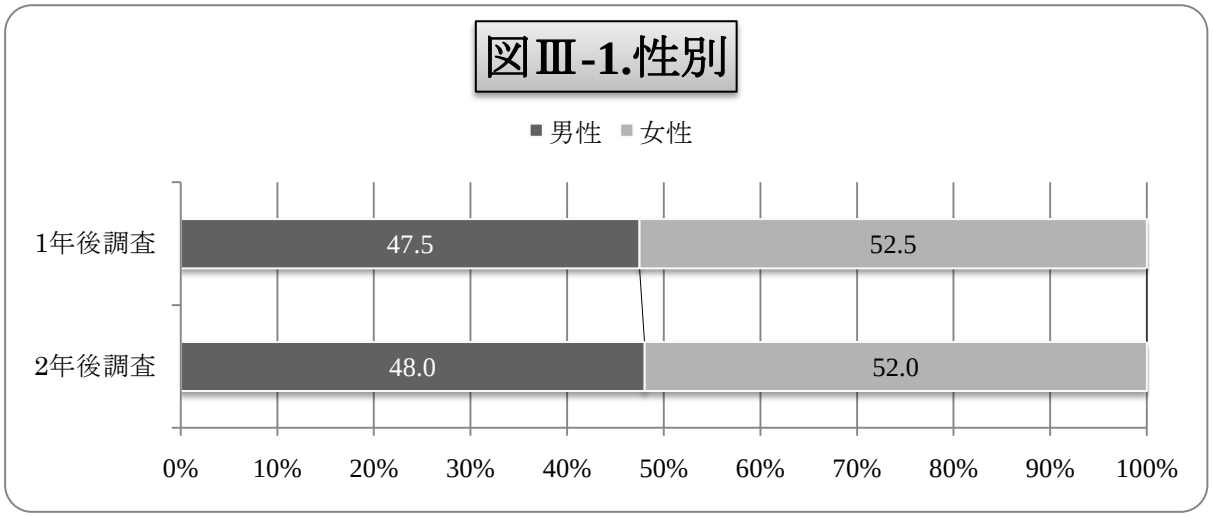
（2）調査参加者の属性

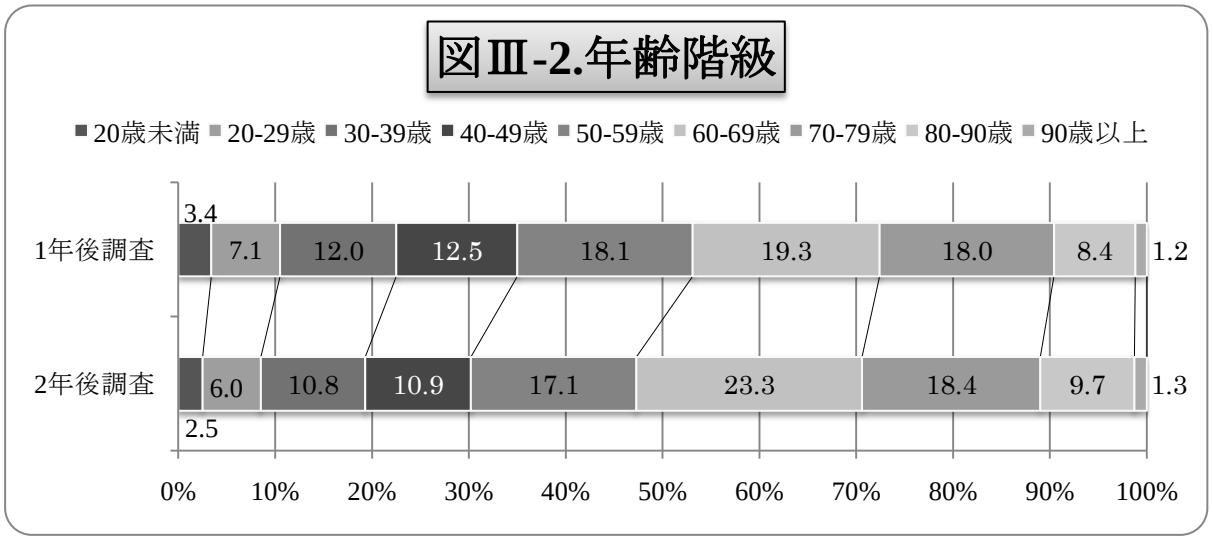
新潟県中越沖地震「被災者こころと身体の健康調査」の 1 年後調査参加者と 2 年後調査参加者の基本的属性の比較を図Ⅲ-1~7（表Ⅲ-1）に示した。

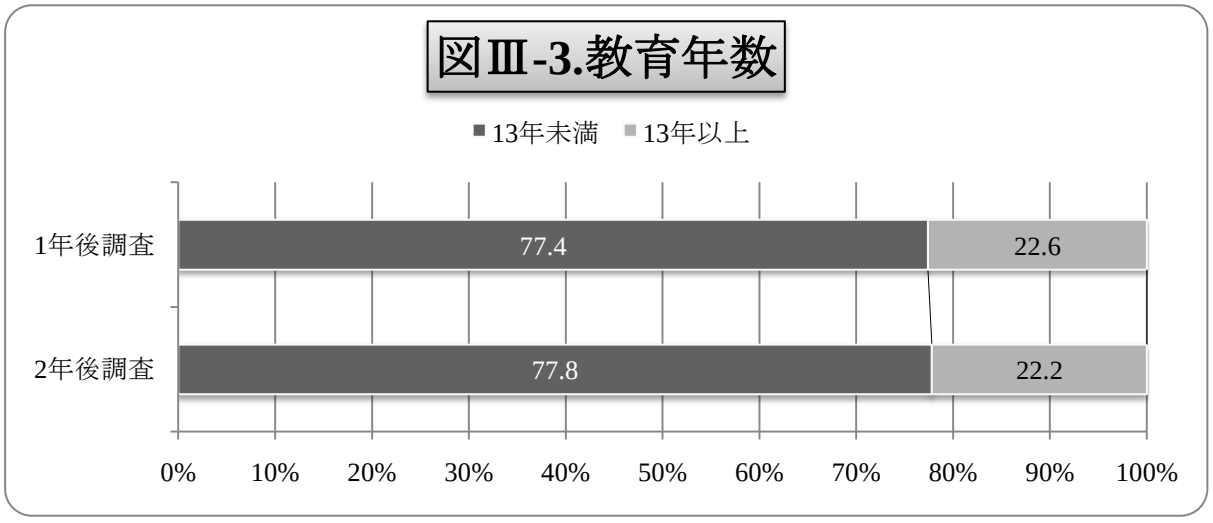
まず、2 年後調査参加者は、男女は同じ程度の割合（男性 : 48.0%、女性 : 52.0%）であり、年齢構成は、50 歳以上が多く、60 歳代以上の方が過半数（1,685 人、52.7%）であり、平均年齢は、57.9 歳（標準偏差 : 18.1）であった。教育年数は、平均が 11.7 年（標準偏差 : 2.4）であった。調査票の回答は、世帯主からのものが最も多く（1,462 人、46.2%）、回答された方の職業としては、会社員（882 人、28.3%）、年金受給者（870 人、28.0%）、無職（356 人、11.4%）、専業主婦（323 人、10.4%）が多かったが、世帯の主たる家計者の職業としては、会社員、年金受給者が 70%以上を占めた。回答された方のほとんどが（2,916 人、94.6%）が、仮設住宅以外で生活しており、調査時に仮設住宅で生活していた方は、168 人（5.5%）であった。

1 年後調査参加者と 2 年後調査参加者の基本的属性の比較をしたところ、男女比は同じであったが、年齢構成は異なっていた（χ^2 検定、$p<0.001$）。これは 2 年後調査では、60 歳代の回答された方が若干多かったからかもしれない。同様に、平均年齢も 2 年後調査では 2 歳程度高くなっていた（一年後調査 : 55.9 歳、標準偏差 18.7、2 年後調査 : 57.9 歳、標準偏差 18.1、t 検定、$p<0.001$）。教育年数、回答された方の家族内役割については同じであった。回答された方の職業の構成は 2 回の調査で異なっていたが（χ^2 検定、$p<0.001$）、これは 2 年後調査では年金受給者が大幅に多かったからであろう。主たる家計者の職業の構成についても、同じパターンであった。

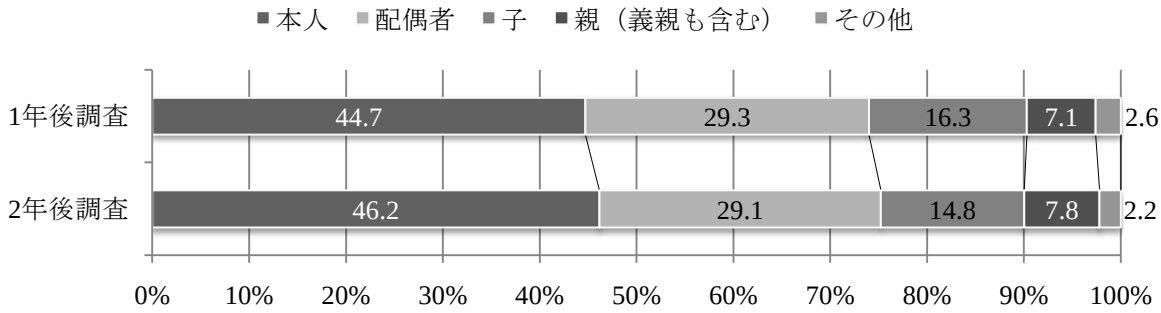
調査時に、仮設住宅で生活していた方が 1 年後調査では 920 人（34.7 %）であったが、2 年後調査では仮設住宅で生活していると回答された方は 168 人（5.5%）と大幅に減っていた（χ^2 検定、p<0.001）。そして自宅で生活している方が 1,826 人（47.6 %）から 2,644 人（85.7%）と、そして、その他の住まいで生活している方が 22 人（0.6 %）から 44 人（1.4 %）と増えていた（χ^2 検定、p<0.001）。



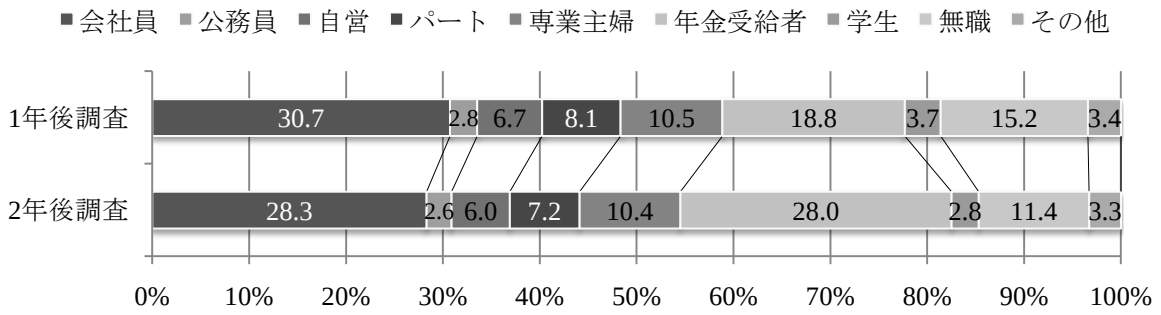




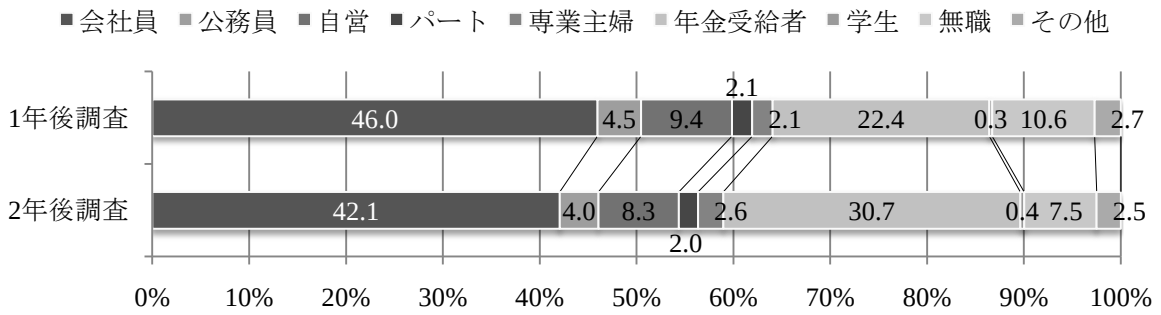
図Ⅲ-4.世帯主との関係



図Ⅲ-5.回答者の職業



図Ⅲ-6.主たる家計者の職業



図Ⅲ-7.現在の住まい

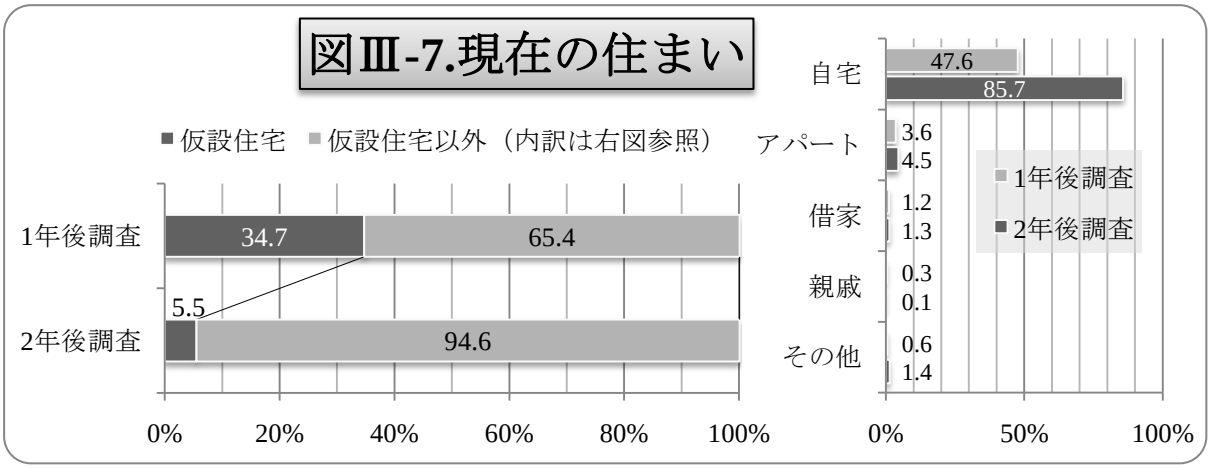


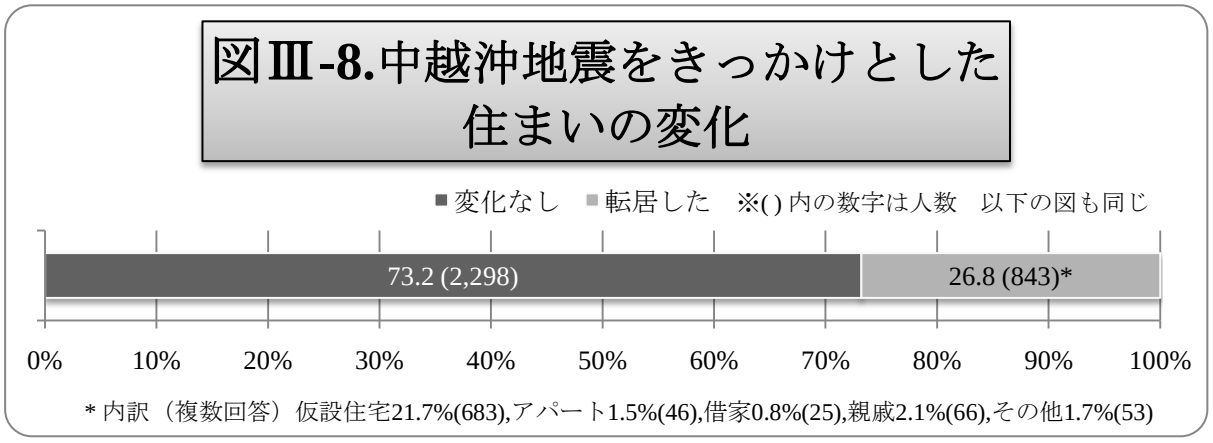
表 Ⅲ-1. 柏崎市における中越沖地震後のこころと身体の健康調査の
1 年後調査参加者と 2 年後調査参加者の基本的属性の比較

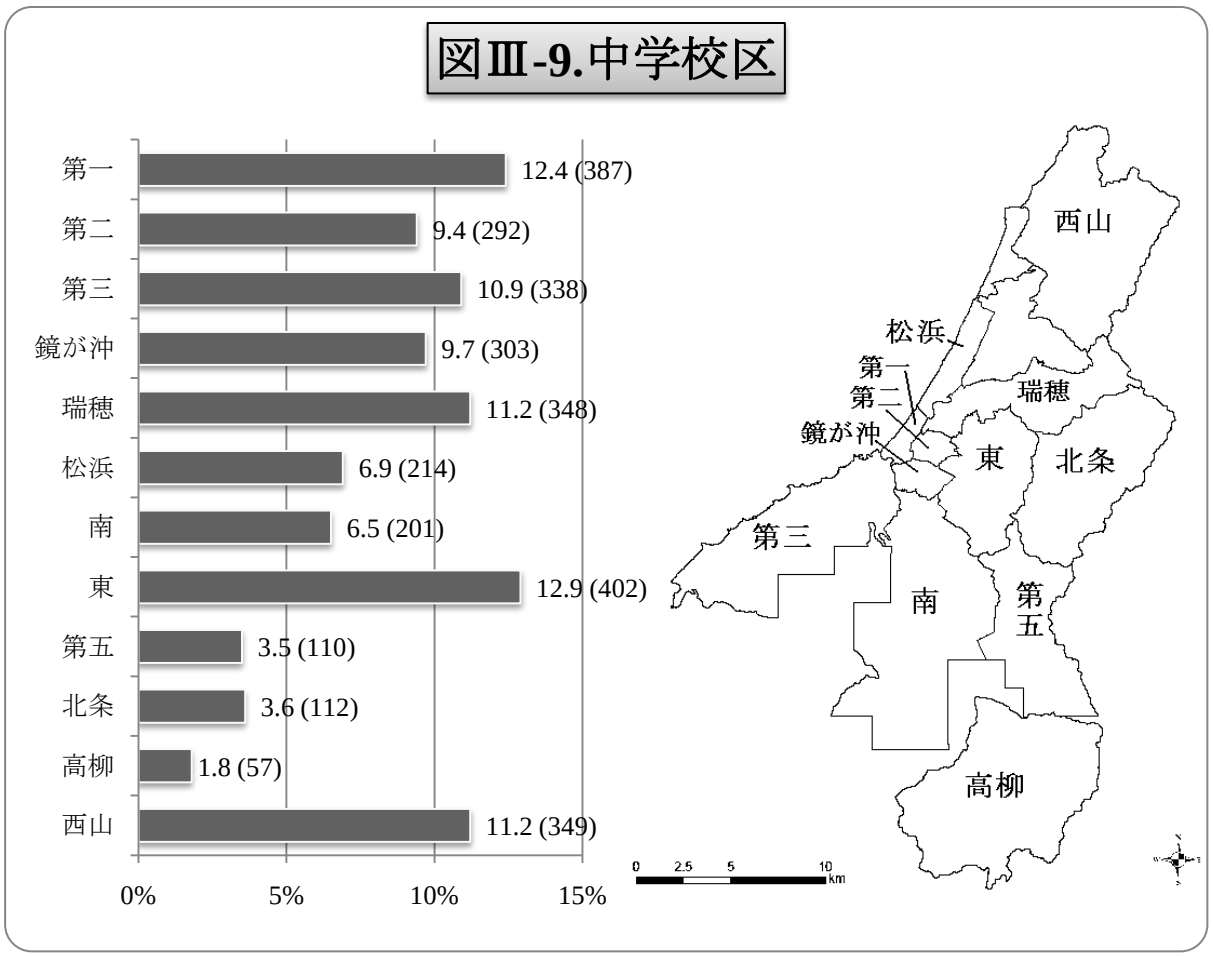
	1 年後調査 (n=3,862)		2 年後調査 (n=3,229)		df	χ^2/t		p
	n / mean	% / (sd)	n / mean	% / (sd)				
性別								
男性	1,822	47.5	1,534	48.0	1	0.2		0.635
女性	2,017	52.5	1,660	52.0				
年齢階級								
20 歳未満	129	3.4	80	2.5	8	31.3	†	<0.001
20-29 歳	272	7.1	192	6.0				
30-39 歳	462	12.0	345	10.8				
40-49 歳	480	12.5	349	10.9				
50-59 歳	696	18.1	546	17.1				
60-69 歳	740	19.3	744	23.3				
70-79 歳	689	18.0	589	18.4				
80-89 歳	324	8.4	310	9.7				
90 歳以上	45	1.2	42	1.3				
平均年齢 (標準偏差)	55.9	(18.7)	57.9	(18.1)	7,032	-4.5	†	<0.001
教育年数								
13 年未満	2,906	77.4	2,413	77.8	1	0.1		0.712
13 年以上	849	22.6	690	22.2				
教育年数 (標準偏差)	11.7	(2.4)	11.7	(2.4)	6,856	0.0		0.998
世帯主との関係								
本人	1,687	44.7	1,462	46.2	4	5.7		0.227
配偶者	1,105	29.3	921	29.1				
子	613	16.3	467	14.8				
親（義親も含む）	268	7.1	247	7.8				
その他	99	2.6	70	2.2				
回答者の職業								
会社員	1,131	30.7	882	28.3	8	90.2	†	<0.001
公務員	102	2.8	80	2.6				
自営	247	6.7	187	6.0				
パート	299	8.1	225	7.2				
専業主婦	389	10.5	323	10.4				
年金受給者	695	18.8	870	28.0				
学生	138	3.7	86	2.8				
無職	562	15.2	356	11.4				
その他	127	3.4	103	3.3				
主たる家計者の職業								
会社員	1,705	46.0	1,293	42.1	8	74.0	†	<0.001
公務員	165	4.5	122	4.0				
自営	347	9.4	254	8.3				
パート	78	2.1	60	2.0				
専業主婦	78	2.1	80	2.6				
年金受給者	830	22.4	945	30.7				
学生	12	0.3	12	0.4				
無職	393	10.6	230	7.5				
その他	99	2.7	78	2.5				
現在の住まい								
仮設住宅	920	34.7	168	5.5	1	792.0	†	<0.001
仮設住宅以外	1,735	65.4	2,916	94.6				
（複数回答）								
自宅	1,826	47.6	2,644	85.7	1	1,100.0	†	<0.001
アパート	139	3.6	138	4.5	1	3.3		0.070
借家	47	1.2	40	1.3	1	0.1		0.782
親戚	11	0.3	3	0.1	1	3.0		0.082
その他	22	0.6	44	1.4	1	13.2	†	<0.001

Chi-square tests or t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

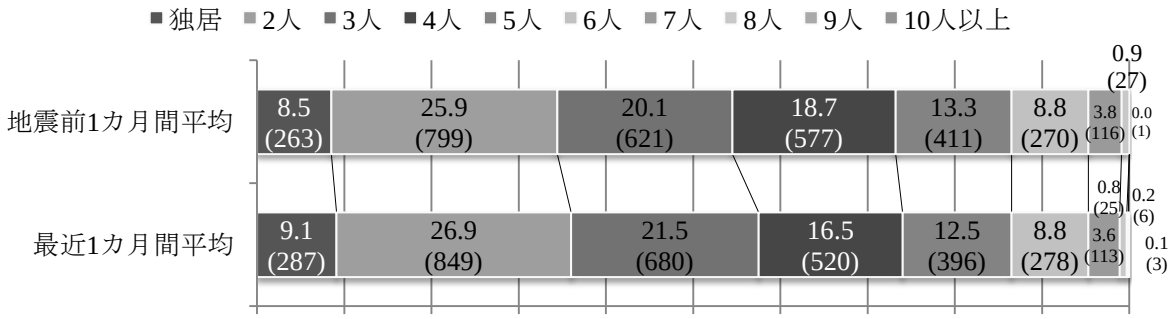
（3）調査結果

図Ⅲ-8~10 に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の住まいの状況について示した。調査に回答された方のほとんど（3,031 人、95.7%）が市内で生活していた（市外は 135 人、4.3%）。中越沖地震をきっかけに転居をした方は、843 人（26.8%）であった。これらの方では、仮設住宅の利用が最も多かった。中学校区別に参加者の割合をみてみると、東中学校区（402 人、12.9%）、第 1 中学校区（387 人、12.4%）、瑞穂中学校区と西山中学校区（それぞれ 348 人と 349 人、11.2%）が多かった。同居家族の人数としては、2 人から 5 人が多く、これは地震前 1 月間でも、調査時の 1 カ月間でも同様の傾向であった。



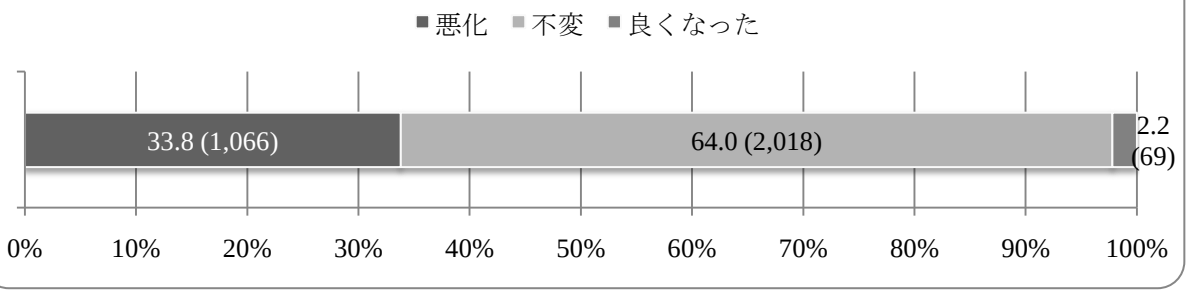


図Ⅲ-10.居住形態（同居家族の人数）

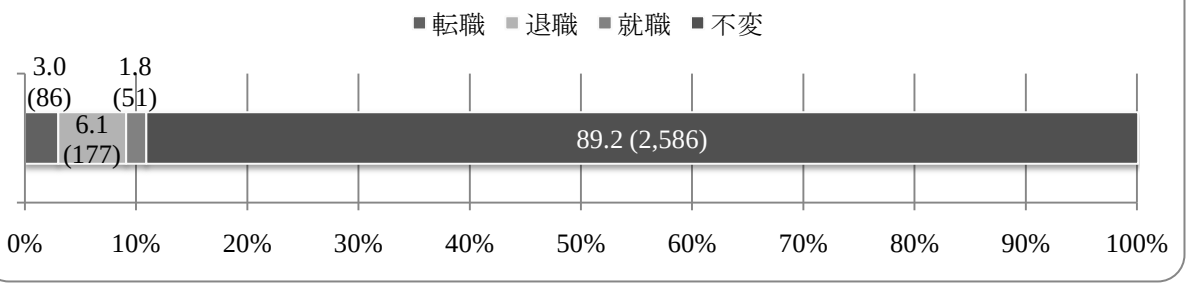


図Ⅲ-11~13 に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響として、暮らし向きの変化、雇用状況、家屋被害状況についてまとめた。中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化について､約 3 分の 2 は不変と回答したが（2,018 人、64.0%）、残り 3 分の 1 の方は、暮らし向きが悪化したと回答した（1,066 人、33.8%）。中越沖地震をきっかけとした雇用状況については、約 9 割の方が不変と回答したが（2,586 人、89.2%）、86 人（3.0%）が転職を、177 人（6.1%）が退職した。中越大震災については、半壊以上の家屋被害を受けたと回答した方が 217 人（7.2%）であったが、中越沖地震については、1,185 人（37.7%）と大幅に多かった。

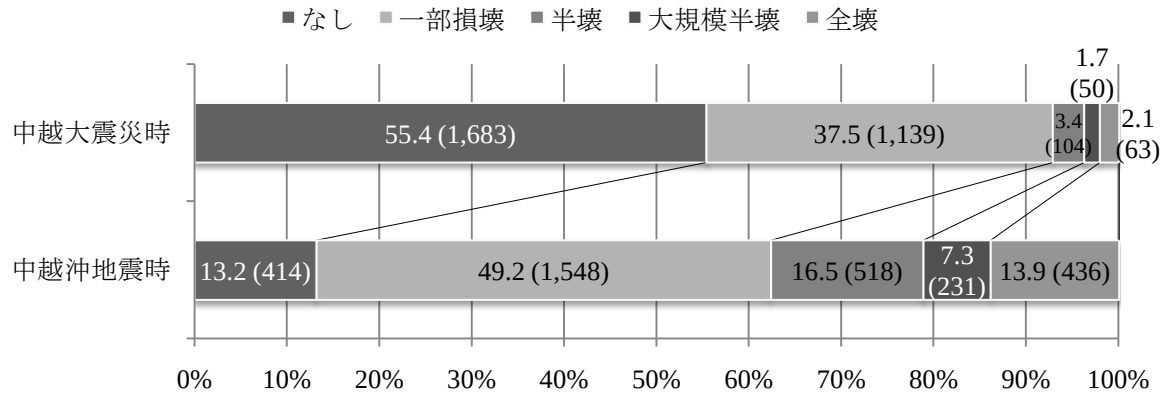
図Ⅲ-11.中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化



図Ⅲ-12.中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化

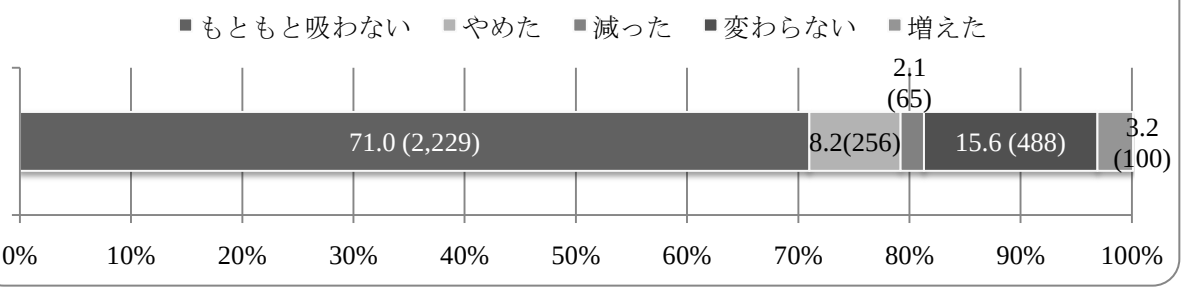


図Ⅲ-13.中越大震災時・中越沖地震時の家屋被害

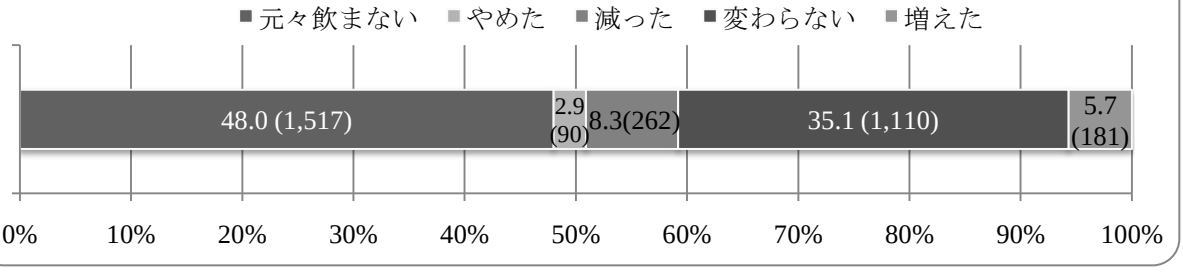


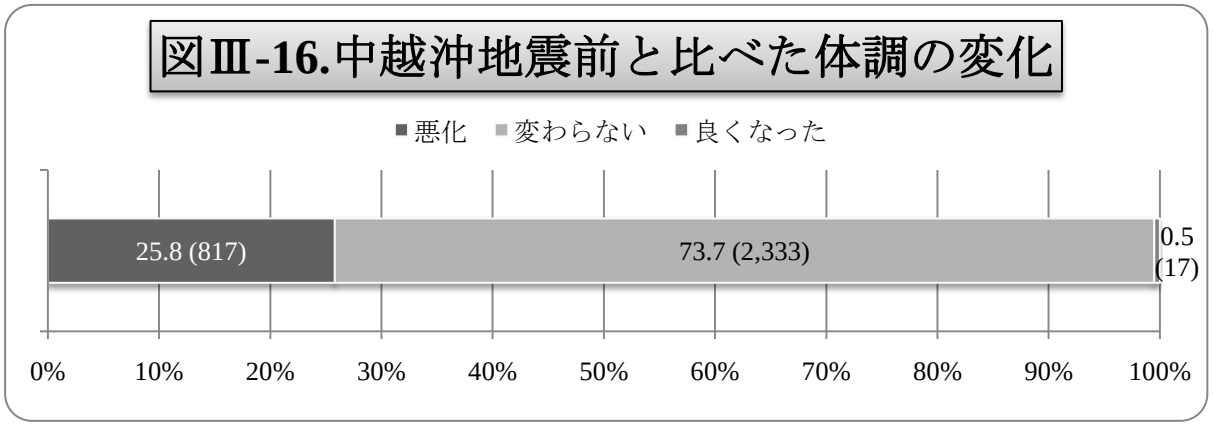
図Ⅲ-14~18 に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動についてまとめた。中越沖地震前と比較した喫煙状況は、「もともと吸わない」と回答した方が、2,229 人（71.0%）と最も多く、「喫煙数が増えた」方は、100 人（3.2%）であった。同じく飲酒状況については、「もともと飲まない」という方が、1,517 人（48.0%）と最も多く、飲酒が「増えた」方は 181 人（5.7%）であった。ほとんどの方（2,333 人、73.7%）が体調に変化を感じていなかったが、817 人（25.8%）は、体調が「悪化した」と感じていた。体重の変化について、310 人（9.8%）の方が体重の増加を報告していたが、525 人（16.6%）の方は体重は減少したという報告であった。340 人（10.8%）の方が、中越沖地震の時に、部分的、あるいは全面的に介助を必要としていた。現在何らかの理由で医療機関を受診している方は、約半数（1,572 人、49.8%）であった。

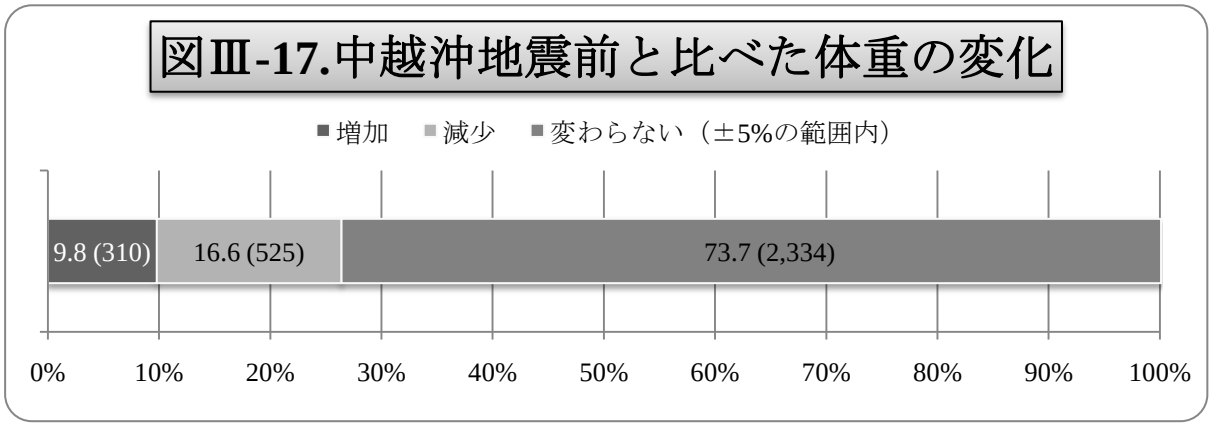
図Ⅲ-14.中越沖地震前と比べた喫煙状況

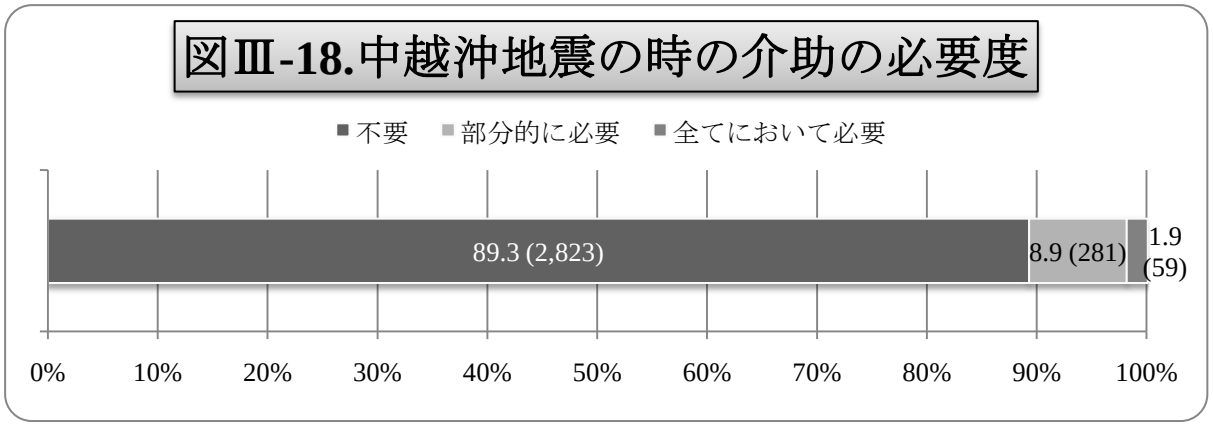


図Ⅲ-15.中越沖地震前と比べた飲酒状況



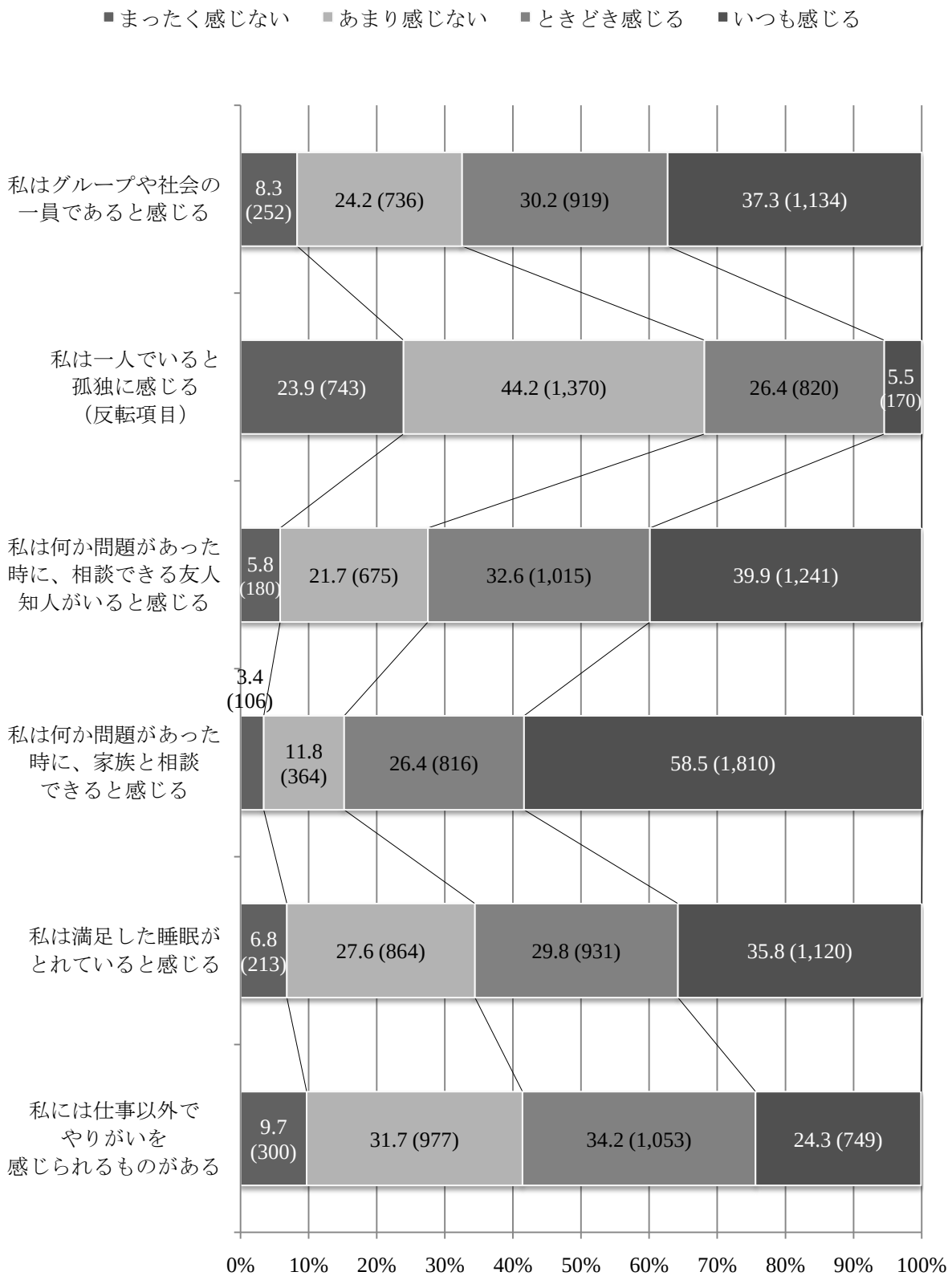






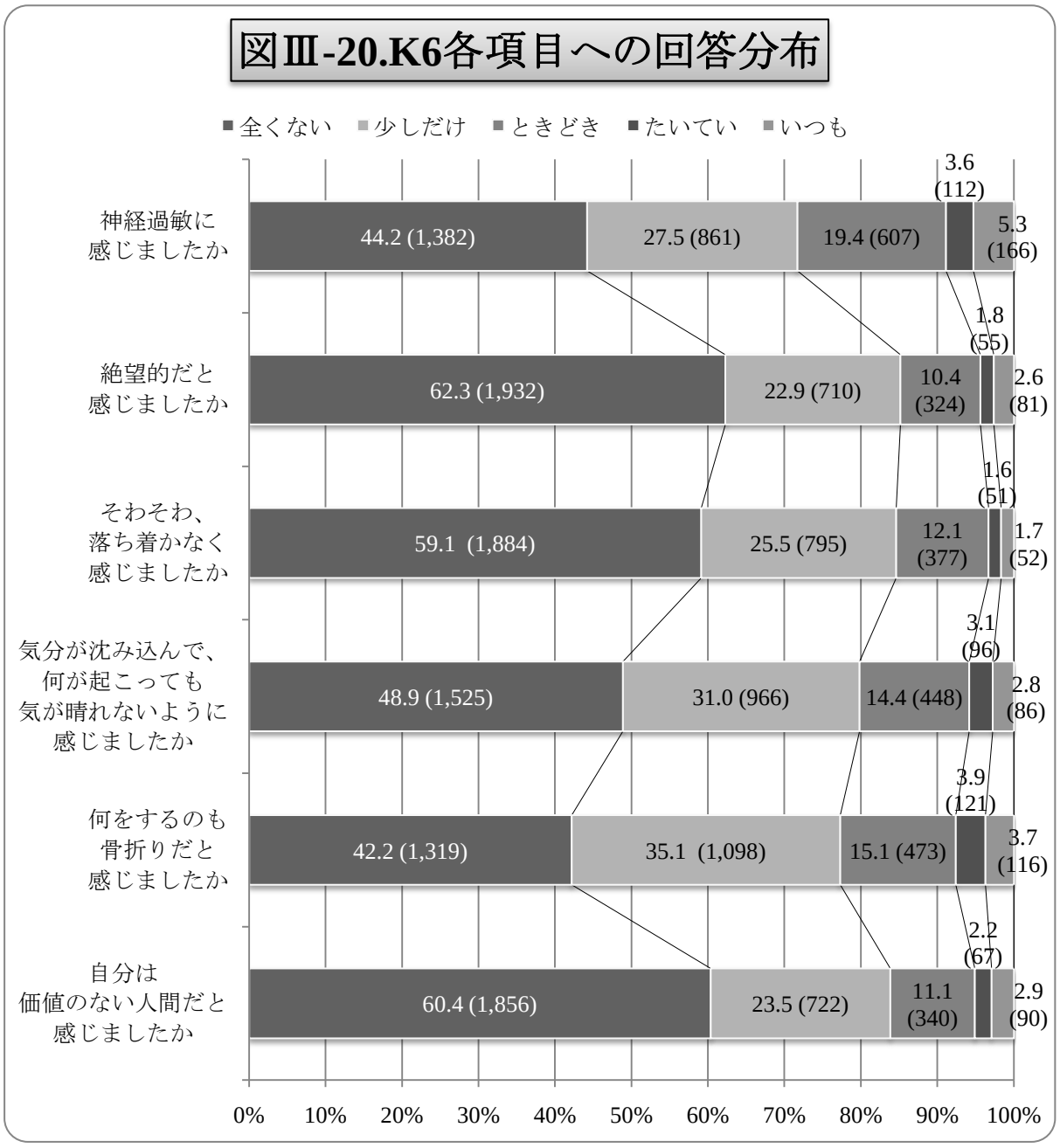
図Ⅲ-19 に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポート等に関する認識の集計結果を示した。「わたしは、グループや、社会の一員であると感じる」について肯定的な認識（ときどき感じる、あるいはいつも感じる）と回答した方は、2,053 人（67.5%）であった。「わたしは、ひとりでいると孤独に感じる」について否定的な（まったく感じない、あまり感じない）回答した方は、2,113 人（68.1%）であった。以下、「わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる」、「わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる」についても肯定的な回答をした方が、それぞれ 7 割、8 割以上であった。「わたしは満足した睡眠がとれていると感じる」について肯定的に回答した方は、2,051 人（65.6%）、「わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある」について肯定的に回答した方は 1,802 人（58.5%）にとどまった。

図Ⅲ-19.ソーシャルサポート等に関する認識

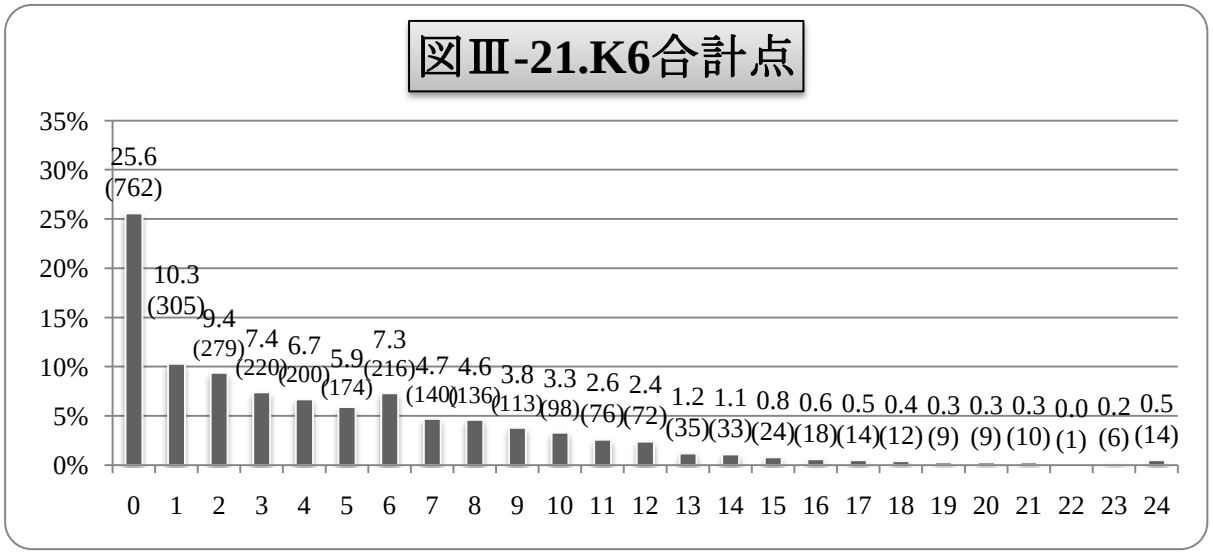


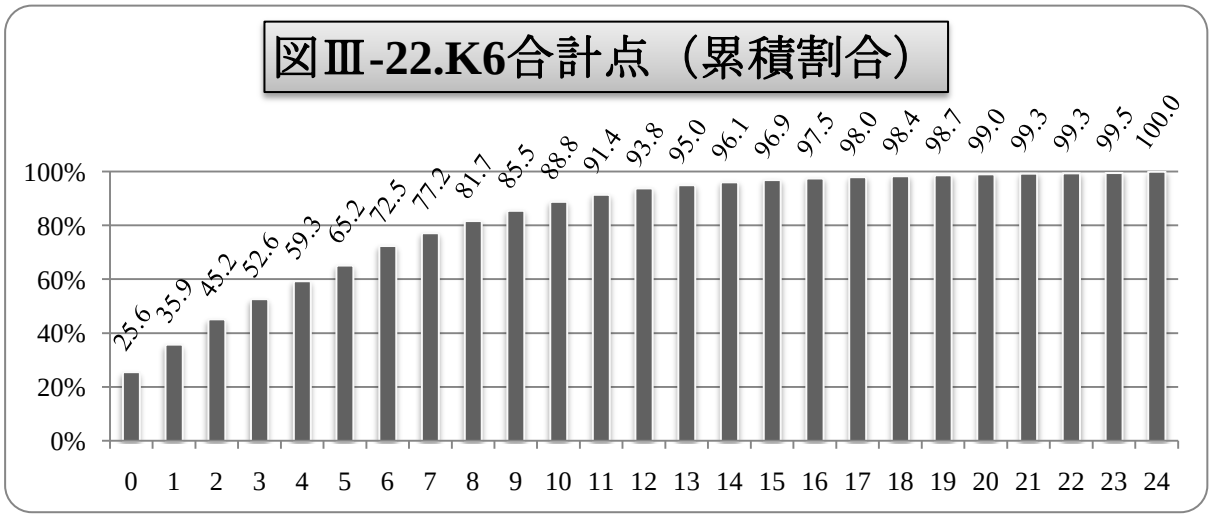
（4）K6 分析

図Ⅲ-20 に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 各項目への回答の分布を示した。K6 の各項目について、「たいてい」、「いつも」と答えた方が多かったのは、「神経過敏に感じましたか」（278 人、8.9%）、「何をするのも骨折りだと感じましたか」（237 人、7.6%）といった非特異的な心理的ストレスを示した質問項目であった。



図Ⅲ-21~22 に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 合計点（範囲 0-24）を示した。重度ストレスレベルといわれる 5 点以上の方は 1,210 人（40.7%）、気分・不安障害レベルが疑われる 10 点以上の方は 431 人（14.5%）、重度精神障害レベルが疑われる 13 点以上の方が 185 人（6.2%）であった。





図Ⅲ-23~33（表Ⅲ-2~4）に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する、K6 のカットオフ値を 5 点・10 点・13 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。

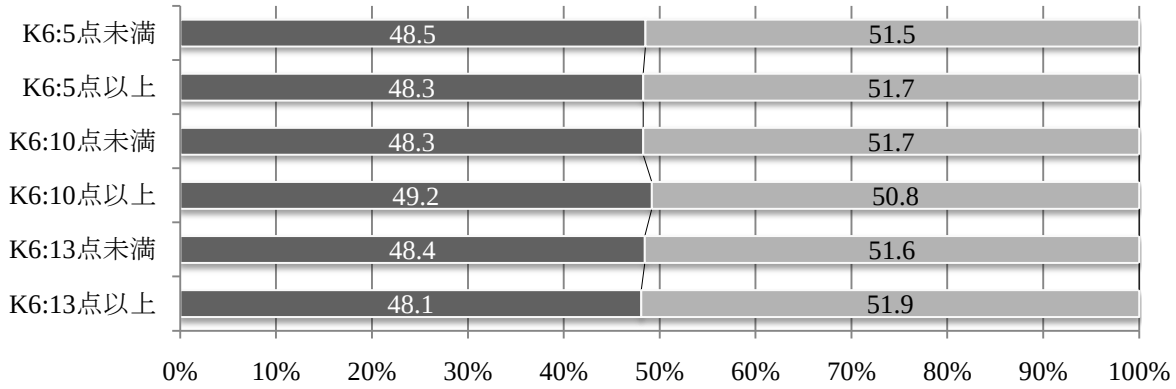
K6 で 5 点以上、つまり重度ストレス相当を感じている方では、年齢構成（おそらくは 70 歳代、80 歳代の高齢の方）、回答された方の職業、主たる家計者の職業において、それ以外の方と統計的な差異がみられた。また、これらの方では、平均年齢が高く、教育年数が低かった。回答された方の職業、主たる家計者の職業においても、重度ストレスを感じている方は、年金受給者、無職の方の割合が多いようであった。その他にも、重度ストレスを感じている方では、中越沖地震をきっかけとして、転居をした方、調査時に仮設住宅で生活されている方の割合が、それ以外の方と比べて統計的に多かった。

そして K6 で 10 点以上、つまり、気分・不安障害が疑われる方で割合が多かった要因は、主たる家計者の職業（無職者）、中越沖地震をきっかけとした転居、調査時に仮設住宅で生活していることであった。加えて、K6 で 10 点以上の方では、それ以外の方に比べて、教育年数が統計的には若干少なかった。

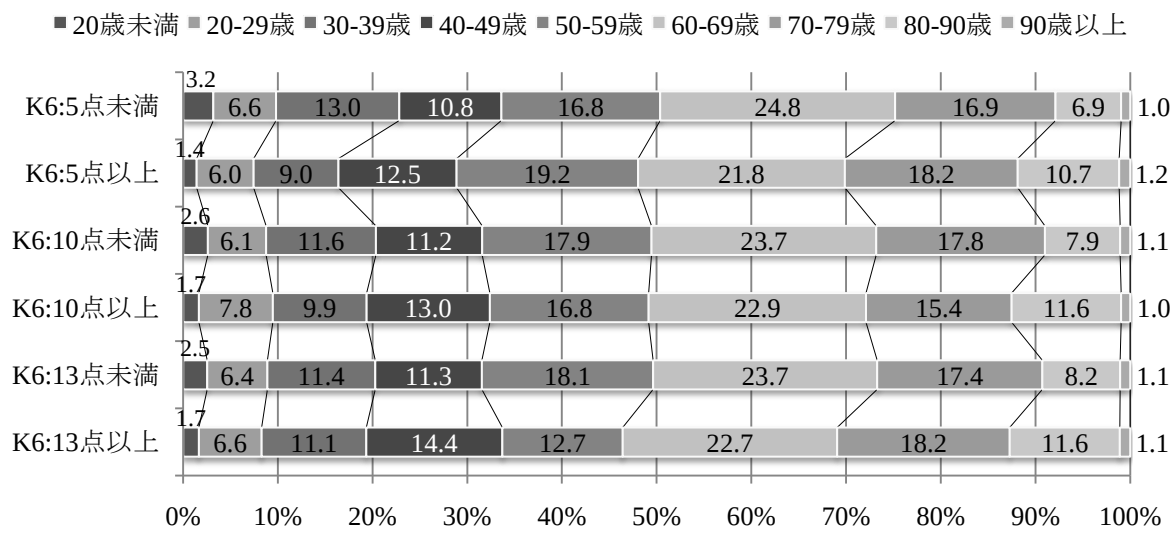
さらに K6 で 13 点に設定した場合は、これも表Ⅲ-3 の気分・不安障害が疑われるレベルと同様

の変数で、それ以外の方と割合や年数が統計的に異なっていた。特に転居の経験、調査時に仮設住宅で生活している方の割合は、K6 で 5 点、10 点、13 点と得点が増えるごとにその割合が増え、より顕著な傾向を示した。

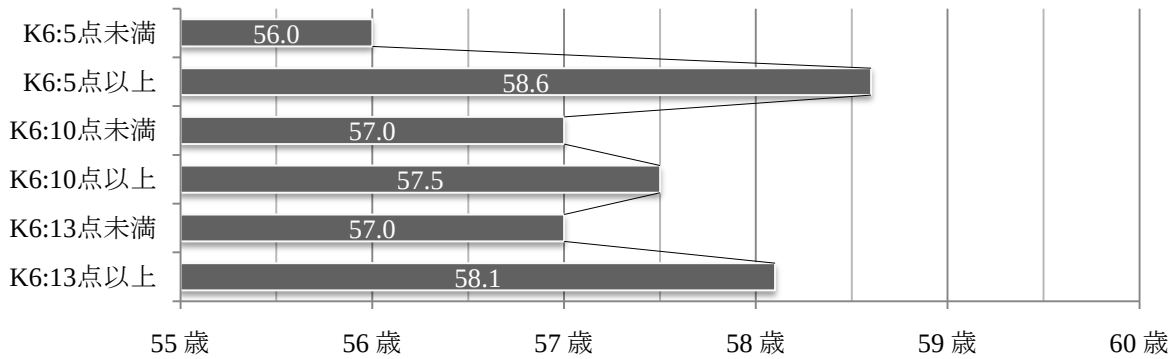
図Ⅲ-23.性別



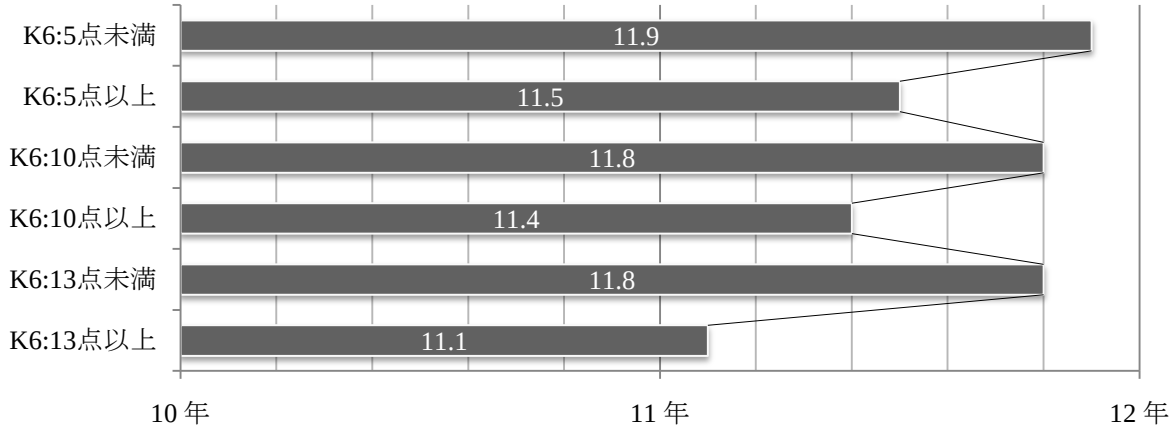
図Ⅲ-24.年齢階級



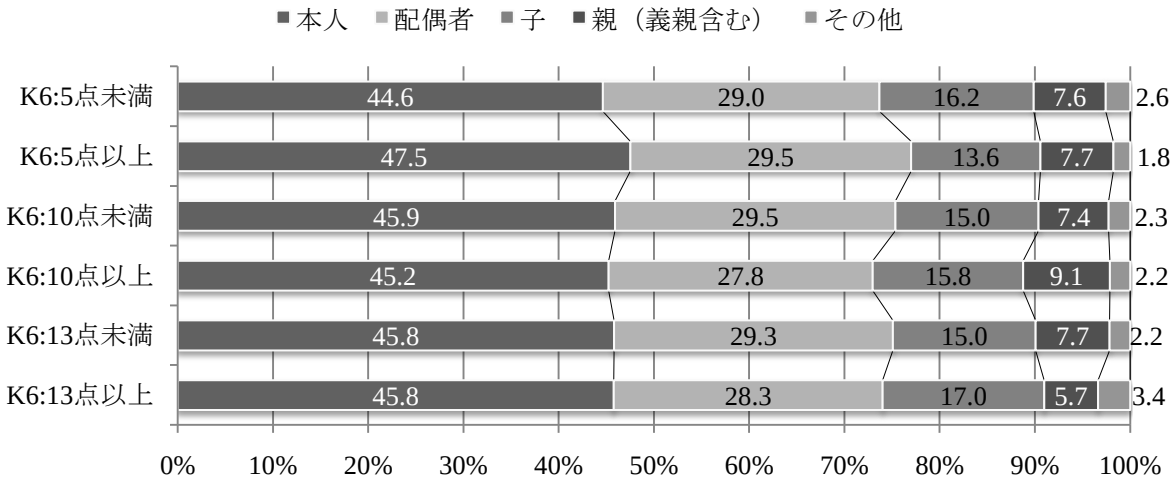
図Ⅲ-25.平均年齢



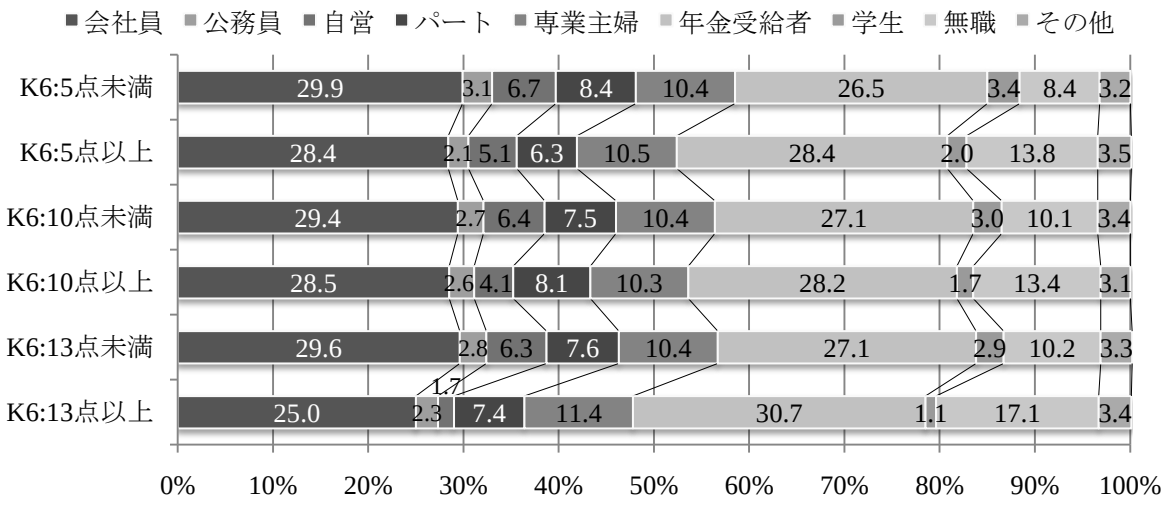
図Ⅲ-26.教育年数



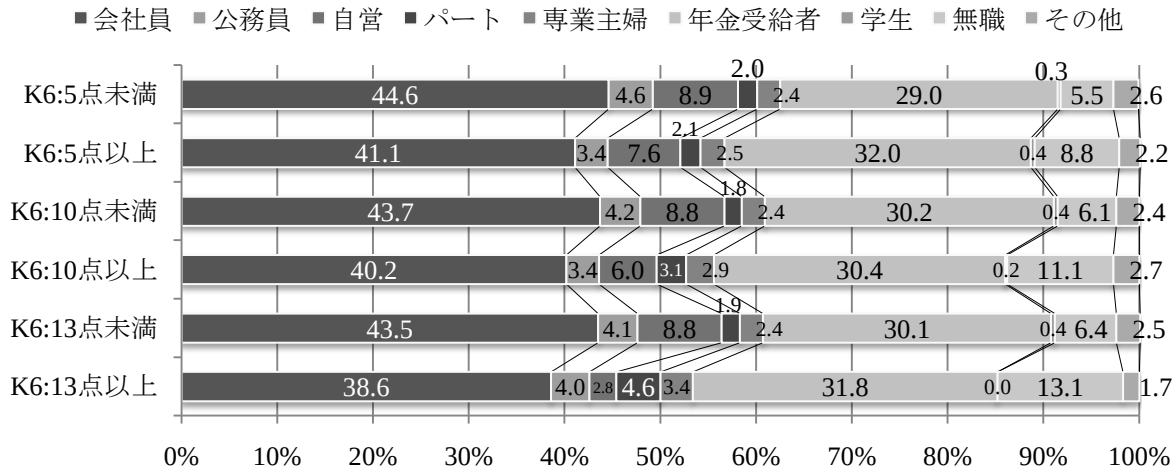
図Ⅲ-27.世帯主との関係



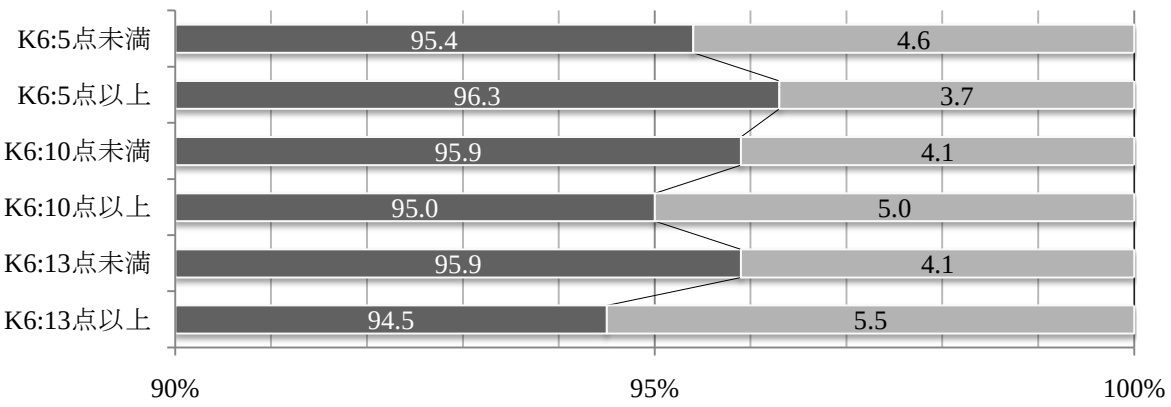
図Ⅲ-28.回答者の職業



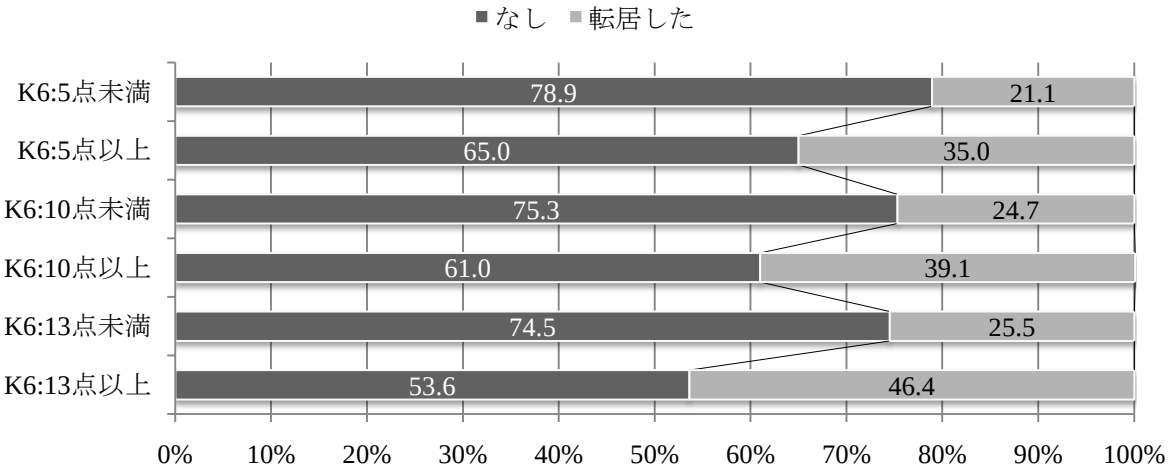
図Ⅲ-29.主たる家計者の職業



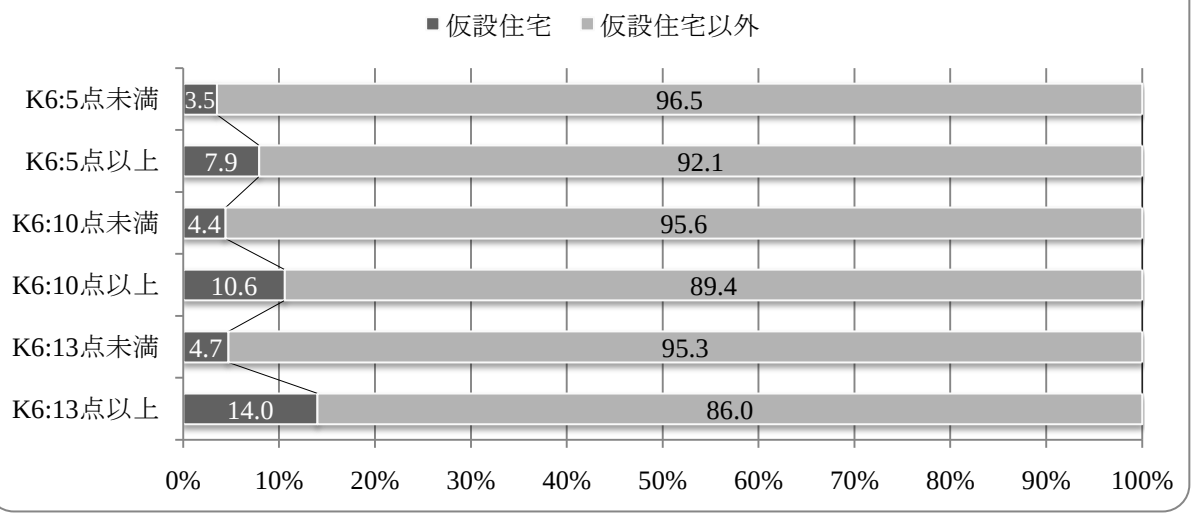
図Ⅲ-30.中越沖地震時の住まい



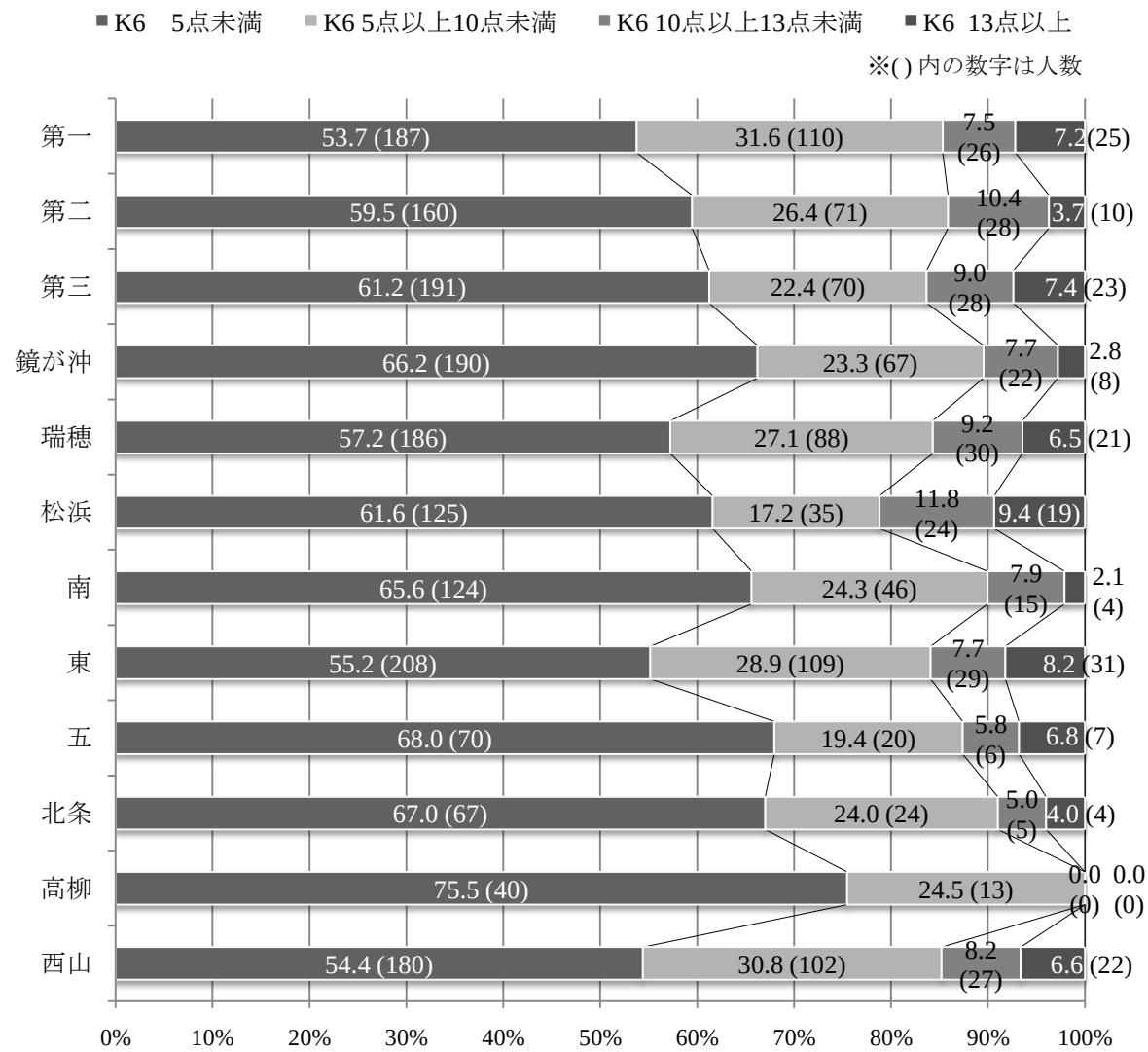
図Ⅲ-31.中越沖地震をきっかけとした住まいの変化



図Ⅲ-32.現在の住まい

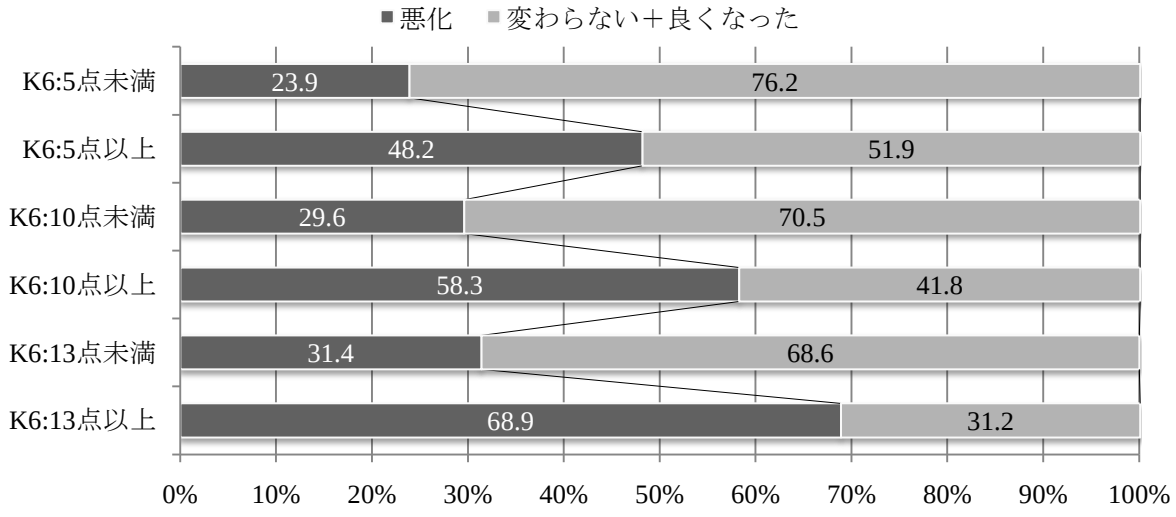


図Ⅲ-33.中学校区別

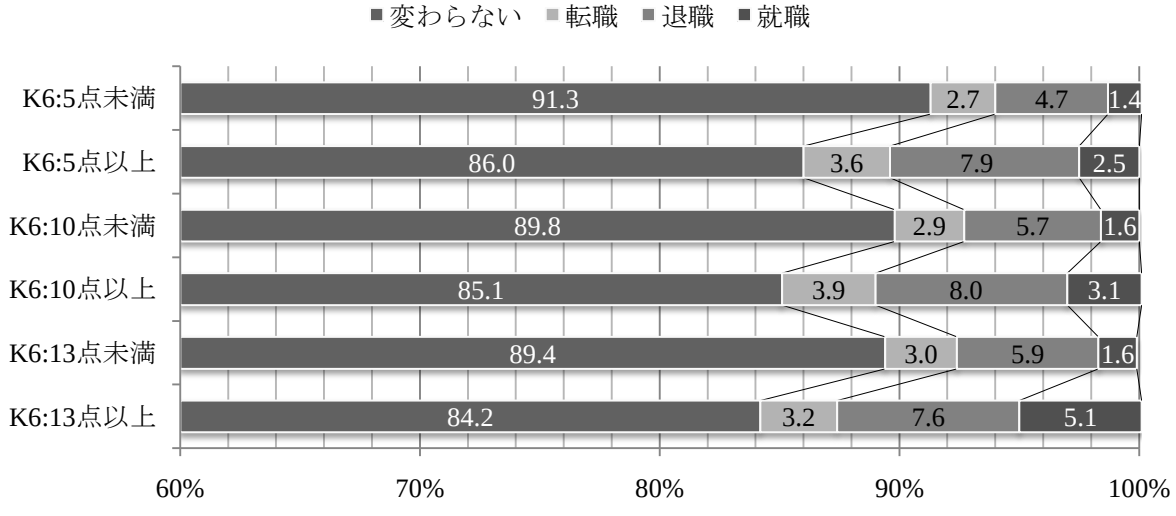


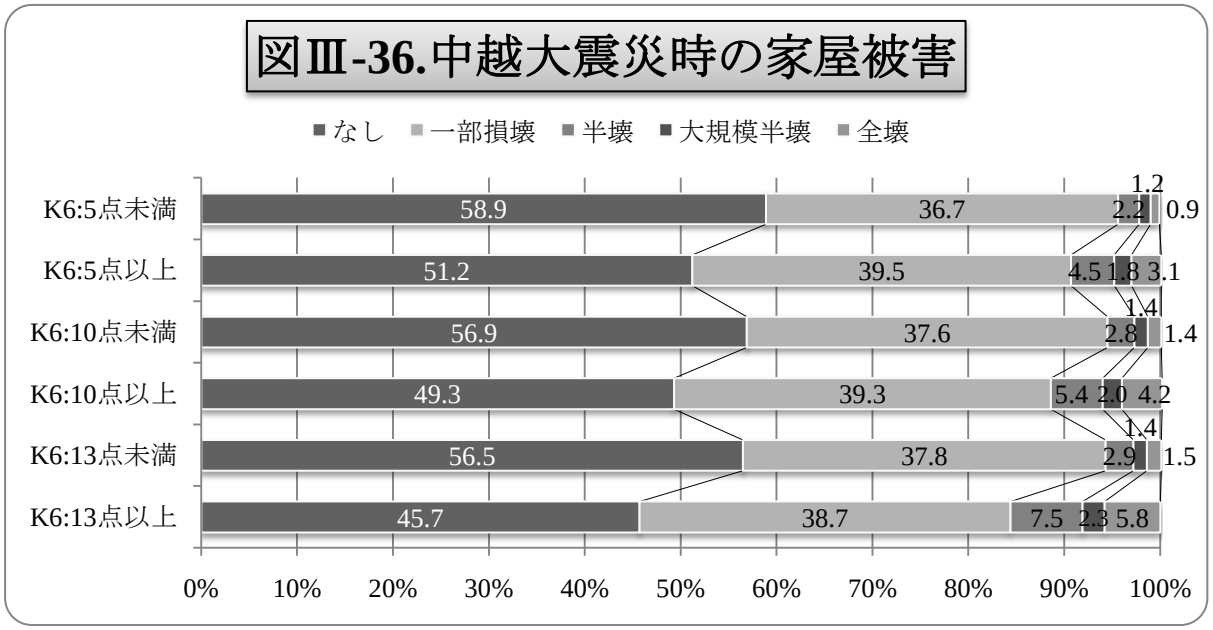
図Ⅲ-34~37（表Ⅲ-5~7）に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の、震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の、精神健康度別の比較を示した。K6 で 5 点以上の方は、中越大震災と中越沖地震をきっかけとして、暮らし向きの悪化した方、雇用状況の変化（おそらくは転職や退職の影響)、中越大震災および中越沖地震における家屋被害（被害が大きかった方）の割合が、それ以外の方に比べて統計的に多かった。さらに、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較においても、検討したすべての項目について、震災の影響が深刻である方の割合について、それ以外の方と統計的な差異がみられた。また、カットオフポイントが 5 点、10 点、13 点と増えるごとに、震災による影響がより深刻だった方の割合が増え、さらにこれらの傾向は顕著なものとなっていた。

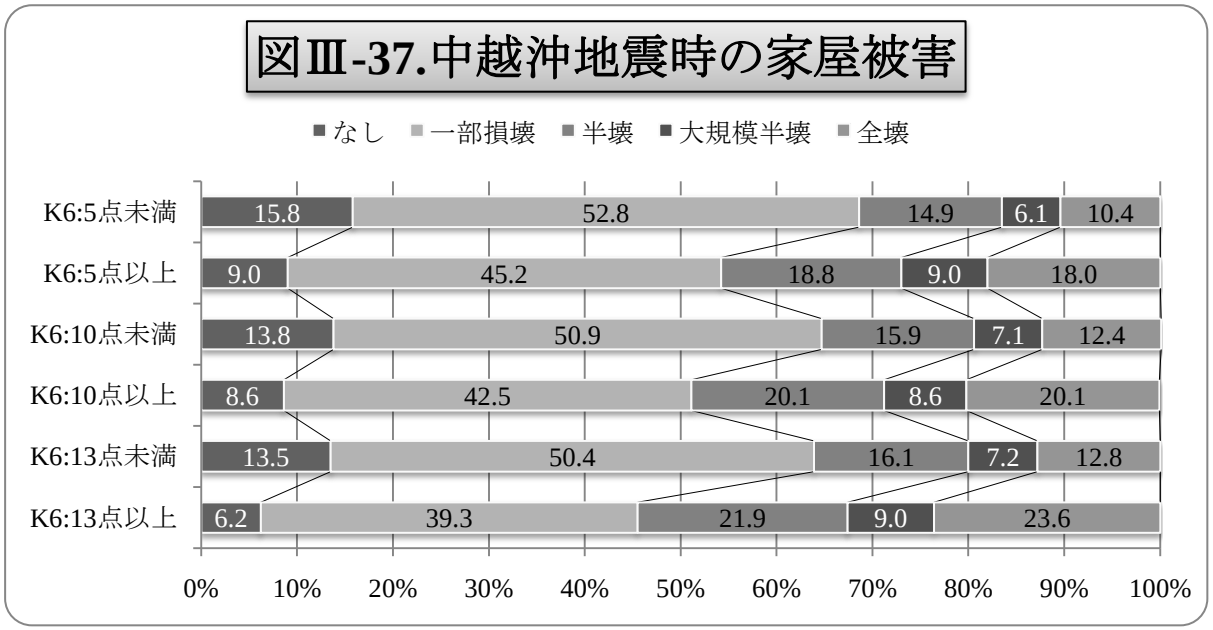
図Ⅲ-34.中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化



図Ⅲ-35.中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化

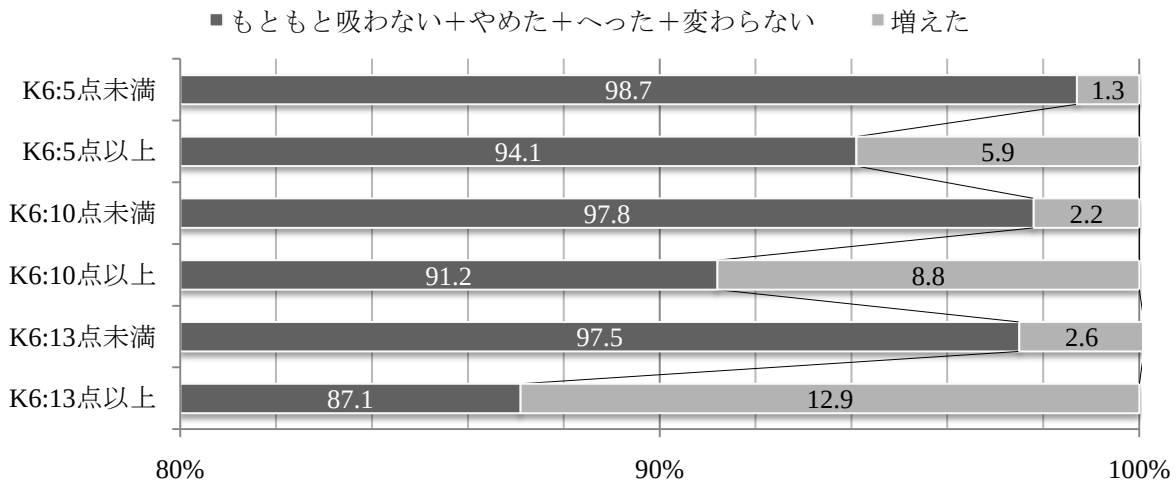




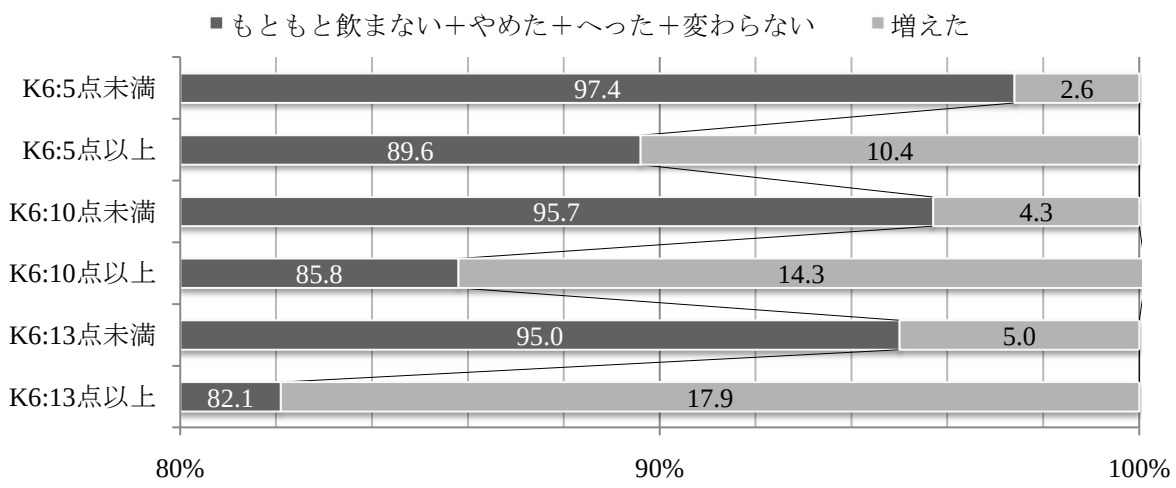


図Ⅲ-38~43（表Ⅲ-8~10）に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。K6 が 5 点以上の方は、喫煙が増えた方、飲酒が増えた方、体調悪化を自覚した方、体重変化した方（増加、減少とも）、中越沖地震のときに介助が必要だった方（部分的、全面的とも）、現在受診している方の割合が、いずれもそれ以外の方と比較して、統計的に高かった。さらに、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較においても、いずれの変数とも、上記と同じパターンを示し、カットオフポイントが、5 点、10 点、13 点と精神健康が悪化するごとに、それぞれのリスク項目の該当者の割合は増え、これらの傾向は顕著なものとなっていた。

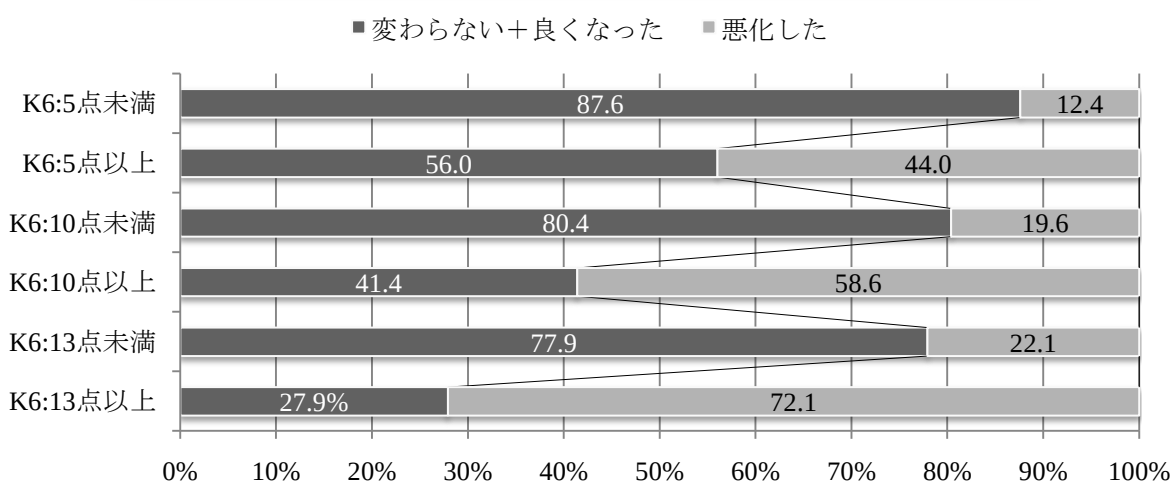
図Ⅲ-38.中越沖地震前と比べた喫煙状況



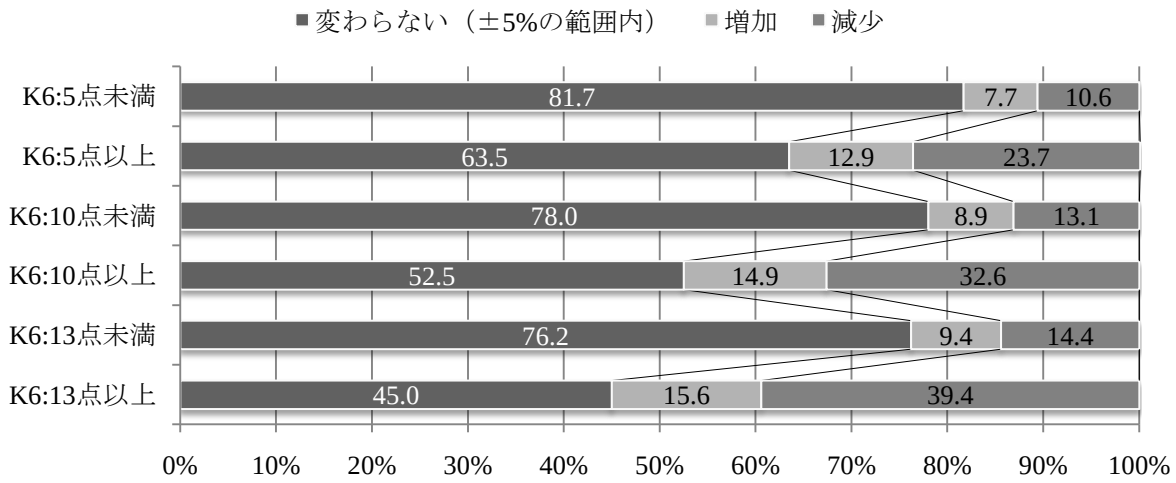
図Ⅲ-39.中越沖地震前と比べた飲酒状況



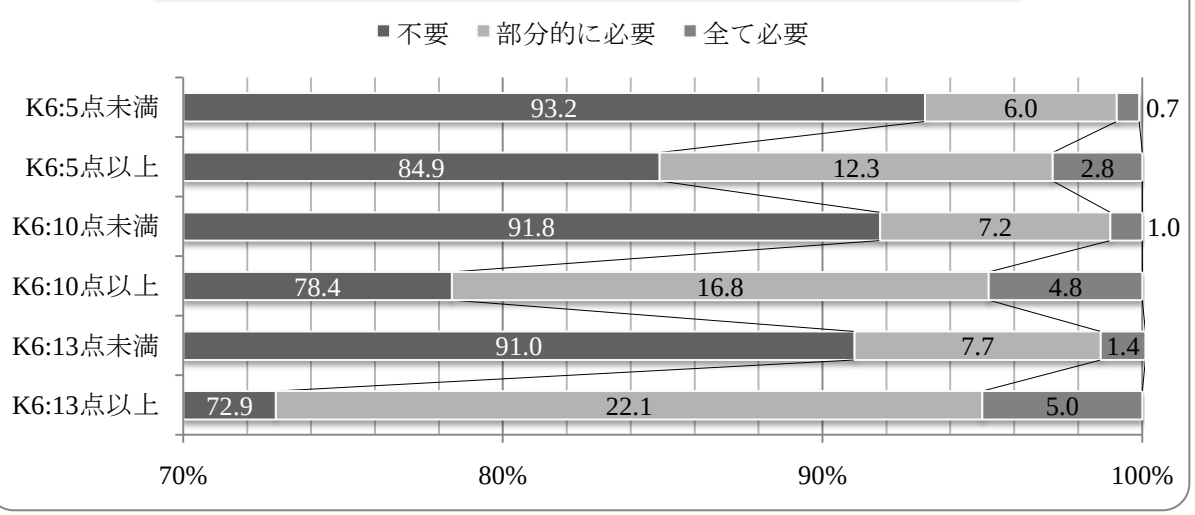
図Ⅲ-40.中越沖地震前と比べた体調の変化



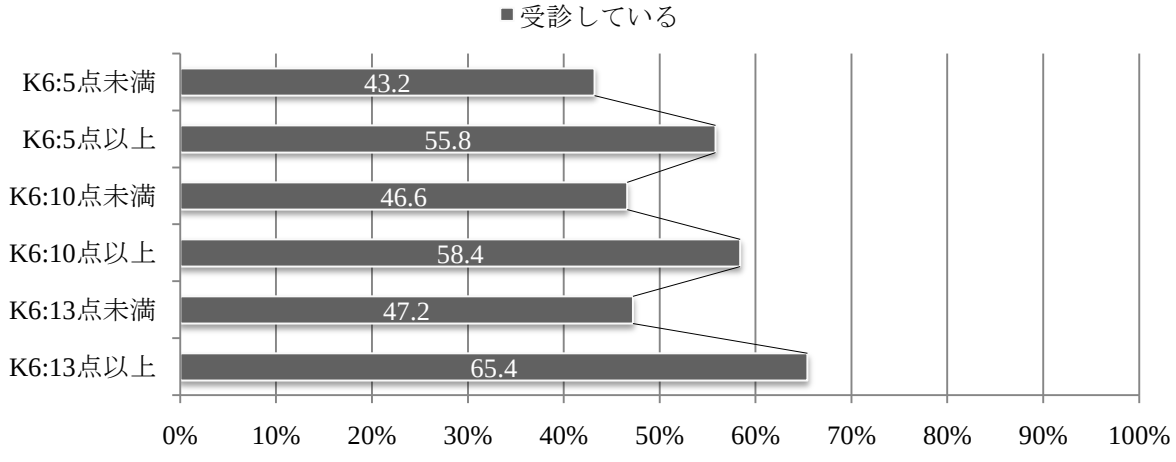
図Ⅲ-41.中越沖地震前と比べた体重の変化



図Ⅲ-42.中越沖地震の時の介助の必要度



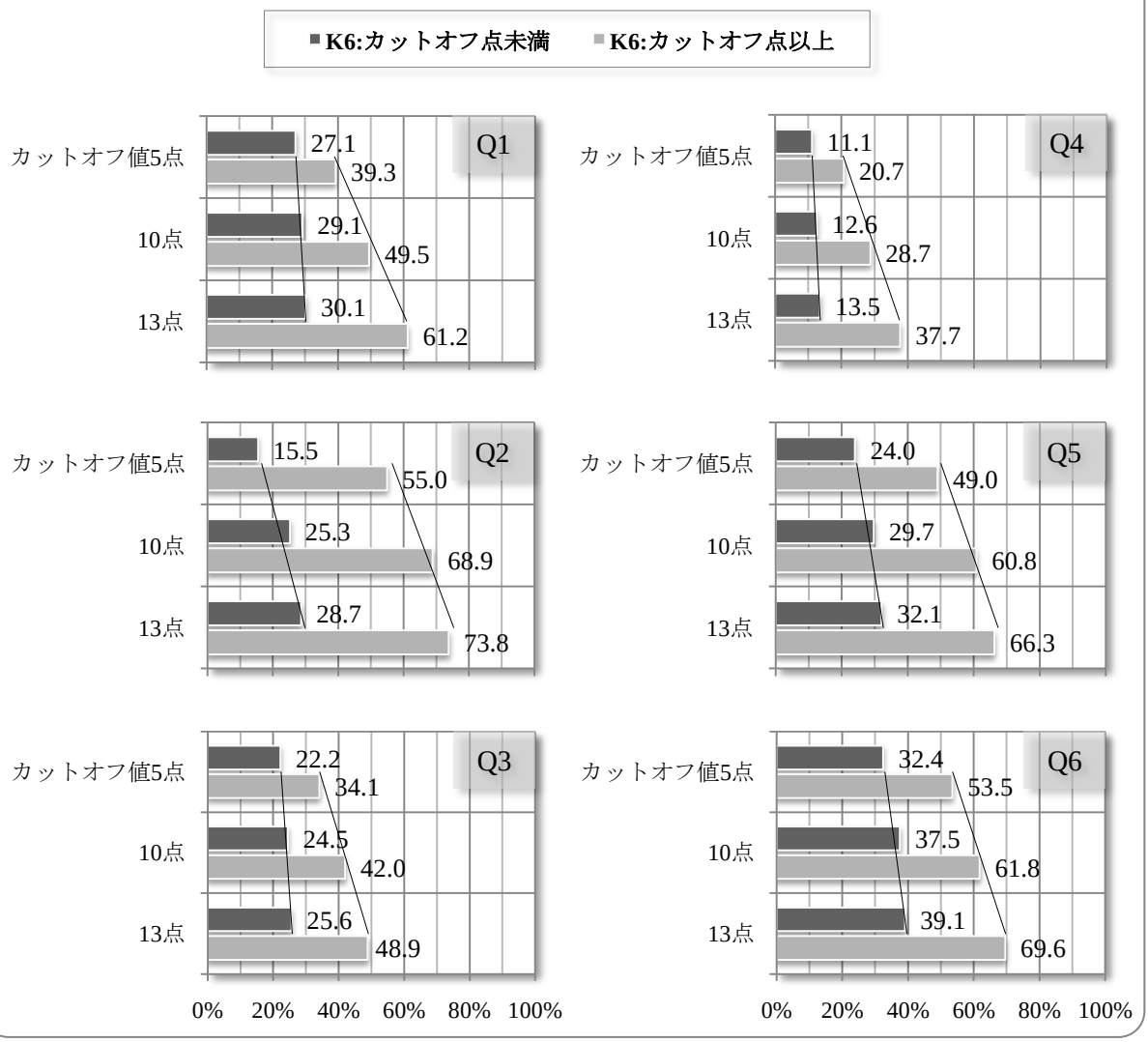
図Ⅲ-43.現在（調査時）の受診状況



図Ⅲ-44（表Ⅲ-11~13）に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポートに関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。それぞれの項目について否定的な回答をした割合について、カットオフ値以上の方とそれ以外の方について検討した。ソーシャルサポート、睡眠、仕事以外のやりがいについて、いずれも否定的な回答をした方の割合が、カットオフ値以上の方ではそれ以外の方に比べて統計的に有意に多かった。さらに、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較において、いずれの変数も、上記と同じパターンを示し、カットオフポイントが、5 点、10 点、13 点と高まるごとに、それぞれのリスク項目の該当者の割合は増え、これらの傾向は顕著なものとなっていた。

図Ⅲ-44.ソーシャルサポート等に関する認識

Q1	わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。「そう感じない」
Q2	わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。（反転項目）「そう感じる」
Q3	わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。「そう感じない」
Q4	わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。「そう感じない」
Q5	わたしは、満足した睡眠がとれていると感じる。「そう感じない」
Q6	わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。「そう感じない」

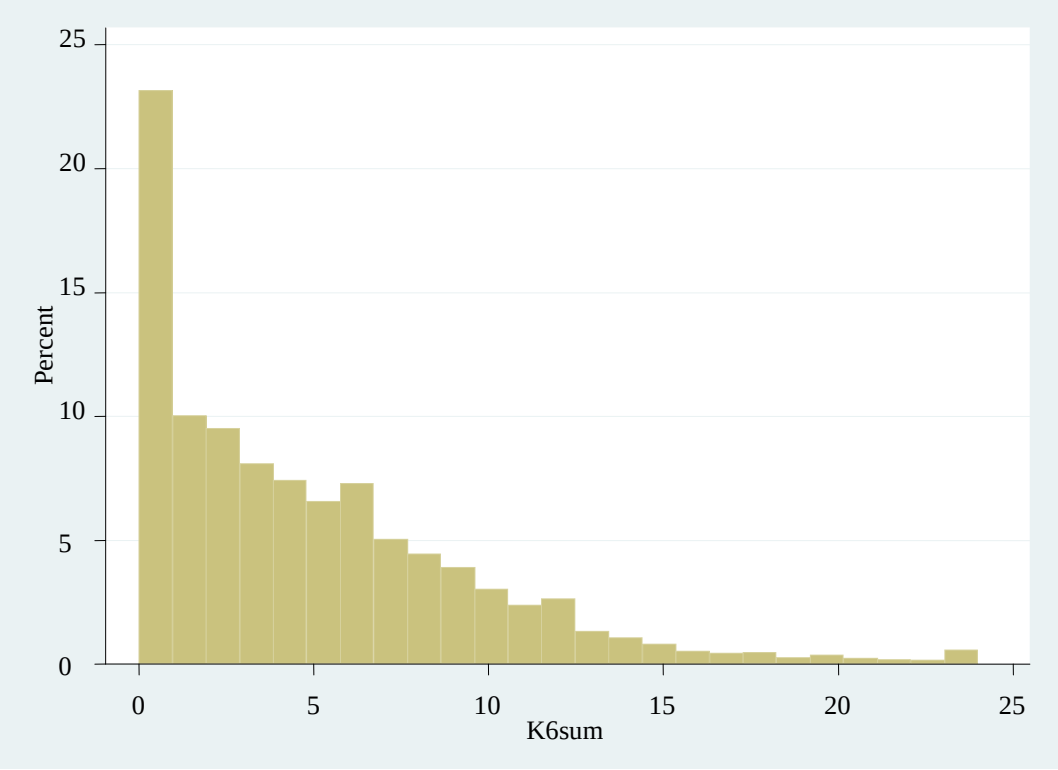


図Ⅲ-45（表Ⅲ-14~16）に、K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較を示した。40 歳代では男性が（χ^2 検定、p=0.038）、そして、70 歳代では女性が（χ^2 検定、p=0.005）、それぞれの異性に比べて多く重度ストレスを感じていた。K6 のカットオフ値を 10 点にした場合には、70 歳代で女性の割合（40 人、15.9%）が男性（24 人、9.2%）よりも多かった（χ^2 検定、p=0.023）。しかし、K6 のカットオフ値を 13 点にした場合には、40 歳代で男性の割合（20 人、12.5%）が女性（6 人、3.4%）よりも多く（χ^2 検定、p=0.002）、精神健康レベル別に男女での割合に異なったパターンが見られた。

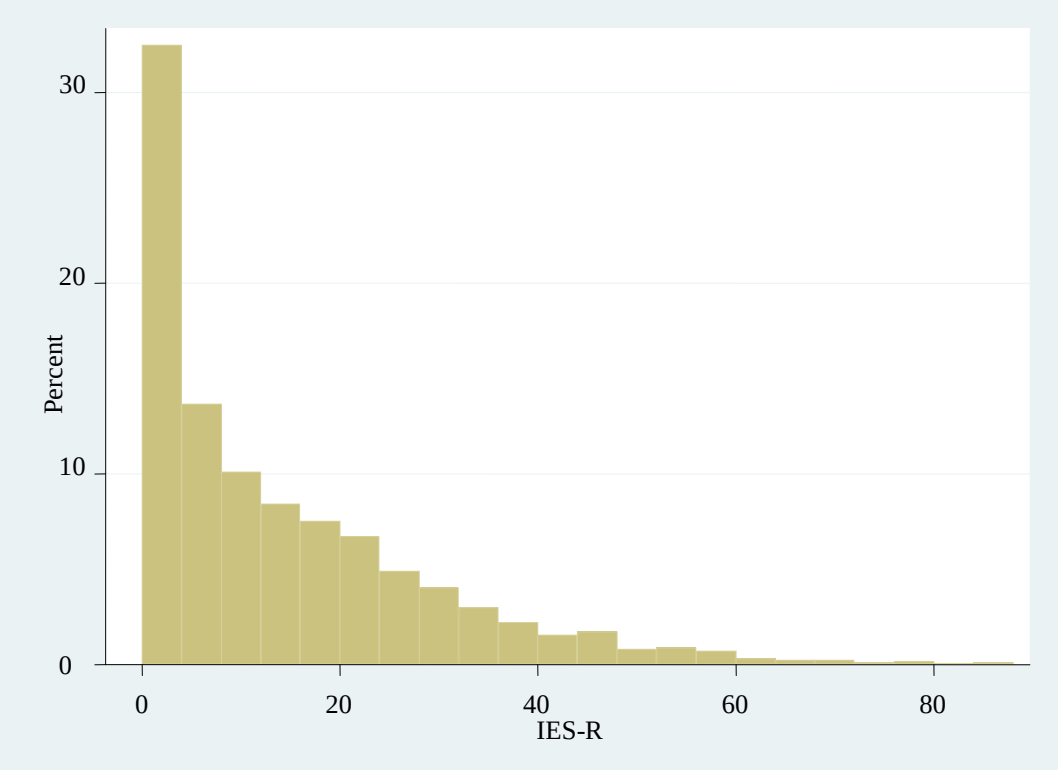


最後に、図Ⅲ-46 に柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 合計点の度数分布、そして、図Ⅲ-47 に柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の IES-R 合計点の度数分布を示した。K6 の合計点の分布は、平均値が 4.5、標準偏差が 4.7、最小値が 0、最大値が 24 であり、0 から低得点に偏った分布であった。IES-R の合計点の分布は、平均値が 12.5、標準偏差が 14.3、最大値は 0、最大値は 88 であった。これらの分布は、1 年後調査の分布と比較して、平均値が若干下がったものの、同様のパターンであった。図Ⅲ-48 に、柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 と IES-R 合計点の散布図を示した。K6 と IES-R 得点の相関係数は 0.6384 であり、両者に相関がみられた。

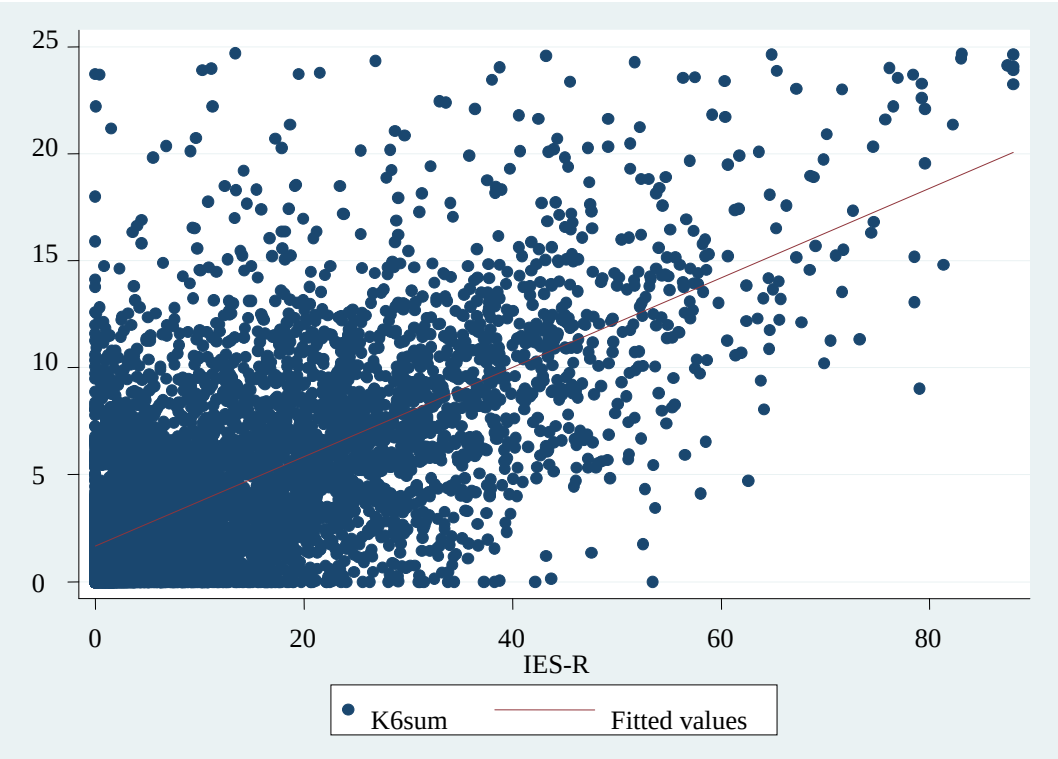
図Ⅲ-46.柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 合計点の分布



図Ⅲ-47.柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の IES-R 合計点の分布



図Ⅲ-48.柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 と IES-R 合計点の散布図



表Ⅲ-2. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上					
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2/t		p
	2,976		1,766		1,210					
性別										
男性	1,428	48.4	851	48.5	577	48.3	1	0.0		0.913
女性	1,522	51.6	904	51.5	618	51.7				
年齢階級										
20 歳未満	73	2.5	56	3.2	17	1.4	8	42.9	†	<0.001
20-29 歳	188	6.4	116	6.6	72	6.0				
30-39 歳	335	11.4	228	13.0	107	9.0				
40-49 歳	338	11.5	189	10.8	149	12.5				
50-59 歳	523	17.7	294	16.8	229	19.2				
60-69 歳	696	23.6	435	24.8	261	21.8				
70-79 歳	515	17.5	297	16.9	218	18.2				
80-89 歳	249	8.5	121	6.9	128	10.7				
90 歳以上	31	1.1	17	1.0	14	1.2				
平均年齢 (標準偏差)	57.0	(17.9)	56.0	(18.1)	58.6	(17.5)	2,946	-3.9	*	0.001
教育年数 (標準偏差)	11.8	(2.4)	11.9	(2.4)	11.5	(2.3)	2,885	4.6	†	<0.001
世帯主との関係										
本人	1,342	45.8	778	44.6	564	47.5	4	6.6		0.159
配偶者	856	29.2	506	29.0	350	29.5				
子	443	15.1	282	16.2	161	13.6				
親（義親も含む）	223	7.6	132	7.6	91	7.7				
その他	66	2.3	45	2.6	21	1.8				
回答者の職業										
会社員	849	29.3	517	29.9	332	28.4	8	35.3	†	<0.001
公務員	79	2.7	54	3.1	25	2.1				
自営	175	6.0	116	6.7	59	5.1				
パート	219	7.6	146	8.4	73	6.3				
専業主婦	302	10.4	180	10.4	122	10.5				
年金受給者	791	27.3	459	26.5	332	28.4				
学生	81	2.8	58	3.4	23	2.0				
無職	307	10.6	146	8.4	161	13.8				
その他	96	3.3	55	3.2	41	3.5				
主たる家計者の職業										
会社員	1,241	43.2	764	44.6	477	41.1	8	20.0		0.010
公務員	118	4.1	79	4.6	39	3.4				
自営	241	8.4	153	8.9	88	7.6				
パート	58	2.0	34	2.0	24	2.1				
専業主婦	70	2.4	41	2.4	29	2.5				
年金受給者	868	30.2	497	29.0	371	32.0				
学生	10	0.4	5	0.3	5	0.4				
無職	196	6.8	94	5.5	102	8.8				
その他	71	2.5	45	2.6	26	2.2				
中越沖地震時の住まい										
市内	2,814	95.8	1,668	95.4	1,146	96.3	1	1.4		0.245
市外	124	4.2	80	4.6	44	3.7				
中越沖地震をきっかけとした住まいの変化										
なし	2,136	73.3	1,363	78.9	773	65.0	1	69.5	†	<0.001
転居した	780	26.8	364	21.1	416	35.0				
現在の住まい										
仮設住宅	152	5.3	60	3.5	92	7.9	1	26.0	†	<0.001
仮設住宅以外	2,712	94.7	1,637	96.5	1,075	92.1				

Chi-square tests or t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅲ-3. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,976)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2/t	p
	2,976		2,545		431				
性別									
男性	1,428	48.4	1,220	48.3	208	49.2	1	0.1	0.733
女性	1,522	51.6	1,307	51.7	215	50.8			
年齢階級									
20 歳未満	73	2.5	66	2.6	7	1.7	8	12.2	0.141
20-29 歳	188	6.4	155	6.1	33	7.8			
30-39 歳	335	11.4	293	11.6	42	9.9			
40-49 歳	338	11.5	283	11.2	55	13.0			
50-59 歳	523	17.7	452	17.9	71	16.8			
60-69 歳	696	23.6	599	23.7	97	22.9			
70-79 歳	515	17.5	450	17.8	65	15.4			
80-89 歳	249	8.5	200	7.9	49	11.6			
90 歳以上	31	1.1	27	1.1	4	1.0			
平均年齢 (標準偏差)	57.0	(17.9)	57.0	(17.8)	57.5	(18.4)	2,946	-0.6	0.565
教育年数 (標準偏差)	11.8	(2.4)	11.8	(2.4)	11.4	(2.4)	2,885	3.1 †	0.002
世帯主との関係									
本人	1,342	45.8	1,153	45.9	189	45.2	4	2.0	0.742
配偶者	856	29.2	740	29.5	116	27.8			
子	443	15.1	377	15.0	66	15.8			
親（義親も含む）	223	7.6	185	7.4	38	9.1			
その他	66	2.3	57	2.3	9	2.2			
回答者の職業									
会社員	849	29.3	730	29.4	119	28.5	8	9.5	0.299
公務員	79	2.7	68	2.7	11	2.6			
自営	175	6.0	158	6.4	17	4.1			
パート	219	7.6	185	7.5	34	8.1			
専業主婦	302	10.4	259	10.4	43	10.3			
年金受給者	791	27.3	673	27.1	118	28.2			
学生	81	2.8	74	3.0	7	1.7			
無職	307	10.6	251	10.1	56	13.4			
その他	96	3.3	83	3.4	13	3.1			
主たる家計者の職業									
会社員	1,241	43.2	1,074	43.7	167	40.2	8	21.4 †	0.006
公務員	118	4.1	104	4.2	14	3.4			
自営	241	8.4	216	8.8	25	6.0			
パート	58	2.0	45	1.8	13	3.1			
専業主婦	70	2.4	58	2.4	12	2.9			
年金受給者	868	30.2	742	30.2	126	30.4			
学生	10	0.4	9	0.4	1	0.2			
無職	196	6.8	150	6.1	46	11.1			
その他	71	2.5	60	2.4	11	2.7			
中越沖地震時の住まい									
市内	2,814	95.8	2,413	95.9	401	95.0	1	0.7	0.404
市外	124	4.2	103	4.1	21	5.0			
中越沖地震をきっかけとした住まいの変化									
なし	2,136	73.3	1,880	75.3	256	61.0	1	37.9 †	<0.001
転居した	780	26.8	616	24.7	164	39.1			
現在の住まい									
仮設住宅	152	5.3	108	4.4	44	10.6	1	26.9 †	<0.001
仮設住宅以外	2,712	94.7	2,340	95.6	372	89.4			

Chi-square tests or t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅲ-4. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上					
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2/t		p
	2,976		2,791		185					
性別										
男性	1,428	48.4	1,341	48.4	87	48.1	1	0.0		0.925
女性	1,522	51.6	1,428	51.6	94	51.9				
年齢階級										
20 歳未満	73	2.5	70	2.5	3	1.7	8	7.1		0.521
20-29 歳	188	6.4	176	6.4	12	6.6				
30-39 歳	335	11.4	315	11.4	20	11.1				
40-49 歳	338	11.5	312	11.3	26	14.4				
50-59 歳	523	17.7	500	18.1	23	12.7				
60-69 歳	696	23.6	655	23.7	41	22.7				
70-79 歳	515	17.5	482	17.4	33	18.2				
80-89 歳	249	8.5	228	8.2	21	11.6				
90 歳以上	31	1.1	29	1.1	2	1.1				
平均年齢 (標準偏差)	57.0	(17.9)	57.0	(17.9)	58.1	(18.5)	2,946	-0.8		0.420
教育年数 (標準偏差)	11.8	(2.4)	11.8	(2.4)	11.1	(2.4)	2,885	3.6	†	<0.001
世帯主との関係										
本人	1,342	45.8	1,261	45.8	81	45.8	4	2.5		0.643
配偶者	856	29.2	806	29.3	50	28.3				
子	443	15.1	413	15.0	30	17.0				
親（義親も含む）	223	7.6	213	7.7	10	5.7				
その他	66	2.3	60	2.2	6	3.4				
回答者の職業										
会社員	849	29.3	805	29.6	44	25.0	8	17.3	*	0.027
公務員	79	2.7	75	2.8	4	2.3				
自営	175	6.0	172	6.3	3	1.7				
パート	219	7.6	206	7.6	13	7.4				
専業主婦	302	10.4	282	10.4	20	11.4				
年金受給者	791	27.3	737	27.1	54	30.7				
学生	81	2.8	79	2.9	2	1.1				
無職	307	10.6	277	10.2	30	17.1				
その他	96	3.3	90	3.3	6	3.4				
主たる家計者の職業										
会社員	1,241	43.2	1,173	43.5	68	38.6	8	26.4	†	0.001
公務員	118	4.1	111	4.1	7	4.0				
自営	241	8.4	236	8.8	5	2.8				
パート	58	2.0	50	1.9	8	4.6				
専業主婦	70	2.4	64	2.4	6	3.4				
年金受給者	868	30.2	812	30.1	56	31.8				
学生	10	0.4	10	0.4	0	0.0				
無職	196	6.8	173	6.4	23	13.1				
その他	71	2.5	68	2.5	3	1.7				
中越沖地震時の住まい										
市内	2,814	95.8	2,643	95.9	171	94.5	1	0.8		0.368
市外	124	4.2	114	4.1	10	5.5				
中越沖地震をきっかけとした住まいの変化										
なし	2,136	73.3	2,040	74.5	96	53.6	1	37.5	†	<0.001
転居した	780	26.8	697	25.5	83	46.4				
現在の住まい										
仮設住宅	152	5.3	127	4.7	25	14.0	1	28.8	†	<0.001
仮設住宅以外	2,712	94.7	2,559	95.3	153	86.0				

Chi-square tests or t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅲ-5. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	2,976		1,766		1,210				
中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化									
悪化	988	33.7	416	23.9	572	48.2	1	186.7 †	<0.001
不変・良くなった	1,944	66.3	1,328	76.2	616	51.9			
中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化									
転職	83	3.1	43	2.7	40	3.6	3	20.1 †	<0.001
退職	163	6.0	76	4.7	87	7.9			
就職	50	1.8	22	1.4	28	2.5			
不変	2,426	89.1	1,477	91.3	949	86.0			
中越大震災時の家屋被害									
なし	1,585	55.8	1,002	58.9	583	51.2	4	38.1 †	<0.001
一部損壊	1,074	37.8	625	36.7	449	39.5			
半壊	89	3.1	38	2.2	51	4.5			
大規模半壊	41	1.4	21	1.2	20	1.8			
全壊	51	1.8	16	0.9	35	3.1			
中越沖地震時の家屋被害									
なし	381	13.0	275	15.8	106	9.0	4	78.0 †	<0.001
一部損壊	1,454	49.7	919	52.8	535	45.2			
半壊	482	16.5	260	14.9	222	18.8			
大規模半壊	214	7.3	107	6.1	107	9.0			
全壊	394	13.5	181	10.4	213	18.0			

Chi-square tests were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅲ-6. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	2,976		2,545		431				
中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化									
悪化	988	33.7	741	29.6	247	58.3	1	133.8 †	<0.001
不変・良くなった	1,944	66.3	1,767	70.5	177	41.8			
中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化									
転職	83	3.1	68	2.9	15	3.9	3	8.5 *	0.037
退職	163	6.0	132	5.7	31	8.0			
就職	50	1.8	38	1.6	12	3.1			
不変	2,426	89.1	2,094	89.8	332	85.1			
中越大震災時の家屋被害									
なし	1,585	55.8	1,383	56.9	202	49.3	4	27.2 †	<0.001
一部損壊	1,074	37.8	913	37.6	161	39.3			
半壊	89	3.1	67	2.8	22	5.4			
大規模半壊	41	1.4	33	1.4	8	2.0			
全壊	51	1.8	34	1.4	17	4.2			
中越沖地震時の家屋被害									
なし	381	13.0	345	13.8	36	8.6	4	33.6 †	<0.001
一部損壊	1,454	49.7	1,277	50.9	177	42.5			
半壊	482	16.5	398	15.9	84	20.1			
大規模半壊	214	7.3	178	7.1	36	8.6			
全壊	394	13.5	310	12.4	84	20.1			

Chi-square tests were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅲ-7. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,976		2,791		185					
中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化										
悪化	988	33.7	862	31.4	126	68.9	1	108.0	†	<0.001
不変・良くなった	1,944	66.3	1,887	68.6	57	31.2				
中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化										
転職	83	3.1	78	3.0	5	3.2	3	10.7	*	0.013
退職	163	6.0	151	5.9	12	7.6				
就職	50	1.8	42	1.6	8	5.1				
不変	2,426	89.1	2,293	89.4	133	84.2				
中越大震災時の家屋被害										
なし	1,585	55.8	1,506	56.5	79	45.7	4	32.0	†	<0.001
一部損壊	1,074	37.8	1,007	37.8	67	38.7				
半壊	89	3.1	76	2.9	13	7.5				
大規模半壊	41	1.4	37	1.4	4	2.3				
全壊	51	1.8	41	1.5	10	5.8				
中越沖地震時の家屋被害										
なし	381	13.0	370	13.5	11	6.2	4	29.5	†	<0.001
一部損壊	1,454	49.7	1,384	50.4	70	39.3				
半壊	482	16.5	443	16.1	39	21.9				
大規模半壊	214	7.3	198	7.2	16	9.0				
全壊	394	13.5	352	12.8	42	23.6				

Chi-square tests were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅲ-8. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,976		1,766		1,210					
中越沖地震前と比べた喫煙状況										
もともと吸わない・やめた・減った・不変	2,830	96.8	1,719	98.7	1,111	94.1	1	48.5	†	0.002
増えた	93	3.2	23	1.3	70	5.9				
中越沖地震前と比べた飲酒状況										
もともと飲まない・やめた・減った・不変	2,765	94.2	1,704	97.4	1,061	89.6	1	78.3	†	<0.001
増えた	169	5.8	46	2.6	123	10.4				
体調の変化										
不変・良くなった	2,202	74.8	1,534	87.6	668	56.0	1	374.8	†	<0.001
悪化した	743	25.2	218	12.4	525	44.0				
体重の変化										
変わらない	2,189	74.3	1,434	81.7	755	63.5	2	127.7	†	<0.001
増加	288	9.8	135	7.7	153	12.9				
減少	468	15.9	186	10.6	282	23.7				
中越沖地震のとき介助が必要										
不要	2,628	89.9	1,628	93.2	1,000	84.9	2	57.0	†	<0.001
部分的に必要	250	8.6	105	6.0	145	12.3				
全て必要	46	1.6	13	0.7	33	2.8				
現在の受診	1417	48.3	754	43.2	663	55.8	1	44.7	†	<0.001

Chi-square tests were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅲ-9. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,976		2,545		431					
中越沖地震前と比べた喫煙状況										
もともと吸わない・やめた・減った・不変	2,830	96.8	2,447	97.8	383	91.2	1	50.4	†	<0.001
増えた	93	3.2	56	2.2	37	8.8				
中越沖地震前と比べた飲酒状況										
もともと飲まない・やめた・減った・不変	2,765	94.2	2,404	95.7	361	85.8	1	65.3	†	<0.001
増えた	169	5.8	109	4.3	60	14.3				
体調の変化										
不変・良くなった	2,202	74.8	2,026	80.4	176	41.4	1	293.0	†	<0.001
悪化した	743	25.2	494	19.6	249	58.6				
体重の変化										
変わらない	2,189	74.3	1,967	78.0	222	52.5	2	132.0	†	<0.001
増加	288	9.8	225	8.9	63	14.9				
減少	468	15.9	330	13.1	138	32.6				
中越沖地震のとき介助が必要										
不要	2,628	89.9	2,301	91.8	327	78.4	2	77.8	†	<0.001
部分的に必要	250	8.6	180	7.2	70	16.8				
全て必要	46	1.6	26	1.0	20	4.8				
現在の受診	1417	48.3	1170	46.6	247	58.4	1	20.0	†	<0.001

Chi-square tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅲ-10. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,976		2,791		185					
中越沖地震前と比べた喫煙状況										
もともと吸わない・やめた・減った・不変	2,830	96.8	2,675	97.5	155	87.1	1	58.4	†	<0.001
増えた	93	3.2	70	2.6	23	12.9				
中越沖地震前と比べた飲酒状況										
もともと飲まない・やめた・減った・不変	2,765	94.2	2,618	95.0	147	82.1	1	51.6	†	<0.001
増えた	169	5.8	137	5.0	32	17.9				
体調の変化										
不変・良くなった	2,202	74.8	2,151	77.9	51	27.9	1	227.5	†	<0.001
悪化した	743	25.2	611	22.1	132	72.1				
体重の変化										
変わらない	2,189	74.3	2,108	76.2	81	45.0	2	95.7	†	<0.001
増加	288	9.8	260	9.4	28	15.6				
減少	468	15.9	397	14.4	71	39.4				
中越沖地震のとき介助が必要										
不要	2,628	89.9	2,496	91.0	132	72.9	2	61.8	†	<0.001
部分的に必要	250	8.6	210	7.7	40	22.1				
全て必要	46	1.6	37	1.4	9	5.0				
現在の受診	1417	48.3	1298	47.2	119	65.4	1	22.6	†	<0.001

Chi-square tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅲ-11. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポートに関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,976		1,766		1,210					
わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。										
そう感じない	927	32.0	465	27.1	462	39.3	1	48.3	†	<0.001
わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。§										
そう感じる	928	31.5	272	15.5	656	55.0	1	511.2	†	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。										
そう感じない	796	27.1	387	22.2	409	34.1	1	51.4	†	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。										
そう感じない	439	15.0	193	11.1	246	20.7	1	11.9	†	<0.001
わたしは満足した睡眠がとれていると感じる。										
そう感じない	1,008	34.2	420	24.0	588	49.0	1	197.5	†	<0.001
わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。										
そう感じない	1,200	41.0	562	32.4	638	53.5	1	130.4	†	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

§:反転項目

表Ⅲ-12. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポートに関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較 (n=2,976)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,976		2,545		431					
わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。										
そう感じない	927	32.0	722	29.1	205	49.5	1	67.8	†	<0.001
わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。§										
そう感じる	928	31.5	636	25.3	292	68.9	1	319.8	†	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。										
そう感じない	796	27.1	616	24.5	180	42.0	1	56.5	†	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。										
そう感じない	439	15.0	316	12.6	123	28.7	1	74.7	†	<0.001
わたしは満足した睡眠がとれていると感じる。										
そう感じない	1,008	34.2	749	29.7	259	60.8	1	156.8	†	<0.001
わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。										
そう感じない	1,200	41.0	940	37.5	260	61.8	1	87.6	†	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

§:反転項目

表Ⅲ-13. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポートに関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,976)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	2,976		2,791		185				
わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。									
そう感じない	927	32.0	818	30.1	109	61.2	1	74.3 †	<0.001
わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。§									
そう感じる	928	31.5	793	28.7	135	73.8	1	161.2 †	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。									
そう感じない	796	27.1	706	25.6	90	48.9	1	47.5 †	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。									
そう感じない	439	15.0	370	13.5	69	37.7	1	79.3 †	<0.001
わたしは満足した睡眠がとれていると感じる。									
そう感じない	1,008	34.2	888	32.1	120	66.3	1	88.4 †	<0.001
わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。									
そう感じない	1,200	41.0	1,074	39.1	126	69.6	1	65.3 †	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

§:反転項目

表Ⅲ-14. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較（K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合） (n=2,940)

	全体 (n=2,940)				男性 (n=1,423)				女性 (n=1,517)				
	K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	p
	1,749		1,191		848		575		901		616		
30 歳未満	172	65.9	89	34.1	96	67.1	47	32.9	76	64.4	42	35.6	0.644
30-39 歳	228	68.1	107	31.9	115	68.1	54	32.0	113	68.1	53	31.9	0.996
40-49 歳	189	55.9	149	44.1	80	50.0	80	50.0	109	61.2	69	38.8 *	0.038
50-59 歳	294	56.3	228	43.7	137	53.5	119	46.5	157	59.0	109	41.0	0.205
60-69 歳	434	62.5	261	37.6	205	62.7	122	37.3	229	62.2	139	37.8	0.900
70-79 歳	296	57.8	216	42.2	166	63.9	94	36.2	130	51.6	122	48.4 †	0.005
80 歳以上	136	49.1	141	50.9	49	45.4	59	54.6	87	51.5	82	48.5	0.321

Chi-square tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

年齢階級、性別、K6 に欠損のない 2,940 名を分析対象とした。

表Ⅲ-15. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較（K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合）(n=2,940)

	全体 (n=2,940)				男性 (n=1,423)				女性 (n=1,517)				
	K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		p
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
	2,519		421		1,216		207		1,303		214		
30 歳未満	221	84.7	40	15.3	119	83.2	24	16.8	102	86.4	16	13.6	0.472
30-39 歳	293	87.5	42	12.5	148	87.6	21	12.4	145	87.4	21	12.7	0.951
40-49 歳	283	83.7	55	16.3	129	80.6	31	19.4	154	86.5	24	13.5	0.143
50-59 歳	451	86.4	71	13.6	216	84.4	40	15.6	235	88.4	31	11.7	0.186
60-69 歳	598	86.0	97	14.0	282	86.2	45	13.8	316	85.9	52	14.1	0.889
70-79 歳	448	87.5	64	12.5	236	90.8	24	9.2	212	84.1	40	15.9	* 0.023
80 歳以上	225	81.2	52	18.8	86	79.6	22	20.4	139	82.3	30	17.8	0.586

Chi-square tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

年齢階級、性別、K6 に欠損のない 2,940 名を分析対象とした。

表Ⅲ-16. 柏崎市における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較（K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合）(n=2,940)

	全体 (n=2,940)				男性 (n=1,423)				女性 (n=1,517)				
	K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		p
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
	2,760		180		1,336		87		1,424		93		
30 歳未満	246	94.3	15	5.8	132	92.3	11	7.7	114	96.6	4	3.4	0.183
30-39 歳	315	94.0	20	6.0	159	94.1	10	5.9	156	94.0	10	6.0	1.000
40-49 歳	312	92.3	26	7.7	140	87.5	20	12.5	172	96.6	6	3.4	† 0.002
50-59 歳	499	95.6	23	4.4	247	96.5	9	3.5	252	94.7	14	5.3	0.396
60-69 歳	654	94.1	41	5.9	311	95.1	16	4.9	343	93.2	25	6.8	0.335
70-79 歳	479	93.6	33	6.5	247	95.0	13	5.0	232	92.1	20	7.9	0.209
80 歳以上	255	92.1	22	7.9	100	92.6	8	7.4	155	91.7	14	8.3	1.000

Fisher's exact tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

年齢階級、性別、K6 に欠損のない 2,940 名を分析対象とした。

（5）IES-R 分析と考察

1）2 年後調査の分析と考察

① 基本属性（図Ⅲ-49~51、表Ⅲ-17）

IES-R と基本属性の間には、「性別」以外において、いずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「性別」では、PTSD のハイリスク者（IES-R25 点以上）の割合に有意差はなかった。

b.「年齢階級」においては、20 歳未満～60 歳未満と答えた方それぞれの集団におけるハイリスク者の割合は 15.0%を割っていたものの、60 歳以上～90 歳未満と答えた方それぞれの集団におけるハイリスク者の割合は 20.0%以上であった。

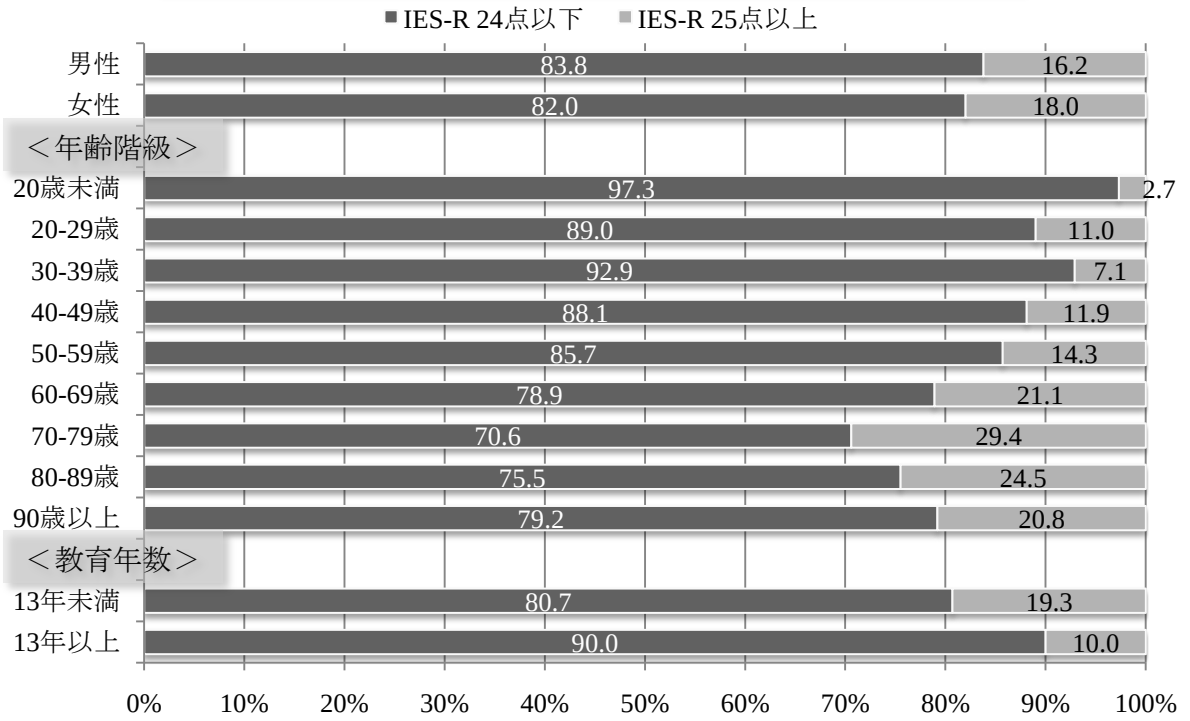
c.「教育年数」では 13 年未満と答えた方におけるハイリスク者の割合は 19.3%、13 年以上と答えた方の内では 10.0%であった。

d.「世帯主との関係」については、世帯主本人と答えた方におけるハイリスク者の割合は 19.5%、子と答えた方の内では 10.1%であった。

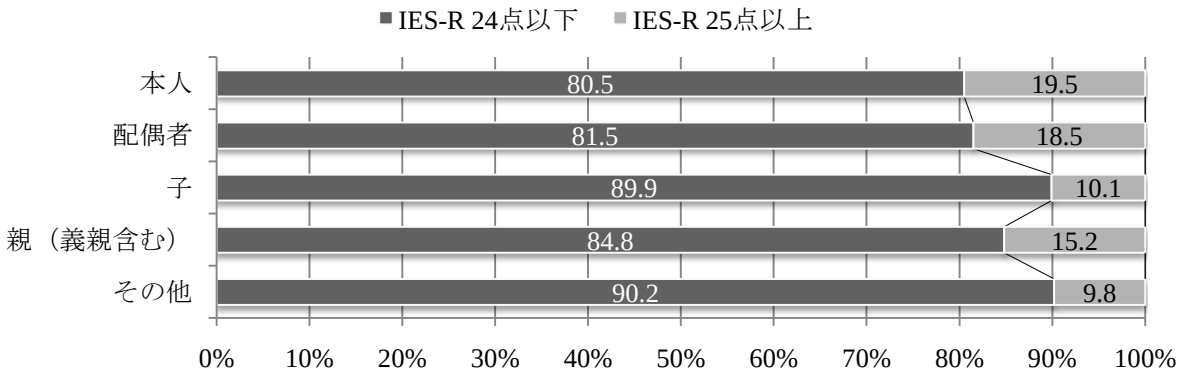
e.「主たる家計者の現在の職業」については、無職と答えた方におけるハイリスク者の割合は 27.2%、年金受給者と答えた方の内では 24.9%、会社員と答えた方の内では 11.7%であった。

f.「回答者の現在の職業」では、年金受給者と答えた方におけるハイリスク者の割合は 26.5%、無職と答えた方の内では 23.0%、会社員と答えた方の内では 11.4%、学生と答えた方の内では 3.6%であった。

図Ⅲ-49.性別と年齢階級、及び教育年数



図Ⅲ-50.世帯主との関係



図Ⅲ-51.家計者の職業、及び回答者の職業



② 震災状況、住まいの変化、経済について（図Ⅲ-52~55、表Ⅲ-18）

IES-R と震災状況、住まいの変化、経済的変化に対する意識には、「中越沖地震の住まい」以外において、いずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「中越沖地震時の介助の必要性」については、全てにおいて介助が必要と答えた方におけるハイリスク者の割合は 56.8%、部分的に介助が必要と答えた方の内では 32.1%、介助は必要ないと答えた方の内では 15.1%であった。

b.「中越沖地震時の住まい」においては、ハイリスク者の割合に有意差はなかった。

c.「中越沖地震による住む場所の変化」については、転居しなかったと答えた方におけるハイリスク者の割合は 14.3%に留まっているが、転居したと答えた方の内では 25.4%であった。

d.「現在の住まい」については、仮設以外と答えた方におけるハイリスク者の割合は 16.7%に留まっているが、仮設住宅と答えた方の内では 28.2%であった。

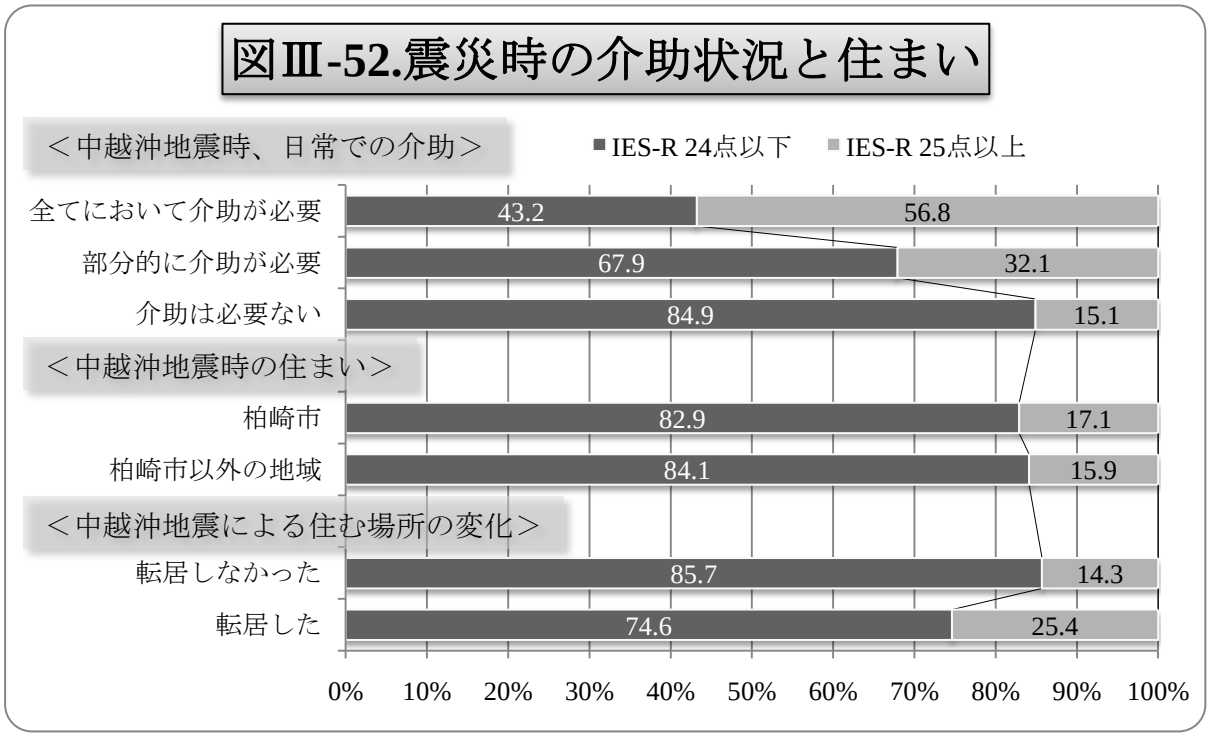
e.「地域分布」については、第一中学校区と答えた方におけるハイリスク者の割合は 22.2%、西山中学校区と答えた方の内では 21.4%、鏡が沖中学校区と答えた方の内では 10.6%であった。

f.「中越大震災・中越沖地震後の暮らし向きの変化」については、「悪くなった」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 31.2%、「変わらなかった」と答えた方の内では 10.1%であった。

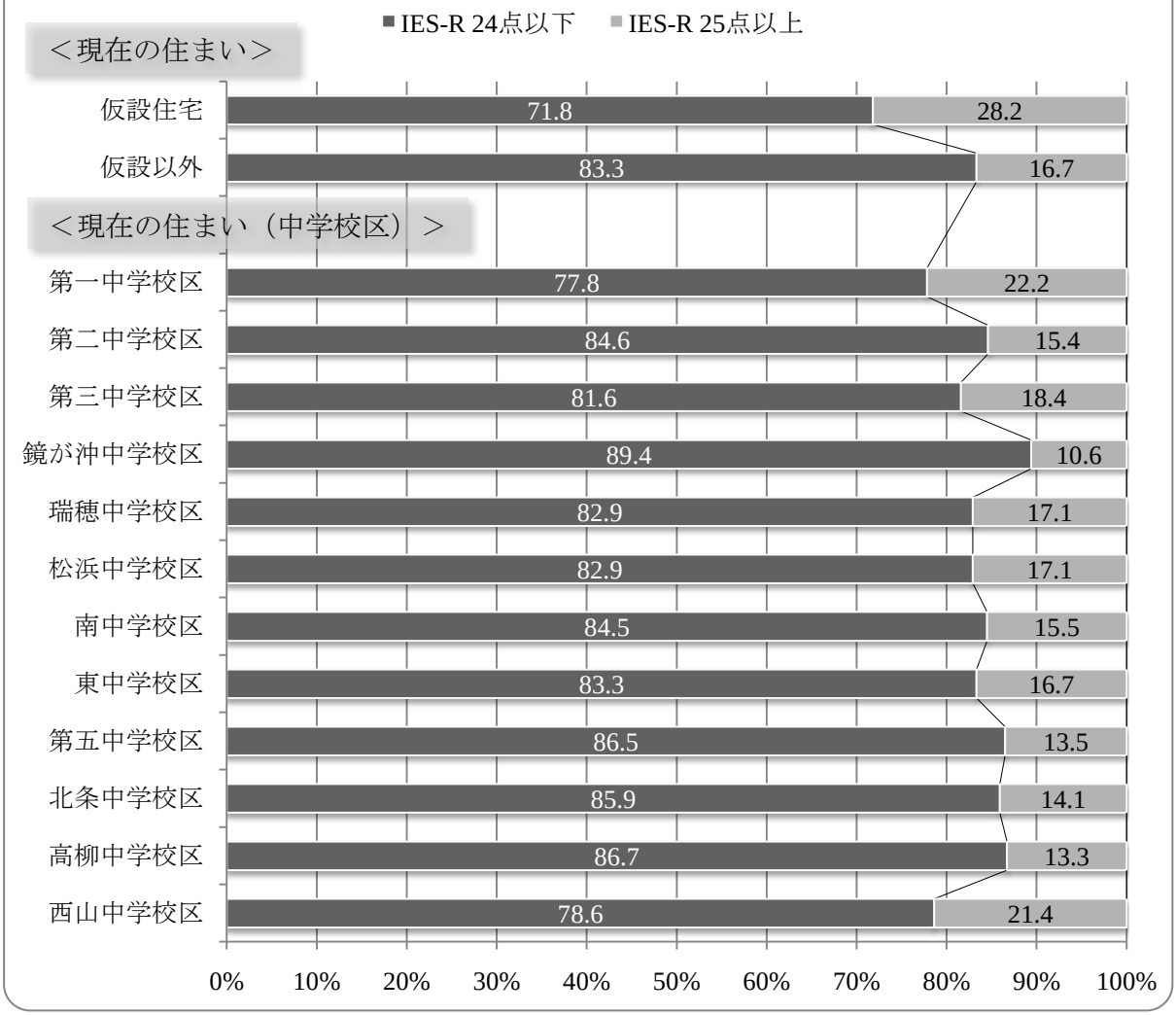
g.「中越沖地震以降の雇用状況」については、退職したと答えた方におけるハイリスク者の割合は 25.6%、転職したと答えた方の内では 6.3%であった。

h.「中越大震災時の家屋被害」については、一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊と答えた方それぞれの集団におけるハイリスク者の割合は 20.0%以上であった。被害なしと答えた方の内では 12.7%であった。

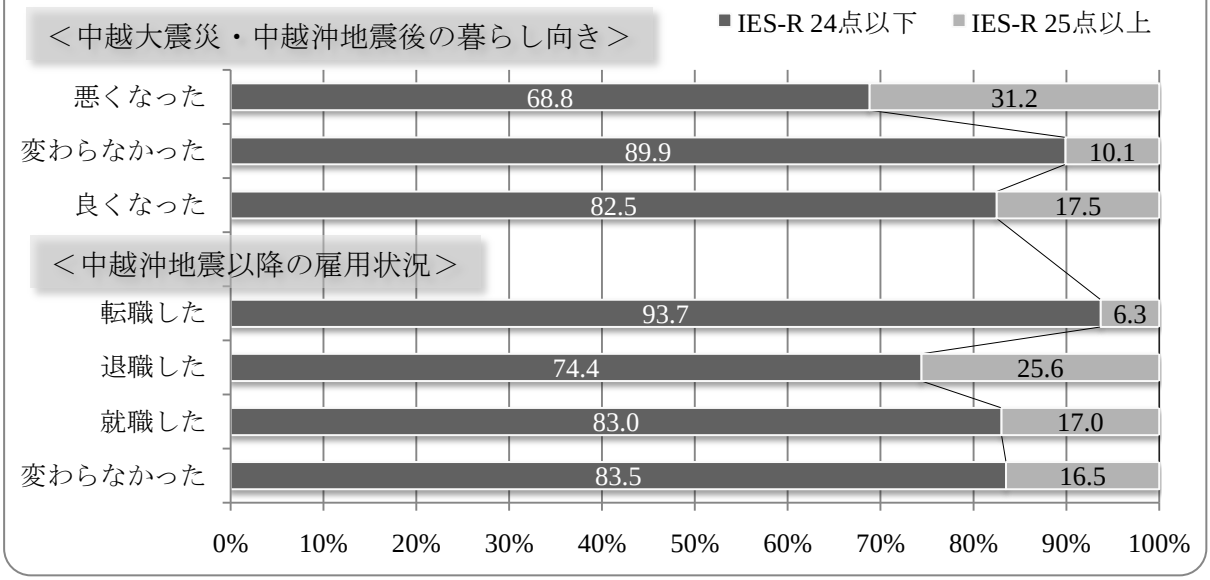
i.「中越沖地震時の家屋被害」については、半壊、大規模半壊、全壊と答えた方それぞれの集団におけるハイリスク者の割合は 20.0%以上であった。一部損壊と答えた方の内では 14.0%、被害なしと答えた方の内では 8.2%であった。

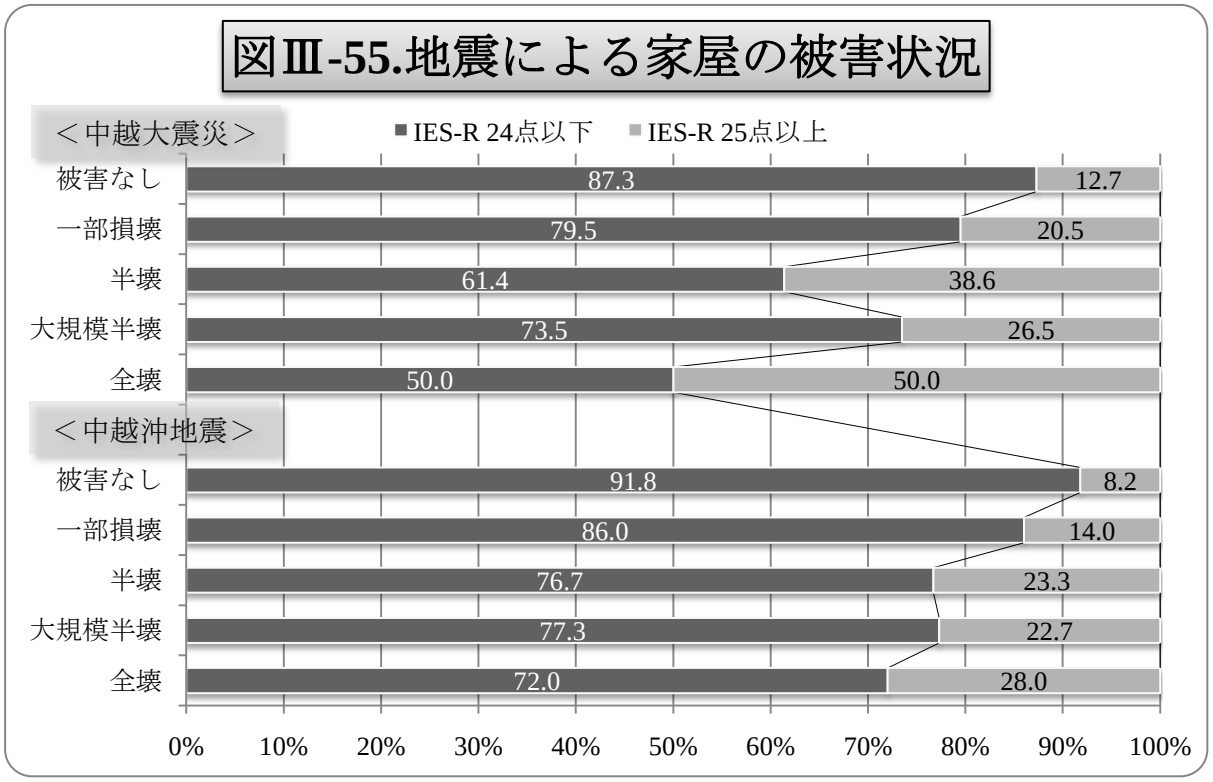


図Ⅲ-53.現在の住まいと地域分布



図Ⅲ-54.震災後の暮らし向きと雇用状況





③ 震災後の健康行動について（図Ⅲ-56、表Ⅲ-19）

IES-R と健康行動の間には、いずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「現在定期的に医者にかかっている病気の有無」については、「ある」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 24.1%、「ない」と答えた方の内では 11.1%であった。

b.「中越沖地震前と比較しての現在の喫煙状況」については、中越沖地震後に増えたと答えた方におけるハイリスク者の割合は 33.3%、減ったと答えた方の内では 32.7%、やめたと答えた方の内では 21.5%、変わらないと答えた方の内では 9.1%であった。

c.「中越沖地震前と比較しての現在の飲酒状況」については、中越沖地震後に増えたと答えた方におけるハイリスク者の割合は 31.2%、やめたと答えた方の内では 28.8%、減ったと答えた方の内では 28.7%、変わらないと答えた方の内では 11.5%であった。

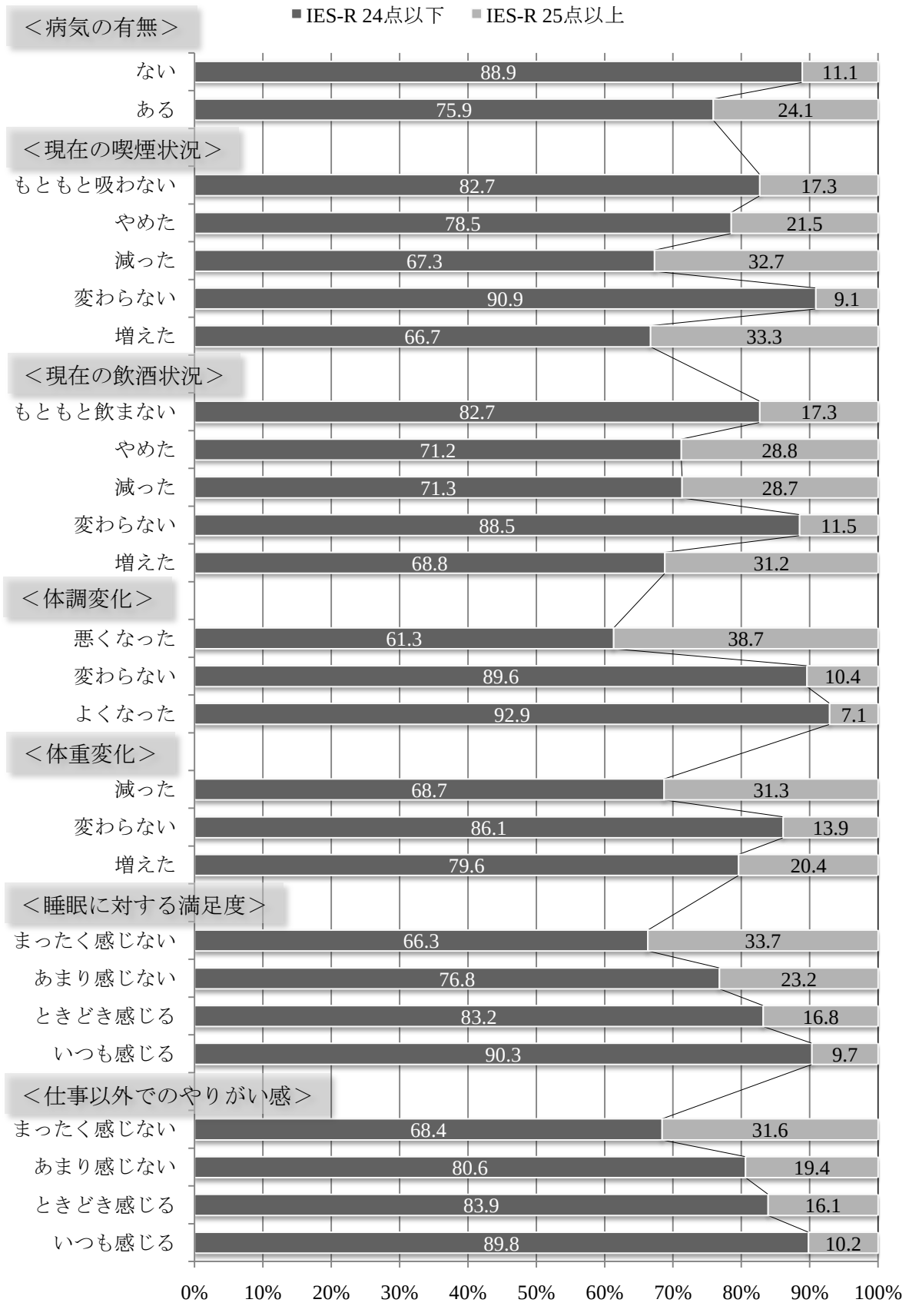
d.「体調変化」については、「悪くなった」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 38.7%、「よくなった」と答えた方の内では 7.1%であった。

e.「中越沖地震前と比較しての体重変化」においては、「減った」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 31.3%、「増えた」と答えた方の内では 20.4%、「変わらない」と答えた方の内では 13.9%であった。

f.「満足した睡眠がとれていると感じるかどうか」については、「まったく感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 33.7%、「あまり感じない」と答えた方の内では 23.2%、「いつも感じる」と答えた方の内では 9.7%であった。

g.「仕事以外でやりがいを感じられるものがあるかどうか」については、「まったく感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 31.6%、「あまり感じない」と答えた方の内では 19.4%、「いつも感じる」と答えた方の内では 10.2%であった。

図Ⅲ-56.健康行動、及び状況



④ ソーシャルサポート（人とのつながり）について（図Ⅲ-57,58、表Ⅲ-20）

IES-R とソーシャルサポートにおいて、いずれの項目についても有意に差が認められた。回答結果 2 分類においても各質問項目で同様の結果が認められた。

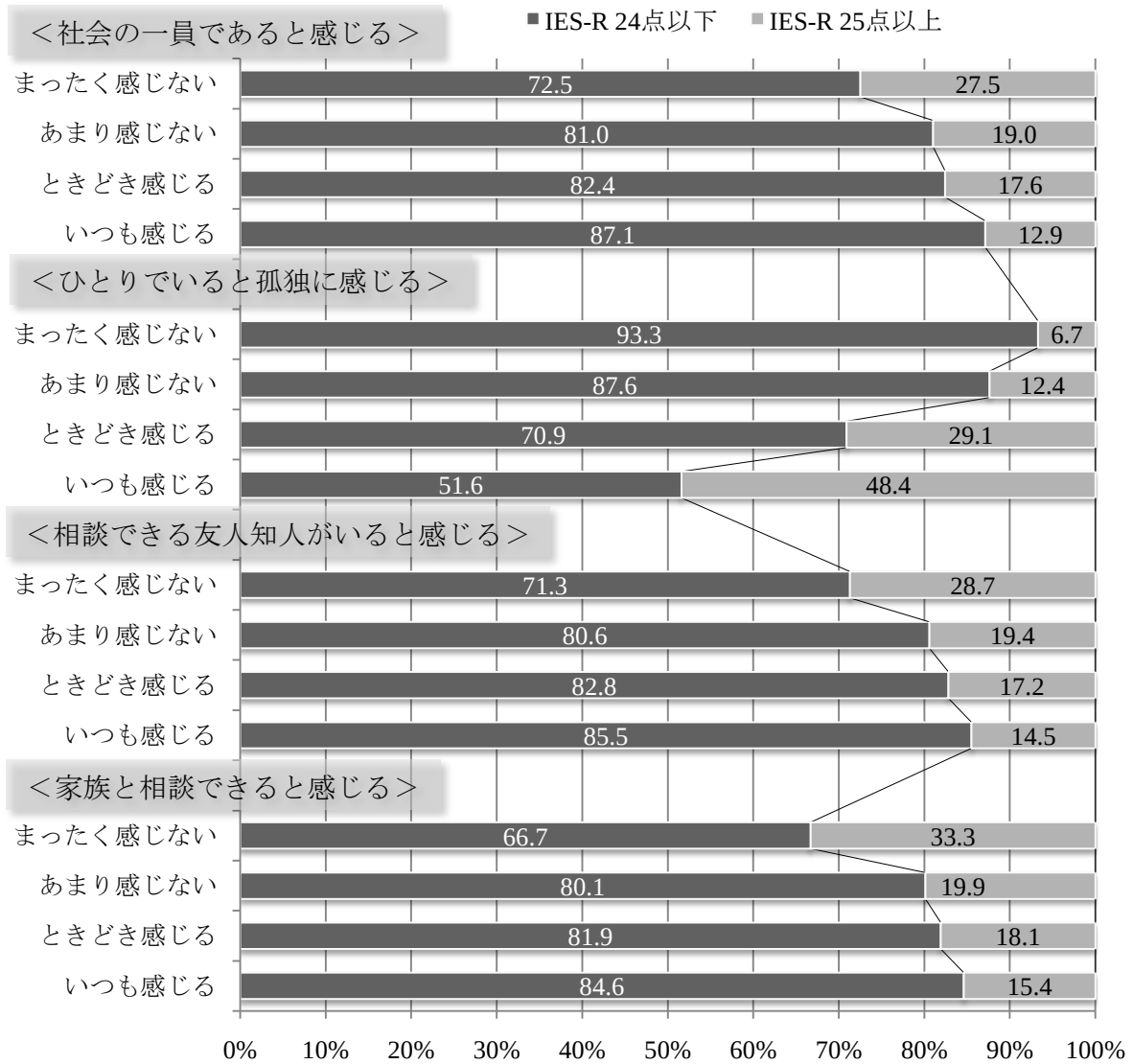
a.「社会の一員であると感じる」については、「まったく感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 27.5%、「いつも感じる」と答えた方の内では 12.9%であった。

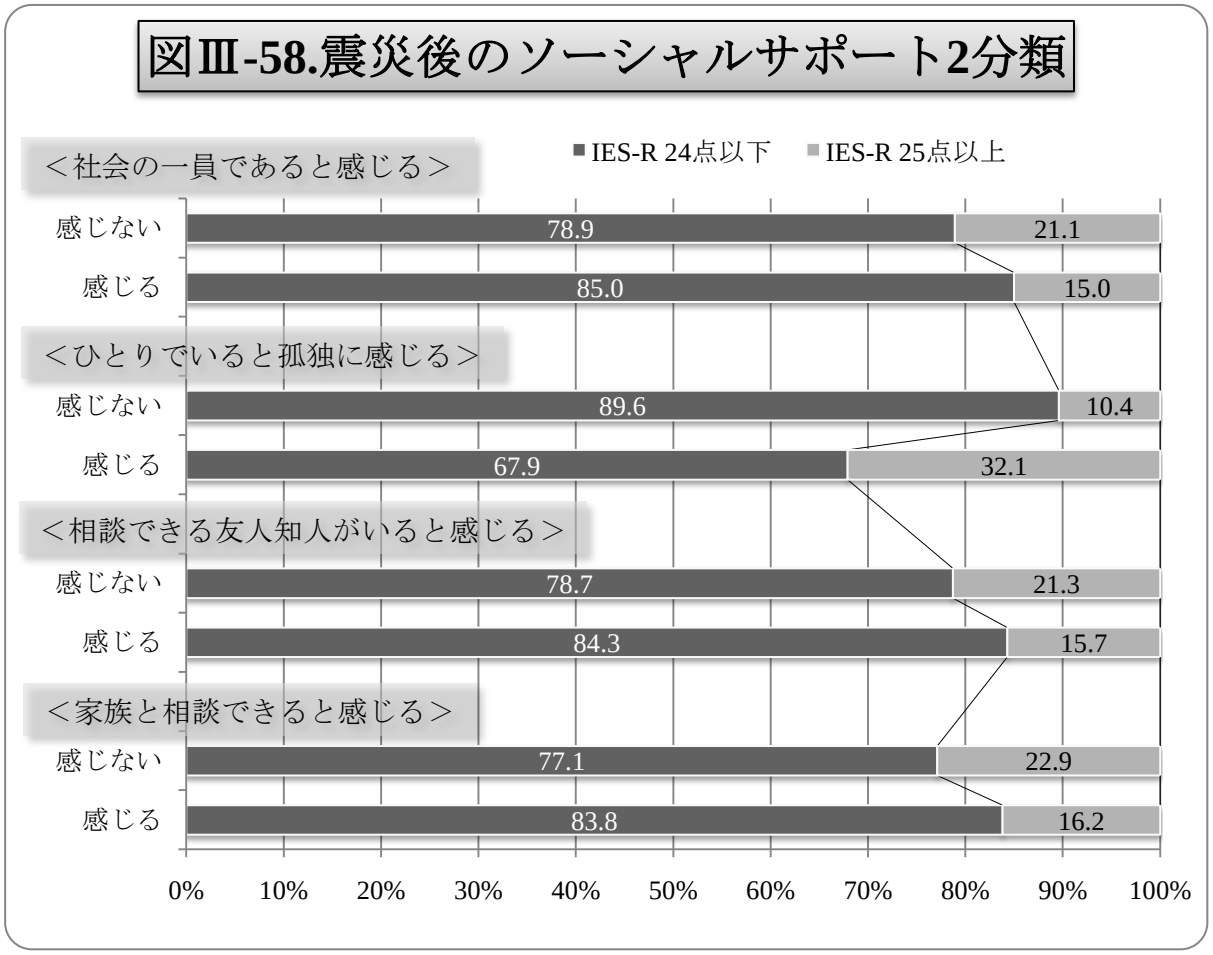
b.「ひとりでいると孤独に感じる」については、「いつも感じる」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 48.4%、「ときどき感じる」と答えた方の内では 29.1%、「あまり感じない」と答えた方の内では 12.4%、「まったく感じない」と答えた方の内では 6.7%であった。

c.「相談できる友人知人がいると感じる」については、「まったく感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 28.7%、「いつも感じる」と答えた方の内では 14.5%であった。

d.「家族と相談できると感じる」については、「まったく感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 33.3%、「いつも感じる」と答えた方の内では 15.4%であった。

図Ⅲ-57.震災後のソーシャルサポート





（考察）

全体的な傾向として、高齢者、世帯を支えている方、教育年数が高校卒業程度あるいはそれに満たない方、年金受給者、無職者、日常生活で介助が必要な方、中越沖地震前後で何らかの変化（住まい、喫煙量、飲酒量、雇用状況など）があった方、中越大震災時の家屋被害が大きい、中越沖地震時の家屋被害が大きい、持病がある方、孤立しがちな方あるいは孤立していると感じている方、身近に相談できる方に乏しい方、に中越沖地震のショック傾向が強く出ている。1 年後の調査と比較しても、この傾向に大きな変化はない。

表Ⅲ-17. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 基本属性×IES-R 比較

基本属性×IES-R		全体	IES-R24 点以下		IES-R25 点以上		df	χ2	p	
		n	n	%	n	%				
		2,675	2,215	82.8	460	17.2				
性別										
	男性	1,306	1,094	83.8	212	16.2	1	1.460	0.236	n.s
	女性	1,350	1,107	82.0	243	18.0				
年齢階級										
	20 歳未満	74	72	97.3	2	2.7	8	104.485	<0.000	***
	20-29 歳	182	162	89.0	20	11.0				
	30-39 歳	324	301	92.9	23	7.1				
	40-49 歳	329	290	88.1	39	11.9				
	50-59 歳	496	425	85.7	71	14.3				
	60-69 歳	626	494	78.9	132	21.1				
	70-79 歳	401	283	70.6	118	29.4				
	80-89 歳	196	148	75.5	48	24.5				
	90 歳以上	24	19	79.2	5	20.8				
世帯主との関係										
	本人	1,177	947	80.5	230	19.5	4	23.190	<0.000	***
	配偶者	775	632	81.5	143	18.5				
	子	417	375	89.9	42	10.1				
	親（義親含む）	210	178	84.8	32	15.2				
	その他	61	55	90.2	6	9.8				
教育年齢										
	13 年未満	1,964	1,584	80.7	380	19.3	1	29.927	<0.000	***
	13 年以上	648	538	83.0	65	10.0				
主たる家計者の現在の職業										
	会社員	1,192	1,052	88.3	140	11.7	8	73.849	<0.000	***
	公務員	112	97	86.6	15	13.4				
	自営	214	179	83.6	35	16.4				
	パート	51	38	74.5	13	25.5				
	専業主婦	59	48	81.4	11	18.6				
	年金受給者	743	558	75.1	185	24.9				
	学生	12	10	83.3	2	16.7				
	無職	158	115	72.8	43	27.2				
	その他	60	55	91.7	5	8.3				
回答者の現在の職業										
	会社員	834	739	88.6	95	11.4	8	82.861	<0.000	***
	公務員	78	65	83.3	13	16.7				
	自営	152	127	83.6	25	16.4				
	パート	204	174	85.3	30	14.7				
	専業主婦	264	222	84.1	42	15.9				
	年金受給者	664	488	73.5	176	26.5				
	学生	84	81	96.4	3	3.6				
	無職	252	194	77.0	58	23.0				
	その他	90	82	91.1	8	8.9				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

表Ⅲ-18. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査震 震災状況、住まいの変化、経済×IES-R 比較

震災状況、住まい、経済×IES-R	全体	IES-R 24 点以下		IES-R 25 点以上		df	χ2	p	
	n	n	%	n	%				
	2,675	2,215	82.8	460	17.2				
中越沖地震時、日常生活での介助									
全てにおいて介助が必要	37	16	43.2	21	56.8	2	81.826	<0.000	***
部分的に介助が必要	215	146	67.9	69	32.1				
介助は必要ない	2,388	2,027	84.9	361	15.1				
中越沖地震時の住まい									
柏崎市内	2,544	2,109	82.9	435	17.1	1	0.107	0.895	n.s
柏崎市以外の地域	107	90	84.1	17	15.9				
中越沖地震をきっかけとして住む場所の変化									
転居しなかった	1,939	1,662	85.7	277	14.3	1	44.466	<0.000	***
転居した	692	516	74.6	176	25.4				
現在の住まい									
仮設住宅	124	89	71.8	35	28.2	1	10.953	0.001	**
仮設以外	2,465	2,053	83.3	412	16.7				
現在の住まいの地域（中学校区）									
一中校区	311	242	77.8	69	22.2	11	20.518	0.039	*
二中校区	246	208	84.6	38	15.4				
三中校区	283	231	81.6	52	18.4				
鏡が沖中校区	265	237	89.4	28	10.6				
瑞穂中校区	292	242	82.9	50	17.1				
松浜中校区	187	155	82.9	32	17.1				
南中校区	168	142	84.5	26	15.5				
東中校区	347	289	83.3	58	16.7				
五中校区	89	77	86.5	12	13.5				
北条中校区	85	73	85.9	12	14.1				
高柳中校区	45	39	86.7	6	13.3				
西山中校区	294	231	78.6	63	21.4				
中越大震災・中越沖地震をきっかけとして、暮らし向き									
悪くなった	871	599	68.8	272	31.2	2	180.953	<0.000	***
変わらなかった	1,707	1,535	89.9	172	10.1				
良くなった	63	52	82.5	11	17.5				
平成 19 年 7 月の中越沖地震以降の雇用状況									
転職した	79	74	93.7	5	6.3	3	15.078	0.002	**
退職した	156	116	74.4	40	25.6				
就職した	47	39	83.0	8	17.0				
変わらなかった	2,211	1,846	83.5	365	16.5				
平成16年10月中越地震時の家屋被害認定結果									
被害なし	1,469	1,283	87.3	186	12.7	4	82.521	<0.000	***
一部損壊	954	758	79.5	196	20.5				
半壊	70	43	61.4	27	38.6				
大規模半壊	34	25	73.5	9	26.5				
全壊	38	19	50.0	19	50.0				
平成 19 年 7 月中越沖地震時の家屋被害認定結果									
なし	353	324	91.8	29	8.2	4	72.913	<0.000	***
一部損壊	1,323	1,138	86.0	185	14.0				
半壊	434	333	76.7	101	23.3				
大規模半壊	185	143	77.3	42	22.7				
全壊	343	247	72.0	96	28.0				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

表Ⅲ-19. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 震災後の健康行動×IES-R 比較

震災後の健康行動×IES-R	全体	IES-R24 点以下		IES-R25 点以上		df	χ2	p	
	n	n	%	n	%				
	2,675	2,215	82.8	460	17.2				
現在、定期的に医者にかかっている病気の有無									
ない	1,424	1,266	88.9	158	11.1	1	78.745	<0.000	***
ある	1,218	924	75.9	294	24.1				
中越沖地震前と比較しての現在の喫煙状況									
もともと吸わない	1,873	1,549	82.7	324	17.3	4	46.736	<0.000	***
やめた	200	157	78.5	43	21.5				
減った	55	37	67.3	18	32.7				
変わらない	429	390	90.9	39	9.1				
増えた	81	54	66.7	27	33.3				
中越沖地震前と比較しての現在の飲酒状況									
もともと飲まない	1,226	1,014	82.7	212	17.3	4	70.211	<0.000	***
やめた	59	42	71.2	17	28.8				
減った	216	154	71.3	62	28.7				
変わらない	992	878	88.5	114	11.5				
増えた	157	108	68.8	49	31.2				
体調変化									
悪くなった	641	393	61.3	248	38.7	3	274.26	<0.000	***
変わらない	2,003	1,795	89.6	208	10.4				
よくなった	14	13	92.9	1	7.1				
中越沖地震前と比較しての体重変化									
減った	396	272	68.7	124	31.3	2	73.014	<0.000	***
変わらない ±5%の範囲内	1,990	1,714	86.1	276	13.9				
増えた	270	215	79.6	55	20.4				
満足した睡眠がとれていると感じる									
まったく感じない	172	114	66.3	58	33.7	4	88.805	<0.000	***
あまり感じない	730	561	76.8	169	23.2				
ときどき感じる	799	665	83.2	134	16.8				
いつも感じる	954	861	90.3	93	9.7				
仕事以外でやりがいを感じられるものがある									
まったく感じない	244	167	68.4	77	31.6	4	62.370	<0.000	***
あまり感じない	824	664	80.6	160	19.4				
ときどき感じる	915	768	83.9	147	16.1				
いつも感じる	660	593	89.8	67	10.2				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

表Ⅲ-20. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 震災後のソーシャルサポート×IES-R 比較

震災後のソーシャサポート ×IES-R	全体 n	IES-R 24 点以下 n	%	IES-R 25 点以上 n	%	df	χ2	p	
	2,675	2,215	82.8	460	17.2				
グループや社会の一員であると感じる									
まったく感じない	200	145	72.5	55	27.5	3	29.893	<0.000	***
あまり感じない	610	494	81.0	116	19.0				
ときどき感じる	817	673	82.4	144	17.6				
いつも感じる	996	868	87.1	128	12.9				
ひとりでいると孤独に感じる									
まったく感じない	645	602	93.3	43	6.7	3	225.662	<0.000	***
あまり感じない	1,193	1,045	87.6	148	12.4				
ときどき感じる	683	484	70.9	199	29.1				
いつも感じる	126	65	51.6	61	48.4				
何か問題があったときに、相談できる友人知人がいると感じる									
まったく感じない	150	107	71.3	43	28.7	3	21.234	<0.000	***
あまり感じない	562	453	80.6	109	19.4				
ときどき感じる	878	727	82.8	151	17.2				
いつも感じる	1,057	904	85.5	153	14.5				
何か問題があったときに、家族と相談できると感じる									
まったく感じない	87	58	66.7	29	33.3	3	21.386	<0.000	***
あまり感じない	301	241	80.1	60	19.9				
ときどき感じる	725	594	81.9	131	18.1				
いつも感じる	1,534	1,298	84.6	236	15.4				
グループや社会の一員であると感じる 2 分類									
感じない	810	639	78.9	171	21.1	1	14.882	<0.000	***
感じる	1,813	1,541	85.0	272	15.0				
ひとりでいると孤独に感じる 2 分類									
感じない	1,838	1,647	89.6	191	10.4	1	18.7943	<0.000	***
感じる	809	549	67.9	260	32.1				
何か問題があったときに、相談できる友人知人がいると感じる 2 分類									
感じない	712	560	78.7	152	21.3	1	11.602	0.001	**
感じる	1,935	1,631	84.3	304	15.7				
何か問題があったときに、家族と相談できると感じる 2 分類									
感じない	388	299	77.1	89	22.9	1	10.399	0.001	**
感じる	2,259	1,892	83.8	367	16.2				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

2）1 年後調査と 2 年後調査の比較（表Ⅲ-21）

1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。

IES-R での PTSD ハイリスク者の割合は、1 年後調査では有効回答者の 22.0%（n＝3,319、平均値＝14.7、標準偏差＝15.16）だったのに対して、2 年後調査では 17.2%（n＝2,675、平均値＝12.5、標準偏差＝14.29）と 4.8 ポイント減少した（図Ⅲ-59,60）。平均値も下がってきており、時間の経過で中越沖地震のショック状態が緩和されてきていると考えられるが、3 年後調査の結果を踏まえて評価する必要がある。

a.「性別」において、男性（20.0%⇒16.2% 3.8 ポイント減少）、女性（24.0%⇒18.0% 6.0 ポイント減少）共に、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。

b.「年齢階級」において、20 歳未満（9.4%⇒2.7% 6.7 ポイント減少）、30 代（14.1%⇒7.1% 7.0 ポイント減少）、40 代（18.9%⇒11.9% 7.0 ポイント減少）、50 代（22.6%⇒14.3% 8.3 ポイント減少）、60 代（27.7%⇒21.1% 6.6 ポイント減少）で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。20 代、70 代、80 代、90 歳以上では有意な変化は認められなかった。

c.「世帯主との関係」において、本人（22.3%⇒19.5% 2.8 ポイント減少）、配偶者（25.6%⇒18.5% 7.1 ポイント減少）、子（17.4%⇒10.1% 7.3 ポイント減少）、親（義親含む）（22.3%⇒15.2% 7.1 ポイント減少）で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。その他では有意な変化は認められなかった。

d.「教育年数」において、13 年未満（23.9%⇒19.3% 4.6 ポイント減少）、13 年以上（16.5%⇒10.0% 6.5 ポイント減少）共に、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。

e.「主たる家計者の職業」において、会社員（18.3%⇒11.7% 6.6 ポイント減少）、年金受給者（30.1%⇒24.9% 5.2 ポイント減少）、その他（20.5%⇒8.3% 12.2 ポイント減少）で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。公務員、自営、パート、専業主婦、学生、無職では有意な変化は認められなかった。

f.「回答者の職業」において、会社員（17.4%⇒11.4% 6.0 ポイント減少）、パート（23.7%⇒14.7% 9.0 ポイント減少）、専業主婦（21.6%⇒15.9% 5.7 ポイント減少）、無職（29.5%⇒23.0% 6.5 ポイント減少）、その他（27.4%⇒8.9% 18.5 ポイント減少））で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。公務員、自営、年金受給者、学生では有意な変化は認められなかった。

g.「現在の住まい」において、仮設住宅、仮設住宅以外共に有意な変化は認められなかった。

h.「中越大震災時の家屋被害認定結果」において、被害なし（18.2%⇒12.7% 5.5 ポイント減少）、一部損壊（26.6%⇒20.5% 6.1 ポイント減少）では、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。半壊、大規模半壊、全壊では有意な変化は認められなかった。

i.「中越沖地震時の家屋被害認定結果」において、被害なし（13.3%⇒8.2% 5.1 ポイント減少）、一部損壊（18.7%⇒14.0% 4.7 ポイント減少）、全壊（37.2%⇒28.0% 9.2 ポイント減少）では、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。半壊、大規模半壊では有意な変化は認められなかった。

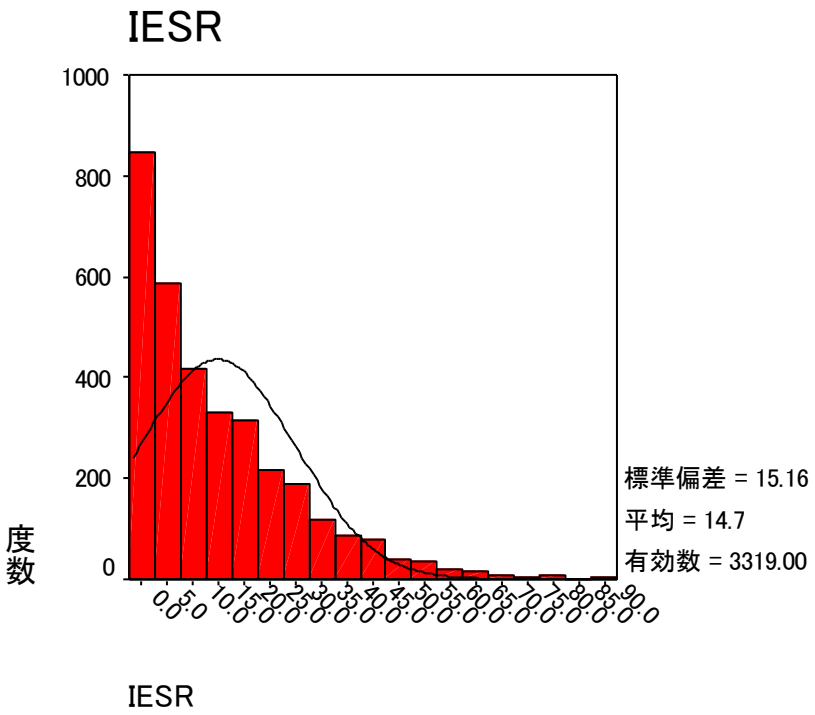
表Ⅲ-21. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 1 年後、2 年後 IES-R ハイリスク者割合比較

		1 年後 IES-R ハイリスク者		2 年後 IES-R ハイリスク者						
		n	%	n	%	df	χ2	p		
		731	22.0	460	17.2	1	21.689	0.000	***	↓
性別										
	男性	323	20.0	212	16.2	1	16.176	<0.000	***	↓
	女性	407	24.0	243	18.0	1	6.891	0.009	**	↓
年齢階級										
	20 歳未満	12	9.4	2	2.7	1	3.284	0.070	#	↓
	20-29 歳	36	13.7	20	11.0	1	0.712	0.399	n.s	→
	30-39 歳	62	14.1	23	7.1	1	9.161	0.002	**	↓
	40-49 歳	86	18.9	39	11.9	1	7.006	0.008	**	↓
	50-59 歳	143	22.6	71	14.3	1	12.40	<0.000	***	↓
	60-69 歳	180	27.7	132	21.1	1	7.533	0.006	**	↓
	70-79 歳	146	29.6	118	29.4	1	0.004	0.951	n.s	→
	80-89 歳	57	26.3	48	24.5	1	0.172	0.679	n.s	→
	90 歳以上	8	28.6	5	20.8	1	0.413	0.521	n.s	→
世帯主との関係										
	本人	324	22.3	230	19.5	1	2.974	0.085	#	↓
	配偶者	240	25.6	143	18.5	1	12.444	<0.000	***	↓
	子	99	17.4	42	10.1	1	10.541	0.001	**	↓
	親（義親含む）	50	22.3	32	15.2	1	3.549	0.060	#	↓
	その他	10	11.0	6	9.8	1	0.052	0.820	n.s	→
教育年数										
	13 年未満	586	23.9	380	19.3	1	13.318	<0.000	***	↓
	13 年以上	135	16.5	65	10.0	1	12.727	0.000	***	↓
主たる家計者の現在の職業										
	会社員	288	18.3	140	11.7	1	22.466	<0.000	***	↓
	公務員	19	12.2	15	13.4	1	0.087	0.768	n.s	→
	自営	65	21.1	35	16.4	1	1.839	0.175	n.s	→
	パート	18	26.1	13	25.5	1	0.005	0.941	n.s	→
	専業主婦	17	29.8	11	18.6	1	1.979	0.159	n.s	→
	年金受給者	200	30.1	185	24.9	1	4.732	0.030	*	↓
	学生	0	0.0	2	16.7	1	2.008	0.156	n.s	→
	無職	88	29.4	43	27.2	1	0.248	0.618	n.s	→
	その他	18	20.5	5	8.3	1	4.642	0.031	*	↓
回答者の現在の職業										
	会社員	185	17.4	95	11.4	1	13.367	<0.000	***	↓
	公務員	11	11.2	13	16.7	1	1.092	0.296	n.s	→
	自営	47	22.1	25	16.4	1	1.768	0.184	n.s	→
	パート	66	23.7	30	14.7	1	5.927	0.015	*	↓
	専業主婦	72	21.6	42	15.9	1	3.048	0.081	#	↓
	年金受給者	165	29.5	176	26.5	1	1.368	0.242	n.s	→
	学生	9	6.7	3	3.6	1	0.982	0.322	n.s	→
	無職	126	29.5	58	23.0	1	3.381	0.066	#	↓
	その他	32	27.4	8	8.9	1	11.121	0.001	**	↓
現在の住まい										
	仮設住宅	242	31.6	35	28.2	1	0.578	0.447	n.s	→
	仮設以外	268	16.7	412	16.7	1	0.000	0.983	n.s	→
平成 16 年 10 月中越地震時の家屋被害認定結果										
	被害なし	343	18.2	186	12.7	1	18.922	<0.000	***	↓
	一部損壊	303	26.6	196	20.5	1	10.638	0.001	**	↓
	半壊	37	31.1	27	38.6	1	1.101	0.294	n.s	→
	大規模半壊	10	26.3	9	26.5	1	0.000	0.988	n.s	→
	全壊	20	43.5	19	50.0	1	0.356	0.551	n.s	→
平成 19 年 7 月中越沖地震時の家屋被害認定結果										
	なし	62	13.3	29	8.2	1	5.316	0.021	*	↓
	一部損壊	290	18.7	185	14.0	1	11.502	0.001	**	↓
	半壊	166	26.7	101	23.3	1	1.617	0.203	n.s	→
	大規模半壊	64	25.8	42	22.7	1	0.552	0.457	n.s	→
	全壊	144	37.2	96	28.0	1	7.006	0.008	**	↓

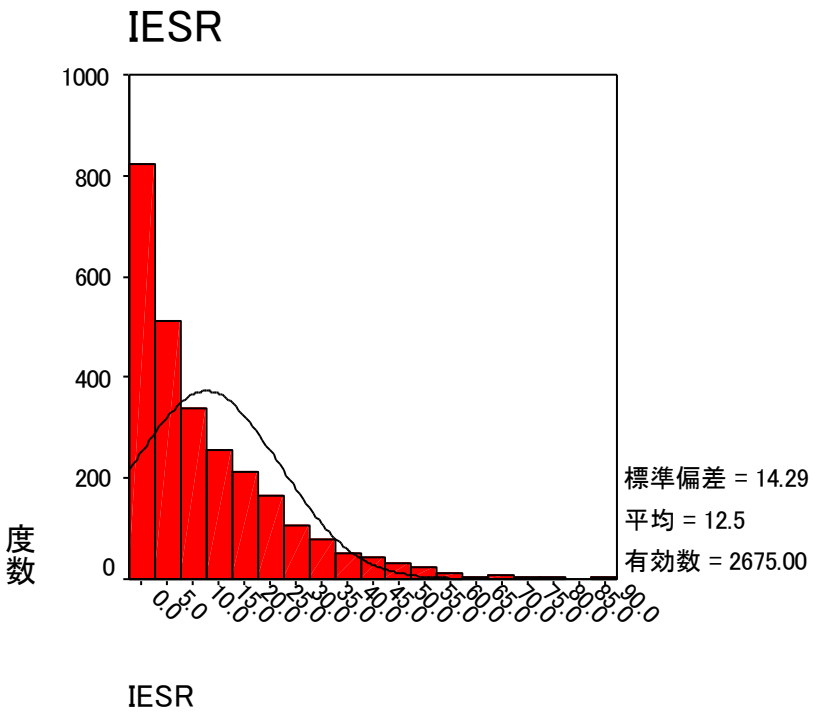
Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

＜図Ⅲ-59. 平成 20 年実施　IES-R ヒストグラム＞



＜図Ⅲ-60. 平成 21 年実施　IES-R ヒストグラム＞



3.自由記載・こころのケア事業からみた柏崎市の状況

2 年後調査時（H21 年 7 月末）の仮設住宅入居世帯は 255 世帯、543 人でピーク時（H19 年 11 月入居世帯 902 世帯、2,477 人）からすると、数的には住宅再建は順調に進んでいるように見える。しかし、H20 年 10 月の世界同時不況の影響を受け、柏崎市内でも H21 年 5 月から 6 月にかけ企業倒産が連続し、その後も深刻な経済不況、雇用不安が続いている。

このような状況を背景に、住宅再建したものの解雇や収入減のために、住宅ローンの返済が困難になっている方や今後の返済に強い不安を抱えている方が多い。また、復興住宅が脚光を浴び報道されることで、「急いで再建する必要があったのか」、「復興住宅ができることがわかっていたら、無理して再建しなかった」など後悔の念をもっている方も多い。

地震後の心身の状態としては、血圧の上昇、疲れやすい、風の音やわずかな揺れに敏感に反応する、夢を見てそのあと眠れない、閉所の恐怖、知的障害者のフラッシュバックなどが自由記載に多く書かれ、地震の影響がまだまだ残っていることがうかがえる。

また、こころのケア事業を実施している中で浮かび上がっているのは、地震後の住環境の変化や家族構成の変化による精神的ストレスである。特に高齢者で顕著であり、もの忘れが進行したり、うつ状態を呈す方、閉じこもり傾向になる方がみられ、相談会への来所や専門医の受診に繋がる方が増えている状況である。

4.まとめと今後のこころのケアの課題

今回の 2 年後調査への参加者は、60 歳以上の方が過半数を占めていた。昨年の 1 年後調査への参加者と比較すると、年齢構成が若干異なっており、これは 60 歳代、70 歳代の方がやや多いためであり、平均年齢も若干高くなっていた。また、回答された方および主たる家計者の職業の構成は、今回の 2 年後調査において年金受給者が大幅に多くなっていた。

本調査では昨年の 1 年後調査と同様、こころの健康を K6（範囲 0-24 点）を用いて測定したが、K6 への回答者 2,976 人のうち、重度ストレスレベルといわれる 5 点以上の方は 1,210 人（40.7%）、気分・不安障害レベルが疑われる 10 点以上の方は 431 人（14.5%）、重度精神障害レベルが疑われる 13 点以上の方は 185 人（6.2%）であった。昨年の 1 年後調査では、回答者 3,864 人のうち、5 点以上の方は 1,548 人（42.8%）、10 点以上の方は 527 人（14.6%）、13 点以上の方が 241 人（6.7%）であったため、今回の 2 年後調査の方が昨年の調査と比べ、いずれのカットオフ値についても越える方の割合は若干減少していた。

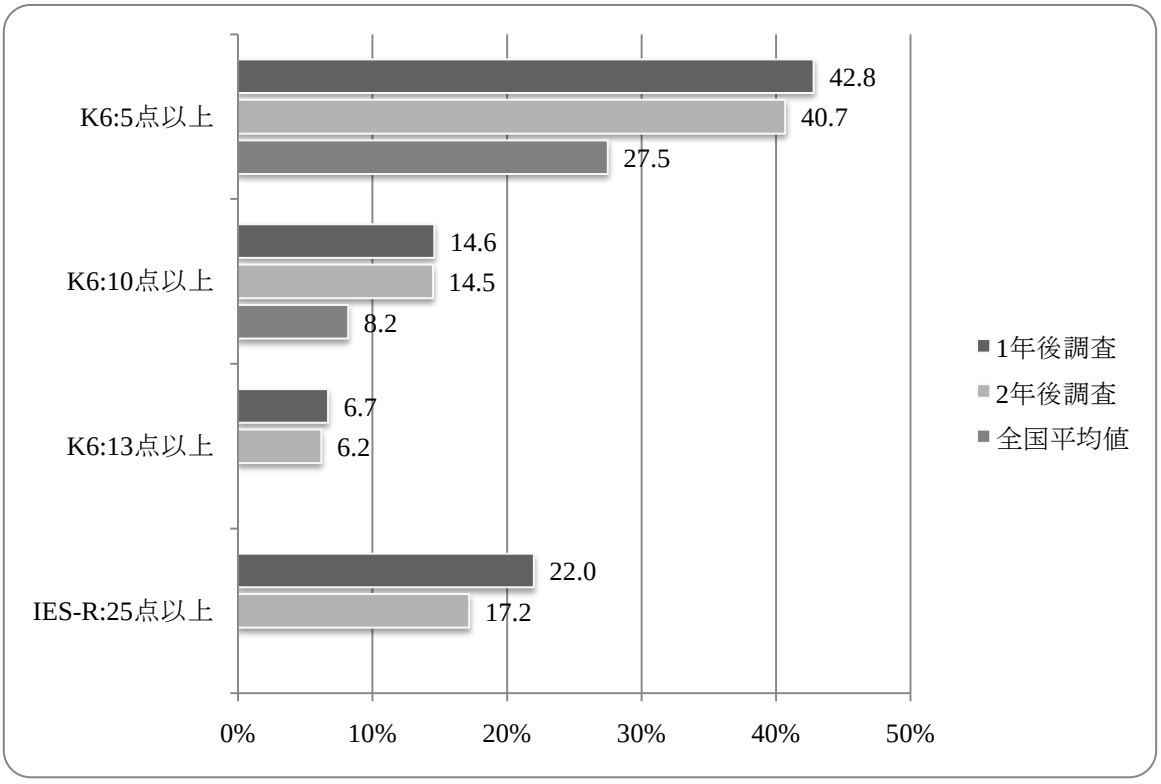
K6 のカットオフ値が重度ストレスレベルといわれる 5 点以上の方をハイリスクであると設定した場合、このハイリスク集団においては、属性では 70 歳代の方が約 30%という一番大きな割合を占め、主たる家計者の職業では年金受給者である方が約 3 割を占めていた。中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化について、約 6 割の方は不変と回答した一方、3 分の 1 以上の方が、暮らし向きが悪化したと回答しており、ハイリスク集団の中では暮らし向きが悪化した方の割合が半数に及んでいた。また、中越沖地震の際の家屋の被害については、約 37%の方が半壊以上の被害を受けており、ハイリスク集団の中で被害の規模の大きい方、特に全壊にあわれた方の割合が高かった。さらに身体的な健康については、体調が悪化した方が約 25.2%、5kg 以上の体重の増減のあった方が約 25%、現在受診している方が 5 割ほどであったが、これらに該当する方もハイリスク集団の中に占める割合が高くなっていた。

横断研究であることの限界から、震災による影響が続いているのか否かといったことは明らかにはできないが、高齢者や年金受給者、地震により大きな被害を受けた方、身体的な健康が悪化している方の精神健康が、中越沖地震から 2 年が経過した調査時点でも回復していなかったという可能性はある。前述の「自由記載・こころのケア事業からみた柏崎市の状況」からうかがわれる、経済的不安を抱えながらの生活再建の厳しさや、身体的な健康問題を抱える方が引きずっている震災の影響といったものが、本調査における数値としても現れていると考えられる。

また、IES-R を用いたトラウマ反応の検討から、従来から指摘されている、高齢者、震災による家屋などの物的損傷が大きかった方、年金受給者や身体疾患の既往のある方は、精神健康においてもリスクが高いことがうかがわれた。しかし、今回の 2 年後調査には、比較的高齢者の参加が多かったので、このような回答者の年齢構成の影響も検討する必要がある。自由記載などから聞かれた声としては、身体健康や身体症状への懸念、わずかな音や揺れに対する反応などのトラウマ後の過覚醒症状などが挙げ

られる。これらの症状や社会機能の変化に注意を払い、継続的な関わりが求められよう。

さらに、自由記載やこれまでの地域での関わりを通じて、これまでは家族や地域内で生活していた方が、地震後の住環境の変化や家族構成の変化によって、症状や問題が顕在化してケースとなる事例が散見される。特に高齢者で顕著であり、もの忘れが進行したり、うつ状態を呈す方、閉じこもり傾向になる方、また知的障害をもつ方の生活環境の変化に対する過剰な反応などがあるが、これらに対しては、相談体制の充実、支援者のストレス対応など、地域全体の予備力を上げていくための仕組みづくりが求められていると考えられる。



Ⅳ 出雲崎町の調査内容と結果

Ⅳ 出雲崎町の調査内容と結果

1. 出雲崎町の概要と復興の状況（H.21.7 月末現在）

■ 概要

出雲崎町は、新潟県のほぼ中央に位置し、長岡市・柏崎市に接しており、約 9km に及ぶ海岸線を有し、佐渡と相対している。江戸時代は佐渡への渡海の津として幕府直轄の「天領」として栄えた。日本海に並行した小高い丘に挟まれたわずかな平場に、家と家が軒を連ねる「妻入り」という建築様式の街並みが約 3.6km にわたり形成されており、全国的にも珍しい地域とされている。また、明治時代には、わが国初の石油の機械掘りに成功し、石油産業発祥の地として脚光を浴び、現在も名残の石油井が保存されている。

人口	5,244 人
世帯数	1,817 世帯
面積	44,38 平方キロメートル

■ 復興の状況

（1）応急仮設住宅

建設箇所		1 箇所　15 戸
入居者数	ピーク時	平成 19 年 8 月　15 戸　45 人
閉　鎖		平成 21 年 1 月

（2）復興公営住宅

建設箇所	1 箇所　4 戸（一般は含めていない）
入居開始	平成 20 年 12 月
入居者数	4 戸 4 人

2.調査結果の分析

（1）回収結果

1）調査対象世帯数・人数

対象世帯数	対象人数
1,711 世帯	4,544 名

2）回収状況

調査対象人数	回答者数	回収率
4,544 名	2,587 名	56.9%

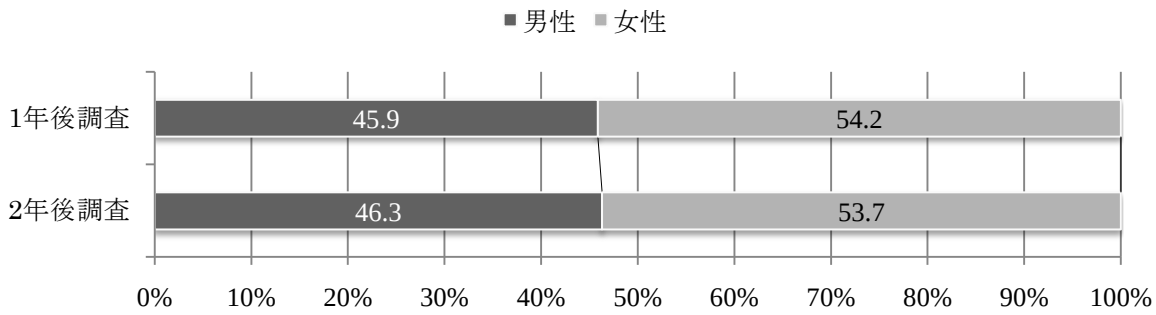
（2）調査参加者の属性

新潟県中越沖地震「被災者こころと身体の健康調査」の 1 年後調査参加者と 2 年後調査参加者の基本的属性の比較を図Ⅳ-1~6（表Ⅳ-1）に示した。

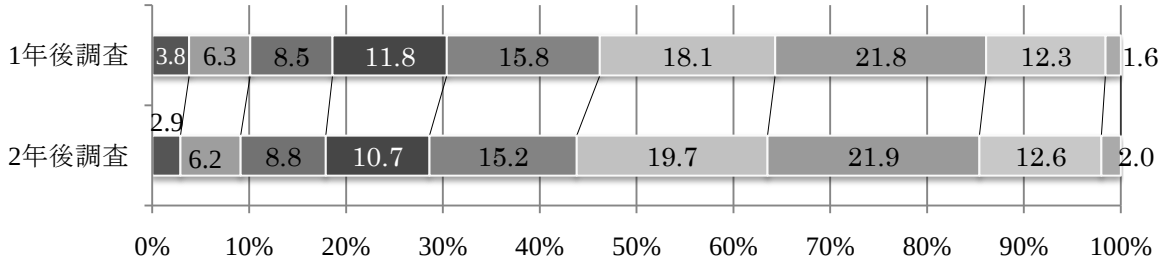
まず、2 年後調査参加者については、女性がやや多く（男性：46.3%、女性：53.7%）、年齢構成は 50 歳以上が多く、60 歳以上の方が過半数（1,437 人、56.3%）を占め、平均年齢は 59.7 歳（標準偏差：19.1）であった。教育年数は、平均が 11.1 年（標準偏差：2.5）であった。調査票の回答は、世帯主からのものが最も多く（1,090 人、43.1%）、回答された方の職業としては、年金受給者（707 人、28.8%）、会社員（606 人、24.6%）、無職（323 人、13.1%）が多かったが、世帯の主たる家計者の職業としては、会社員、年金受給者が 6 割以上を占めた。

1 年後調査参加者と 2 年後調査参加者の基本的属性の比較をしたところ、年齢構成、教育年数、回答された方の家族内役割については同様であった。回答された方の職業の構成は 2 回の調査で異なっていたが（χ^2 検定、$p<0.001$）、これは 2 年後調査では年金受給者が多かったからであろう。主たる家計者の職業の構成についても、同じパターンであった。

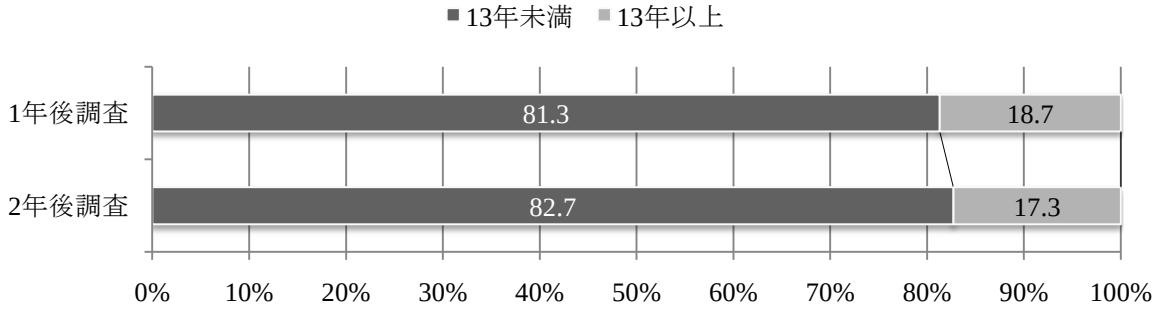
図Ⅳ-1.性別



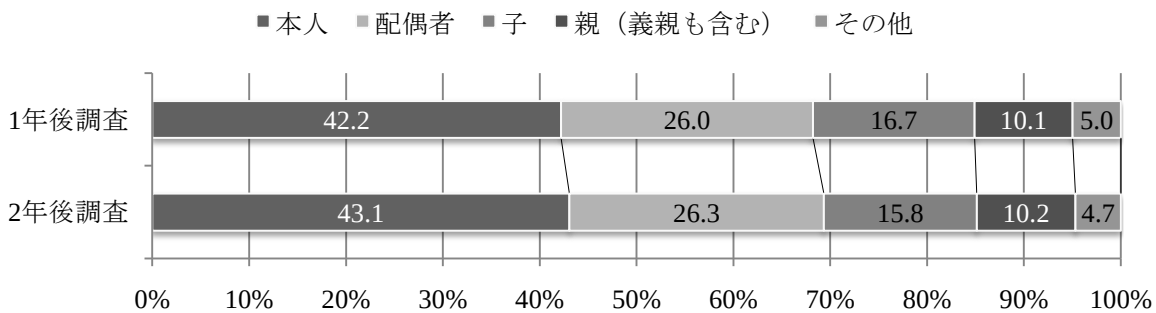
図Ⅳ-2.年齢階級



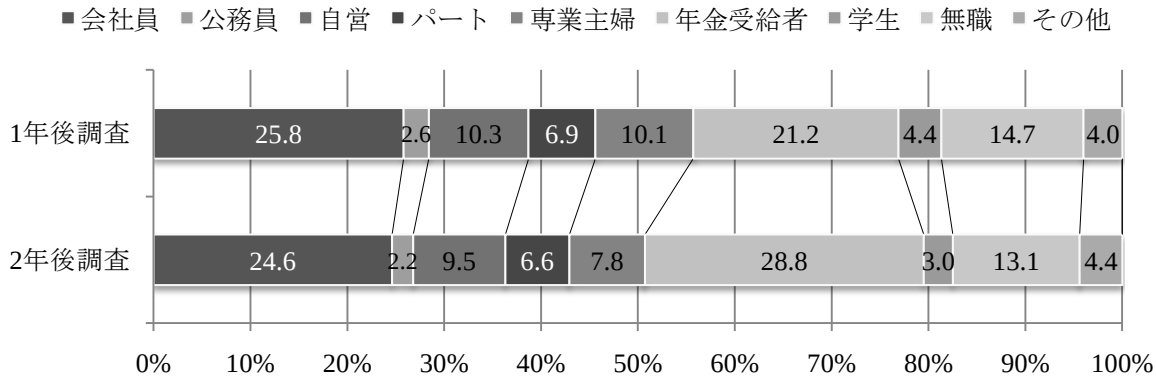
図Ⅳ-3.教育年数



図Ⅳ-4.世帯主との関係



図Ⅳ-5.回答者の職業



図Ⅳ-6.主たる家計者の職業

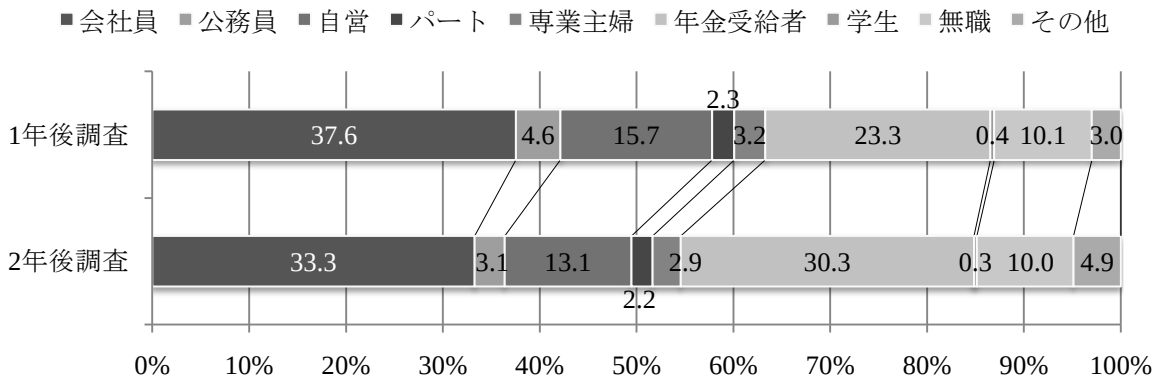


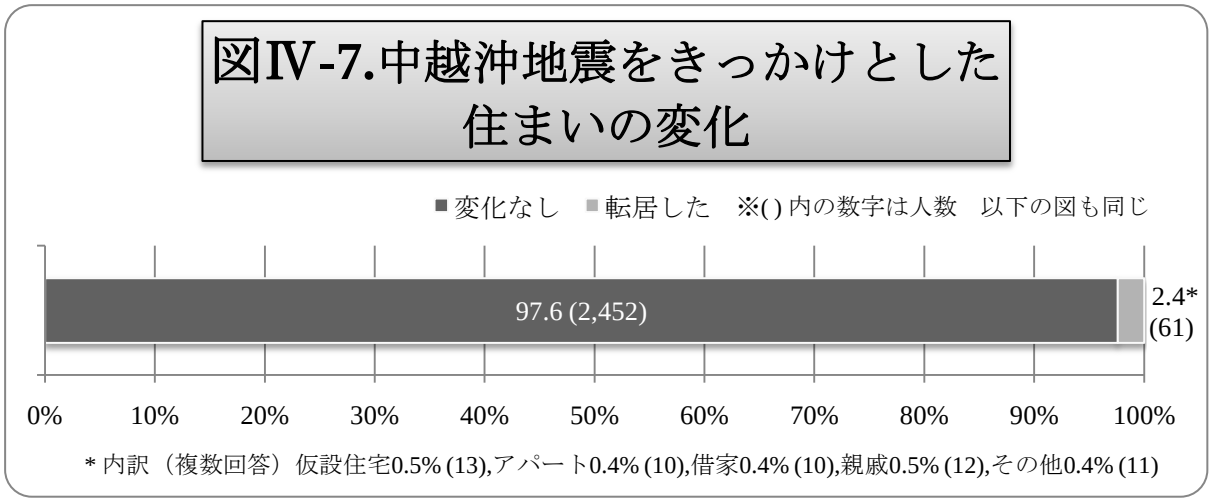
表 Ⅳ-1. 出雲崎町における中越沖地震後のこころと身体の健康調査の
1 年後調査参加者と 2 年後調査参加者の基本的属性の比較

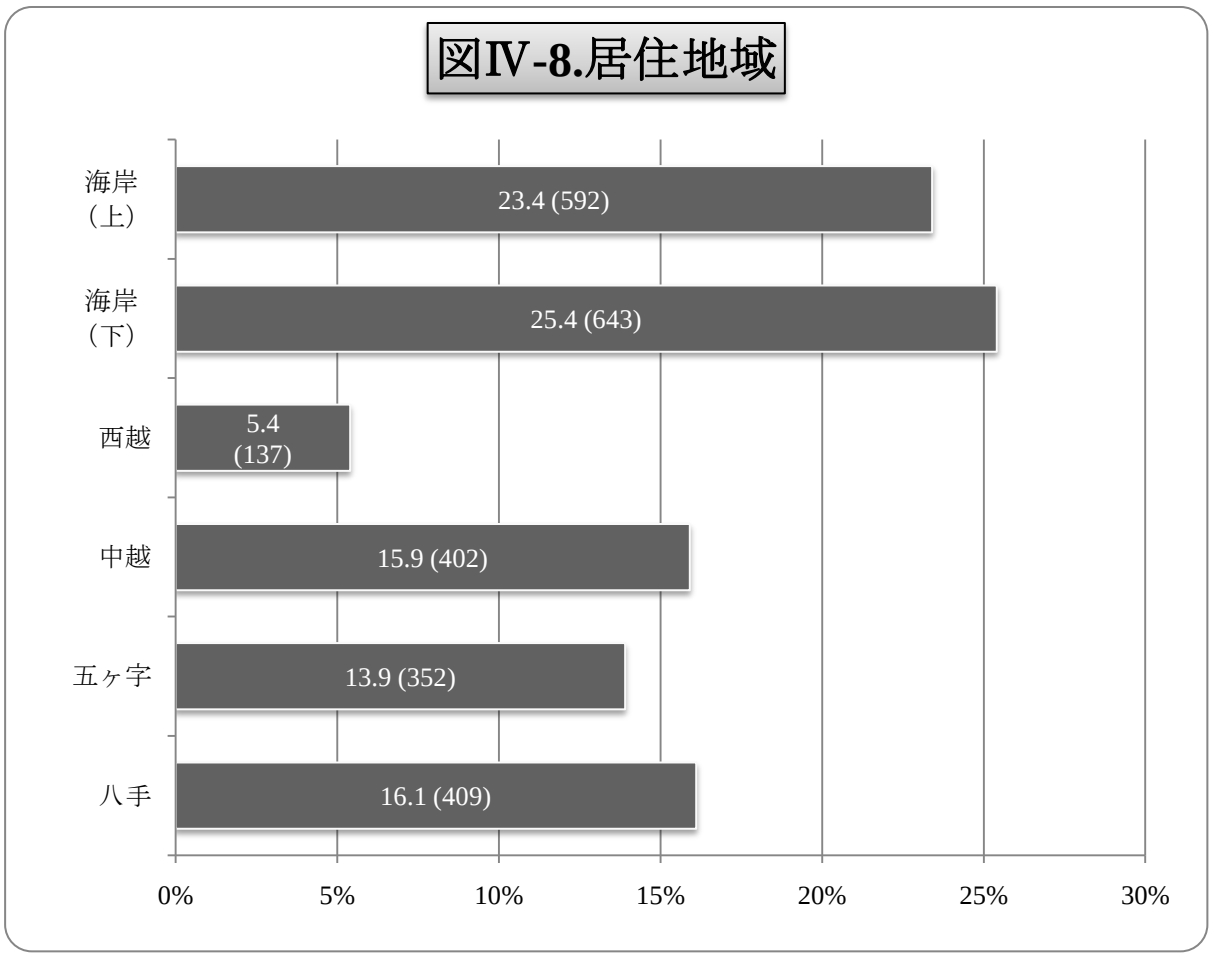
		1 年後調査 (n=2,766)		2 年後調査 (n=2,587)		df	χ^2/t		P
		n / mean	% / (sd)	n / mean	% / (sd)				
性別									
	男性	1,264	45.9	1,191	46.3	1	0.1		0.747
	女性	1,493	54.2	1,382	53.7				
年齢階級									
	20 歳未満	104	3.8	73	2.9	8	8.5		0.389
	20-29 歳	172	6.3	158	6.2				
	30-39 歳	233	8.5	225	8.8				
	40-49 歳	323	11.8	273	10.7				
	50-59 歳	432	15.8	388	15.2				
	60-69 歳	497	18.1	503	19.7				
	70-79 歳	597	21.8	560	21.9				
	80-89 歳	338	12.3	322	12.6				
	90 歳以上	44	1.6	52	2.0				
平均年齢 (標準偏差)		58.8	(19.4)	59.7	(19.1)	5,292	-1.7		0.094
教育年数									
	13 年未満	2,123	81.3	2,044	82.7	1	1.6		0.212
	13 年以上	487	18.7	428	17.3				
教育年数 (標準偏差)		11.1	(2.6)	11.1	(2.5)	5,080	-0.3		0.764
世帯主との関係									
	本人	1,135	42.2	1,090	43.1	4	1.2		0.880
	配偶者	700	26.0	665	26.3				
	子	449	16.7	399	15.8				
	親（義親も含む）	272	10.1	259	10.2				
	その他	133	5.0	118	4.7				
回答者の職業									
	会社員	655	25.8	606	24.6	8	47.9	†	<0.001
	公務員	68	2.6	54	2.2				
	自営	265	10.3	234	9.5				
	パート	177	6.9	163	6.6				
	専業主婦	260	10.1	191	7.8				
	年金受給者	547	21.2	707	28.8				
	学生	113	4.4	74	3.0				
	無職	380	14.7	323	13.1				
	その他	103	4.0	107	4.4				
主たる家計者の職業									
	会社員	956	37.6	807	33.3	8	53.8	†	<0.001
	公務員	116	4.6	76	3.1				
	自営	399	15.7	317	13.1				
	パート	59	2.3	52	2.2				
	専業主婦	81	3.2	69	2.9				
	年金受給者	592	23.3	733	30.3				
	学生	9	0.4	8	0.3				
	無職	257	10.1	242	10.0				
	その他	76	3.0	119	4.9				

Chi-square tests or t-test were used.
*: $p<0.05$, †: $p<0.01$

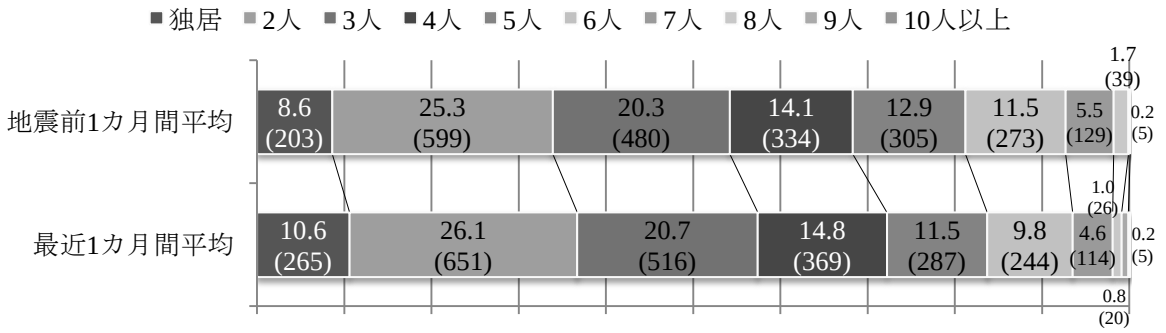
（3）調査結果

図Ⅳ-7~9 に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の住まいの状況について示した。調査に回答された方の大多数（2,339 人、91.8%）が中越沖地震時に町内で生活していた（町外は 208 人、8.2%）。中越沖地震をきっかけに転居をされた方は 61 人（2.4%）であった。地域別に参加者の割合をみてみると、海岸（上）（592 人、23.4%）、海岸（下）（643 人、25.4%）が多かった。同居家族の人数としては 2 人から 3 人が多く、これは地震前 1 カ月間でも調査時の 1 カ月間でも同様の傾向であった。



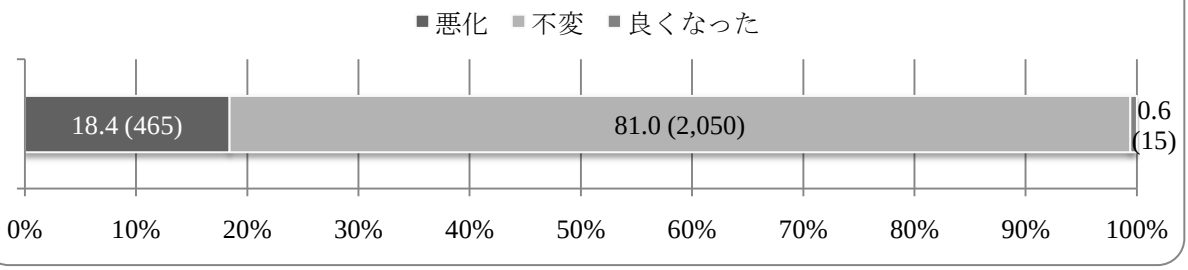


図Ⅳ-9.居住形態（同居家族の人数）

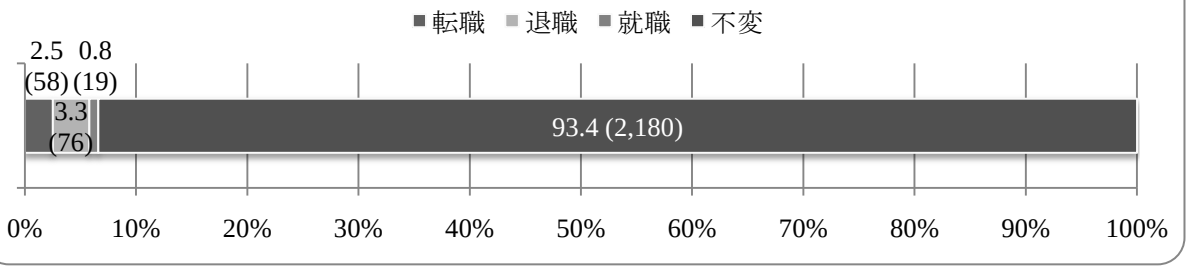


図Ⅳ-10~12 に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響として、暮らし向きの変化、雇用状況、家屋被害状況についてまとめた。中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化について、約 8 割の方は不変と回答したが（2,050 人、81.0%）、約 2 割の方が、暮らし向きが悪化したと回答した（465 人、18.4%）。中越沖地震をきっかけとした雇用状況については、9 割以上の方が不変と回答したが（2,180 人、93.4%）、58 人（2.5%）が転職を、76 人（3.3%）が退職をした。中越大震災については、家屋の被害がなかった方が約半数を占め、半壊以上の家屋被害を受けたと回答した方が 58 人（2.4%）であったが、中越沖地震については、家屋の被害がなかった方は約 2 割にとどまり、半壊以上の家屋被害を受けたと回答した方が 226 人（9.2%）と多かった。

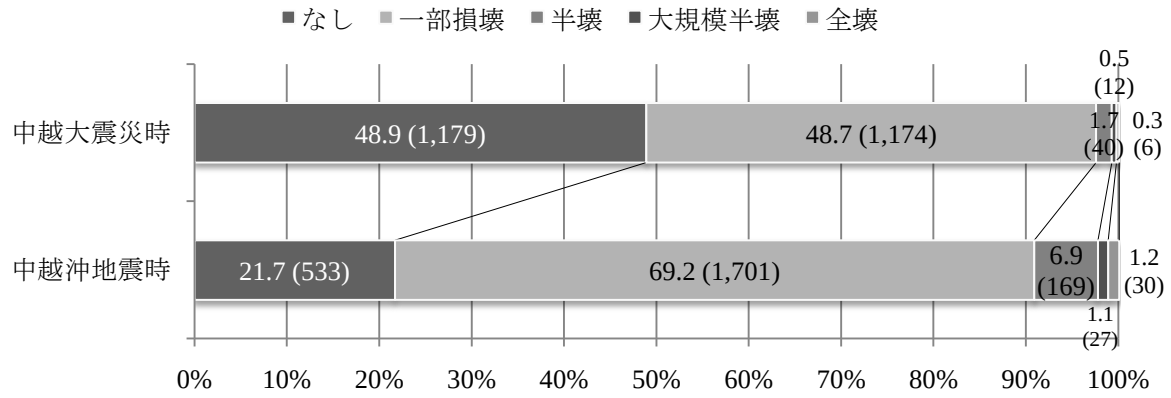
図Ⅳ-10.中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化



図Ⅳ-11.中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化

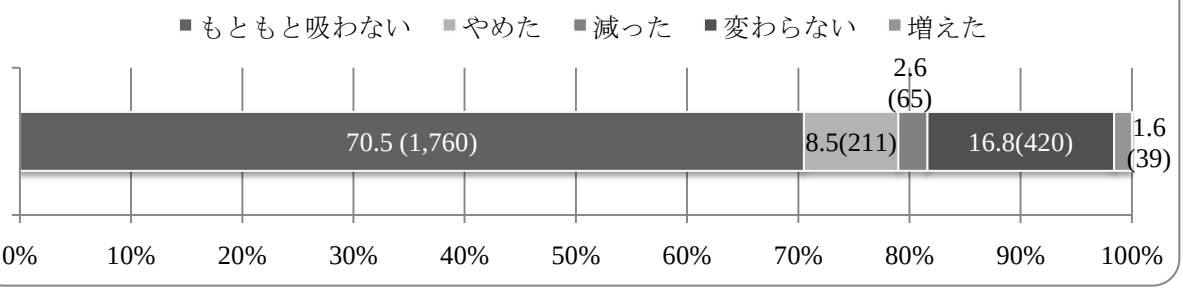


図Ⅳ-12.中越大震災時・中越沖地震時の家屋被害

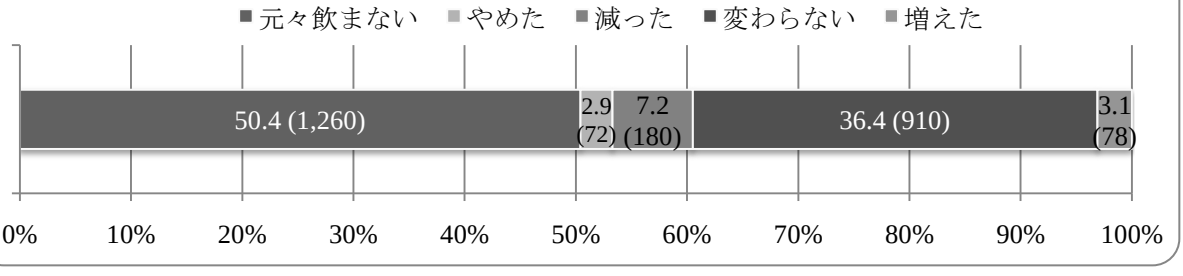


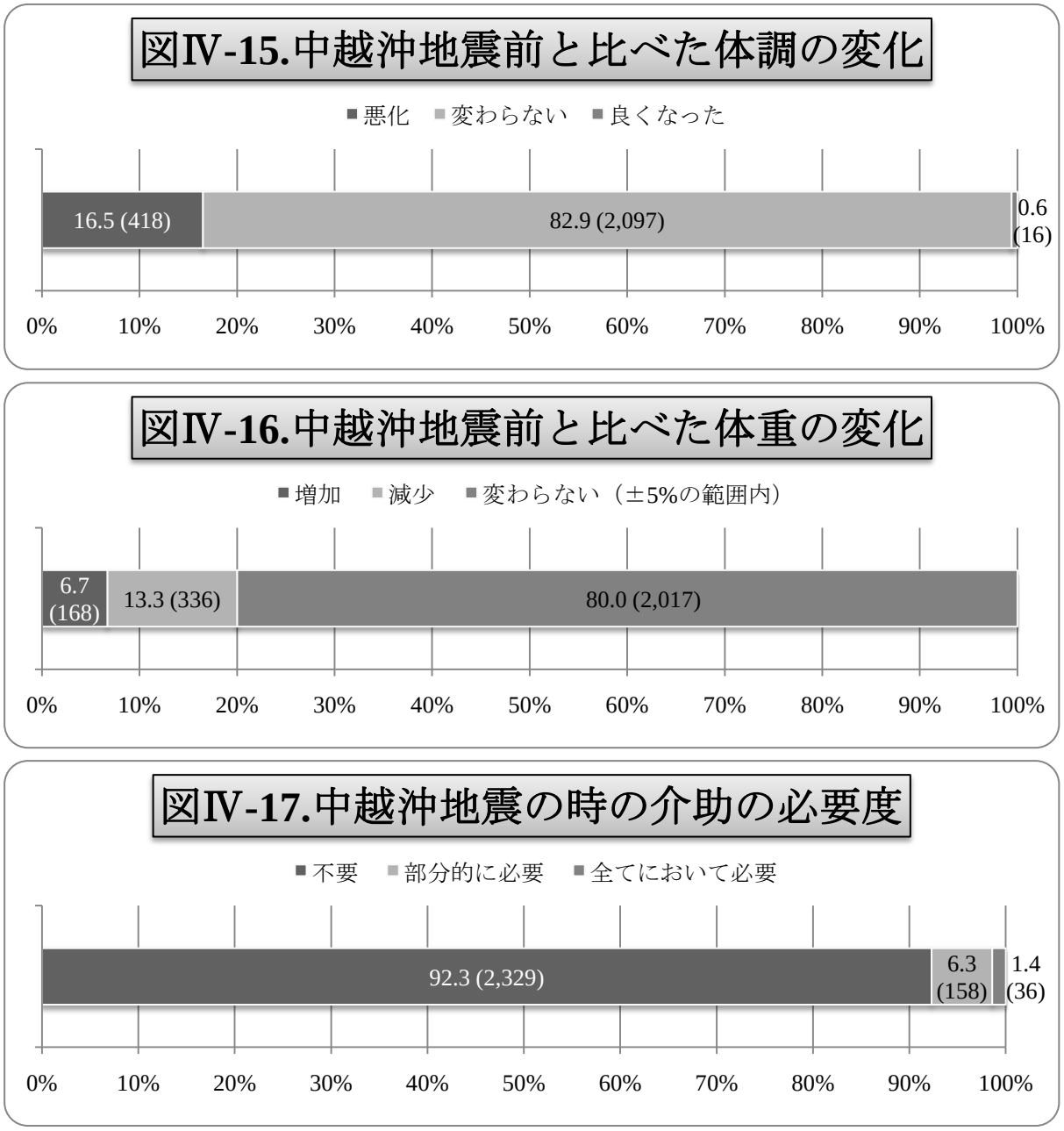
図Ⅳ-13~17 に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動についてまとめた。中越沖地震前と比較した喫煙状況は、「もともと吸わない」と回答した方が 1,760 人（70.5%）と最も多く、喫煙数が「増えた」方は 39 人（1.6%）であった。同じく飲酒状況については、「もともと飲まない」という方が 1,260 人（50.4%）と最も多く、飲酒が「増えた」方は 78 人（3.1%）であった。大多数の方（2,097 人、82.9%）は体調に変化を感じていなかったが、418 人（16.5%）の方は体調が「悪化した」と感じていた。体重の変化について、168 人（6.7%）の方が体重の増加を報告していたが、336 人（13.3%）は体重が減少したという報告であった。194 人（7.7%）の方が、中越大震災の時に、部分的、あるいは全面的に介助を必要としていた。現在何らかの理由で医療機関を受診している方は、約半数（1,227 人、49.0%）であった。

図Ⅳ-13.中越沖地震前と比べた喫煙状況



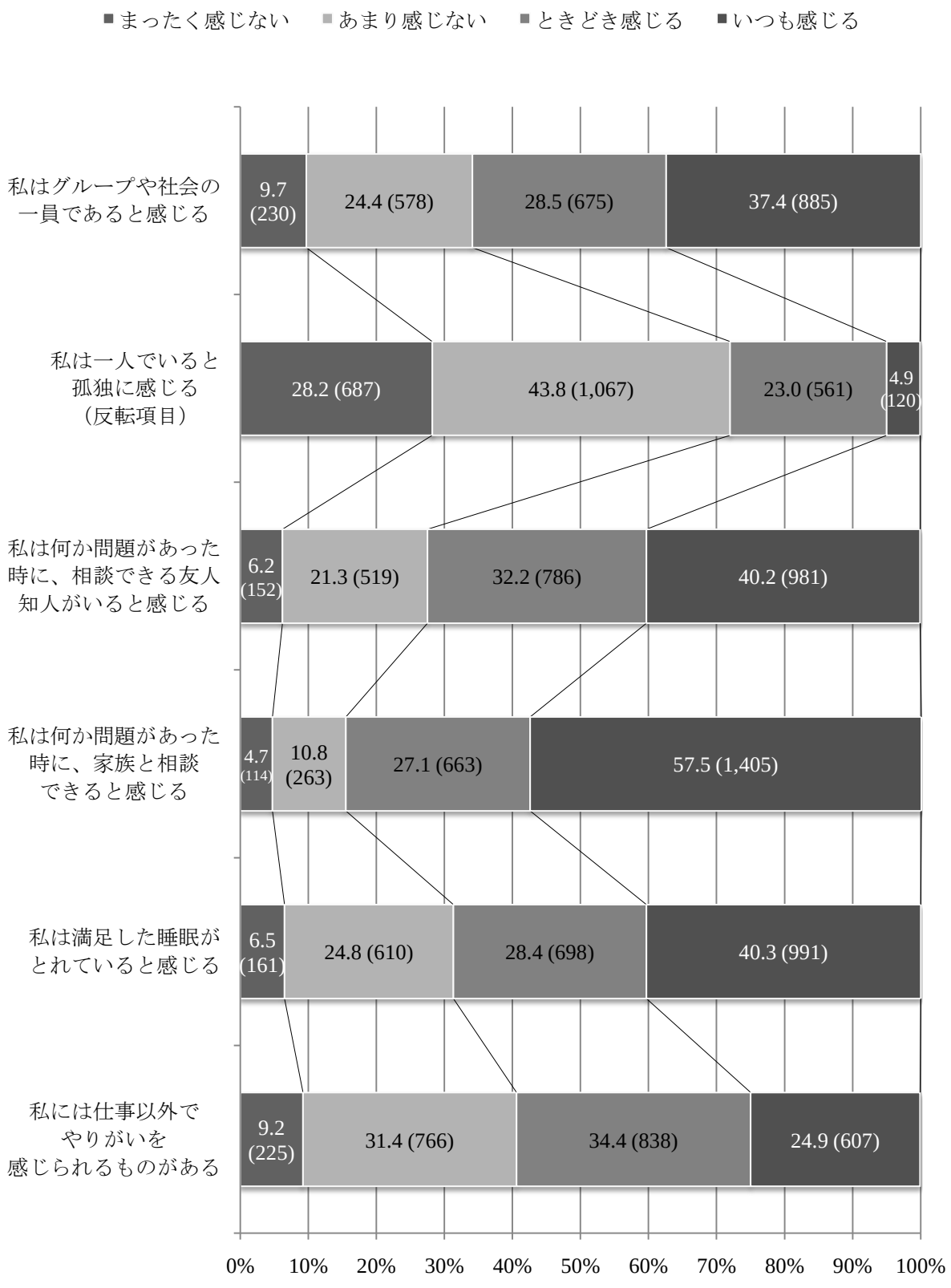
図Ⅳ-14.中越沖地震前と比べた飲酒状況





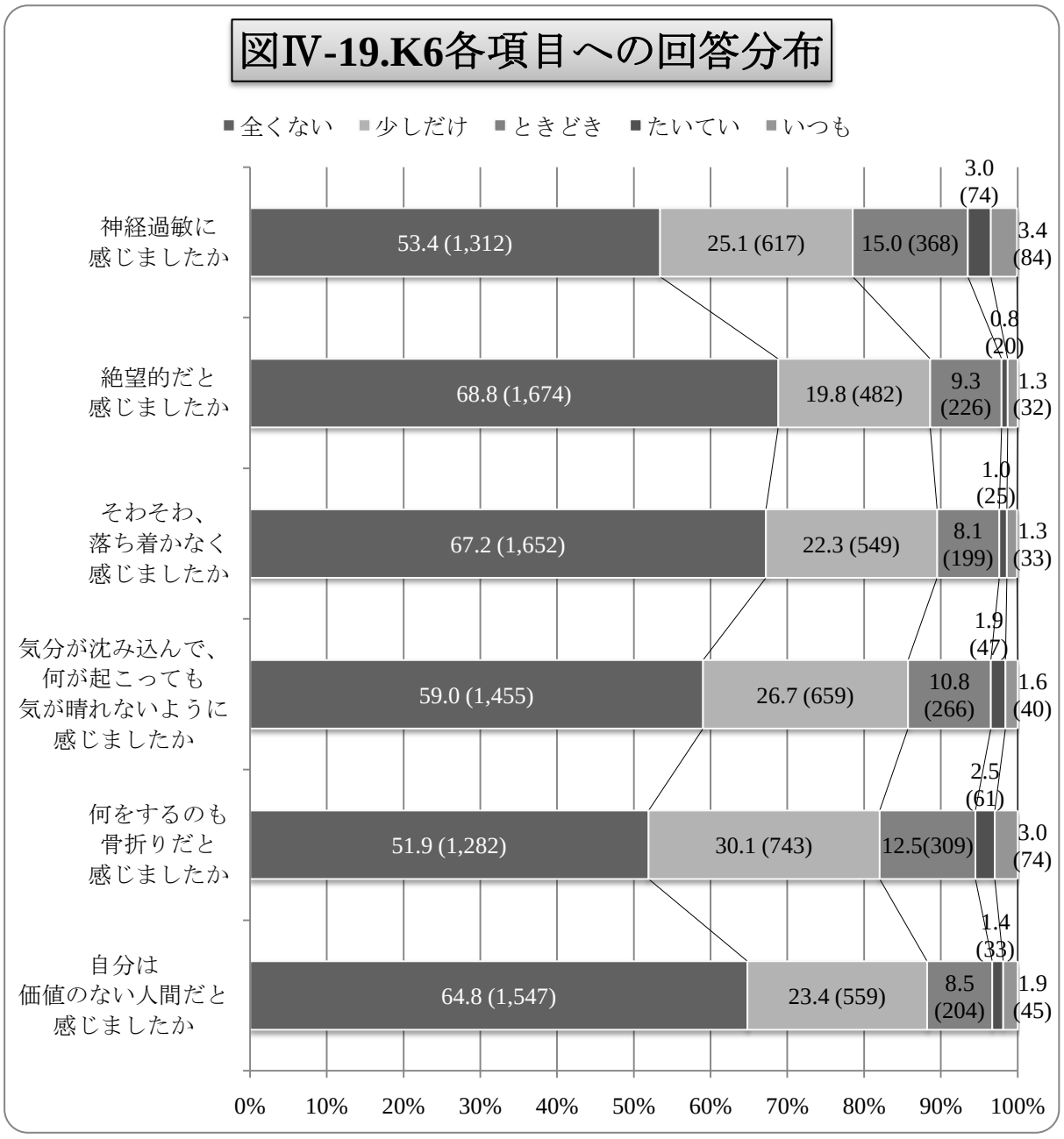
図Ⅳ-18 に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポート等に関する認識の集計結果を示した。「わたしは、グループや、社会の一員であると感じる」について肯定的な認識（ときどき感じる、あるいは、いつも感じる）と回答した方は、1,560 人（65.9%）であった。「わたしは、ひとりでいると孤独に感じる」について否定的な（まったく感じない、あまり感じない）回答をした方は、1,754 人（72.0%）であった。以下、「わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる」、「わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる」についても肯定的な回答をした方が、それぞれ 7 割以上、8 割以上であった。「わたしは満足した睡眠がとれていると感じる」について肯定的な回答をした方は 1,689 人（68.7%）、「わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある」について肯定的な回答をした方は 1,445 人（59.3%）にとどまった。

図Ⅳ-18.ソーシャルサポート等に関する認識

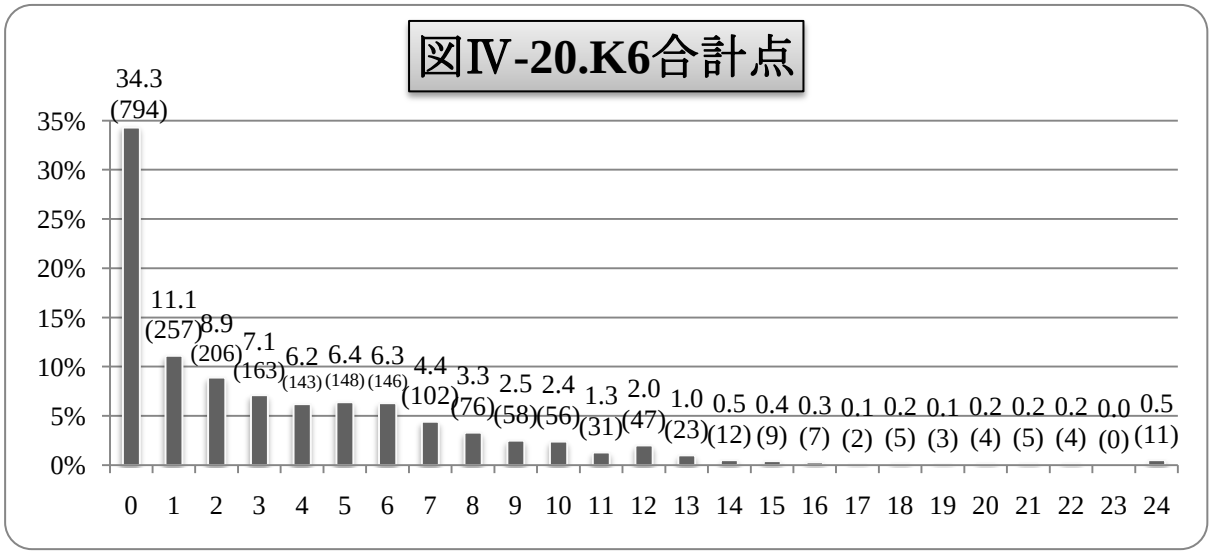


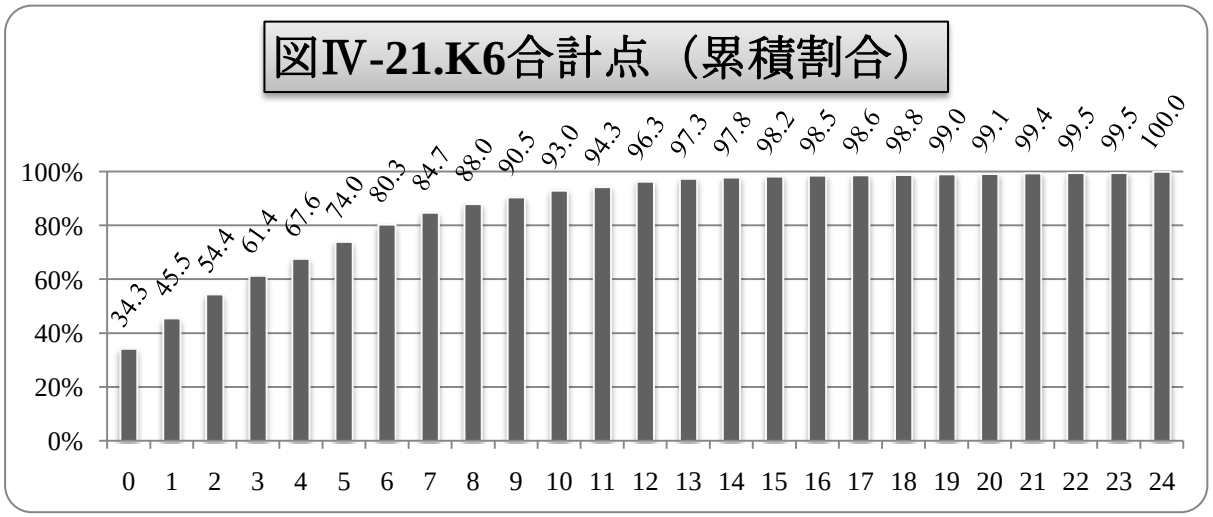
（4）K6 分析

図Ⅳ-19 に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 各項目への回答の分布を示した。K6 の各項目について、「たいてい」、「いつも」と答えた方が多かったのは、「神経過敏に感じましたか」（158 人、6.4%）や、「何をするのも骨折りだと感じましたか」（135 人、5.5%）といった、非特異的な心理的ストレスを示した質問項目であった。



図Ⅳ-20~21 に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 合計点（範囲 0-24）を示した。重度ストレスレベルといわれる 5 点以上の方は 749 人（32.4%）、気分・不安障害レベルが疑われる 10 点以上の方は 219 人（9.5%）、重度精神障害レベルが疑われる 13 点以上の方が 85 人（3.7%）であった。





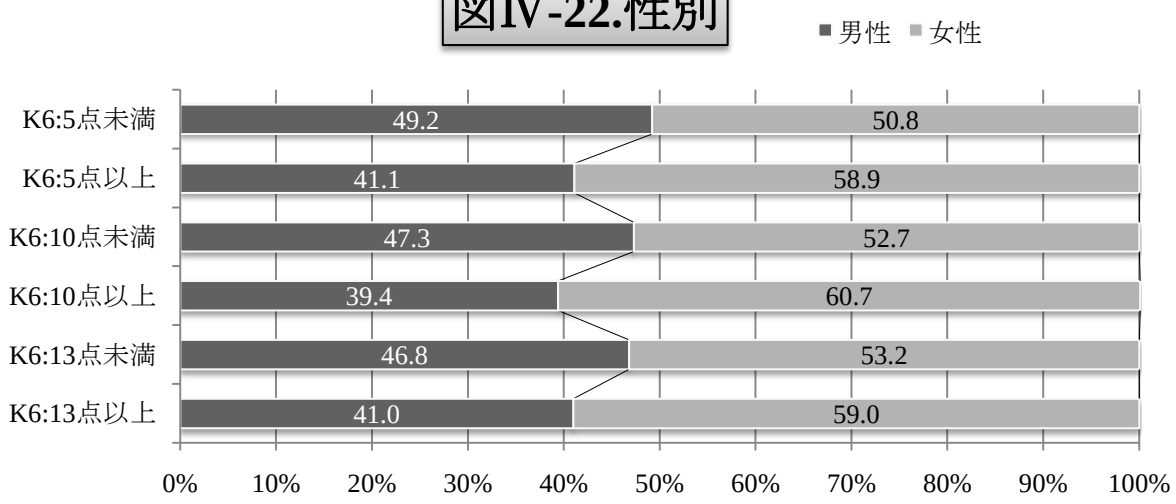
図Ⅳ-22~31（表Ⅳ-2~4）に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 5 点、10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。

K6 で 5 点以上、つまり重度ストレス相当を感じている方では、性別、教育年数、世帯主との関係、回答された方の職業、主たる家計者の職業において、それ以外の方と統計的な差異がみられた。重度ストレス相当を感じている方では、女性の割合が高く、教育年数が短かった。世帯主との関係については、親と回答された方の割合が高いようであった。回答された方の職業、主たる家計者の職業においては、年金受給者、無職の方の割合が高いようであった。中越沖地震時の住まいや、中越沖地震をきっかけとした住まいの変化については、重度ストレス相当を感じている方とそれ以外の方とに統計的な差異はみられなかった。

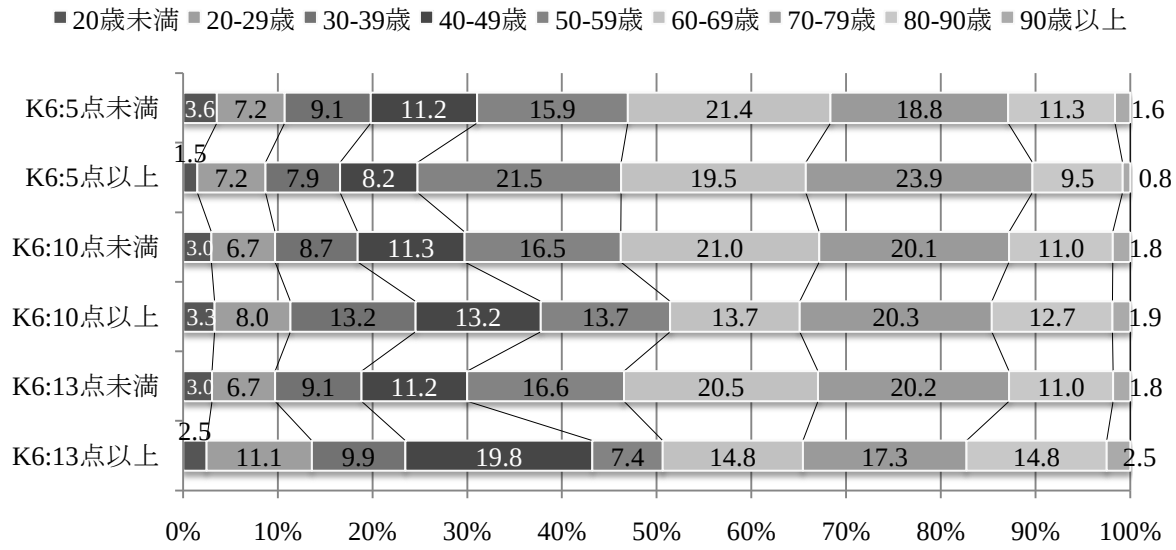
そして、K6 で 10 点以上、つまり、気分・不安障害が疑われる方と、それ以外の方とを比較して、統計的な差異がみられた項目は、性別、回答者の職業、主たる家計者の職業であった。性別では、重度ストレス相当を感じている方の場合と同様に、気分・不安障害が疑われる方においては女性の割合が高くなっていた。回答者の職業においては、無職、パートの方の割合が高いようであった。主たる家計者の職業においては、年金受給者、無職の方の割合が高いようであった。

なお、K6 で 13 点以上に該当する回答者数は少なく、統計的に差異のある項目はみられなかった。

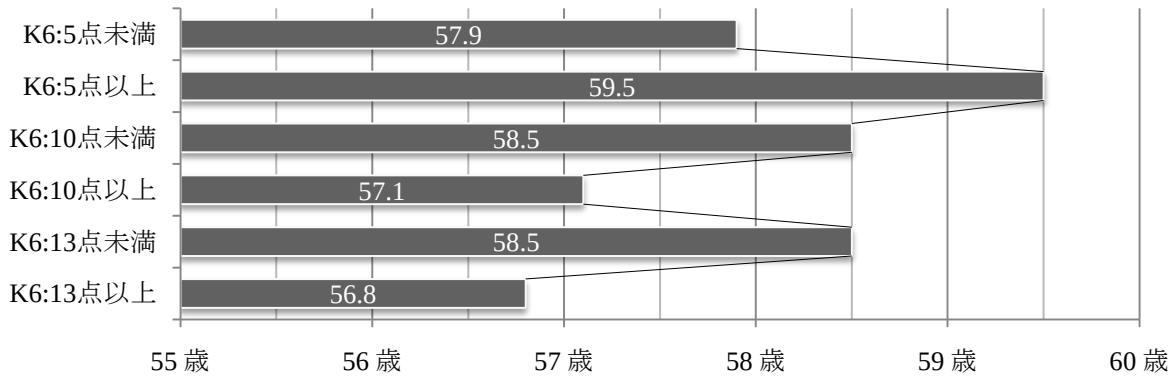
図Ⅳ-22.性別



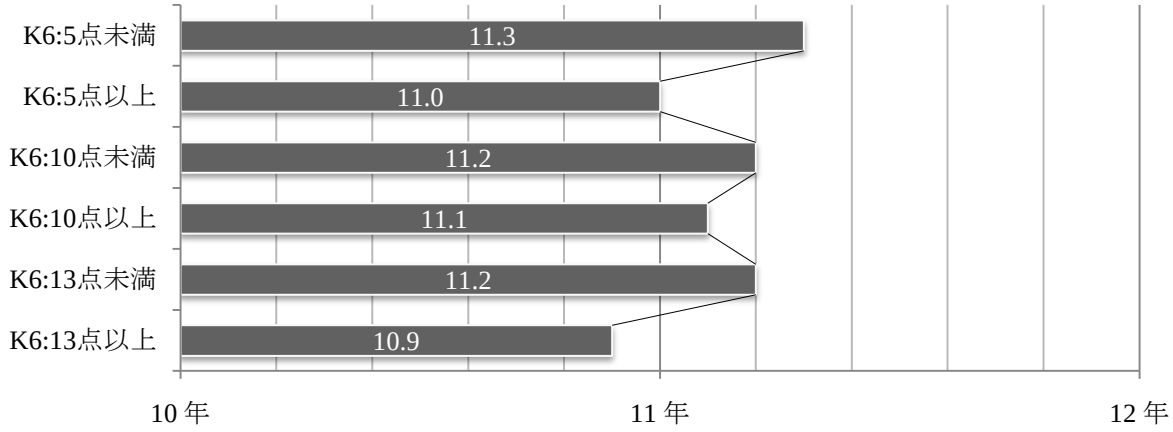
図Ⅳ-23.年齢階級



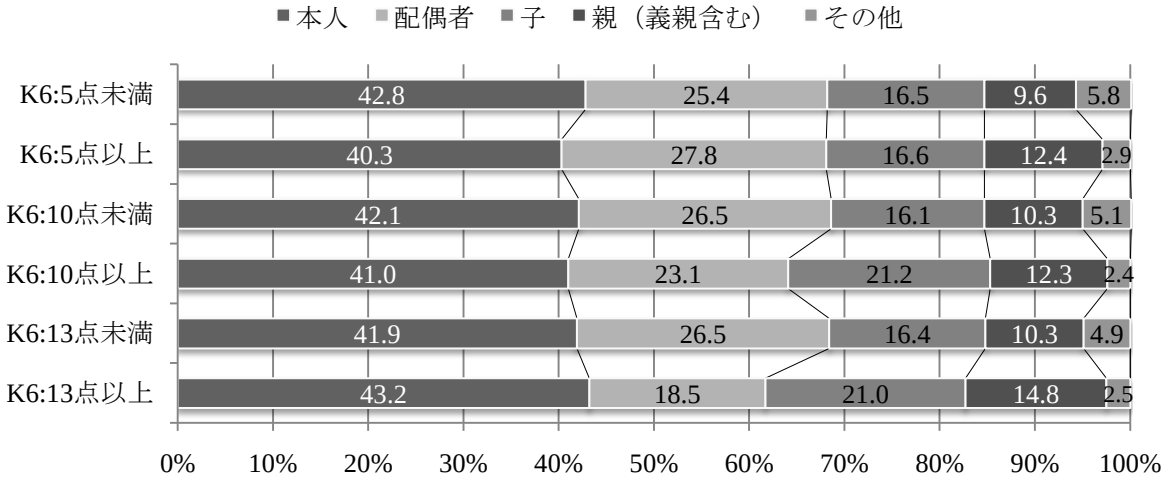
図Ⅳ-24.平均年齢



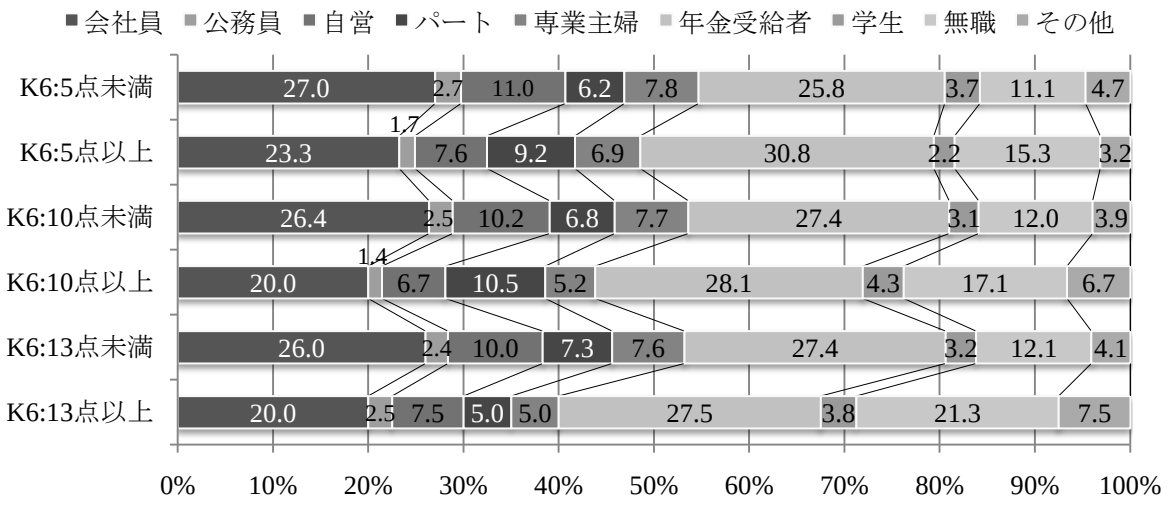
図Ⅳ-25.教育年数



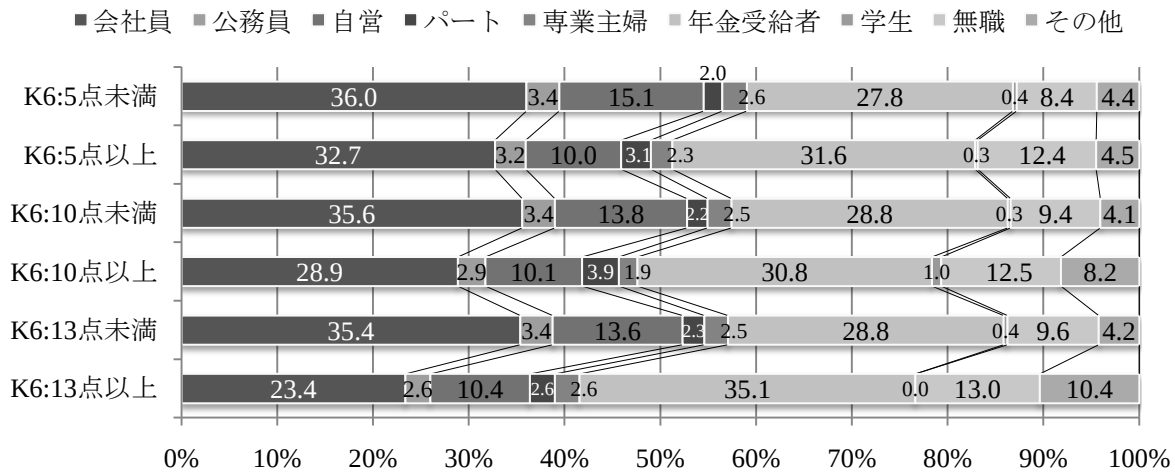
図Ⅳ-26.世帯主との関係



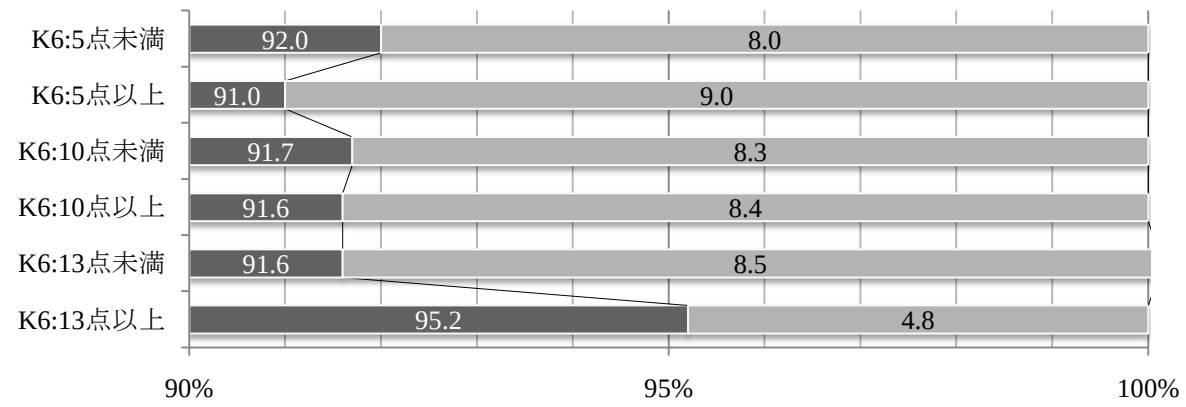
図Ⅳ-27.回答者の職業



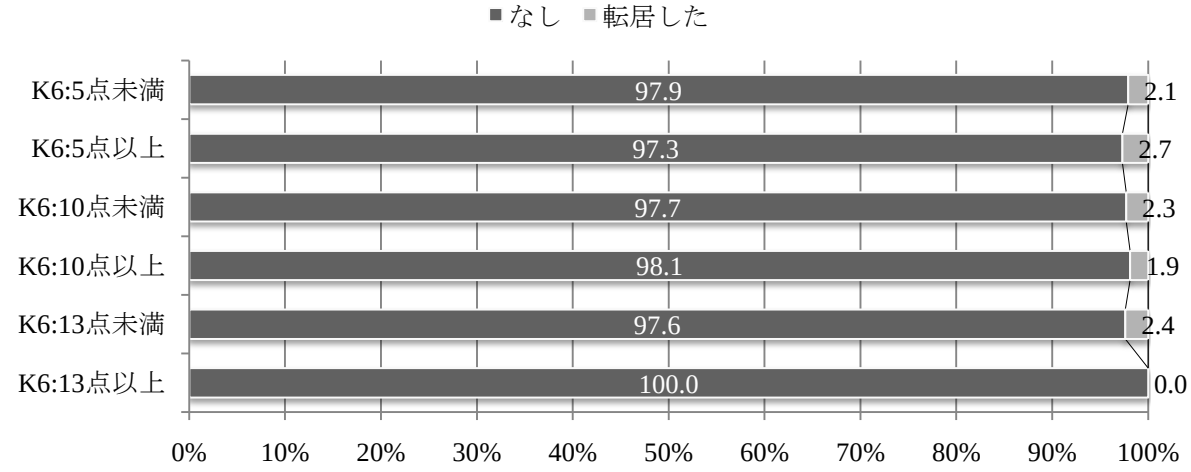
図Ⅳ-28.主たる家計者の職業

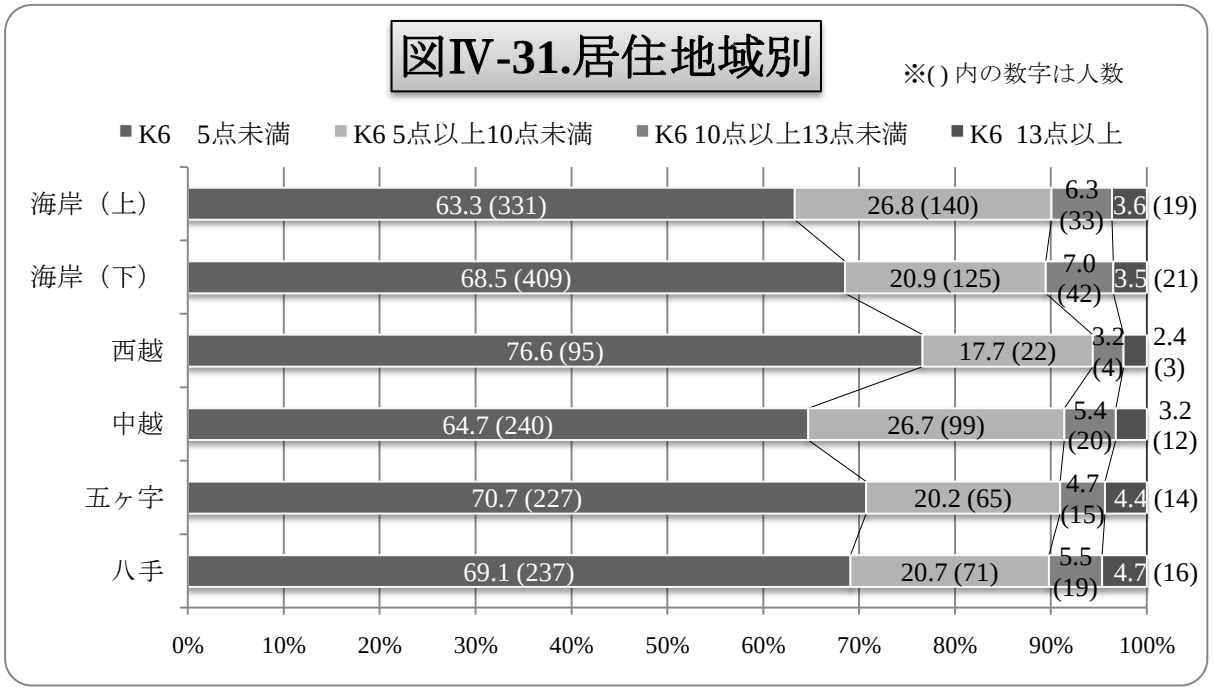


図Ⅳ-29.中越沖地震時の住まい

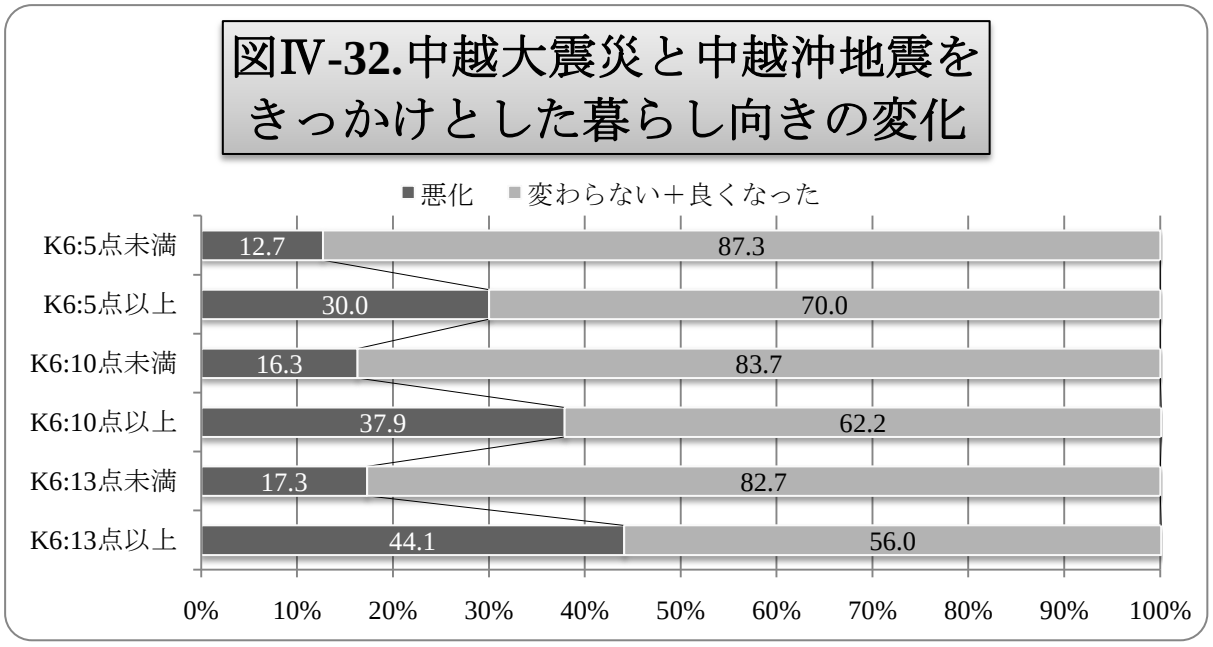


図Ⅳ-30.中越沖地震をきっかけとした住まいの変化

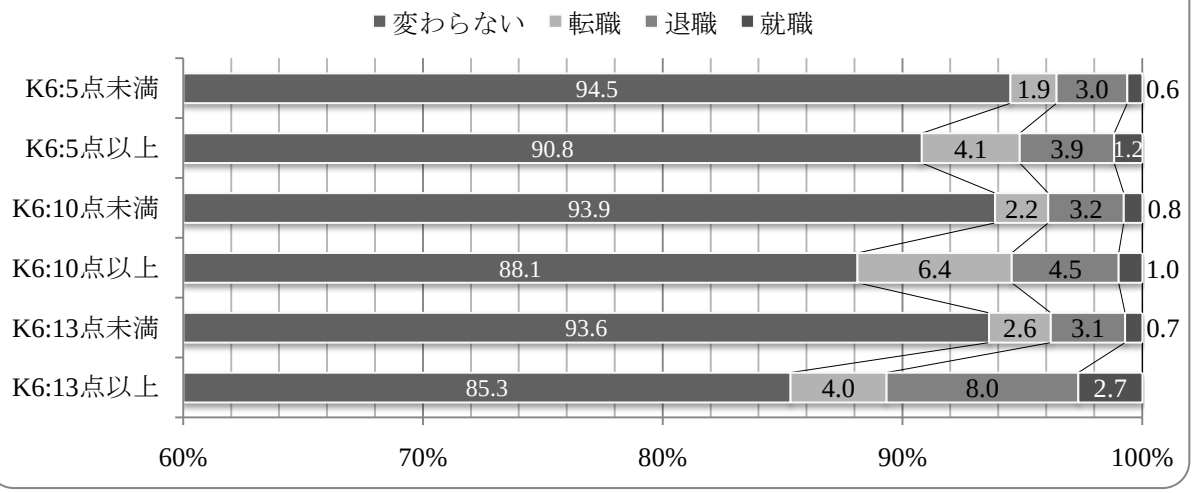




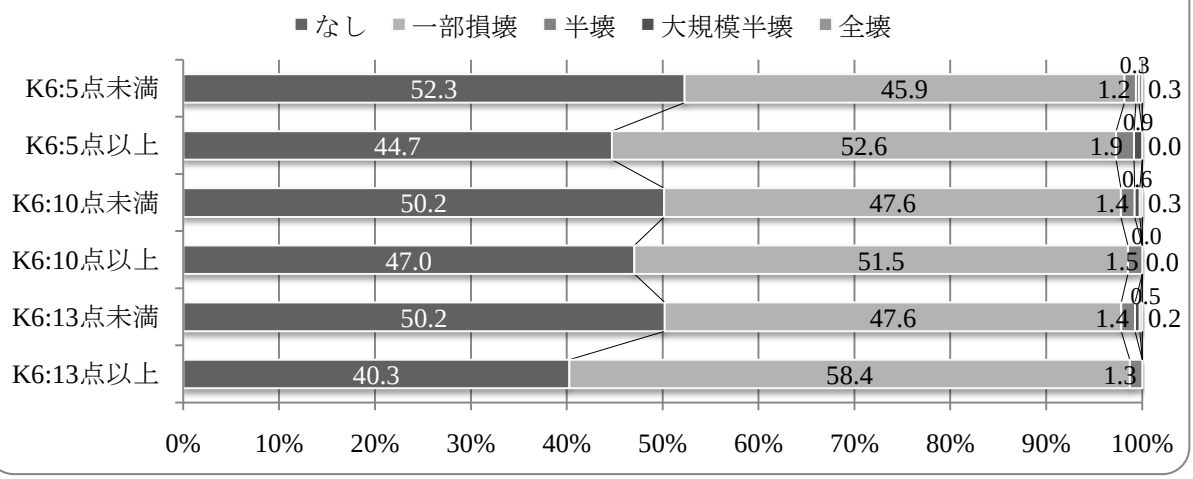
図Ⅳ-32~35（表Ⅳ-5~7）に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。K6 で 5 点以上の方は、中越大震災と中越沖地震をきっかけとして、暮らし向きの悪化した方、中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化があった方、中越大震災や中越沖地震における家屋被害が大きかった方の割合が、それ以外の方に比べて統計的に高かった。さらに、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較においても、K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合と同様に、中越大震災と中越沖地震をきっかけとして、暮らし向きの悪化した方、中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化があった方の割合が高くなっていた。ただし、家屋の被害が大きかった方や、雇用状況の変化があった方の人数は少なく、K6 が 10 点以上、13 点以上の方の人数も少ないことから、統計的な検定の解釈については注意を要する。



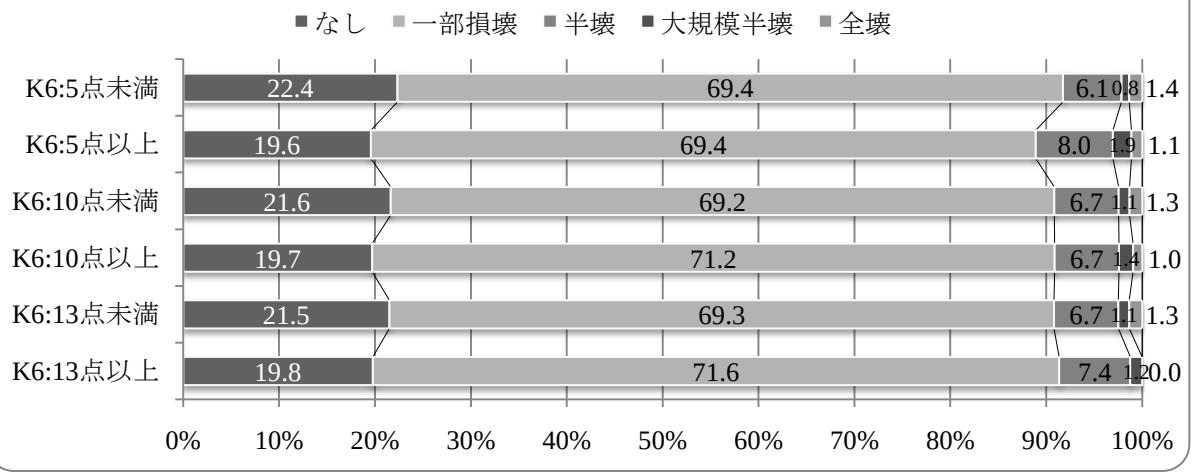
図Ⅳ-33.中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化



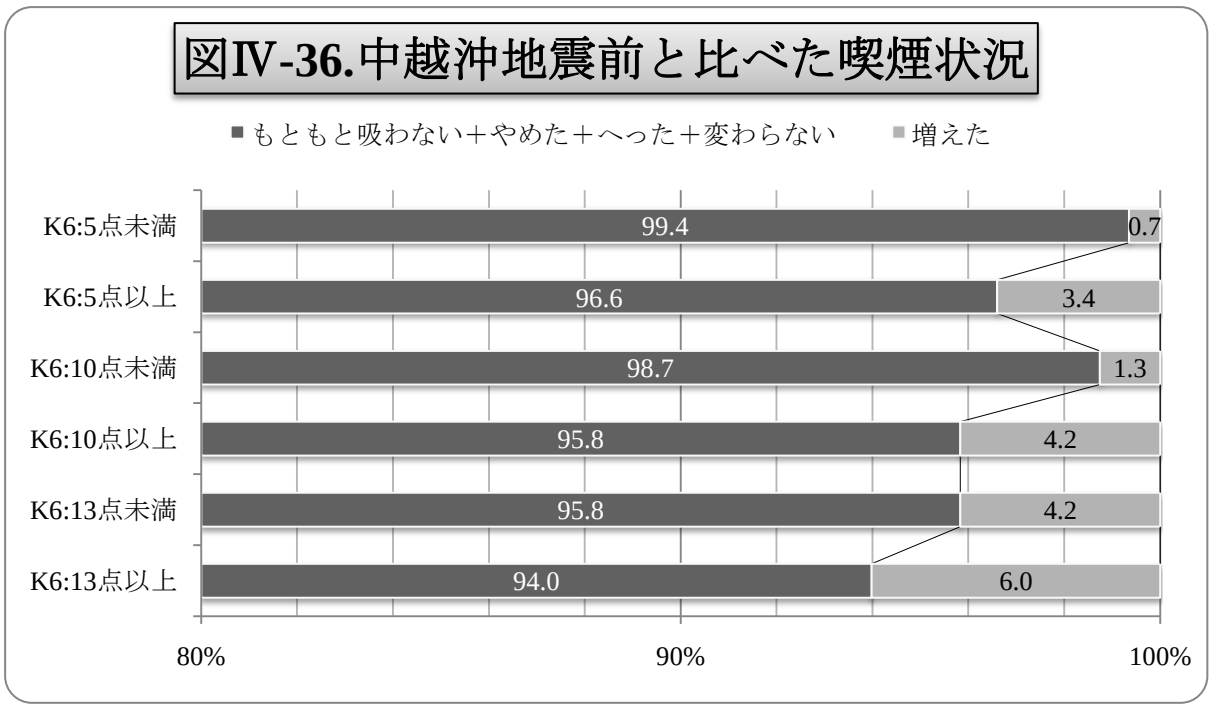
図Ⅳ-34.中越大震災時の家屋被害

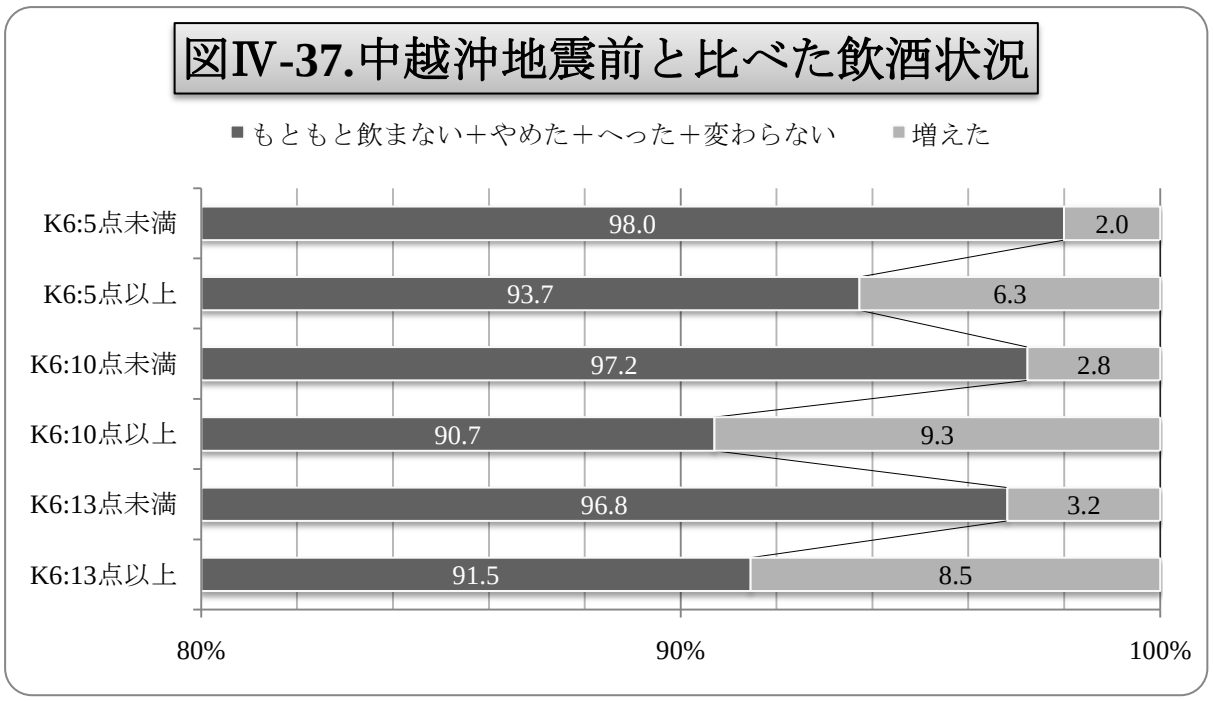


図Ⅳ-35.中越沖地震時の家屋被害

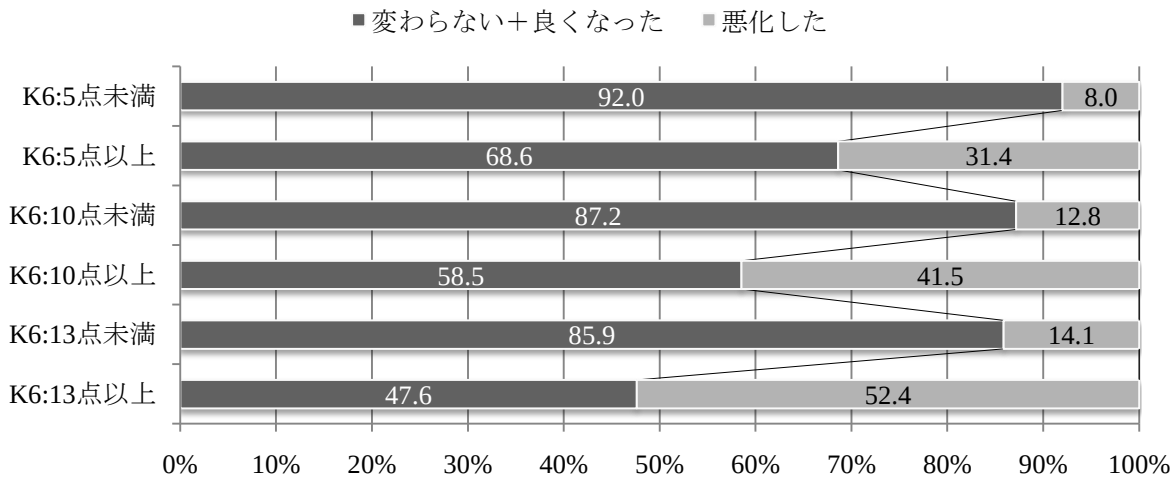


図Ⅳ-36~41（表Ⅳ-8~10）に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。K6 が 5 点以上の方は、喫煙が増えた方、飲酒が増えた方、体調の悪化を自覚している方、体重が変化した方（増加、減少とも）、中越沖地震のときに介助が必要だった方（部分的、全面的とも）、現在受診している方の割合が、いずれもそれ以外の方と比較して、統計的に高かった。さらに、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較においても、いずれの変数も上記と同じパターンを示し、カットオフポイントが、5 点、10 点、13 点と高くなり、精神健康が悪化するごとに、それぞれのリスク項目の該当者の割合は増え、これらの傾向は顕著なものとなっていた。

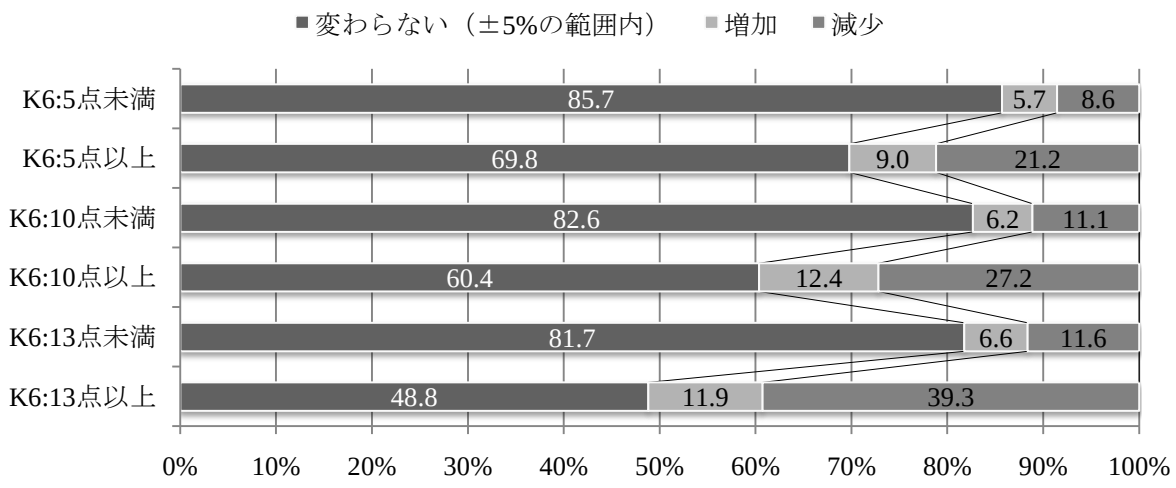




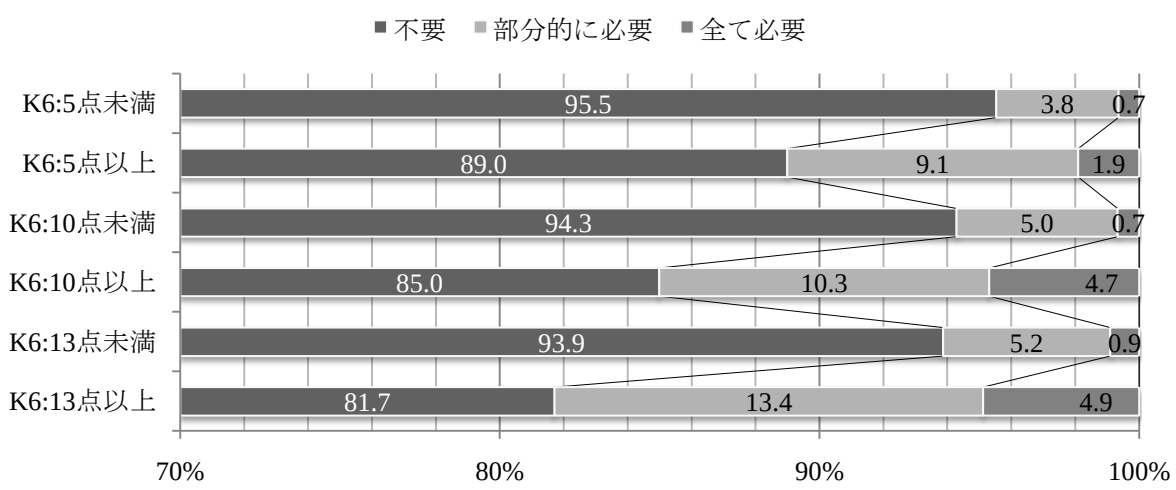
図Ⅳ-38.中越沖地震前と比べた体調の変化

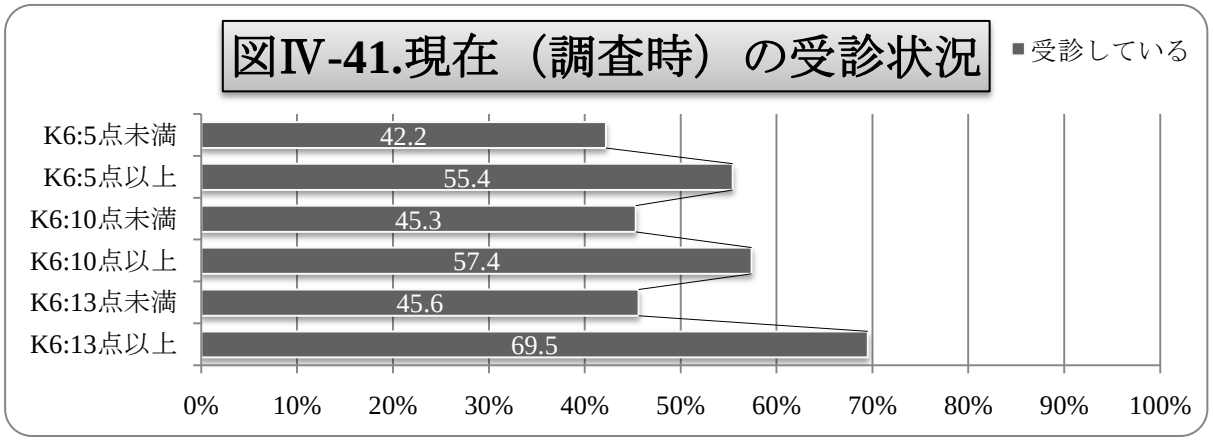


図Ⅳ-39.中越沖地震前と比べた体重の変化

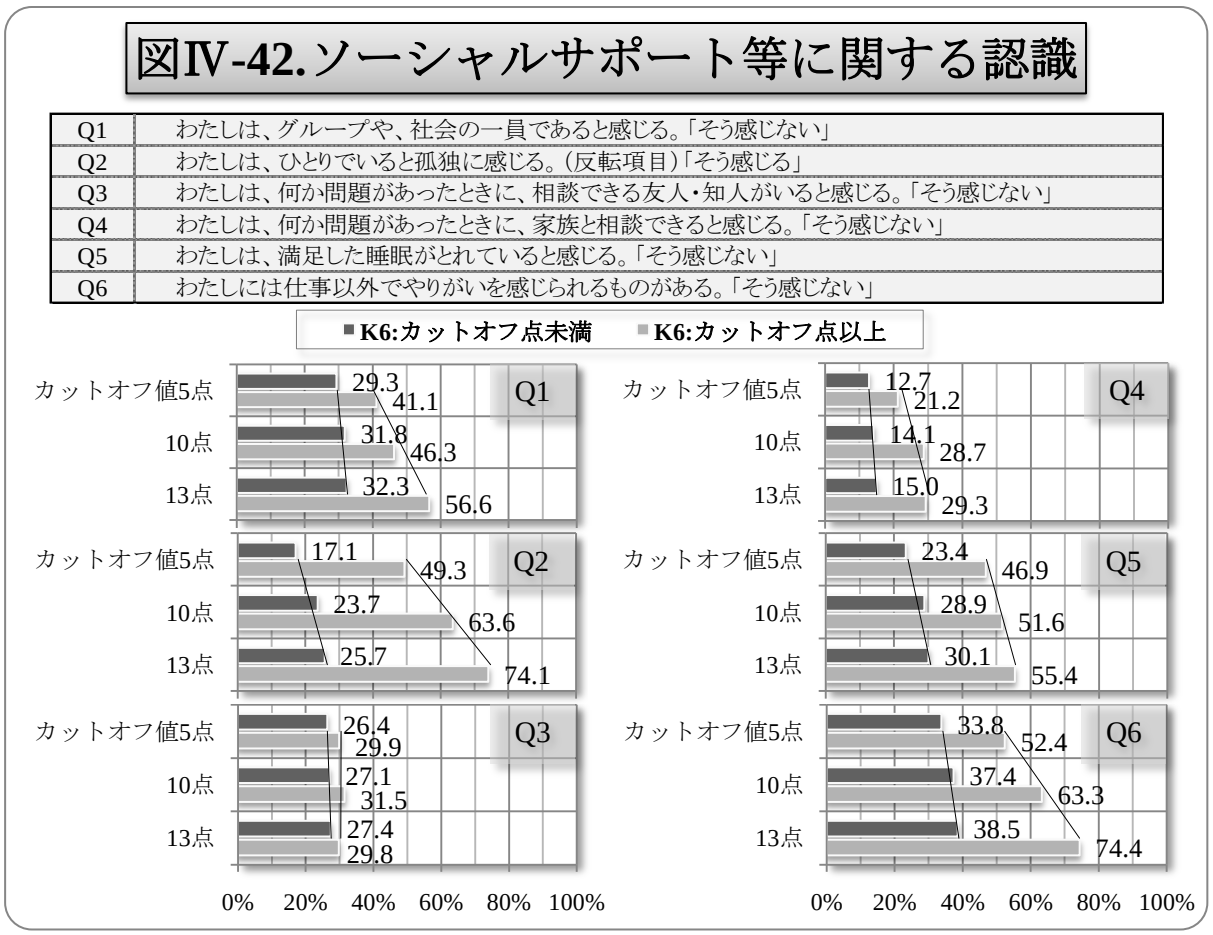


図Ⅳ-40.中越沖地震の時の介助の必要度

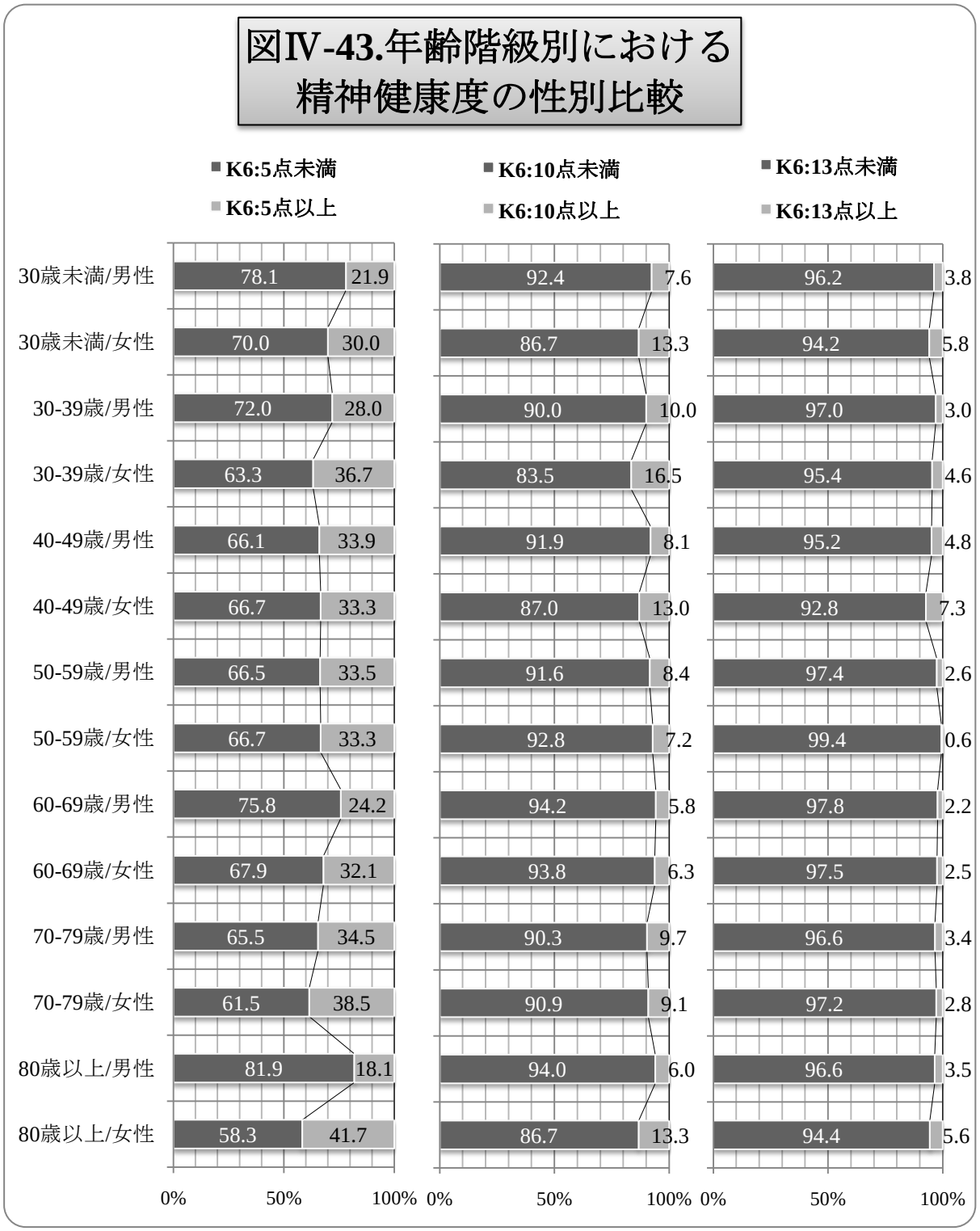




図Ⅳ-42（表Ⅳ-11~13）に、出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポート等に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。それぞれの項目について否定的な回答をした割合について、カットオフ値以上の方とそれ以外の方について検討した。ソーシャルサポート、睡眠、仕事以外のやりがいについて、いずれも否定的な回答をした方の割合が、カットオフ値以上の方ではそれ以外の方に比べて統計的に有意に高かった。さらに、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較においても、いずれの変数も上記とほぼ同じパターンを示し、カットオフポイントが、5 点、10 点、13 点と高まるごとに、それぞれのリスク項目の該当者の割合もおおかた増加し、これらの傾向は顕著なものとなっていた。

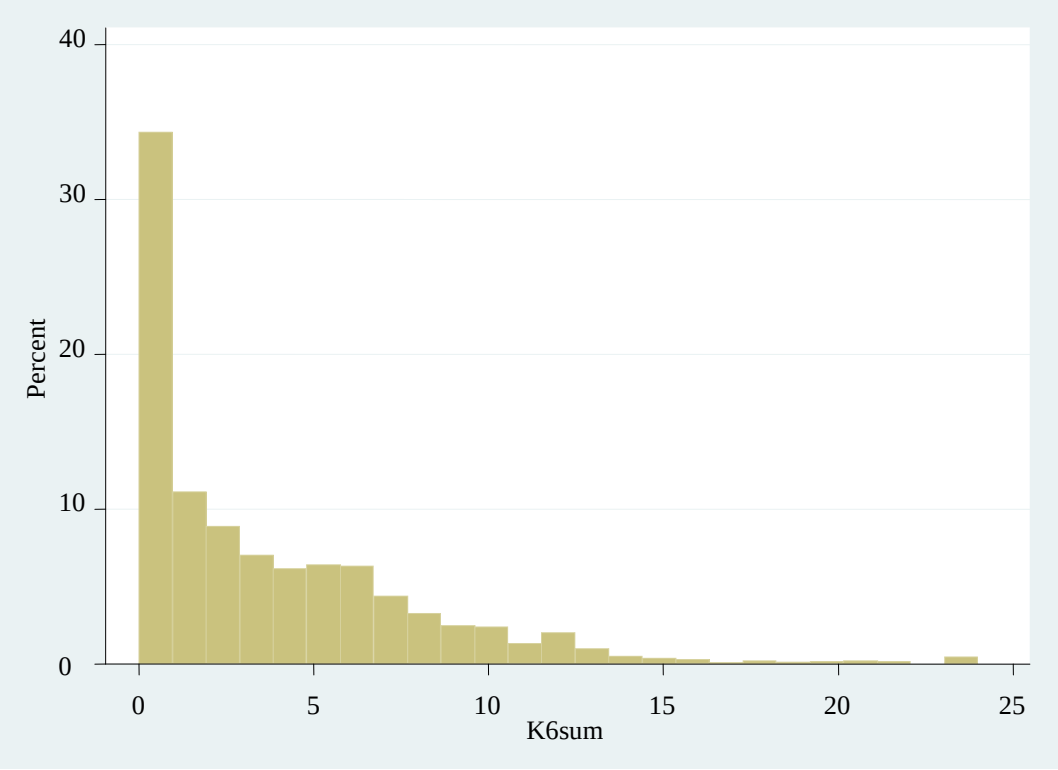


図Ⅳ-43（表Ⅳ-14~16）に、K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較を示した。80 歳以上では、男性よりも女性において、重度ストレスを感じている方の割合が高かった（Fisher's exact test、p<0.001）。そして、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の検討を示したが、いずれにおいても、性別でカットオフ値を越える方の割合に統計的な差異はみられなかった。

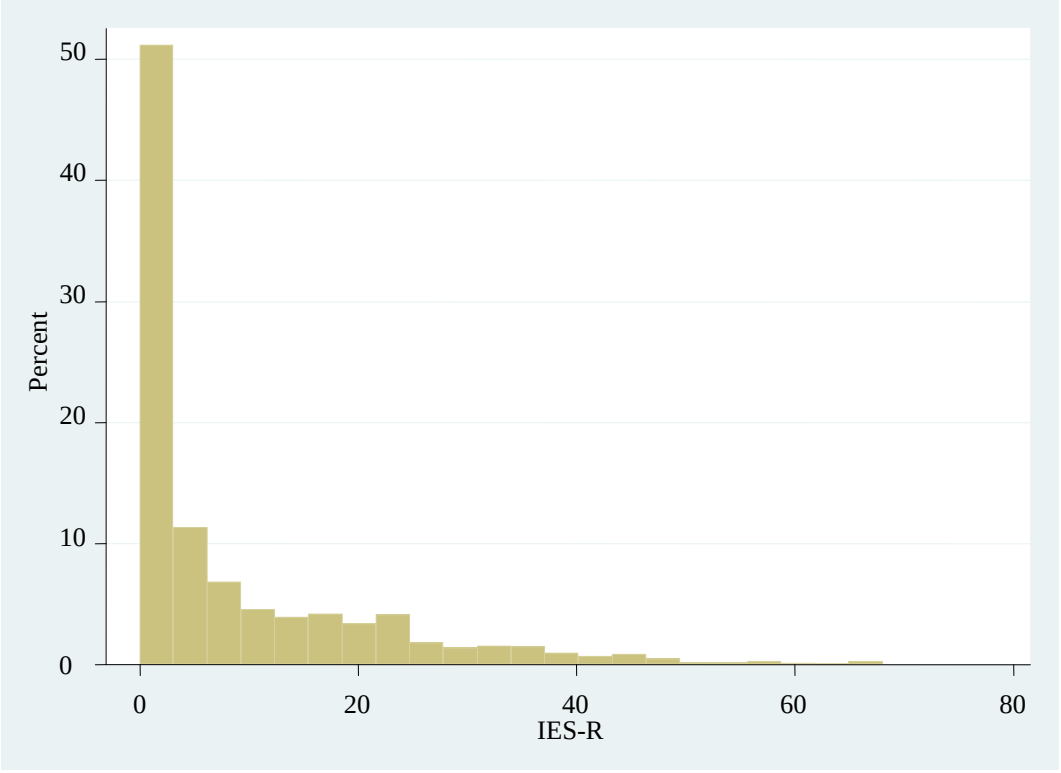


最後に、図Ⅳ-44 に出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 合計点の度数分布、そして、図Ⅳ-45 に出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の IES-R 合計点の度数分布を示した。K6 の合計点の分布は、平均値が 3.5、標準偏差が 4.2、最小値が 0、最大値が 24 であり、0 から低得点に偏った分布であった。IES-R の合計点の分布は、平均値が 8.8、標準偏差が 12.1、最大値は 0、最大値は 68 であった。これらの分布は、1 年後調査の分布と比較して、平均値が若干上がったものの、同様のパターンであった。図Ⅳ-46 に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 と IES-R 合計点の散布図を示した。K6 と IES-R 得点の相関係数は 0.6274 であり、両者に相関がみられた。

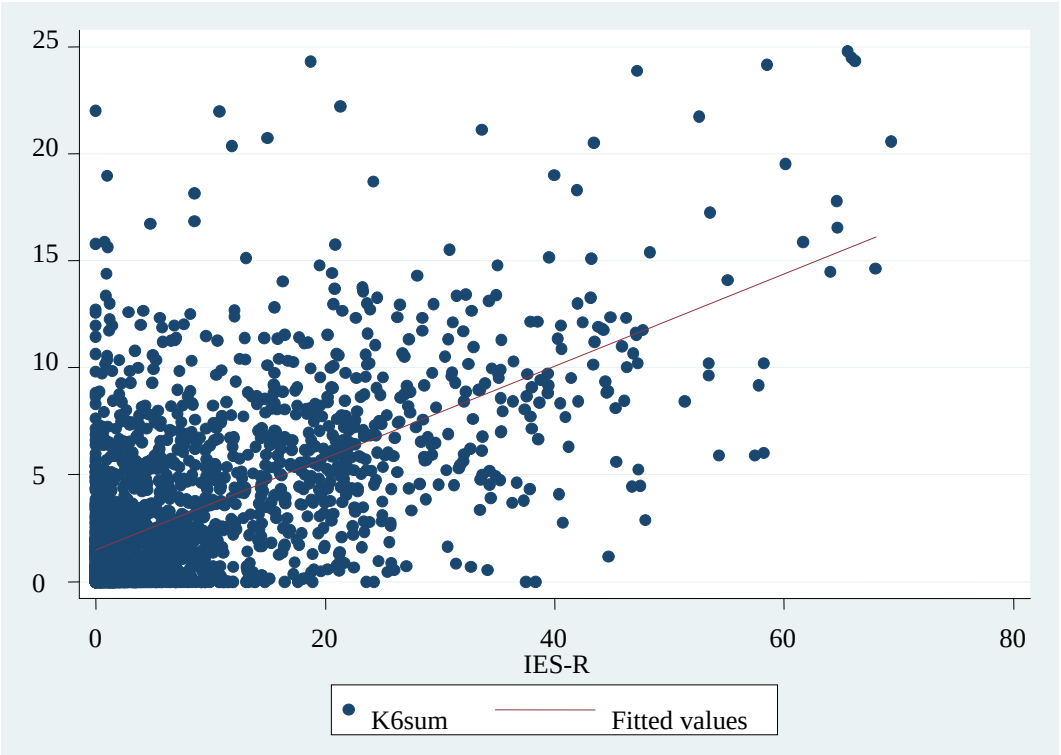
図Ⅳ-44. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 合計点の分布



図Ⅳ-45. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の IES-R 合計点の分布



図Ⅳ-46. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 と IES-R 合計点の散布図



表Ⅳ-2. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の
基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2/t	p
	2,312		1,563		749				
性別									
男性	1,072	46.6	766	49.2	306	41.1	1	13.2 †	<0.001
女性	1,229	53.4	791	50.8	438	58.9			
年齢階級									
20 歳未満	69	3.0	55	3.6	14	1.5	8	14.3	0.074
20-29 歳	156	6.8	111	7.2	45	7.2			
30-39 歳	209	9.1	141	9.1	68	7.9			
40-49 歳	262	11.5	174	11.2	88	8.2			
50-59 歳	371	16.2	247	15.9	124	21.5			
60-69 歳	464	20.3	332	21.4	132	19.5			
70-79 歳	459	20.1	291	18.8	168	23.9			
80-89 歳	254	11.1	175	11.3	79	9.5			
90 歳以上	42	1.8	25	1.6	17	0.8			
平均年齢 (標準偏差)	58.4	(19.0)	57.9	(19.2)	59.5	(18.5)	2,284	-1.8	0.068
教育年数 (標準偏差)	11.2	(2.5)	11.3	(2.5)	11.0	(2.5)	2,239	3.1 †	0.002
世帯主との関係									
本人	956	42.0	661	42.8	295	40.3	4	14.4 †	0.006
配偶者	596	26.2	392	25.4	204	27.8			
子	377	16.6	255	16.5	122	16.6			
親（義親も含む）	239	10.5	148	9.6	91	12.4			
その他	110	4.8	89	5.8	21	2.9			
回答者の職業									
会社員	578	25.8	409	27.0	169	23.3	8	35.0 †	<0.001
公務員	53	2.4	41	2.7	12	1.7			
自営	221	9.9	166	11.0	55	7.6			
パート	161	7.2	94	6.2	67	9.2			
専業主婦	168	7.5	118	7.8	50	6.9			
年金受給者	615	27.4	391	25.8	224	30.8			
学生	72	3.2	56	3.7	16	2.2			
無職	279	12.5	168	11.1	111	15.3			
その他	94	4.2	71	4.7	23	3.2			
主たる家計者の職業									
会社員	770	35.0	537	36.0	233	32.7	8	24.4 †	0.002
公務員	74	3.4	51	3.4	23	3.2			
自営	296	13.4	225	15.1	71	10.0			
パート	51	2.3	29	2.0	22	3.1			
専業主婦	54	2.5	38	2.6	16	2.3			
年金受給者	639	29.0	414	27.8	225	31.6			
学生	8	0.4	6	0.4	2	0.3			
無職	213	9.7	125	8.4	88	12.4			
その他	98	4.5	66	4.4	32	4.5			
中越沖地震時の住まい									
町内	2,095	91.7	1,421	92.0	674	91.0	1	0.8	0.383
町外	190	8.3	123	8.0	67	9.0			
中越沖地震をきっかけとした住まいの変化									
なし	2,216	97.7	1,501	97.9	715	97.3	1	0.9	0.345
転居した	52	2.3	32	2.1	20	2.7			

Chi-square tests or t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅳ-3. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2/t	p
	2,312		2,093		219				
性別									
男性	1,072	46.6	987	47.3	85	39.4	1	5.0 *	0.025
女性	1,229	53.4	1,098	52.7	131	60.7			
年齢階級									
20 歳未満	69	3.0	62	3.0	7	3.3	8	11.9	0.154
20-29 歳	156	6.8	139	6.7	17	8.0			
30-39 歳	209	9.1	181	8.7	28	13.2			
40-49 歳	262	11.5	234	11.3	28	13.2			
50-59 歳	371	16.2	342	16.5	29	13.7			
60-69 歳	464	20.3	435	21.0	29	13.7			
70-79 歳	459	20.1	416	20.1	43	20.3			
80-89 歳	254	11.1	227	11.0	27	12.7			
90 歳以上	42	1.8	38	1.8	4	1.9			
平均年齢 (標準偏差)	58.4	(19.0)	58.5	(18.9)	57.1	(20.2)	2,284	1.1	0.287
教育年数 (標準偏差)	11.2	(2.5)	11.2	(2.5)	11.1	(2.4)	2,239	0.9	0.388
世帯主との関係									
本人	956	42.0	869	42.1	87	41.0	4	7.6	0.106
配偶者	596	26.2	547	26.5	49	23.1			
子	377	16.6	332	16.1	45	21.2			
親（義親も含む）	239	10.5	213	10.3	26	12.3			
その他	110	4.8	105	5.1	5	2.4			
回答者の職業									
会社員	578	25.8	536	26.4	42	20.0	8	19.7 *	0.012
公務員	53	2.4	50	2.5	3	1.4			
自営	221	9.9	207	10.2	14	6.7			
パート	161	7.2	139	6.8	22	10.5			
専業主婦	168	7.5	157	7.7	11	5.2			
年金受給者	615	27.4	556	27.4	59	28.1			
学生	72	3.2	63	3.1	9	4.3			
無職	279	12.5	243	12.0	36	17.1			
その他	94	4.2	80	3.9	14	6.7			
主たる家計者の職業									
会社員	770	35.0	710	35.6	60	28.9	8	18.7 *	0.017
公務員	74	3.4	68	3.4	6	2.9			
自営	296	13.4	275	13.8	21	10.1			
パート	51	2.3	43	2.2	8	3.9			
専業主婦	54	2.5	50	2.5	4	1.9			
年金受給者	639	29.0	575	28.8	64	30.8			
学生	8	0.4	6	0.3	2	1.0			
無職	213	9.7	187	9.4	26	12.5			
その他	98	4.5	81	4.1	17	8.2			
中越沖地震時の住まい									
町内	2,095	91.7	1,898	91.7	197	91.6	1	0.0	0.975
町外	190	8.3	172	8.3	18	8.4			
中越沖地震をきっかけとした住まいの変化									
なし	2,216	97.7	2,006	97.7	210	98.1	1	0.2	0.664
転居した	52	2.3	48	2.3	4	1.9			

Chi-square tests or t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅳ-4. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2/t	p
	2,312		2,227		85				
性別									
男性	1,072	46.6	1,038	46.8	34	41.0	1	1.1	0.295
女性	1,229	53.4	1,180	53.2	49	59.0			
年齢階級									
20 歳未満	69	3.0	67	3.0	2	2.5	8	14.2	0.075
20-29 歳	156	6.8	147	6.7	9	11.1			
30-39 歳	209	9.1	201	9.1	8	9.9			
40-49 歳	262	11.5	246	11.2	16	19.8			
50-59 歳	371	16.2	365	16.6	6	7.4			
60-69 歳	464	20.3	452	20.5	12	14.8			
70-79 歳	459	20.1	445	20.2	14	17.3			
80-89 歳	254	11.1	242	11.0	12	14.8			
90 歳以上	42	1.8	40	1.8	2	2.5			
平均年齢 (標準偏差)	58.4	(19.0)	58.5	(18.9)	56.8	(21.0)	2.284	0.8	0.430
教育年数 (標準偏差)	11.2	(2.5)	11.2	(2.5)	10.9	(2.6)	2,239	1.2	0.250
世帯主との関係									
本人	956	42.0	921	41.9	35	43.2	4	5.4	0.251
配偶者	596	26.2	581	26.5	15	18.5			
子	377	16.6	360	16.4	17	21.0			
親（義親も含む）	239	10.5	227	10.3	12	14.8			
その他	110	4.8	108	4.9	2	2.5			
回答者の職業									
会社員	578	25.8	562	26.0	16	20.0	8	10.2	0.252
公務員	53	2.4	51	2.4	2	2.5			
自営	221	9.9	215	10.0	6	7.5			
パート	161	7.2	157	7.3	4	5.0			
専業主婦	168	7.5	164	7.6	4	5.0			
年金受給者	615	27.4	593	27.4	22	27.5			
学生	72	3.2	69	3.2	3	3.8			
無職	279	12.5	262	12.1	17	21.3			
その他	94	4.2	88	4.1	6	7.5			
主たる家計者の職業									
会社員	770	35.0	752	35.4	18	23.4	8	12.3	0.137
公務員	74	3.4	72	3.4	2	2.6			
自営	296	13.4	288	13.6	8	10.4			
パート	51	2.3	49	2.3	2	2.6			
専業主婦	54	2.5	52	2.5	2	2.6			
年金受給者	639	29.0	612	28.8	27	35.1			
学生	8	0.4	8	0.4	0	0.0			
無職	213	9.7	203	9.6	10	13.0			
その他	98	4.5	90	4.2	8	10.4			
中越沖地震時の住まい									
町内	2,095	91.7	2,016	91.6	79	95.2	1	1.4	0.240
町外	190	8.3	186	8.5	4	4.8			
中越沖地震をきっかけとした住まいの変化									
なし	2,216	97.7	2,135	97.6	81	100.0	1	2.0	0.160
転居した	52	2.3	52	2.4	0	0.0			

Chi-square tests or t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅳ-5. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	2,312		1,563		749				
中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化									
悪化	418	18.3	197	12.7	221	30.0	1	100. †	<0.00
不変・良くなった	1,869	81.7	1,354	87.3	515	70.0			
中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化									
転職	56	2.6	28	1.9	28	4.1	3	12.2 †	0.007
退職	70	3.3	43	3.0	27	3.9			
就職	17	0.8	9	0.6	8	1.2			
不変	1,998	93.3	1,376	94.5	622	90.8			
中越大震災時の家屋被害									
なし	1,094	49.9	781	52.3	313	44.7	4	16.3 †	0.003
一部損壊	1,053	48.0	685	45.9	368	52.6			
半壊	31	1.4	18	1.2	13	1.9			
大規模半壊	11	0.5	5	0.3	6	0.9			
全壊	5	0.2	5	0.3	0	0.0			
中越沖地震時の家屋被害									
なし	482	21.5	341	22.4	141	19.6	4	10.5 *	0.033
一部損壊	1,559	69.4	1,059	69.4	500	69.4			
半壊	151	6.7	93	6.1	58	8.0			
大規模半壊	26	1.2	12	0.8	14	1.9			
全壊	29	1.3	21	1.4	8	1.1			

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅳ-6. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	2,312		2,093		219				
中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化									
悪化	418	18.3	337	16.3	81	37.9	1	60.6 †	<0.001
不変・良くなった	1,869	81.7	1,736	83.7	133	62.2			
中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化									
転職	56	2.6	43	2.2	13	6.4	3	14.2 *	0.003
退職	70	3.3	61	3.2	9	4.5			
就職	17	0.8	15	0.8	2	1.0			
不変	1,998	93.3	1,820	93.9	178	88.1			
中越大震災時の家屋被害									
なし	1,094	49.9	999	50.2	95	47.0	4	2.6	0.635
一部損壊	1,053	48.0	949	47.6	104	51.5			
半壊	31	1.4	28	1.4	3	1.5			
大規模半壊	11	0.5	11	0.6	0	0.0			
全壊	5	0.2	5	0.3	0	0.0			
中越沖地震時の家屋被害									
なし	482	21.5	441	21.6	41	19.7	4	0.8	0.941
一部損壊	1,559	69.4	1,411	69.2	148	71.2			
半壊	151	6.7	137	6.7	14	6.7			
大規模半壊	26	1.2	23	1.1	3	1.4			
全壊	29	1.3	27	1.3	2	1.0			

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅳ-7. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	2,312		2,227		85				
中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化									
悪化	418	18.3	381	17.3	37	44.1	1	38.8 †	<0.001
不変・良くなった	1,869	81.7	1,822	82.7	47	56.0			
中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化									
転職	56	2.6	53	2.6	3	4.0	3	9.9 *	0.020
退職	70	3.3	64	3.1	6	8.0			
就職	17	0.8	15	0.7	2	2.7			
不変	1,998	93.3	1,934	93.6	64	85.3			
中越大震災時の家屋被害									
なし	1,094	49.9	1,063	50.2	31	40.3	4	3.9	0.422
一部損壊	1,053	48.0	1,008	47.6	45	58.4			
半壊	31	1.4	30	1.4	1	1.3			
大規模半壊	11	0.5	11	0.5	0	0.0			
全壊	5	0.2	5	0.2	0	0.0			
中越沖地震時の家屋被害									
なし	482	21.5	466	21.5	16	19.8	4	1.3	0.858
一部損壊	1,559	69.4	1,501	69.3	58	71.6			
半壊	151	6.7	145	6.7	6	7.4			
大規模半壊	26	1.2	25	1.2	1	1.2			
全壊	29	1.3	29	1.3	0	0.0			

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅳ-8. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	2,312		1,563		749				
中越沖地震前と比べた喫煙状況									
もともと吸わない・やめた・減った・不変	2,238	98.5	1,527	99.4	711	96.6	1	24.8 †	<0.001
増えた	35	1.5	10	0.7	25	3.4			
中越沖地震前と比べた飲酒状況									
もともと飲まない・やめた・減った・不変	2,199	96.6	1,511	98.0	688	93.7	1	27.6 †	<0.001
増えた	77	3.4	31	2.0	46	6.3			
体調の変化									
不変・良くなった	1,935	84.5	1,428	92.0	507	68.6	1	208.9 †	<0.001
悪化した	356	15.5	124	8.0	232	31.4			
体重の変化									
変わらない	1,845	80.5	1,328	85.7	517	69.8	2	86.7 †	<0.001
増加	156	6.8	89	5.7	67	9.0			
減少	290	12.7	133	8.6	157	21.2			
中越沖地震のとき介助が必要									
不要	2,129	93.4	1,474	95.5	655	89.0	2	34.8 †	<0.001
部分的に必要	156	5.5	59	3.8	67	9.1			
全て必要	24	1.1	10	0.7	14	1.9			
現在の受診	1,053	46.4	647	42.2	406	55.4	1	35.0 †	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅳ-9. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,312		2,093		219					
中越沖地震前と比べた喫煙状況										
もともと吸わない・やめた・減った・不変	2,238	98.5	2,031	98.7	207	95.8	1	10.9	†	<0.001
増えた	35	1.5	26	1.3	9	4.2				
中越沖地震前と比べた飲酒状況										
もともと飲まない・やめた・減った・不変	2,199	96.6	2,004	97.2	195	90.7	1	25.4	†	<0.001
増えた	77	3.4	57	2.8	20	9.3				
体調の変化										
不変・良くなった	1,935	84.5	1,808	87.2	127	58.5	1	122.9	†	<0.001
悪化した	356	15.5	266	12.8	90	41.5				
体重の変化										
変わらない	1,845	80.5	1,714	82.6	131	60.4	2	63.3	†	<0.001
増加	156	6.8	129	6.2	27	12.4				
減少	290	12.7	231	11.1	59	27.2				
中越沖地震のとき介助が必要										
不要	2,129	93.4	1,948	94.3	181	85.0	2	41.2	†	<0.001
部分的に必要	156	5.5	104	5.0	22	10.3				
全て必要	24	1.1	14	0.7	10	4.7				
現在の受診	1,053	46.4	932	45.3	121	57.4	1	11.1	†	0.001

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅳ−10. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,312		2,227		85					
中越沖地震前と比べた喫煙状況										
もともと吸わない・やめた・減った・不変	2,238	98.5	2,160	98.6	78	94.0	1	11.4	†	0.001
増えた	35	1.5	30	1.4	5	6.0				
中越沖地震前と比べた飲酒状況										
もともと飲まない・やめた・減った・不変	2,199	96.6	2,124	96.8	75	91.5	1	6.9	†	0.009
増えた	77	3.4	70	3.2	7	8.5				
体調の変化										
不変・良くなった	1,935	84.5	1,895	85.9	40	47.6	1	90.2	†	<0.001
悪化した	356	15.5	312	14.1	44	52.4				
体重の変化										
変わらない	1,845	80.5	1,804	81.7	41	48.8	2	63.1	†	<0.001
増加	156	6.8	146	6.6	10	11.9				
減少	290	12.7	257	11.6	33	39.3				
中越沖地震のとき介助が必要										
不要	2,129	93.4	2,062	93.9	67	81.7	2	22.6	†	<0.001
部分的に必要	156	5.5	115	5.2	11	13.4				
全て必要	24	1.1	20	0.9	4	4.9				
現在の受診	1,053	46.4	996	45.6	57	69.5	1	18.2	†	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅳ−11. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポートに関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,312		1,563		749					
わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。										
そう感じない	736	33.1	440	29.3	296	41.1	1	30.5	†	<0.001
わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。§										
そう感じる	626	27.5	262	17.1	364	49.3	1	259.7	†	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。										
そう感じない	625	27.5	404	26.4	221	29.9	1	3.1	*	0.080
わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。										
そう感じない	353	15.5	196	12.7	157	21.2	1	27.4	†	<0.001
わたしは満足した睡眠がとれていると感じる。										
そう感じない	708	31.0	361	23.4	347	46.9	1	129.1	†	<0.001
わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。										
そう感じない	907	39.8	520	33.8	387	52.4	1	72.1	†	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

§:反転項目

表Ⅳ−12. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポートに関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		df	χ^2		p
	n	%	n	%	n	%				
	2,312		2,093		219					
わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。										
そう感じない	736	33.1	642	31.8	94	46.3	1	17.6	†	<0.001
わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。§										
そう感じる	626	27.5	488	23.7	138	63.6	1	156.7	†	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。										
そう感じない	625	27.5	557	27.1	68	31.5	1	1.9		0.169
わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。										
そう感じない	353	15.5	291	14.1	62	28.7	1	31.8	†	<0.001
わたしは満足した睡眠がとれていると感じる。										
そう感じない	708	31.0	597	28.9	111	51.6	1	47.2	†	<0.001
わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。										
そう感じない	907	39.8	771	37.4	136	63.3	1	54.5	†	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

§:反転項目

表Ⅳ-13. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポートに関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=2,312)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	2,312		2,227		85				
わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。									
そう感じない	736	33.1	693	32.3	43	56.6	1	19.6 †	<0.001
わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。§									
そう感じる	626	27.5	563	25.7	63	74.1	1	96.2 †	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。									
そう感じない	625	27.5	600	27.4	25	29.8	1	0.2	0.080
わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。									
そう感じない	353	15.5	329	15.0	24	29.3	1	12.3 †	<0.001
わたしは満足した睡眠がとれていると感じる。									
そう感じない	708	31.0	662	30.1	46	55.4	1	24.0 †	<0.001
わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。									
そう感じない	907	39.8	846	38.5	61	74.4	1	42.5 †	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

§:反転項目

表Ⅳ-14. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較（K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合）(n=2,284)

	全体 (n= 2,284)				男性 (n=1,065)				女性 (n=1,219)				
	K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	p
	1,550		734		762		303		788		431		
30 歳未満	166	73.8	59	26.2	82	78.1	23	21.9	84	70.0	36	30.0	0.176
30-39 歳	141	67.5	68	32.5	72	72.0	28	28.0	69	63.3	40	36.7	0.187
40-49 歳	174	66.4	88	33.6	82	66.1	42	33.9	92	66.7	46	33.3	1.000
50-59 歳	247	66.6	124	33.4	127	66.5	64	33.5	120	66.7	60	33.3	1.000
60-69 歳	332	71.7	131	28.3	169	75.8	54	24.2	163	67.9	77	32.1	0.064
70-79 歳	290	63.3	97	36.7	135	65.5	71	34.5	155	61.5	97	38.5	0.382
80 歳以上	200	67.6	96	32.4	95	81.9	21	18.1	105	58.3	75	41.7 †	<0.001

Fisher's exact tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

年齢階級、性別、K6 に欠損のない 2,284 名を分析対象とした。

表Ⅳ-15. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較（K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合）(n=2,284)

	全体 (n= 2,284)				男性 (n=1,065)				女性 (n=1,219)				
	K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	p
	2,073		211		981		84		1,092		127		
30 歳未満	201	89.3	24	10.7	97	92.4	8	7.6	104	86.7	16	13.3	0.197
30-39 歳	181	86.6	28	13.4	90	90.0	10	10.0	91	83.5	18	16.5	0.223
40-49 歳	234	89.3	28	10.7	114	91.9	10	8.1	120	87.0	18	13.0	0.232
50-59 歳	342	92.2	29	7.8	175	91.6	16	8.4	167	92.8	13	7.2	0.703
60-69 歳	435	94.0	28	6.1	210	94.2	13	5.8	225	93.8	15	6.3	1.000
70-79 歳	415	90.6	43	9.4	186	90.3	20	9.7	229	90.9	23	9.1	0.873
80 歳以上	265	89.5	31	10.5	109	94.0	7	6.0	156	86.7	24	13.3	0.052

Fisher's exact tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

年齢階級、性別、K6 に欠損のない 2,284 名を分析対象とした。

表Ⅳ-16. 出雲崎町における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較（K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合）(n=2,284)

	全体 (n= 2,284)				男性 (n=1,065)				女性 (n=1,219)				
	K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	p
	2,204		80		1,031		34		1,173		46		
30 歳未満	214	95.1	11	4.9	101	96.2	4	3.8	113	94.2	7	5.8	0.549
30-39 歳	201	96.2	8	3.8	97	97.0	3	3.0	104	95.4	5	4.6	0.723
40-49 歳	246	93.9	16	6.1	118	95.2	6	4.8	128	92.8	10	7.3	0.451
50-59 歳	365	98.4	6	1.6	186	97.4	5	2.6	179	99.4	1	0.6	0.216
60-69 歳	452	97.6	11	2.4	218	97.8	5	2.2	234	97.5	6	2.5	1.000
70-79 歳	444	96.9	14	3.1	199	96.6	7	3.4	245	97.2	7	2.8	0.788
80 歳以上	282	95.3	14	4.7	112	96.6	4	3.5	170	94.4	10	5.6	0.577

Fisher's exact tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

年齢階級、性別、K6 に欠損のない 2,284 名を分析対象とした。

（5）IES-R 分析と考察

1）2 年後調査の分析と考察

① 基本属性（図Ⅳ-47~49、表Ⅳ-17）

IES-R と基本属性の間には、「性別」以外において、いずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「性別」では、PTSD のハイリスク者（IES-R25 点以上）の割合に有意差はなかった。

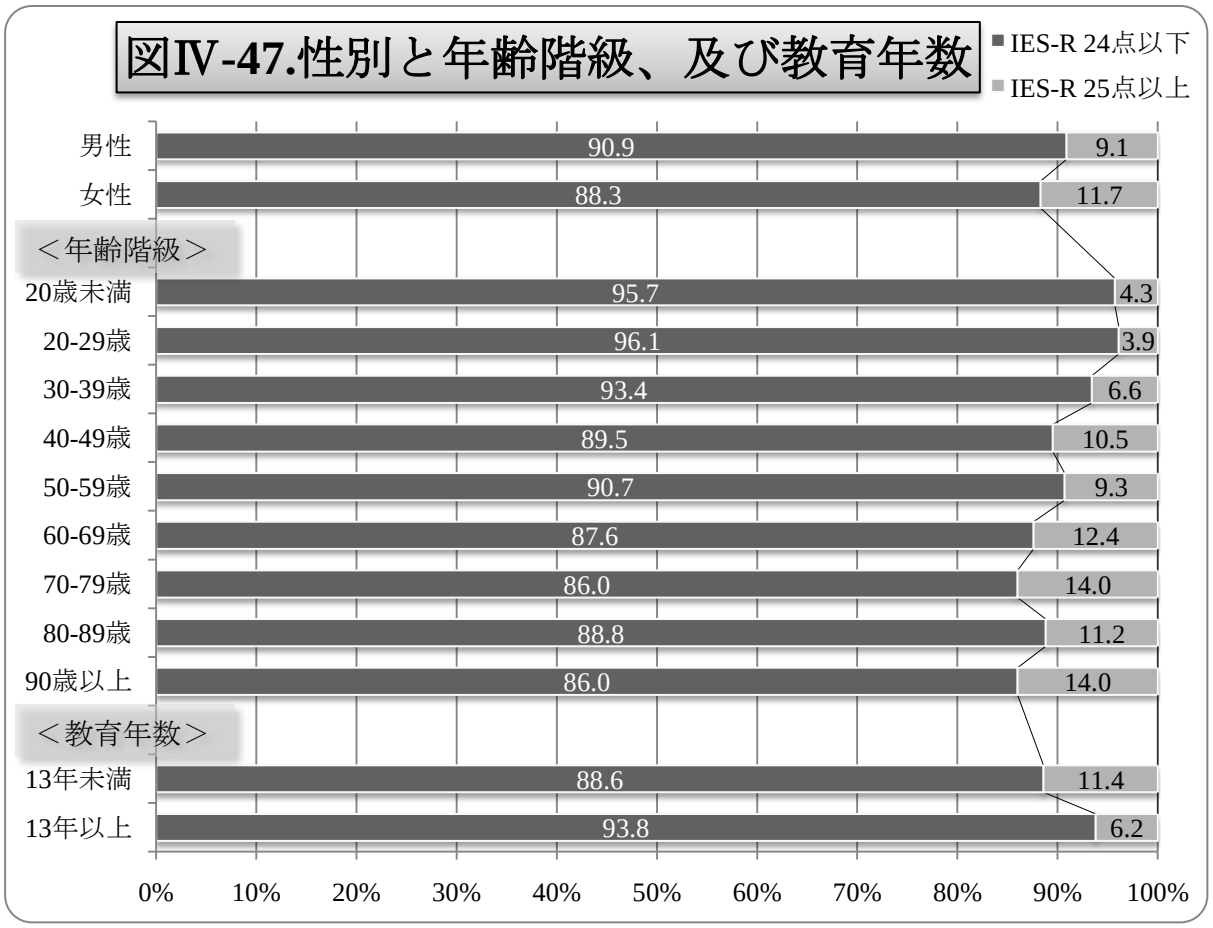
b.「年齢階級」においては、20 歳未満～40 歳未満と答えた方それぞれの集団におけるハイリスク者の割合は 7.0%を割っていたものの、60 歳以上～80 歳未満と答えた方それぞれの集団におけるハイリスク者の割合は 12%以上であった。

c.「教育年数」では 13 年未満と答えた方におけるハイリスク者の割合は 11.4%、13 年以上と答えた方の内では 6.2%であった。

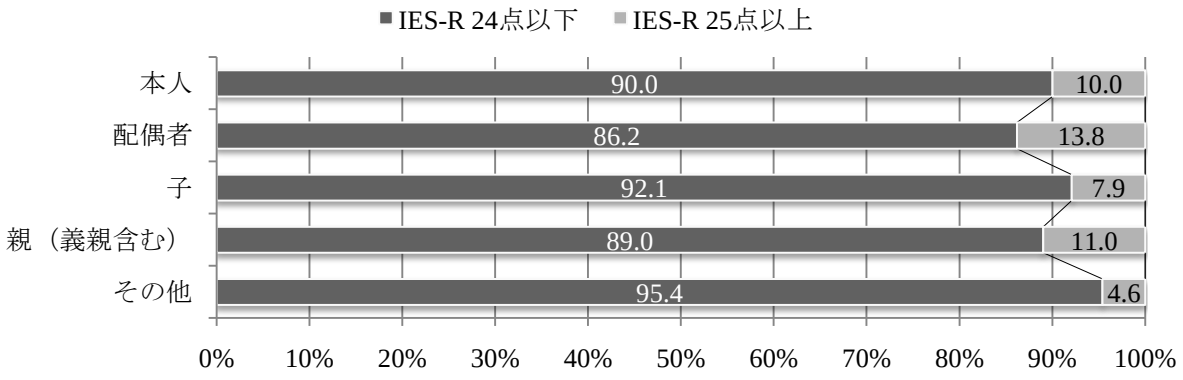
d.「世帯主との関係」については、配偶者と答えた方におけるハイリスク者の割合は 13.8%、その他と答えた方の内では 4.6%であった。

e.「主たる家計者の現在の職業」については、年金受給者と答えた方におけるハイリスク者の割合は 14.4%、会社員と答えた方の内では 8.1%であった。

f.「回答者の現在の職業」では、年金受給者と答えた方におけるハイリスク者の割合は 15.7%、会社員と答えた方の内では 7.9%であった。



図Ⅳ-48.世帯主との関係



図Ⅳ-49.家計者の職業、及び回答者の職業



② 震災状況、住まいの変化、経済について（図Ⅳ-50~53、表Ⅳ-18）

IES-R と震災状況、住まいの変化、経済的変化に対する意識には、「中越沖地震による住む場所の変化」、「現在の住まいの地域分布」、「中越沖地震以降の雇用状況」以外において、いずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「中越沖地震時の介助の必要性」については、全てにおいて介助が必要と答えた方におけるハイリスク者の割合は 39.1%、部分的に介助が必要と答えた方の内では 20.7%、介助は必要ないと答えた方の内では 9.5%であった。

b.「中越沖地震時の住まい」については、出雲崎町内と答えた方におけるハイリスク者の割合は 10.9%、出雲崎町以外の地域と答えた方の内では 6.6%であった。

c.「中越沖地震による住む場所の変化」においては、PTSD のハイリスク者の割合に有意差はなかった。

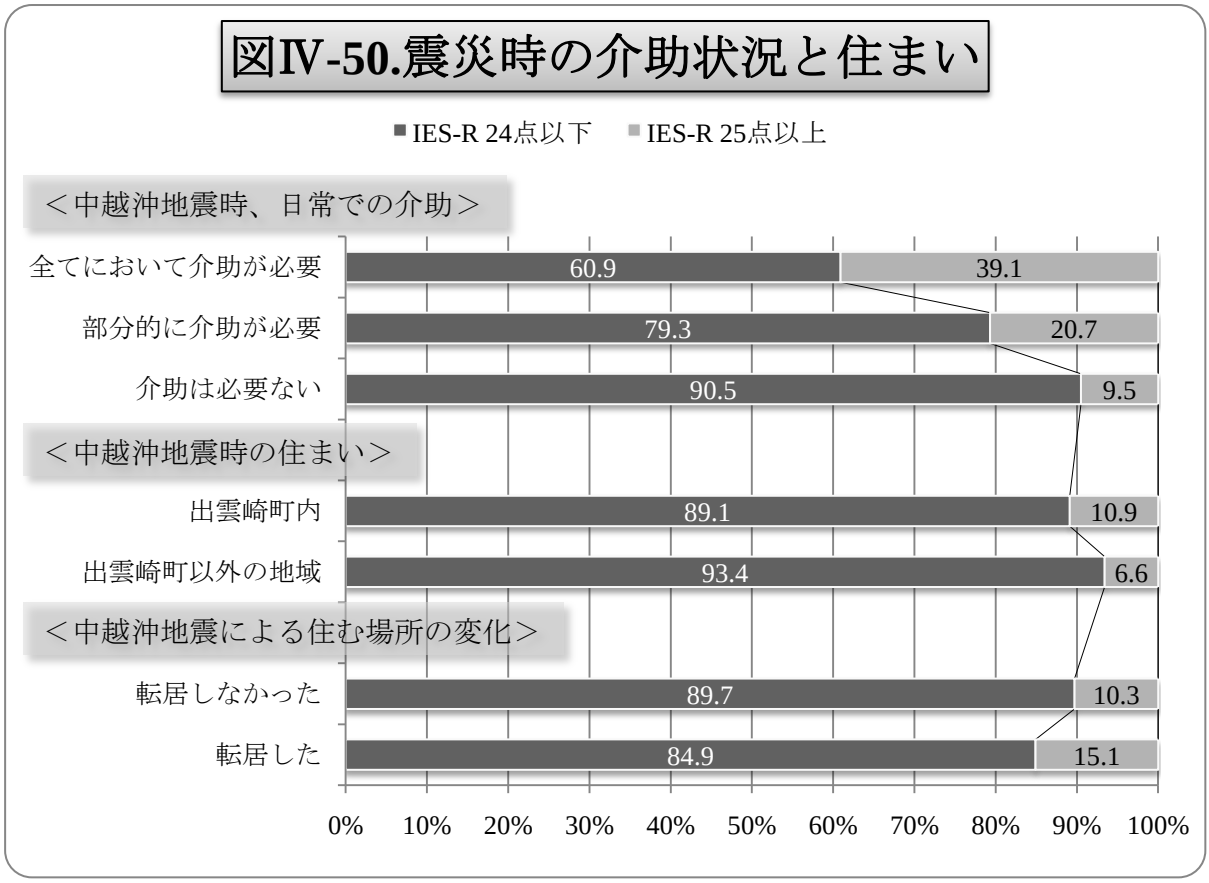
d.「地域分布」においては、PTSD のハイリスク者の割合に有意差はなかった。

e.「中越大震災・中越沖地震後の暮らし向きの変化」については、「悪くなった」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 24.7%、「変わらなかった」と答えた方の内では 7.2%であった。

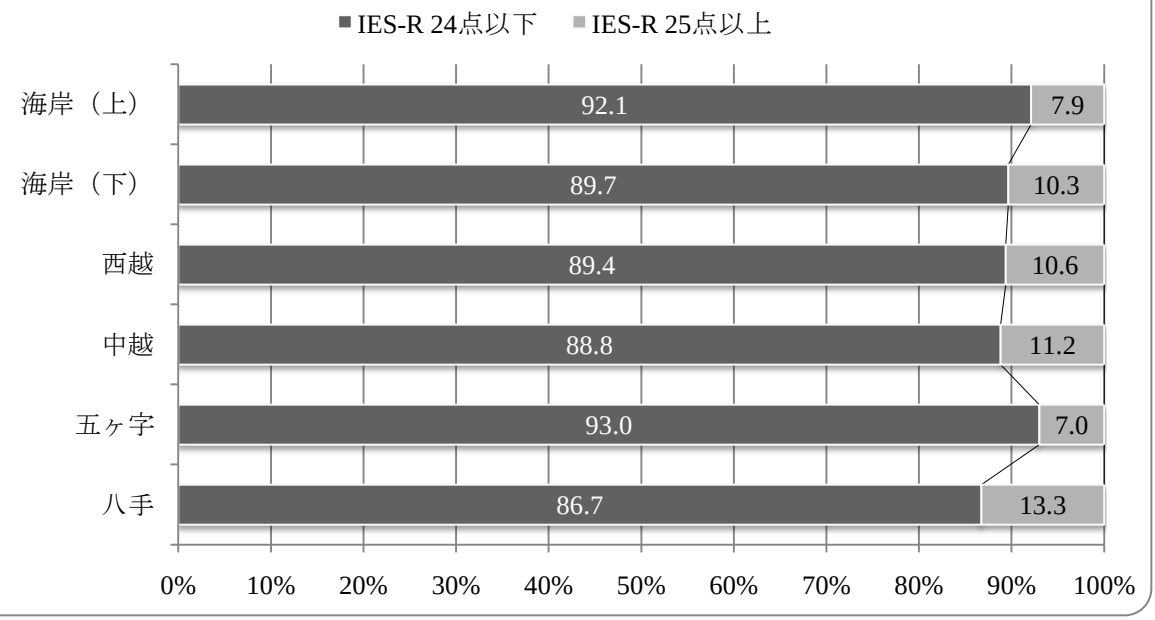
f.「中越沖地震以降の雇用の状況」においては、PTSD のハイリスク者の割合に有意差はなかった。

g.「中越大震災時の家屋被害」については、半壊と答えた方におけるハイリスク者の割合は 27.3%、一部損壊と答えた方の内では 12.7%、被害なしと答えた方の内では 8.3%であった。

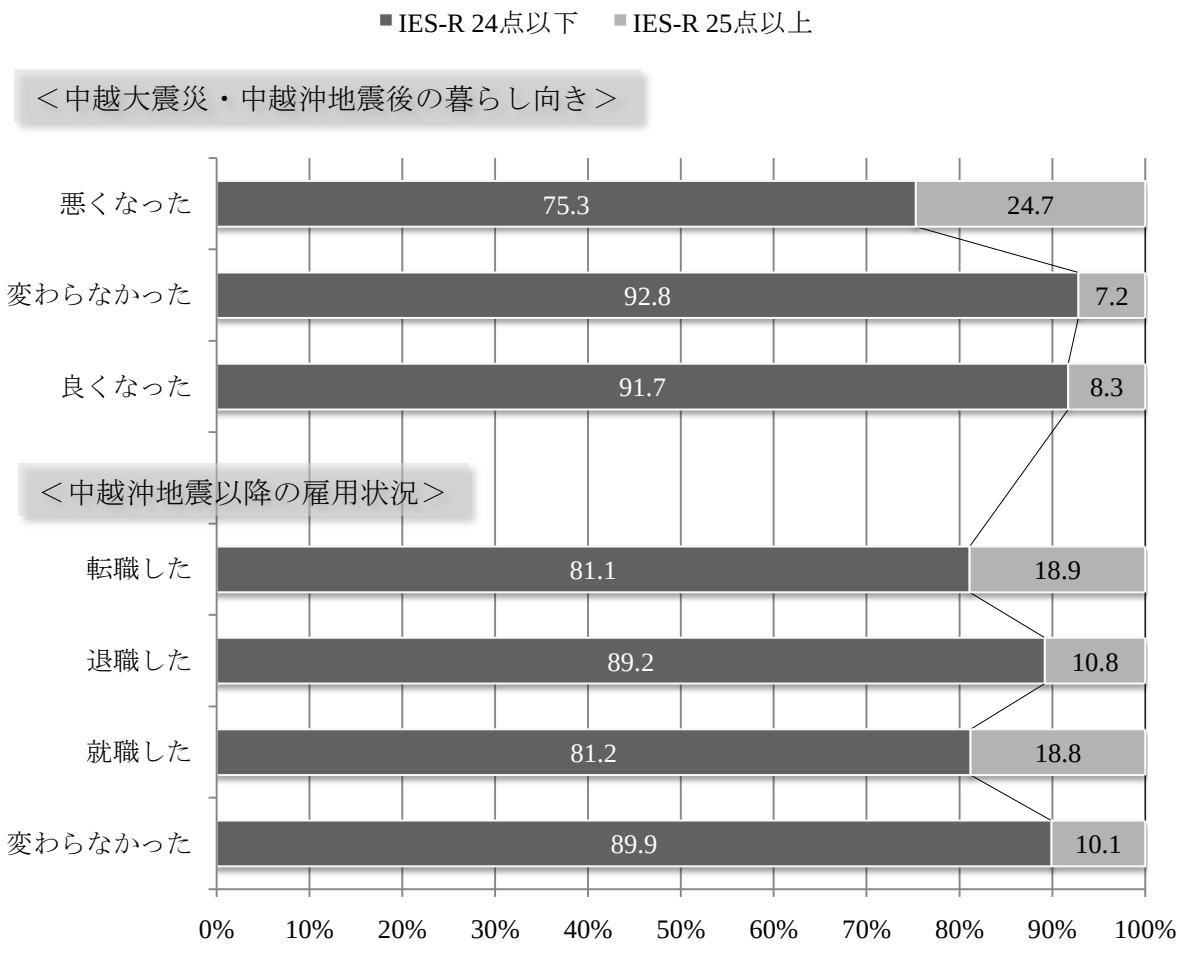
h.「中越沖地震時の家屋被害」については、半壊、全壊と答えた方におけるハイリスク者の割合は 20.0%以上であった。

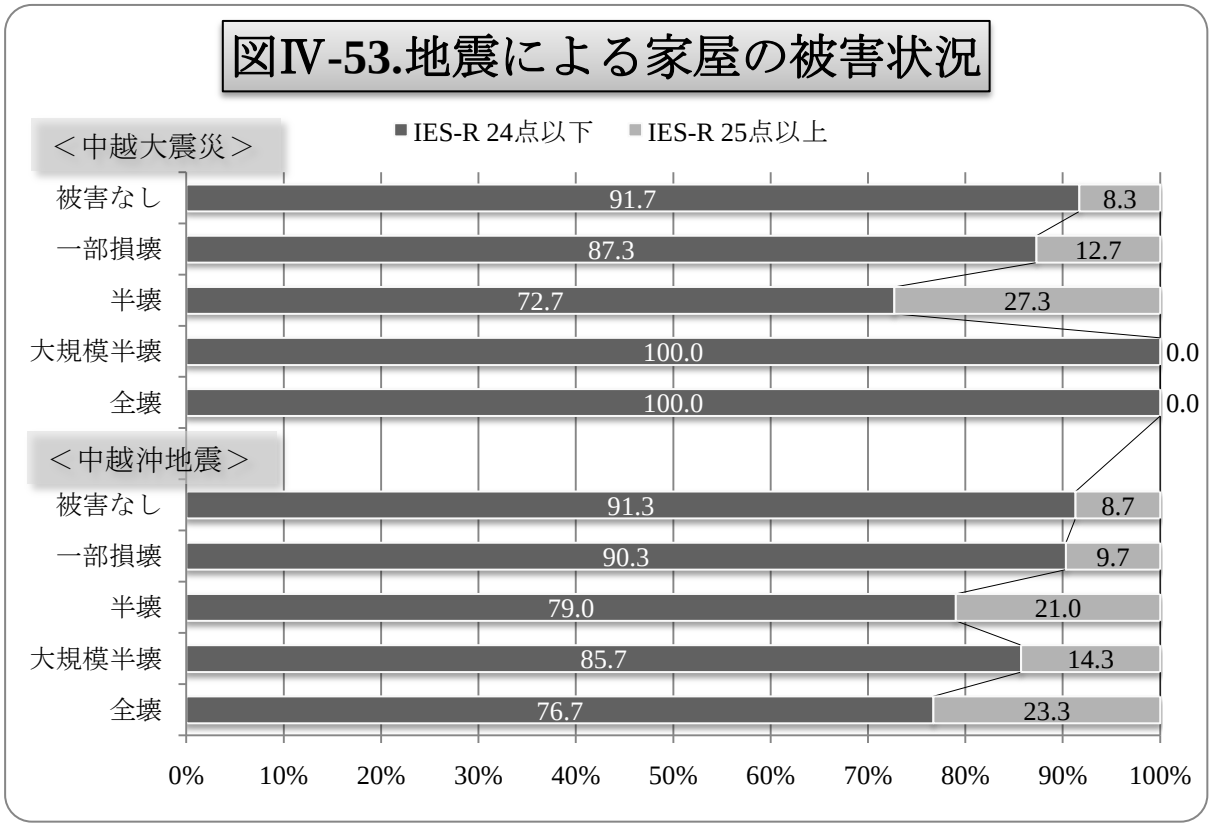


図Ⅳ-51.現在の住まいの地域分布



図Ⅳ-52.震災後の暮らし向きと雇用状況





③ 震災後の健康行動について（図Ⅳ-54、表Ⅳ-19）

IES-R と健康行動の間には、いずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「現在定期的に医者にかかっている病気の有無」については、「ある」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 12.9%、「ない」と答えた方の内では 8.4%であった。

b.「中越沖地震前と比較しての現在の喫煙状況」については、中越沖地震後に増えたと答えた方におけるハイリスク者の割合は 29.0%、減ったと答えた方の内では 25.0%、変わらないと答えた方の内では 8.2%であった。

c.「中越沖地震前と比較しての現在の飲酒状況」については、中越沖地震後に増えたと答えた方におけるハイリスク者の割合は 29.2%、減ったと答えた方の内では 20.3%、変わらないと答えた方の内では 7.4%であった。

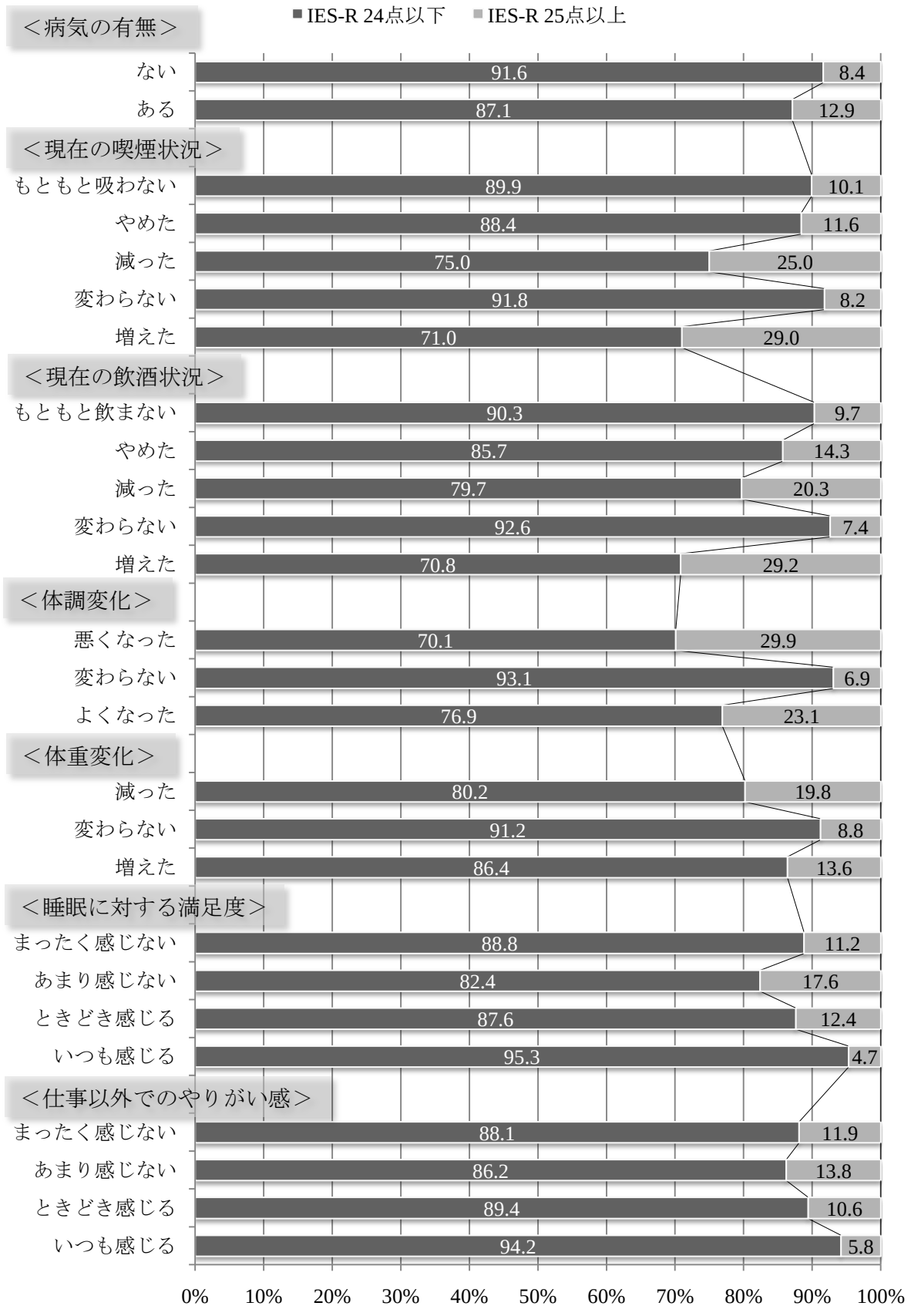
d.「体調変化」については、「悪くなった」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 29.9%、「変わらない」と答えた方の内では 6.9%であった。

e.「中越沖地震前と比較しての体重変化」においては、「減った」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 19.8%、「変わらない」と答えた方の内では 8.8%であった。

f.「満足した睡眠がとれていると感じるかどうか」については、「あまり感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 17.6%、「いつも感じる」と答えた方の内では 4.7%であった。

g.「仕事以外でやりがいを感じられるものがあるかどうか」については、「あまり感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 13.8%、「いつも感じる」と答えた方の内では 5.8%であった。

図Ⅳ-54.健康行動、及び状況



④ ソーシャルサポート（人とのつながり）について（図Ⅳ-55,56、表Ⅳ-20）

IES-R とソーシャルサポートにおいて、「家族と相談できると感じる」以外のいずれの項目についても有意に差が認められた。回答結果 2 分類においては、「ひとりでいると孤独に感じる」のみ有意差が認められた。

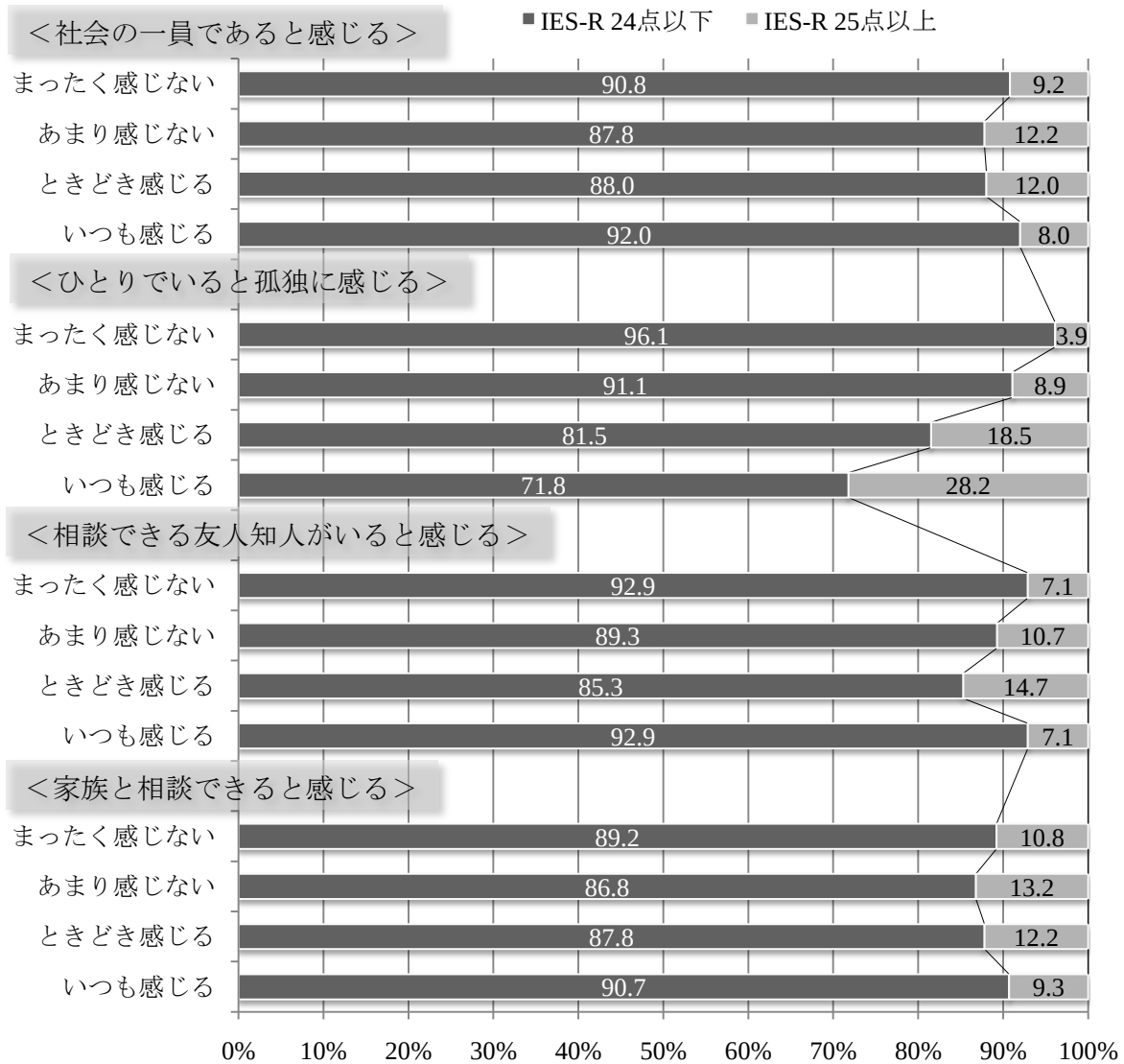
a.「社会の一員であると感じる」については、「あまり感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 12.2%、「いつも感じる」と答えた方の内では 8.0%であった。

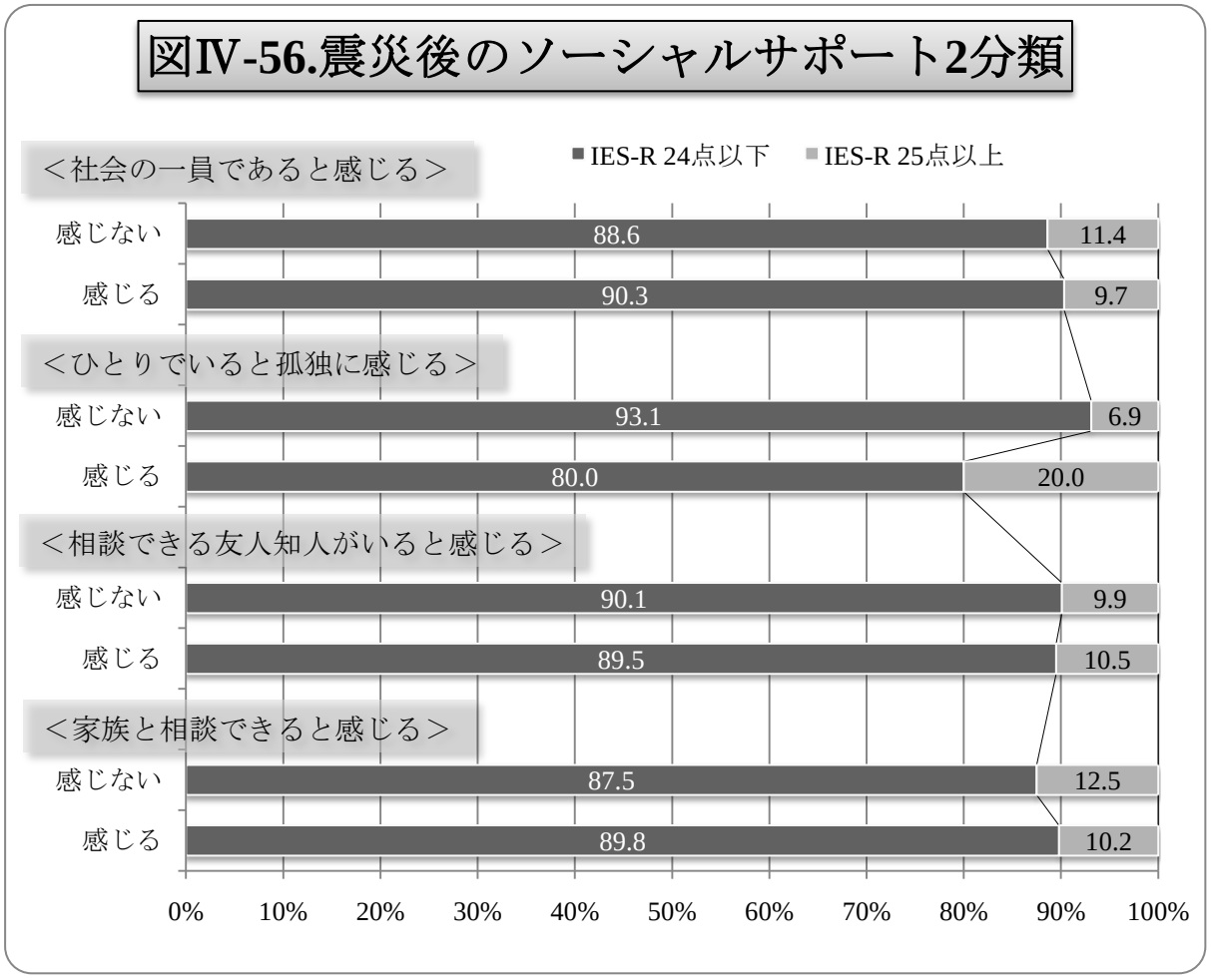
b.「ひとりでいると孤独に感じる」については、「いつも感じる」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 28.2%、「ときどき感じる」と答えた方の内では 18.5%、「あまり感じない」と答えた方の内では 8.9%、「まったく感じない」と答えた方の内では 3.9%であった。

c.「相談できる友人知人がいると感じる」については、「ときどき感じる」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 14.7%、「いつも感じる」と答えた方の内では 7.1%であった。

d.「家族と相談できると感じる」においては、PTSD のハイリスク者の割合に有意差はなかった。

図Ⅳ-55.震災後のソーシャルサポート





（考察）

全体的な傾向として、高齢者、世帯主を支えている方、教育年数が高校卒業程度あるいはそれに満たない方、年金受給者、日常生活で介助が必要な方、中越沖地震前後で何らかの変化（住まい、喫煙量、飲酒量など）があった方、中越大震災時の家屋被害が大きい、中越沖地震時の家屋被害が大きい、持病がある方、孤立しがちな方あるいは孤立していると感じている方、には中越沖地震のショック傾向が強く出ている。1 年後の調査と比較しても、この傾向に大きな変化はない。

表Ⅳ-17. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 基本属性×IES-R 比較

基本属性×IES-R		全体	IES-R24 点以下		IES-R25 点以上		df	χ2	p	
		n	n	%	n	%				
		2,137	1,914	89.6	223	10.4				
性別										
	男性	1,000	909	90.9	91	9.1	1	3.826	0.05	#
	女性	1,128	996	88.3	132	11.7				
年齢階級										
	20 歳未満	70	67	95.7	3	4.3	8	21.313	0.006	**
	20-29 歳	152	146	96.1	6	3.9				
	30-39 歳	211	197	93.4	14	6.6				
	40-49 歳	257	230	89.5	27	10.5				
	50-59 歳	356	323	90.7	33	9.3				
	60-69 歳	412	361	87.6	51	12.4				
	70-79 歳	392	337	86.0	55	14.0				
	80-89 歳	224	199	88.8	25	11.2				
	90 歳以上	43	37	86.0	6	14.0				
世帯主との関係										
	本人	868	781	90.0	87	10.0	4	13.286	0.010	*
	配偶者	537	463	86.2	74	13.8				
	子	369	340	92.1	29	7.9				
	親（義親含む）	227	202	89.0	25	11.0				
	その他	109	104	95.4	5	4.6				
教育年齢										
	13 年未満	1,673	1,483	88.6	190	11.4	1	9.290	0.002	**
	13 年以上	403	378	93.8	25	6.2				
主たる家計者の現在の職業										
	会社員	755	694	91.9	61	8.1	8	17.467	0.026	*
	公務員	71	66	93.0	5	7.0				
	自営	270	246	91.1	24	8.9				
	パート	45	38	84.4	7	15.6				
	専業主婦	40	37	92.5	3	7.5				
	年金受給者	576	493	85.6	83	14.4				
	学生	8	7	87.5	1	12.5				
	無職	183	163	89.1	20	10.9				
	その他	98	88	89.8	10	10.2				
回答者の現在の職業										
	会社員	571	526	92.1	45	7.9	8	25.037	0.002	**
	公務員	51	48	94.1	3	5.9				
	自営	199	182	91.5	17	8.5				
	パート	149	132	88.6	17	11.4				
	専業主婦	151	135	89.4	16	10.6				
	年金受給者	547	461	84.3	86	15.7				
	学生	73	69	94.5	4	5.5				
	無職	246	224	91.1	22	8.9				
	その他	91	83	91.2	8	8.8				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

表Ⅳ-18. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査震 震災状況、住まいの変化、経済×IES-R 比較

震災状況、住まい、経済×IES-R	全体	IES-R 24 点以下		IES-R 25 点以上		df	χ2	p	
	n	n	%	n	%				
	2,137	1,914	89.6	223	10.4				
中越沖地震時、日常生活での介助									
全てにおいて介助が必要	23	14	60.9	9	39.1	2	35.199	<0.000	***
部分的に介助が必要	116	92	79.3	24	20.7				
介助は必要ない	1,970	1,783	90.5	187	9.5				
中越沖地震時の住まい									
出雲崎町内	1,935	1,725	89.1	210	10.9	1	3.215	0.073	#
出雲崎町以外の地域	182	170	93.4	12	6.6				
中越沖地震をきっかけとして住む場所の変化									
転居しなかった	2,052	1,840	89.7	212	10.3	1	1.252	0.263	n.s
転居した	53	45	84.9	8	15.1				
現在の住まいの地域									
西越	480	429	89.4	51	10.6	5	6.570	0.255	n.s
中越	563	500	88.8	63	11.2				
五ヶ字	114	106	93.0	8	7.0				
八手	339	294	86.7	45	13.3				
海岸（上）	291	268	92.1	23	7.9				
海岸（下）	319	286	89.7	33	10.3				
中越大震災・中越沖地震をきっかけとして、暮らし向き									
悪くなった	385	290	75.3	95	24.7	2	104.112	<0.000	***
変わらなかった	1,719	1,596	92.8	123	7.2				
良くなった	12	11	91.7	1	8.3				
平成 19 年 7 月の中越沖地震以降の雇用状況									
転職した	53	43	81.1	10	18.9	3	5.401	0.145	n.s
退職した	65	58	89.2	7	10.8				
就職した	16	13	81.3	3	18.8				
変わらなかった	1,856	1,668	89.9	188	10.1				
平成 16 年 10 月中越地震時の家屋被害認定結果									
被害なし	1,051	964	91.7	87	8.3	4	21.632	<0.000	***
一部損壊	945	825	87.3	120	12.7				
半壊	33	24	72.7	9	27.3				
大規模半壊	7	7	100.0	0	0.0				
全壊	6	6	100.0	0	0.0				
平成 19 年 7 月中越沖地震時の家屋被害認定結果									
なし	461	421	91.3	40	8.7	4	24.354	<0.000	***
一部損壊	1,428	1,289	90.3	139	9.7				
半壊	138	109	79.0	29	21.0				
大規模半壊	21	18	85.7	3	14.3				
全壊	30	23	76.7	7	23.3				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

表Ⅳ-19. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 震災後の健康行動×IES-R 比較

震災後の健康行動×IES-R	全体 n	IES-R24 点以下 n	IES-R24 点以下 %	IES-R25 点以上 n	IES-R25 点以上 %	df	χ2	p	
	2,137	1,914	89.6	223	10.4				
現在、定期的に医者にかかっている病気の有無									
ない	1,160	1,063	91.6	97	8.4	1	11.672	0.001	**
ある	943	821	87.1	122	12.9				
中越沖地震前と比較しての現在の喫煙状況									
もともと吸わない	1,490	1,339	89.9	151	10.1	4	24.445	<0.000	***
やめた	172	152	88.4	20	11.6				
減った	48	36	75.0	12	25.0				
変わらない	365	335	91.8	30	8.2				
増えた	31	22	71.0	9	29.0				
中越沖地震前と比較しての現在の飲酒状況									
もともと飲まない	1,030	930	90.3	100	9.7	4	51.393	<0.000	***
やめた	56	48	85.7	8	14.3				
減った	138	110	79.7	28	20.3				
変わらない	811	751	92.6	60	7.4				
増えた	72	51	70.8	21	29.2				
体調変化									
悪くなった	321	225	70.1	96	29.9	2	156.537	<0.000	***
変わらない	1,790	1,667	93.1	123	6.9				
よくなった	13	10	76.9	3	23.1				
中越沖地震前と比較しての体重変化									
減った	257	206	80.2	51	19.8	2	30.786	<0.000	***
変わらない ±5%の範囲内	1,717	1,566	91.2	151	8.8				
増えた	147	127	86.4	20	13.6				
満足した睡眠がとれていると感じる									
まったく感じない	134	119	88.8	15	11.2	3	61.032	<0.000	***
あまり感じない	518	427	82.4	91	17.6				
ときどき感じる	606	531	87.6	75	12.4				
いつも感じる	856	816	95.3	40	4.7				
仕事以外でやりがいを感じられるものがある									
まったく感じない	185	163	88.1	22	11.9	3	20.579	<0.000	***
あまり感じない	643	554	86.2	89	13.8				
ときどき感じる	746	667	89.4	79	10.6				
いつも感じる	534	503	94.2	31	5.8				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

表Ⅳ-20. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 震災後のソーシャルサポート×IES-R 比較

震災後のソーシャサポート ×IES-R	全体 n	IES-R 24 点以下 n	%	IES-R 25 点以上 n	%	df	χ2	p	
	2,137	1,914	89.6	223	10.4				
グループや社会の一員であると感じる									
まったく感じない	184	167	90.8	17	9.2	3	8.670	0.034	*
あまり感じない	490	430	87.8	60	12.2				
ときどき感じる	601	529	88.0	72	12.0				
いつも感じる	800	736	92.0	64	8.0				
ひとりでいると孤独に感じる									
まったく感じない	619	595	96.1	24	3.9	3	93.071	<0.000	***
あまり感じない	932	849	91.1	83	8.9				
ときどき感じる	470	383	81.5	87	18.5				
いつも感じる	85	61	71.8	24	28.2				
何か問題があったときに、相談できる友人知人がいると感じる									
まったく感じない	127	118	92.9	9	7.1	3	25.342	<0.000	***
あまり感じない	447	399	89.3	48	10.7				
ときどき感じる	686	585	85.3	101	14.7				
いつも感じる	846	786	92.9	60	7.1				
何か問題があったときに、家族と相談できると感じる									
まったく感じない	93	83	89.2	10	10.8	3	5.357	0.147	n.s
あまり感じない	227	197	86.8	30	13.2				
ときどき感じる	582	511	87.8	71	12.2				
いつも感じる	1,204	1,092	90.7	112	9.3				
グループや社会の一員であると感じる 2 分類									
感じない	674	597	88.6	77	11.4	1	1.456	0.228	n.s
感じる	1,401	1,265	90.3	136	9.7				
ひとりでいると孤独に感じる 2 分類									
感じない	1,551	1,444	93.1	107	6.9	1	75.601	<0.000	***
感じる	555	444	80.0	111	20.0				
何か問題があったときに、相談できる友人知人がいると感じる 2 分類									
感じない	574	517	90.1	57	9.9	1	0.151	0.698	n.s
感じる	1,532	1,371	89.5	161	10.5				
何か問題があったときに、家族と相談できると感じる 2 分類									
感じない	320	280	87.5	40	12.5	1	1.456	0.228	n.s
感じる	1,786	1,603	89.8	183	10.2				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

2）1 年後調査と 2 年後調査の比較（表Ⅳ-21）

1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意な変化は認められなかった。

IES-R での PTSD ハイリスク者の割合は、1 年後調査では有効回答者の 10.9%（n＝2,299、平均値＝8.7、標準偏差＝11.95）だったのに対して、2 年後調査では 10.4%（n＝2,137、平均値＝8.7、標準偏差＝12.05）と 0.5 ポイント減少したが、有意差は認められず、3 年後調査の結果を踏まえて評価する必要がある（図Ⅳ-57,58）。

a.「性別」において、男性、女性共に有意な差は認められなかった。

b.「年齢階級」において、全ての階級で有意な変化は認められなかった。

c.「世帯主との関係」において、本人、配偶者、子、親（義親含む）、その他、全てで有意な変化は認められなかった。

d.「教育年数」において、13 年未満、13 年以上共に有意な差は認められなかった。

e.「主たる家計者の職業」において、専業主婦（24.0%⇒7.5% 16.5 ポイント減少）、無職（21.3%⇒10.9% 10.4 ポイント減少）で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。会社員、公務員、自営、パート、年金受給者、学生、その他では有意な変化は認められなかった。

f.「回答者の職業」において、パート（16.8%⇒11.4% 5.4 ポイント減少）、無職（17.8%⇒8.9% 8.9 ポイント減少）で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。会社員、公務員、自営、専業主婦、年金受給者、学生、その他では有意な変化は認められなかった。

g.「中越大震災時の家屋被害認定結果」において、全壊（30.0%⇒0.0% 30.0 ポイント減少）では、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。被害なし、一部損壊、半壊、大規模半壊では有意な変化は認められなかった。

h.「中越沖地震時の家屋被害認定結果」において、被害なし、一部損壊、半壊、大規模半壊、全壊の、全てにおいて有意な変化は認められなかった。

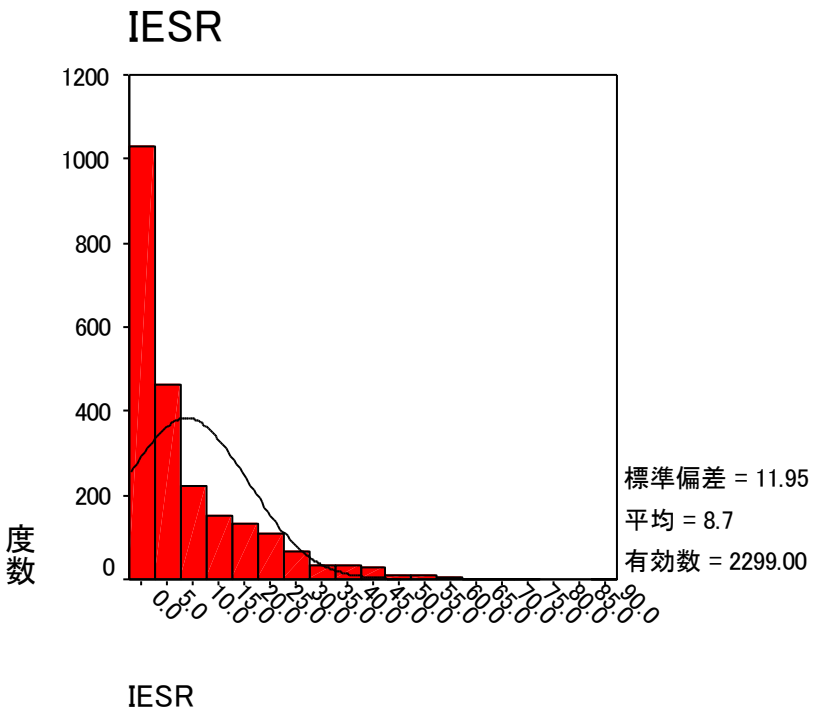
表Ⅳ-21. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 1 年後、2 年後 IES-R ハイリスク者割合比較

		1 年後 IES-R ハイリスク者		2 年後 IES-R ハイリスク者						
		n	%	n	%	df	χ2	p		
		251	10.9	223	10.4	1	0.145	0.703	n.s	→
性別										
	男性	103	8.9	91	9.1	1	0.264	0.608	n.s	→
	女性	147	12.9	132	11.7	1	0.0265	0.872	n.s	→
年齢階										
	20 歳未満	3	2.9	3	4.3	1	0.259	0.611	n.s	→
	20-29 歳	12	7.2	6	3.9	1	1.567	0.211	n.s	→
	30-39 歳	18	8.2	14	6.6	1	0.053	0.818	n.s	→
	40-49 歳	30	9.8	27	10.5	1	0.311	0.577	n.s	→
	50-59 歳	37	9.6	33	9.3	1	0.015	0.901	n.s	→
	60-69 歳	48	11.3	51	12.4	1	0.053	0.818	n.s	→
	70-79 歳	69	16.1	55	14.0	1	0.185	0.667	n.s	→
	80-89 歳	28	13.0	25	11.2	1	0.203	0.652	n.s	→
	90 歳以上	3	9.1	6	14.0	1	0.844	0.358	n.s	→
世帯主との関係										
	本人	115	12.4	87	10.0	1	1.662	0.197	n.s	→
	配偶者	71	12.3	74	13.8	1	0.108	0.742	n.s	→
	子	32	8.0	29	7.9	1	0.039	0.844	n.s	→
	親（義親含	21	9.1	25	11.0	1	0.409	0.522	n.s	→
	その他	6	4.8	5		1	0.059	0.807	n.s	→
教育年										
	13 年未満	203	11.7	190	11.4	1	0.805	0.837	n.s	→
	13 年以上	35	7.5	25	6.2	1	0.567	0.602	n.s	→
主たる家計者の現在の職業										
	会社員	69	7.9	61	8.1	1	0.017	0.897	n.s	→
	公務員	7	6.7	5	7.0	1	0.033	0.856	n.s	→
	自営	27	7.8	24	8.9	1	0.291	0.590	n.s	→
	パート	10	19.2	7	15.6	1	0.225	0.635	n.s	→
	専業主婦	12	24.0	3	7.5	1	6.095	0.014	*	↓
	年金受給者	61	13.0	83	14.4	1	0.179	0.672	n.s	→
	学生	0	0.0	1	12.5	1	1.195	0.274	n.s	→
	無職	40	21.3	20	10.9	1	5.820	0.016	*	↓
	その他	7	10.9	10	10.2	1	0.313	0.576	n.s	→
回答者の現在の職業										
	会社員	43	6.9	45	7.9	1	0.973	0.324	n.s	→
	公務員	4	6.5	3	5.9	1	0.016	0.901	n.s	→
	自営	23	9.6	17	8.5	1	0.100	0.752	n.s	→
	パート	26	16.8	17	11.4	1	3.023	0.082	#	↓
	専業主婦	28	13.7	16	10.6	1	1.236	0.266	n.s	→
	年金受給者	53	12.1	86	15.7	1	2.558	0.110	n.s	→
	学生	3	2.8	4	5.5	1	0.855	0.355	n.s	→
	無職	49	17.8	22	8.9	1	7.985	0.005	**	↓
	その他	8	8.9	8	8.8	1	0.042	0.837	n.s	→
現在の住まい										
	仮設住宅	9	22.0	211	10.5	1	4.111	0.043	*	↓
	仮設以外	236	10.8	7	6.4	1	2.907	0.088	#	↓
平成 16 年 10 月中越地震時の家屋被害認定結果										
	被害なし	98	7.9	87	8.3	1	0.140	0.709	n.s	→
	一部損壊	128	14.3	120	12.7	1	0.486	0.485	n.s	→
	半壊	8	20.0	9	27.3	1	0.572	0.450	n.s	→
	大規模半壊	1	16.7	0	0.0	1	1.264	0.261	n.s	→
	全壊	3	30.0	0	0.0	1	3.2	0.074	#	↓
平成 19 年 7 月中越沖地震時の家屋被害認定結果										
	なし	36	7.7	40	8.7	1	0.446	0.504	n.s	→
	一部損壊	29	2.1	139	9.7	1	0.765	0.382	n.s	→
	半壊	4	2.7	29	21.0	1	1.980	0.159	n.s	→
	大規模半壊	6	17.1	3	14.3	1	0.008	0.93	n.s	→
	全壊	0	0.0	7	23.3	1	0.005	0.944	n.s	→

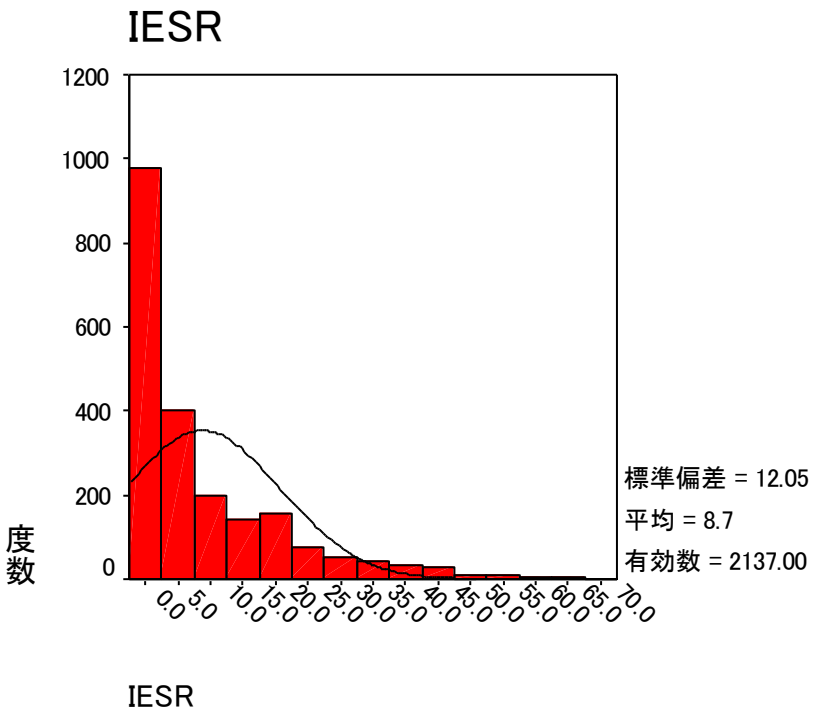
Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

＜図Ⅳ-57. 平成 20 年実施　IES-R ヒストグラム＞



＜図Ⅳ-58. 平成 21 年実施　IES-R ヒストグラム＞



3.自由記載・こころのケア事業からみた出雲崎町の状況

2 年後調査時（H21 年 7 月末)、出雲崎町ではすでに仮設住宅からすべての入居者が退去しており、復興公営住宅へ入居または住宅再建し、生活している状況であった。しかし、H21 年 5 月、6 月隣接する柏崎市での連続企業倒産が出雲崎町住民の雇用にも影響を与え、その後も深刻な経済不況、雇用不安は続いている。このような状況を背景に住宅再建したものの住宅ローンの返済が困難になったり今後の返済に強い不安を抱えている方が多い。また、完全に住宅改修が終わっていない方や経済的に全てを改修できない方もおり、「家の壁のひびを見ると地震を思い出す」「すっきりしない」等話す方も多く、精神面にも影響を与えている。

地震後の心身の状態としては、血圧の上昇、疲れやすい、気分が落ち着かない、少しの揺れでもビクッとする、トイレの戸を閉められない、また地震がくるかもと思うとなかなか外出できない等が自由記載に多く書かれ、地震の影響がまだまだ残っていることがうかがえる。

また、出雲崎町は H16 年 7 月の水害、同年 10 月の中越大震災、H19 年の中越沖地震と立て続けに被災した。住民にとって水害によるこころへの影響も大きく、2 年後調査の自由記載や半壊以上世帯訪問でも水害について触れる方が多かった。

こころのケア事業を実施している中で浮かび上がっているのは、高齢者の問題（認知症、うつ病等）である。出雲崎町の高齢化率は 36.09%（新潟県平均 26%）と高い地域で、地震をきっかけとした住環境や家族構成の変化の影響が考えられる。調査後の個別訪問や半壊以上世帯訪問を実施した中で、震災をきっかけに問題が表面化したケースもあり、相談会への希望者が増えている状況である。

4.まとめと今後のこころのケアの課題

今回の 2 年後調査への参加者も昨年の 1 年後調査への参加者と同様、60 歳以上の方が過半数を占めていた。また、回答された方および主たる家計者の職業の構成は、今回の 2 年後調査において年金受給者が大幅に多くなっていた。

本調査では昨年の 1 年後調査と同様、こころの健康を K6（範囲 0-24 点）を用いて測定したが、K6 への回答者 2,312 人のうち、重度ストレスレベルといわれる 5 点以上の方は 749 人（32.4%）、気分・不安障害レベルが疑われる 10 点以上の方は 219 人（9.5%）、重度精神障害レベルが疑われる 13 点以上の方は 85 人（3.7%）であった。昨年の 1 年後調査では、回答者 2,766 人のうち、5 点以上の方は 673 人（26.9%）、10 点以上の方は 193 人（7.7%）、13 点以上の方が 83 人（3.3%）であったため、今回の 2 年後調査の方が昨年の調査と比べ、いずれのカットオフ値についても越える方の割合は増加していた。

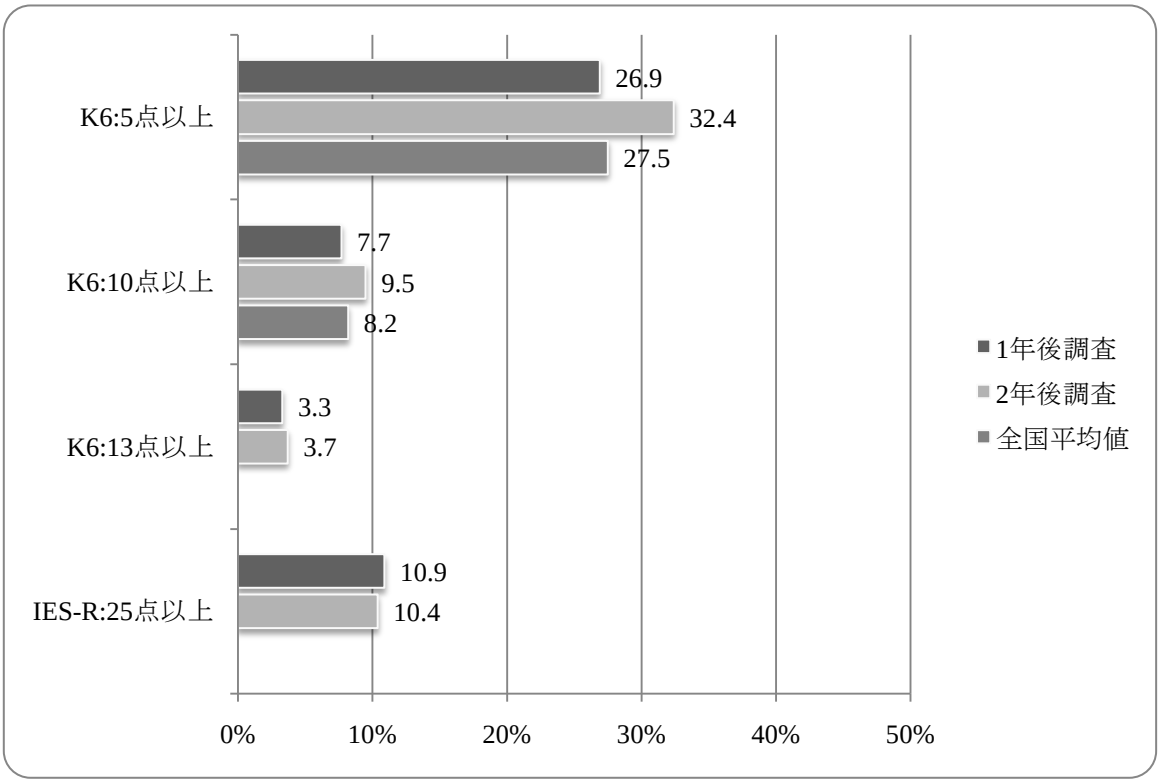
K6 のカットオフ値が重度ストレスレベルといわれる 5 点以上の方をハイリスクであると設定した場合、このハイリスク集団においては、属性では女性が 6 割弱を占め、職業では年金受給者である方が約 3 割を占めていた。中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化について、約 8 割の方は不変と回答した一方、2 割弱の方が、暮らし向きが悪化したと回答しており、ハイリスク集団の中では暮らし向きが悪化した方の割合が 3 割に及んでいた。また、中越沖地震の際の家屋の被害については、1 割弱の方が半壊以上の被害を受けており、ハイリスク集団の中で被害の規模の大きい方の割合が高くなる傾向がみられた。さらに身体的な健康については、体調が悪化した方が 16.5%、5kg 以上の体重の増減のあった方が約 2 割、現在受診している方が 5 割ほどであったが、これらに該当する方もハイリスク集団の中に占める割合が高くなっていた。

横断研究であることの限界から、震災による影響が続いているのか否かといったことは明らかにはできないが、女性や年金受給者、地震により大きな被害を受けた方、身体的な健康が悪化している方の精神健康が、中越沖地震から 2 年が経過した調査時点でも回復せず、むしろ悪化していたという可能性はある。前述の「自由記載・こころのケア事業からみた出雲崎町の状況」からうかがわれる、経済不況の影響や、経済的不安を抱えながらの生活再建の厳しさが、本調査における数値として現れている可能性も考えられる。

また、IES-R を用いたトラウマ反応の検討から、従来から指摘されているように、震災による家屋などの物的損傷が大きかった方、年金受給者や身体疾患の既往のある方は、精神健康においてもリスクが高いことがうかがわれた。自由記載からは、震災やそこからの復興によるストレスからの影響がうかがわれる身体症状、またトラウマ後の過覚醒症状が出現していることがうかがわれる。これらの症状や社会機能の変化に注意を払い、継続的な関わりが求められよう。

こころのケア事業を実施している中では、高齢者の認知症やうつ病の問題が出てきている。震災をきっかけとした環境の変化により表面化した問題もあり、今後はより

いっそう相談体制を充実させ、こころのケアを必要としている当人だけでなく、そのまわりで支援を提供している家族や介護職員等への支援も提供できるよう、地域全体の予備力を上げていくための仕組みづくりが求められていると考えられる。



Ⅴ 刈羽村の調査内容と結果

Ⅴ 刈羽村の調査内容と結果

1.刈羽村の概要と復興の状況（H.21.7 月末現在）

■ 概要

新潟県のほぼ中央の日本海側に位置し、南を柏崎市、北を旧西山町に接し、また長岡市に一部接した飛地をもつ。交通は、村を南北に JR 越後線が縦断し、中央を国道 116 号線、南部を国道 8 号線が、海側を国道 352 号線が走っている。さらに東部を北陸自動車道が縦断している。大きく西の砂丘地、中央の平坦地、東の丘陵地と分けられ、自然豊かな村である。

人口	4,947 人
世帯数	1,546 世帯
面積	26,28 平方キロメートル

■ 復興の状況

（1）応急仮設住宅

建設箇所　1 箇所　200 戸

入居者数　35 戸　110 人

（ピーク時　平成 20 年 2 月　150 戸　530 人）

入居率　17.5%

（ピーク時　平成 20 年 2 月　75.0%）

（2）住宅再建

応急仮設住宅入居総数　167 世帯

再建率　自宅　130 世帯　77.8%

民間賃貸住宅　2 世帯　1.2%

2.調査結果の分析

（1）回収結果

1）調査対象人数・世帯数

対象世帯数			対象人数
仮設住宅	仮設住宅以外	合計	
45 世帯	1,509 世帯	1,554 世帯	4,301 名

2）回収状況

調査対象人数	回答者数	回収率
4,301 名	1,850 名	43.0%

（2）調査参加者の属性

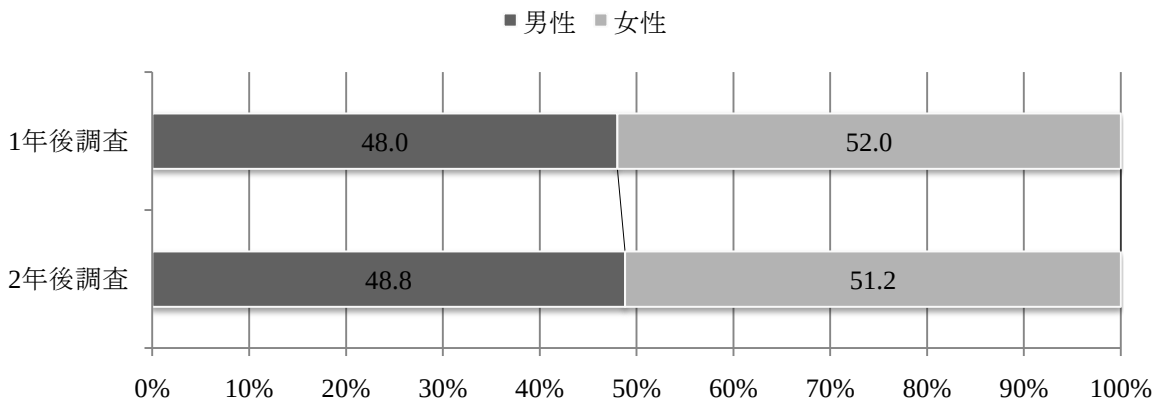
新潟県中越沖地震「被災者こころと身体の健康調査」の 1 年後調査参加者と 2 年後調査参加者の基本的属性の比較を図Ⅴ-1~7（表Ⅴ-1）に示した。

まず、2 年後調査参加者については、男女は同程度の割合（男性：48.8%、女性：51.2%）であり、年齢構成は 50 歳以上が多く、60 歳以上の方が過半数（944 人、51.5%）を占め、平均年齢は 57.6 歳（標準偏差：18.6）であった。教育年数は、平均が 11.7 年（標準偏差：2.4）であった。調査票の回答は、世帯主からのものが最も多く（746 人、41.2%）、回答された方の職業としては、会社員（528 人、30.1%）、年金受給者（477 人、27.2%）、無職（212 人、12.1%）が多かったが、世帯の主たる家計者の職業としては、会社員、年金受給者が 70%以上を占めた。回答された方のほとんどが（1,713 人、98.3%）が、仮設住宅以外で生活しており、調査時に仮設住宅で生活していた方は 29 人（1.7%）であった。

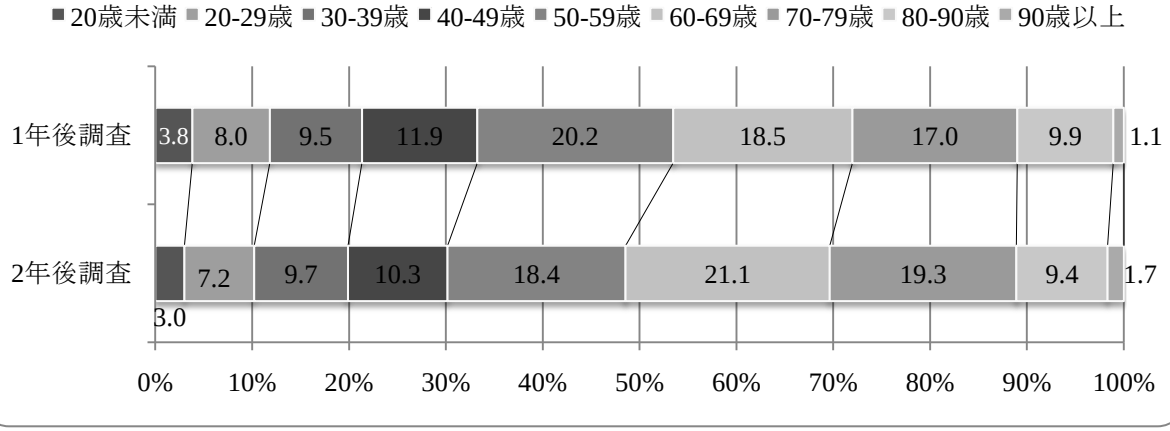
1 年後調査参加者と 2 年後調査参加者の基本的属性の比較をしたところ、男女比は同様であったが、年齢構成は異なっていた（χ^2 検定、p=0.034）。これは 2 年後調査では、60 歳代、70 歳代の回答された方が若干多かったからかもしれない。平均年齢も 2 年後調査では 1.3 歳高くなっていた（1 年後調査：56.3 歳、標準偏差 19.1、2 年後調査：57.6 歳、標準偏差 18.6、t 検定、p=0.025）。教育年数、回答された方の家族内役割については同様であった。回答された方の職業の構成は 2 回の調査で異なっていたが（χ^2 検定、p<0.001）、これは 2 年後調査では年金受給者が大幅に多かったからであろう。主たる家計者の職業の構成についても、同じパターンであった。

調査時に仮設住宅で生活していた方は、1 年後調査では 222 人（10.0 %）であったが、2 年後調査では仮設住宅で生活していると回答された方は 29 人（1.7%）と大幅に減っていた（χ^2 検定、p<0.001）。そして自宅で生活している方が 1,331 人（59.0 %）から 1,611 人（92.4%）へと増えていた（χ^2 検定、p<0.001）。

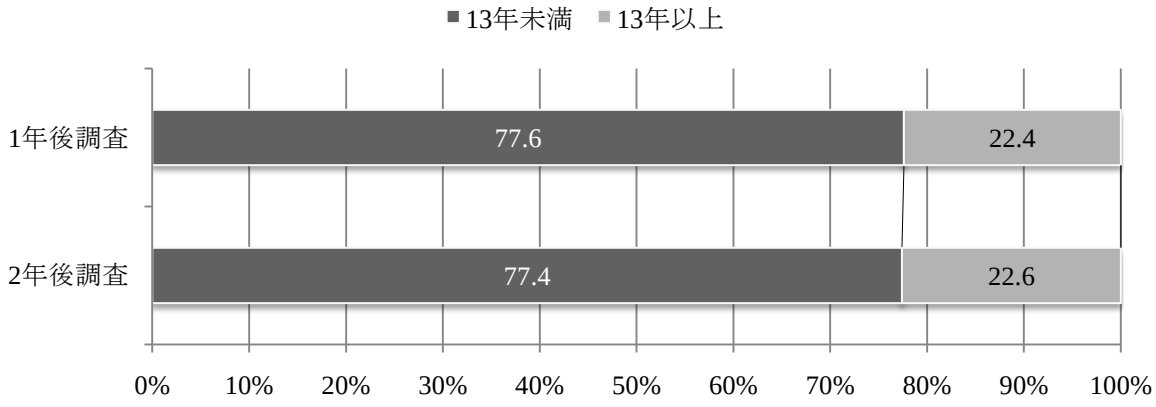
図Ⅴ-1.性別



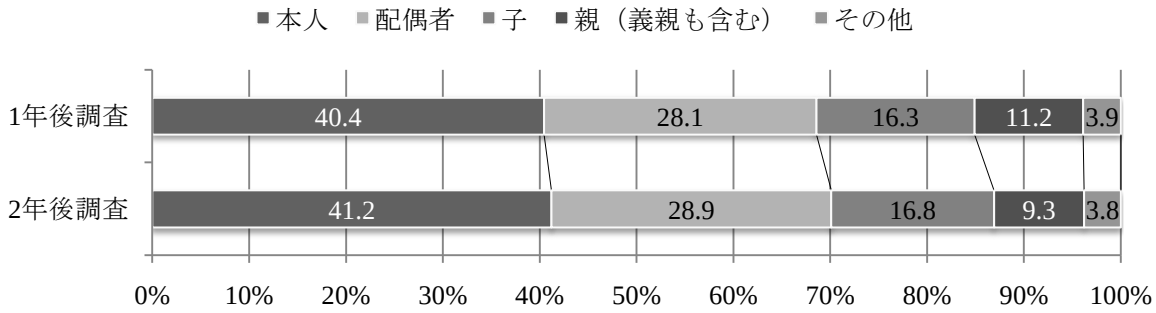
図Ⅴ-2.年齢階級



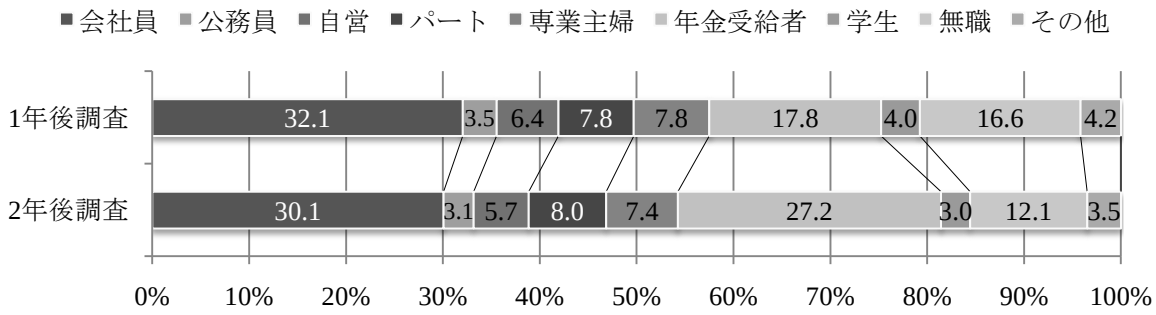
図Ⅴ-3.教育年数



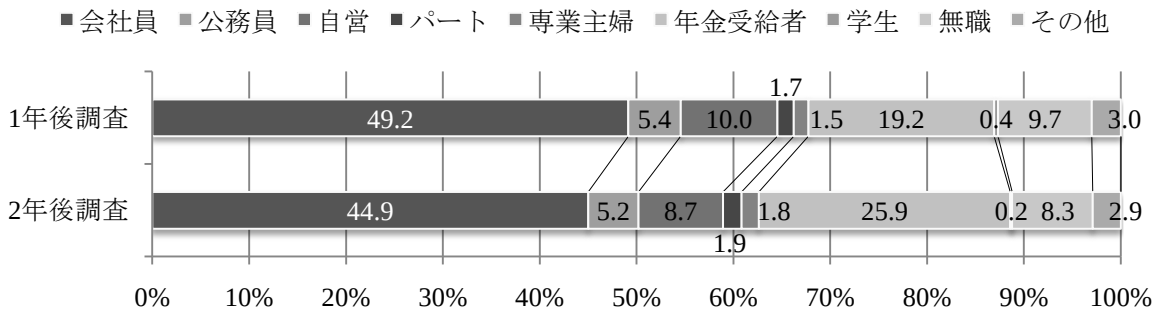
図Ⅴ-4.世帯主との関係



図Ⅴ-5.回答者の職業



図Ⅴ-6.主たる家計者の職業



図Ⅴ-7.現在の住まい

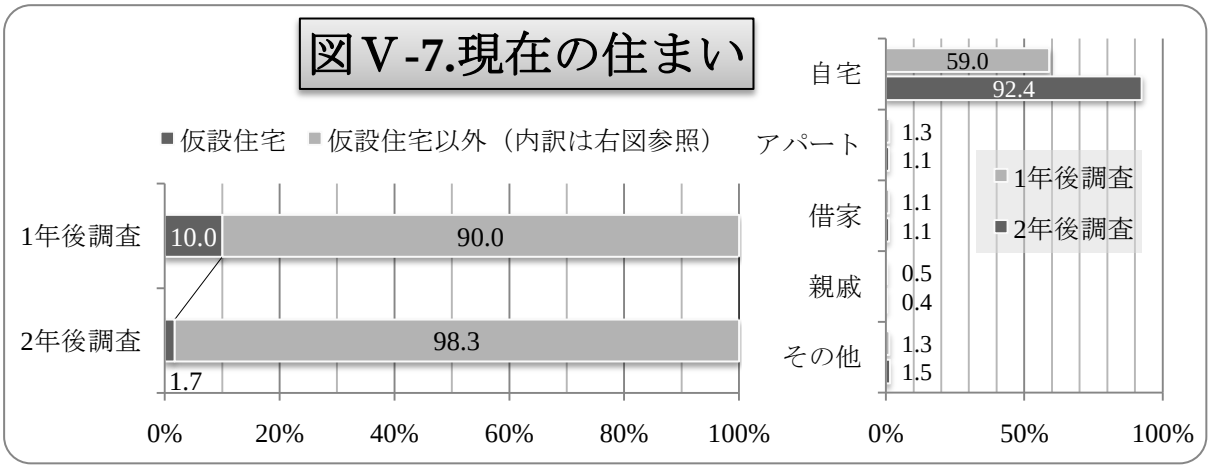


表 Ⅴ-1. 刈羽村における中越沖地震後のこころと身体の健康調査の
1 年後調査参加者と 2 年後調査参加者の基本的属性の比較

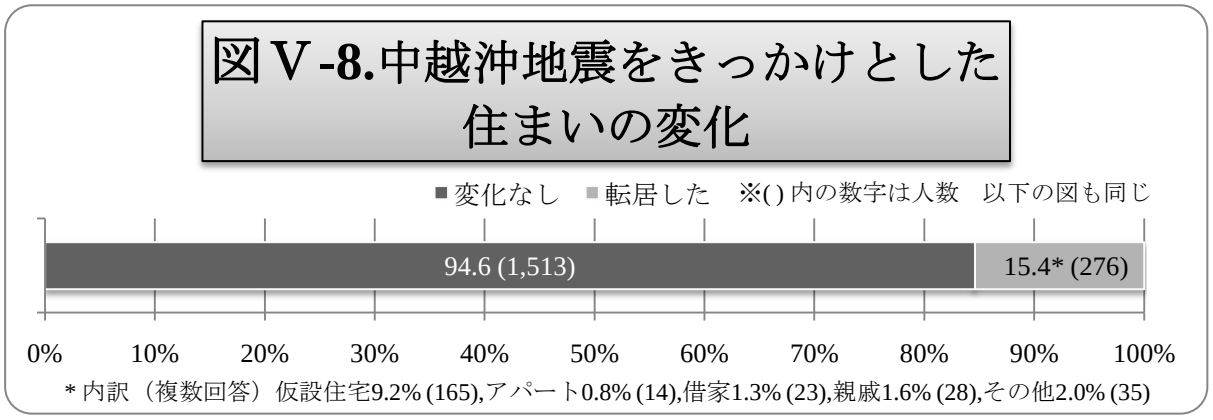
	1 年後調査 (n=2,271)		2 年後調査 (n=1,850)		df	χ^2/t		p
	n / mean	% / (sd)	n / mean	% / (sd)				
性別								
男性	1,079	48.0	898	48.8	1	0.2		0.629
女性	1,168	52.0	943	51.2				
年齢階級								
20 歳未満	86	3.8	55	3.0	8	16.6	*	0.034
20-29 歳	181	8.0	131	7.2				
30-39 歳	213	9.5	177	9.7				
40-49 歳	269	11.9	188	10.3				
50-59 歳	456	20.2	337	18.4				
60-69 歳	417	18.5	386	21.1				
70-79 歳	382	17.0	354	19.3				
80-89 歳	224	9.9	173	9.4				
90 歳以上	25	1.1	31	1.7				
平均年齢 (標準偏差)	56.3	(19.1)	57.6	(18.6)	4,083	-2.2	*	0.025
教育年数								
13 年未満	1,698	77.6	1,382	77.4	1	0.0		0.845
13 年以上	489	22.4	404	22.6				
教育年数 (標準偏差)	11.7	(2.4)	11.7	(2.4)	3,971	-0.1		0.945
世帯主との関係								
本人	896	40.4	746	41.2	4	4.1		0.394
配偶者	623	28.1	523	28.9				
子	361	16.3	305	16.8				
親（義親も含む）	249	11.2	169	9.3				
その他	87	3.9	68	3.8				
回答者の職業								
会社員	697	32.1	528	30.1	8	59.2	†	<0.001
公務員	75	3.5	54	3.1				
自営	138	6.4	100	5.7				
パート	169	7.8	140	8.0				
専業主婦	169	7.8	130	7.4				
年金受給者	387	17.8	477	27.2				
学生	86	4.0	52	3.0				
無職	361	16.6	212	12.1				
その他	92	4.2	61	3.5				
主たる家計者の職業								
会社員	1,074	49.2	771	44.9	8	28.9	†	<0.001
公務員	118	5.4	90	5.2				
自営	219	10.0	150	8.7				
パート	37	1.7	33	1.9				
専業主婦	32	1.5	31	1.8				
年金受給者	418	19.2	445	25.9				
学生	8	0.4	4	0.2				
無職	211	9.7	143	8.3				
その他	66	3.0	50	2.9				
現在の住まい								
仮設住宅	222	10.0	29	1.7	1	114.4	†	<0.001
仮設住宅以外	1,997	90.0	1,713	98.3				
（複数回答）								
自宅	1,331	59.0	1,611	92.4	1	564.3	†	<0.001
アパート	30	1.3	19	1.1	1	0.5		0.493
借家	24	1.1	19	1.1	1	0.0		0.940
親戚	11	0.5	7	0.4	1	0.2		0.685
その他	29	1.3	26	1.5	1	0.3		0.582

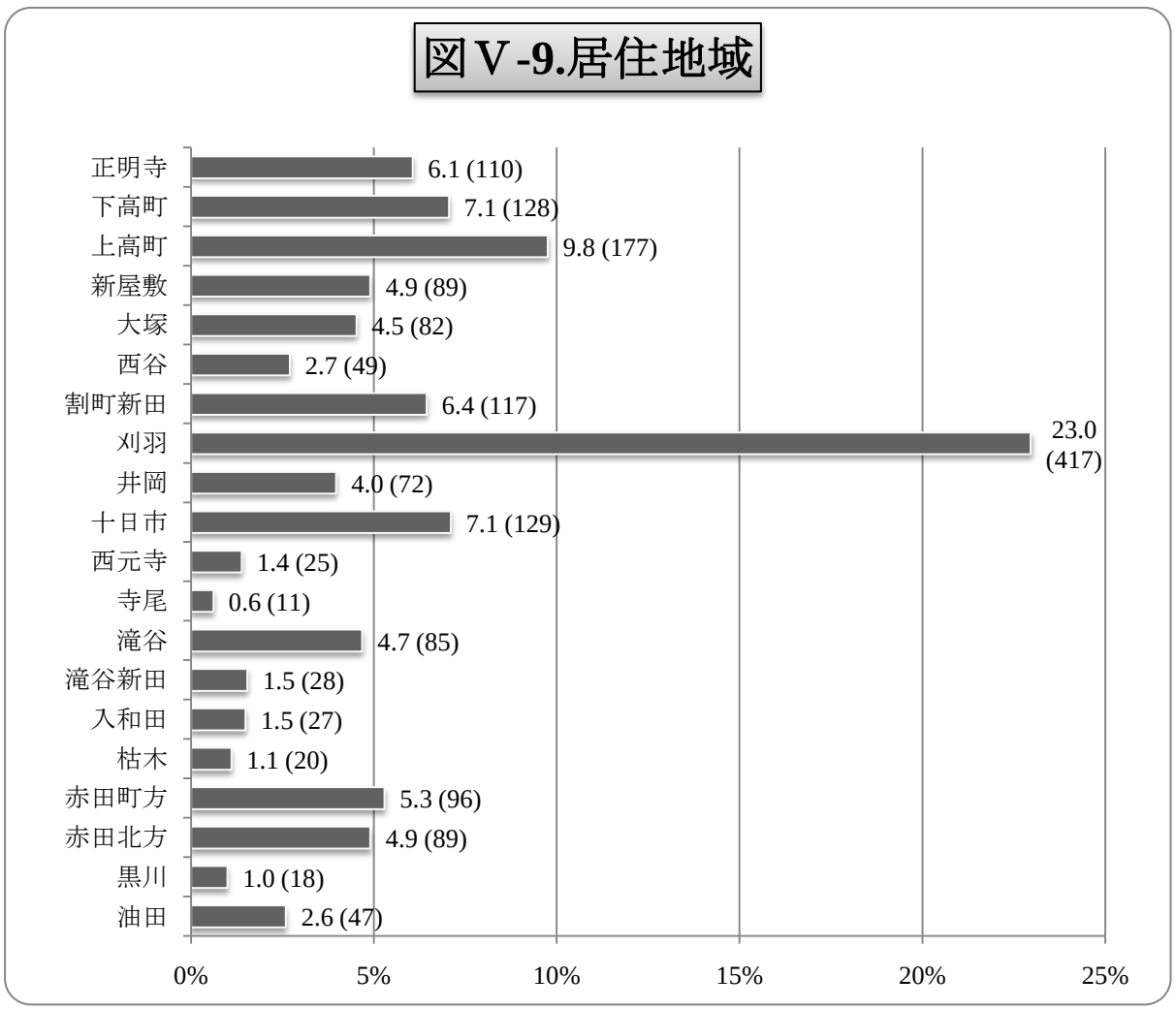
Chi-square tests or t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

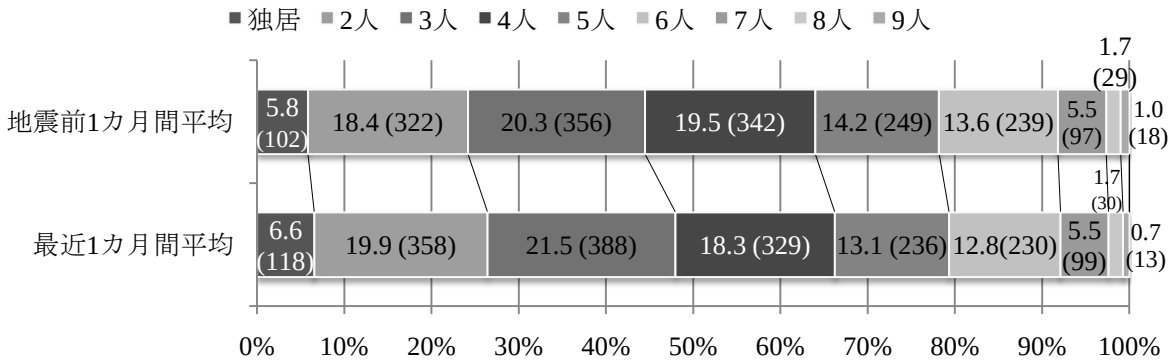
（3）調査結果

図Ⅴ-8~10 に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の住まいの状況について示した。調査に回答された方の大多数（1,671 人、91.5%）が中越沖地震時に村内で生活していた（村外は 155 人、8.5%）。中越沖地震をきっかけに転居をされた方は 276 人（15.4%）であった。これらの方では仮設住宅の利用が最も多かった。集落別に参加者の割合をみてみると、刈羽（417 人、23.0%）が、次いで上高町（177 人、9.8%）が多かった。同居家族の人数としては 2 人から 4 人が多く、これは地震前 1 カ月間でも調査時の 1 カ月間でも同様の傾向であった。



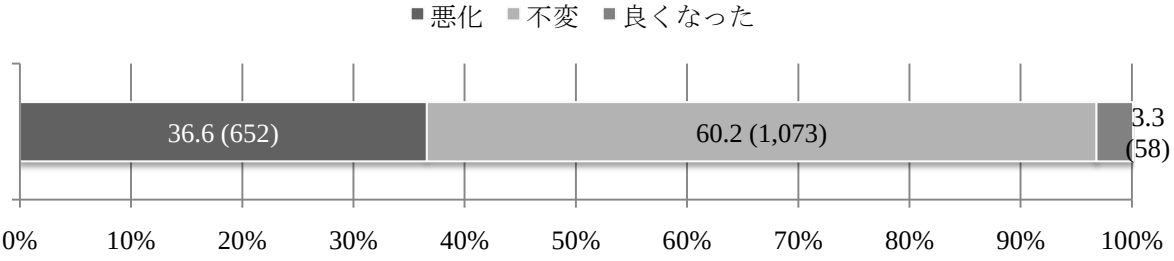


図Ⅴ-10.居住形態（同居家族の人数）

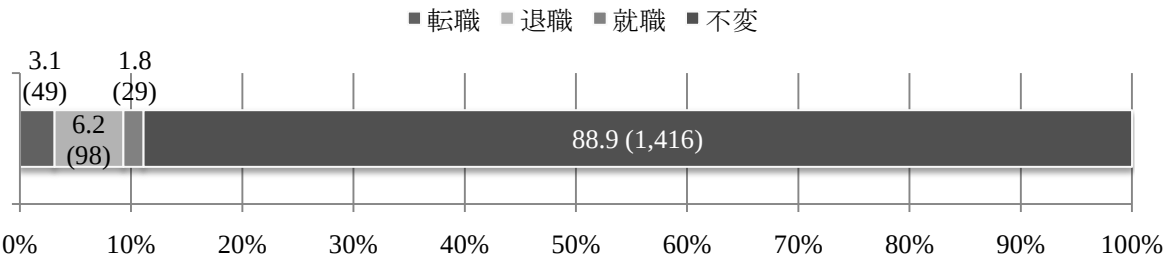


図Ⅴ-11~13 に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響として、暮らし向きの変化、雇用状況、家屋被害状況についてまとめた。中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化について､約 6 割の方は不変と回答したが（1,073 人、60.2%）、3 分の 1 以上の方が、暮らし向きが悪化したと回答した（652 人、36.6%）。中越沖地震をきっかけとした雇用状況については、約 9 割の方が不変と回答したが（1,416 人、88.9%）、49 人（3.1%）が転職を、98 人（6.2%）が退職をした。中越大震災については、半壊以上の家屋被害を受けたと回答した方が 323 人（18.2%）であったが、中越沖地震については 863 人（47.9%）と大幅に多かった。

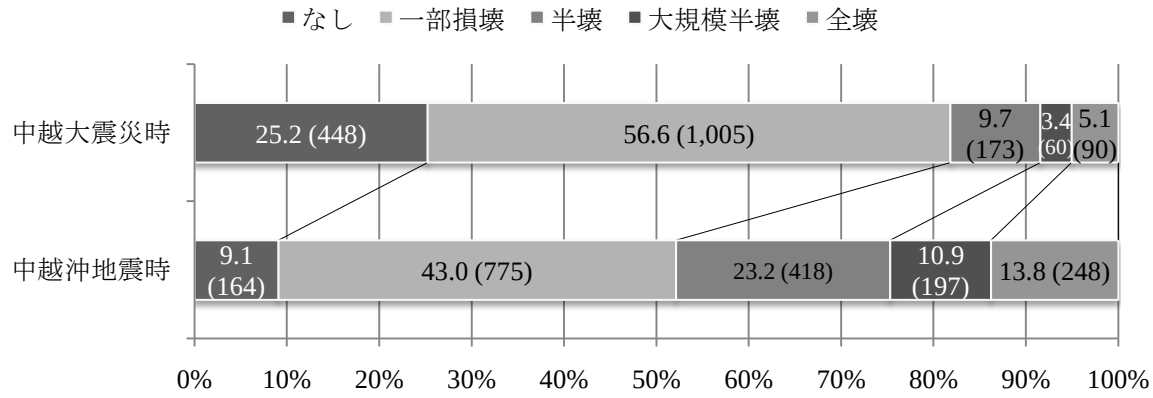
図Ⅴ-11.中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化



図Ⅴ-12.中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化

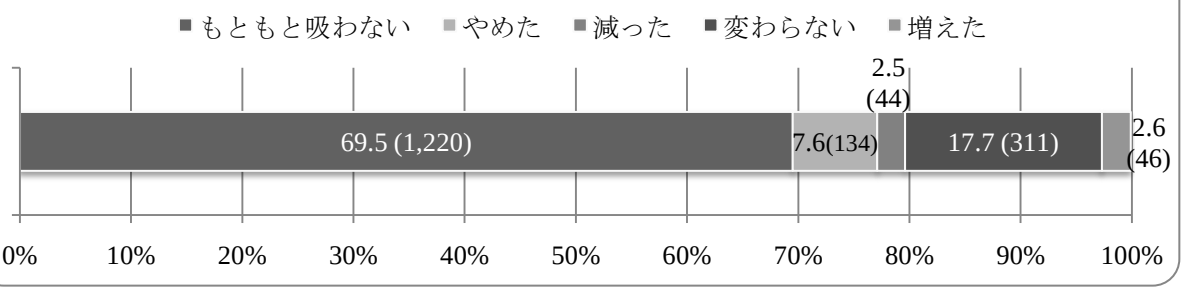


図Ⅴ-13.中越大震災時・中越沖地震時の家屋被害

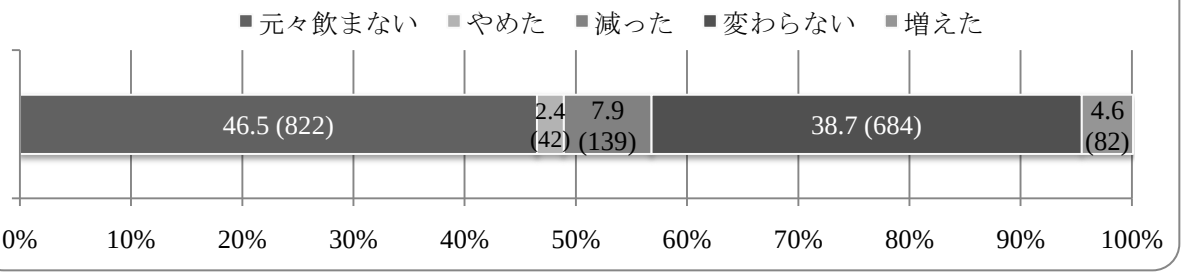


図Ⅴ-14~18 に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動についてまとめた。中越沖地震前と比較した喫煙状況は、「もともと吸わない」と回答した方が 1,220 人（69.5%）と最も多く、喫煙数が「増えた」方は 46 人（2.6%）であった。同じく飲酒状況については、「もともと飲まない」という方が 822 人（46.5%）と最も多く、飲酒が「増えた」方は 82 人（4.6%）であった。大多数の方（1,354 人、74.6%）は体調に変化を感じていなかったが、447 人（24.6%）の方は体調が「悪化した」と感じていた。体重の変化について、約 1 割（172 人、9.5%）の方が体重の増加を報告していたが、275 人、（15.2%）は体重が減少したという報告であった。215 人（11.9%）の方が、中越大震災の時に、部分的、あるいは全面的に介助を必要としていた。現在何らかの理由で医療機関を受診している方は、約半数（930 人、51.1%）であった。

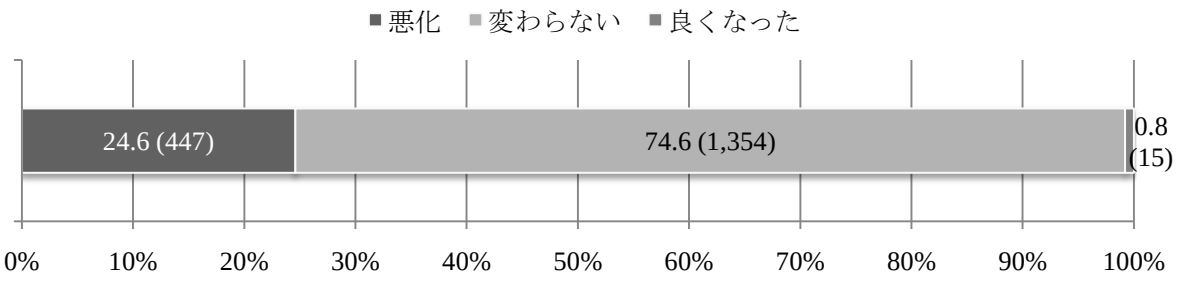
図Ⅴ-14.中越沖地震前と比べた喫煙状況



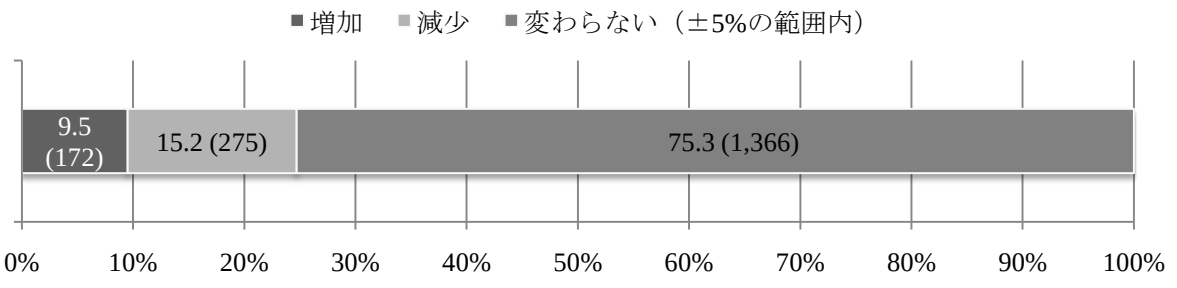
図Ⅴ-15.中越沖地震前と比べた飲酒状況



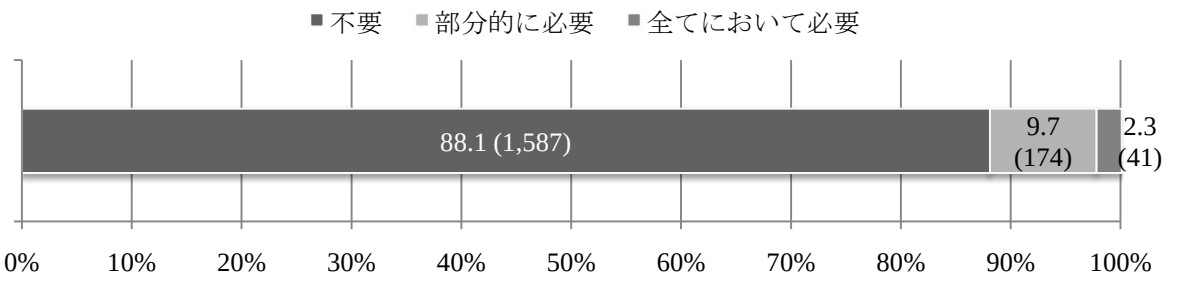
図Ⅴ-16.中越沖地震前と比べた体調の変化



図Ⅴ-17.中越沖地震前と比べた体重の変化

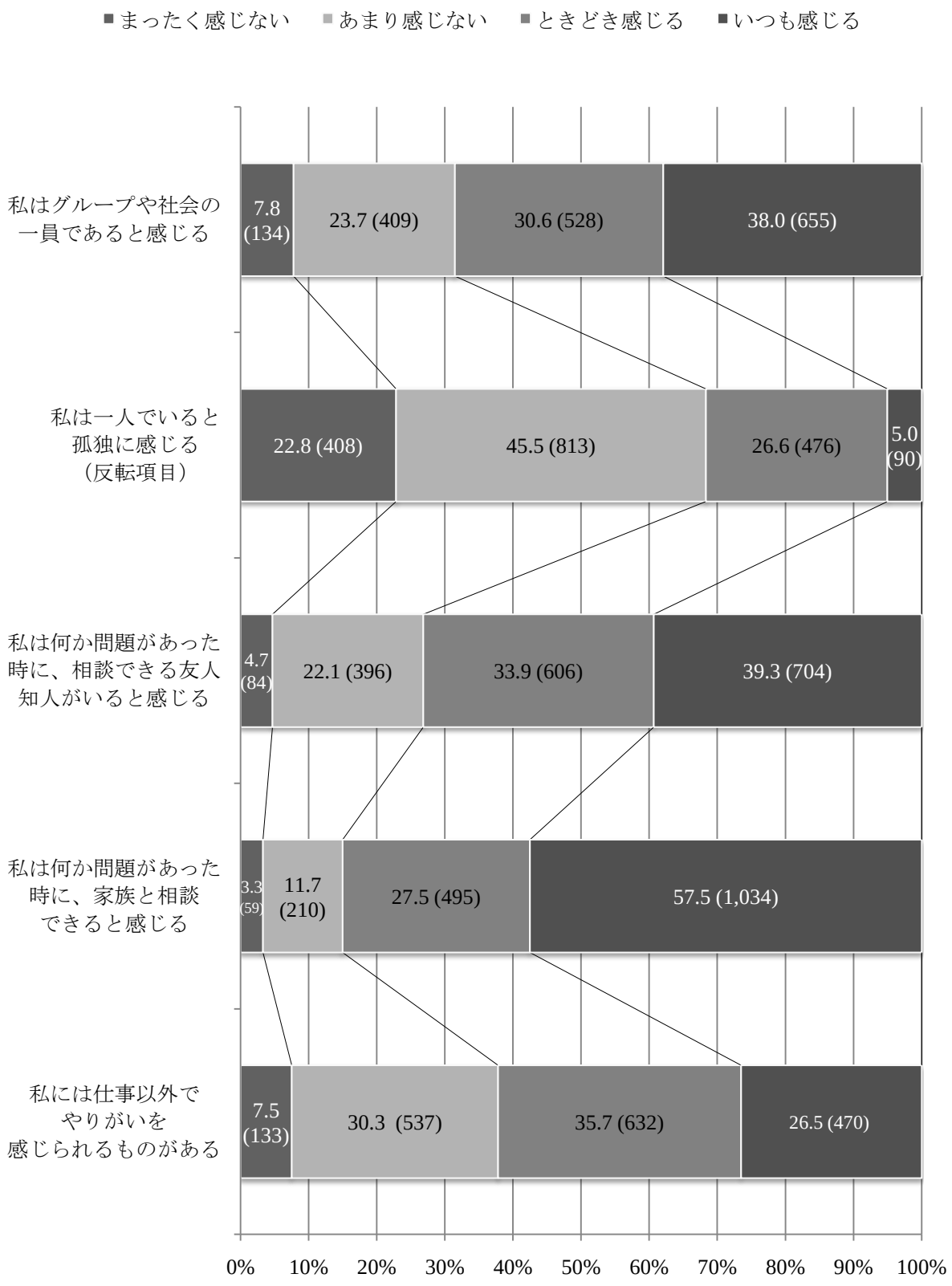


図Ⅴ-18.中越沖地震の時の介助の必要度



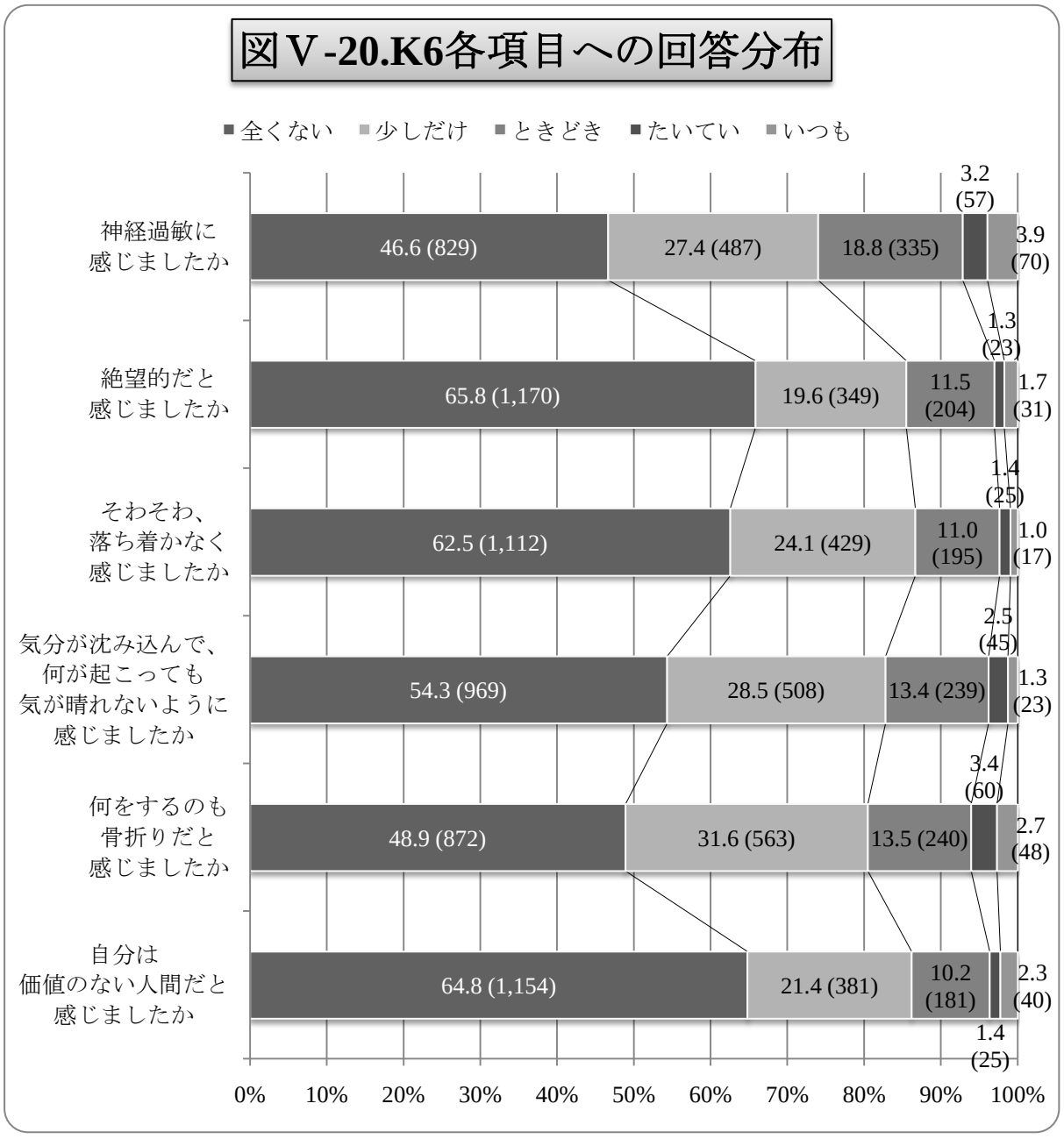
図Ⅴ-19 に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポート等に関する認識の集計結果を示した。「わたしは、グループや、社会の一員であると感じる」について肯定的な認識（ときどき感じる、あるいは、いつも感じる）と回答した方は、1,183 人（68.6%）であった。「わたしは、ひとりでいると孤独に感じる」について否定的な（まったく感じない、あまり感じない）回答をした方は、1,221 人（68.3%）であった。以下、「わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる」、「わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる」についても肯定的な回答をした方が、それぞれ 7 割以上、8 割以上であった。「わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある」について肯定的な回答をした方は 1,102 人（62.2%）にとどまった。

図Ⅴ-19.ソーシャルサポート等に関する認識

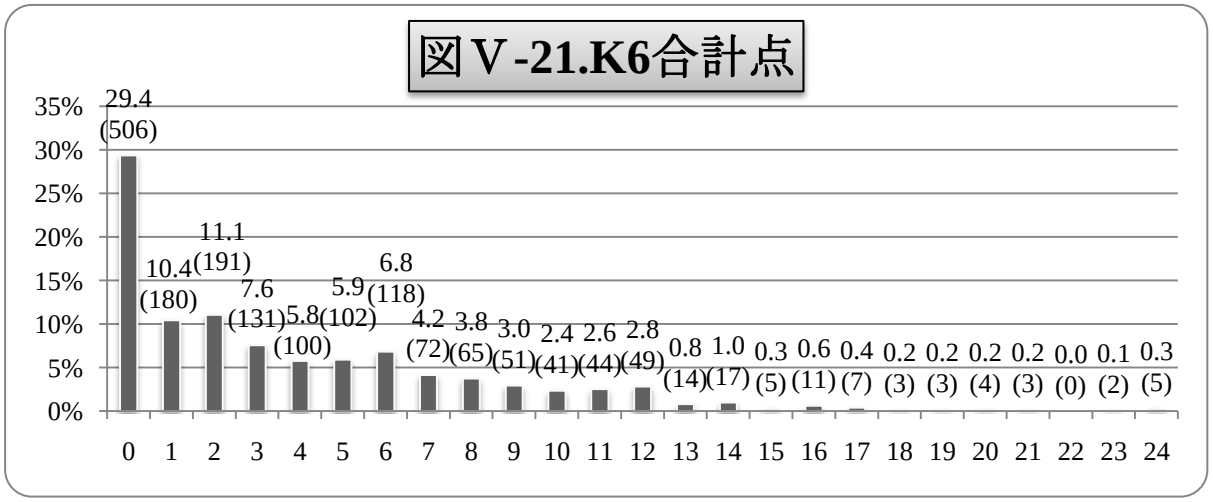


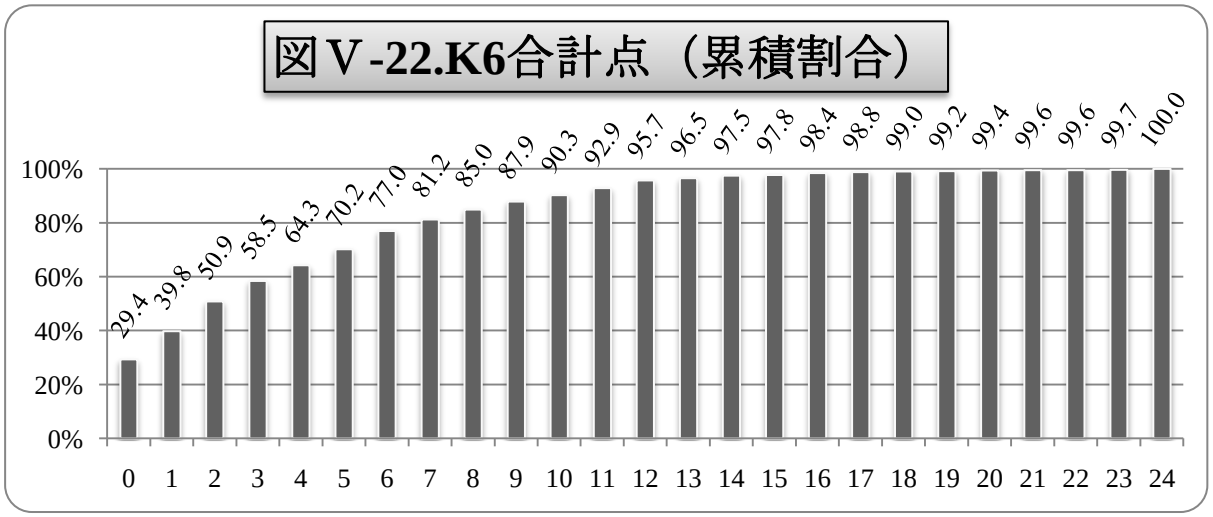
（4）K6 分析

図Ⅴ-20 に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 各項目への回答の分布を示した。K6 の各項目について、「たいてい」、「いつも」と答えた方が多かったのは、「神経過敏に感じましたか」（127 人、7.2%）や、「何をするのも骨折りだと感じましたか」（108 人、6.1%）といった、非特異的な心理的ストレスを示した質問項目であった。



図Ⅴ-21~22 に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 合計点（範囲 0-24）を示した。重度ストレスレベルといわれる 5 点以上の方は 616 人（35.7%）、気分・不安障害レベルが疑われる 10 点以上の方は 208 人（12.1%）、重度精神障害レベルが疑われる 13 点以上の方が 74 人（4.3%）であった。





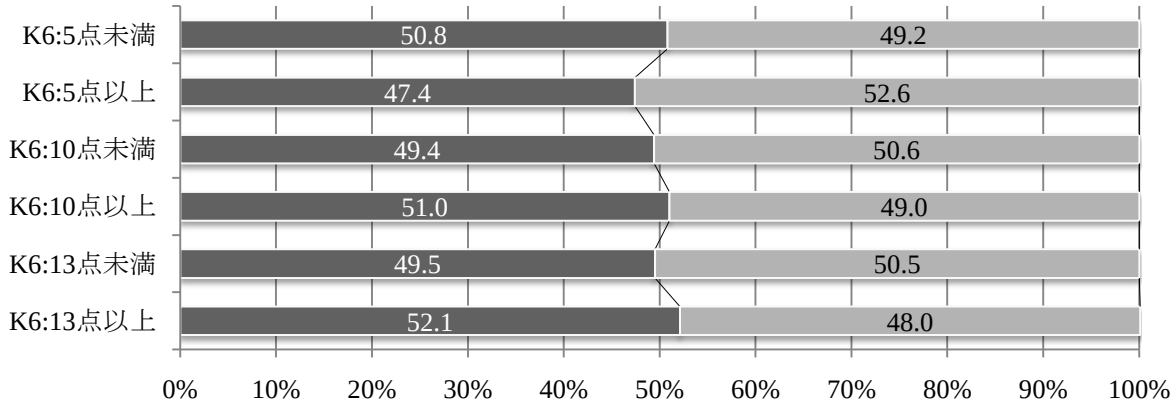
図Ⅴ-23~33（表Ⅴ-2~4）に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の、基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 5 点、10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。

K6 で 5 点以上、つまり重度ストレス相当を感じている方では、年齢構成、教育年数、回答された方の職業、主たる家計者の職業において、それ以外の方と統計的な差異がみられた。重度ストレス相当を感じている方では、平均年齢が高く、教育年数が短かった。年齢階級別では 70 歳代の方の割合が高いようであった。回答された方の職業、主たる家計者の職業においては、年金受給者、無職の方の割合が高いようであった。中越沖地震時の住まいや、中越沖地震をきっかけとした住まいの変化、現在仮設住宅に居住しているか否かということについては、重度ストレス相当を感じている方とそれ以外の方とに統計的な差異はみられなかった。

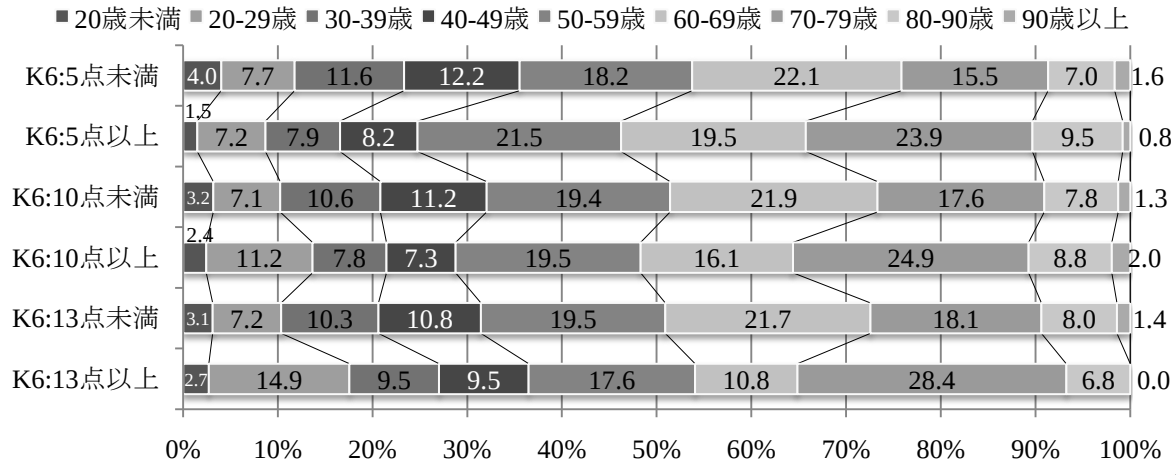
そして、K6 で 10 点以上、つまり、気分・不安障害が疑われる方と、それ以外の方とを比較して、統計的な差異がみられた項目は、年齢構成、教育年数、世帯主との関係、回答者の職業、主たる家計者の職業であった。年齢階級別では、気分・不安障害が疑われる方では、重度ストレス相当を感じている方の場合と同様に、70 歳代の割合が高いようであったが、それに加え、20 歳代の割合も高いようであった。教育年数は気分・不安障害が疑われる方でやや短くなっており、世帯主との関係においては、回答者が世帯主である方の割合が高くなっているようであった。回答

者の職業、主たる家計者の職業においては、重度ストレス相当を感じている方の場合と同様に、年金受給者、無職の方の割合が高いようであった。なお、K6 で、13 点以上に該当する回答者数は少なく、統計的に差異のある項目はみられなかった。

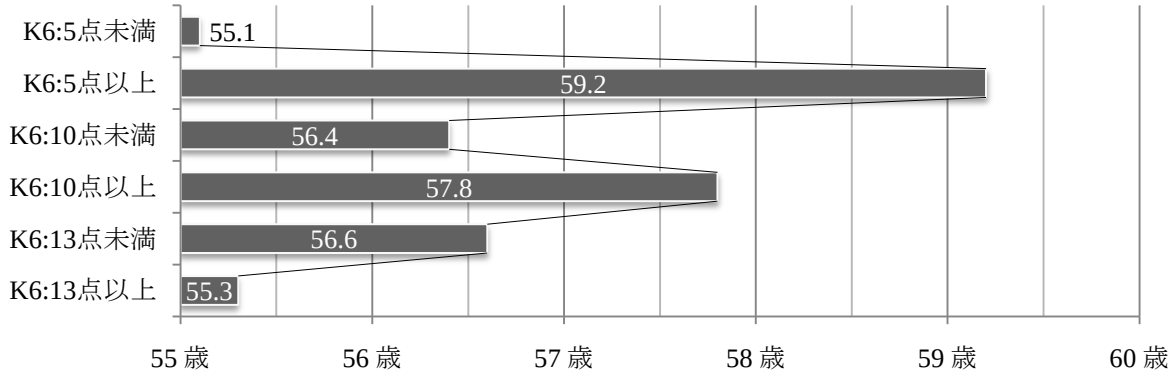
図Ⅴ-23.性別



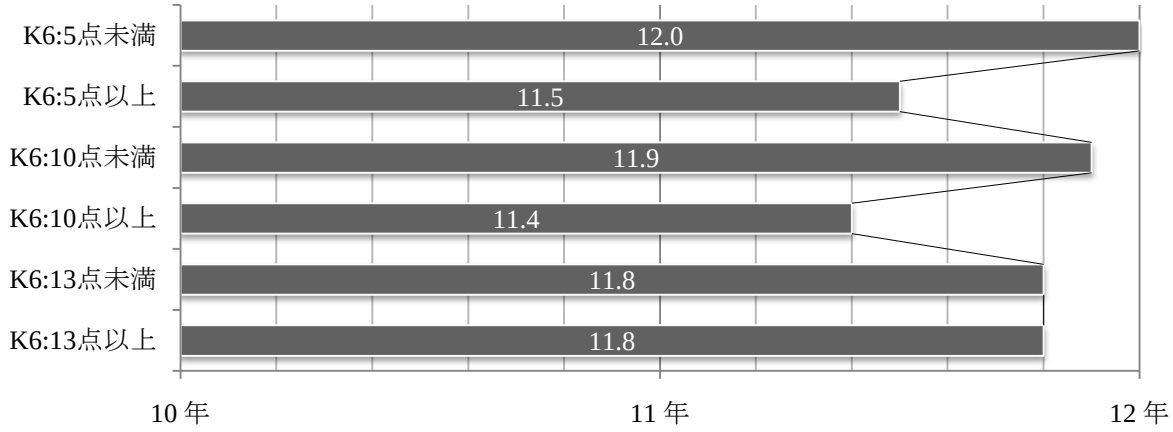
図Ⅴ-24.年齢階級



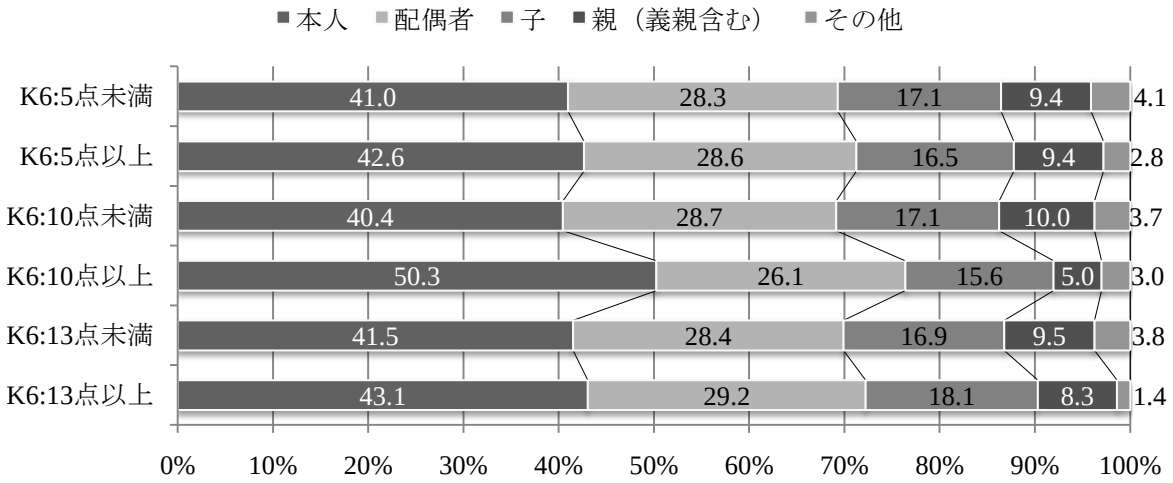
図Ⅴ-25.平均年齢



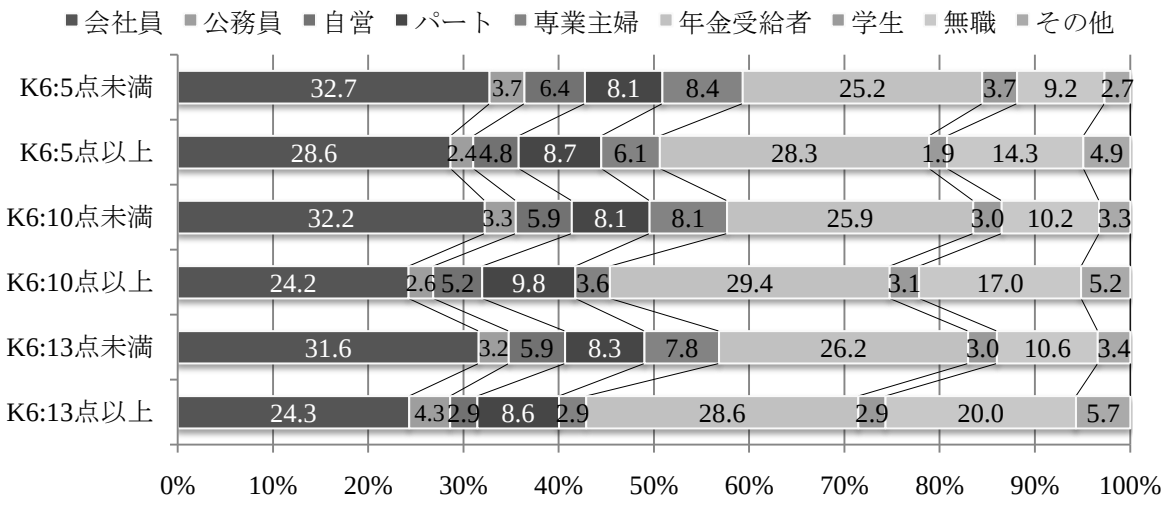
図Ⅴ-26.教育年数



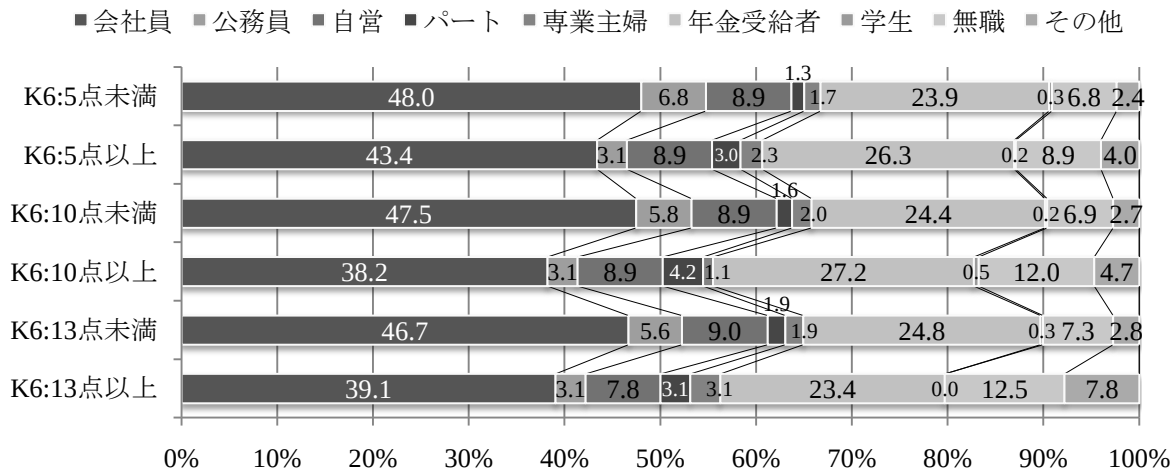
図Ⅴ-27.世帯主との関係



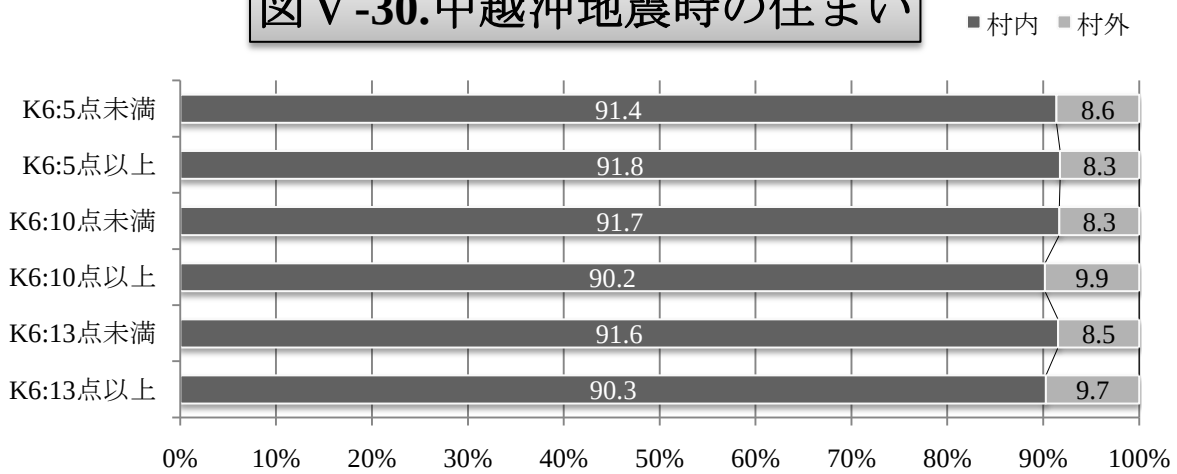
図Ⅴ-28.回答者の職業



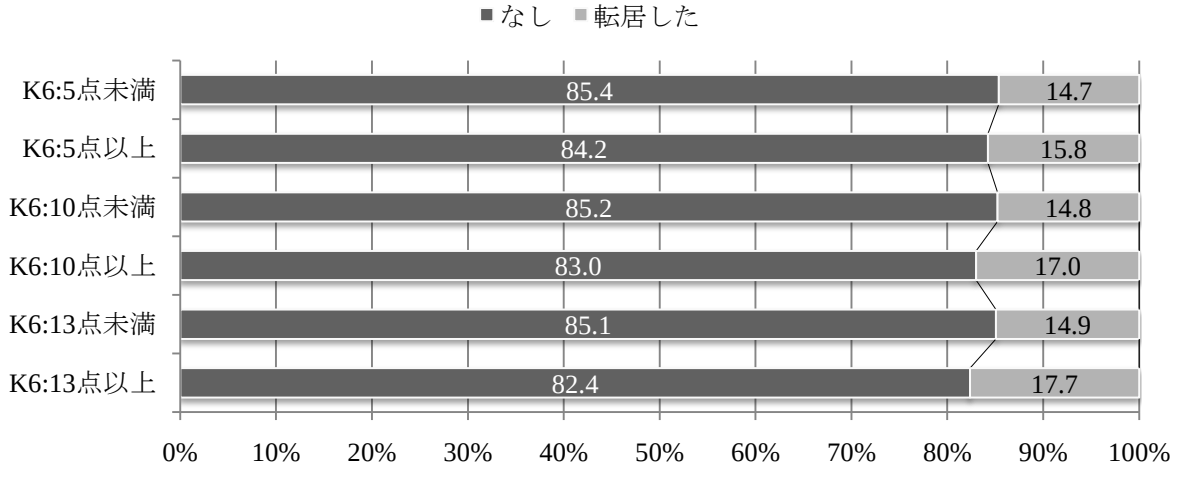
図Ⅴ-29.主たる家計者の職業



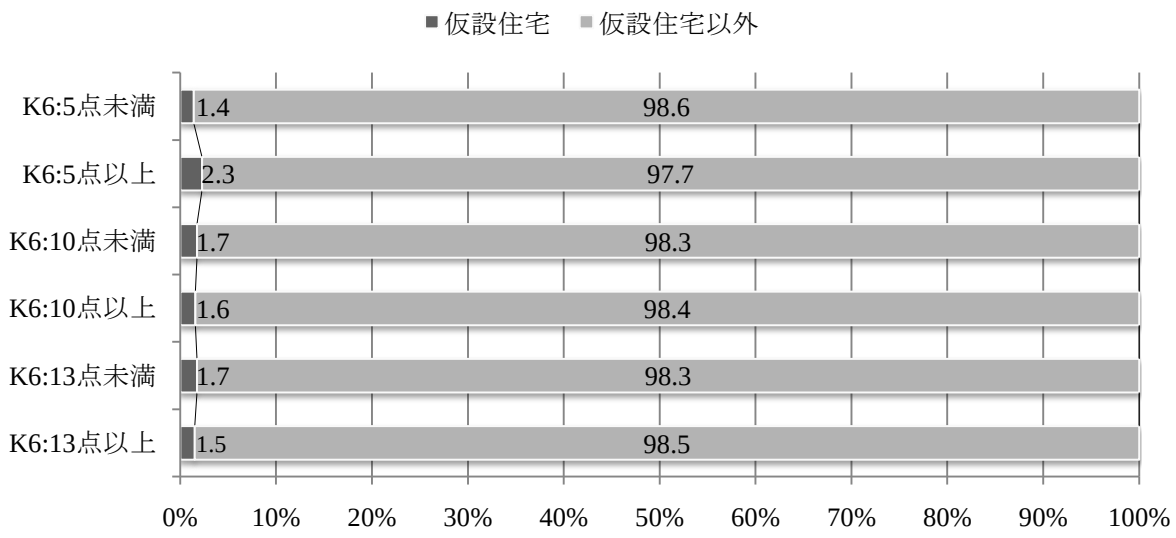
図Ⅴ-30.中越沖地震時の住まい



図Ⅴ-31.中越沖地震をきっかけとした住まいの変化

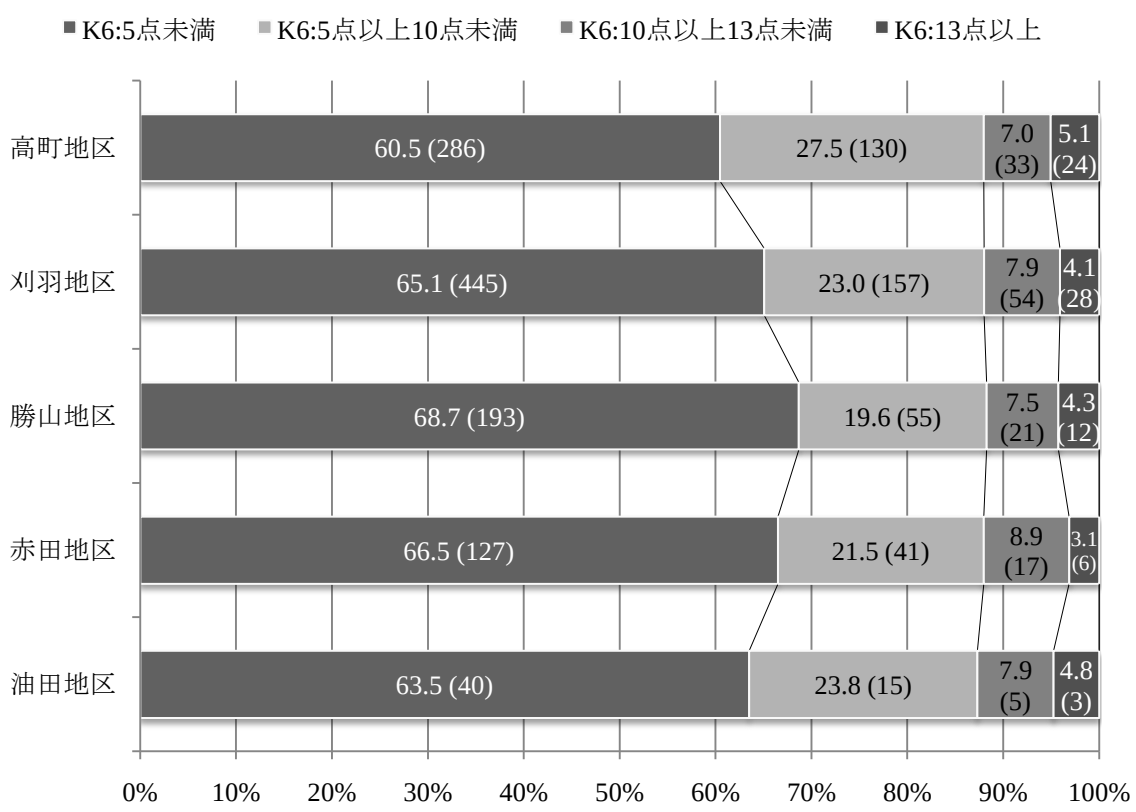


図Ⅴ-32.現在の住まい



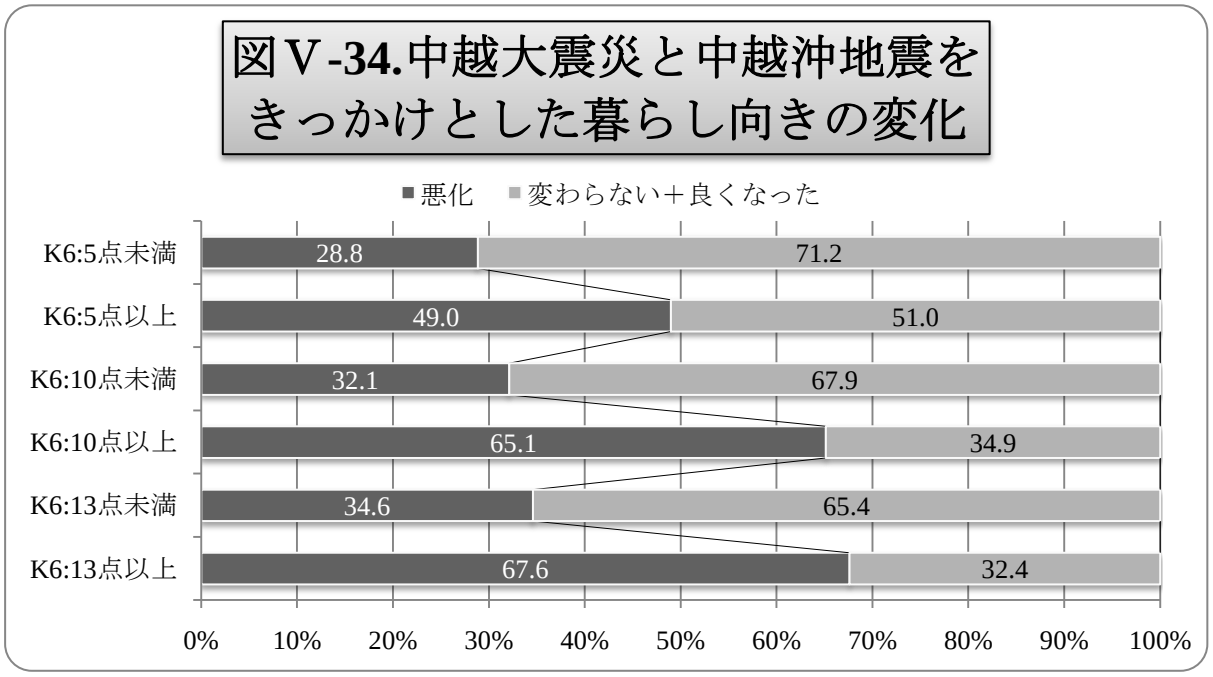
図Ⅴ-33.地区別

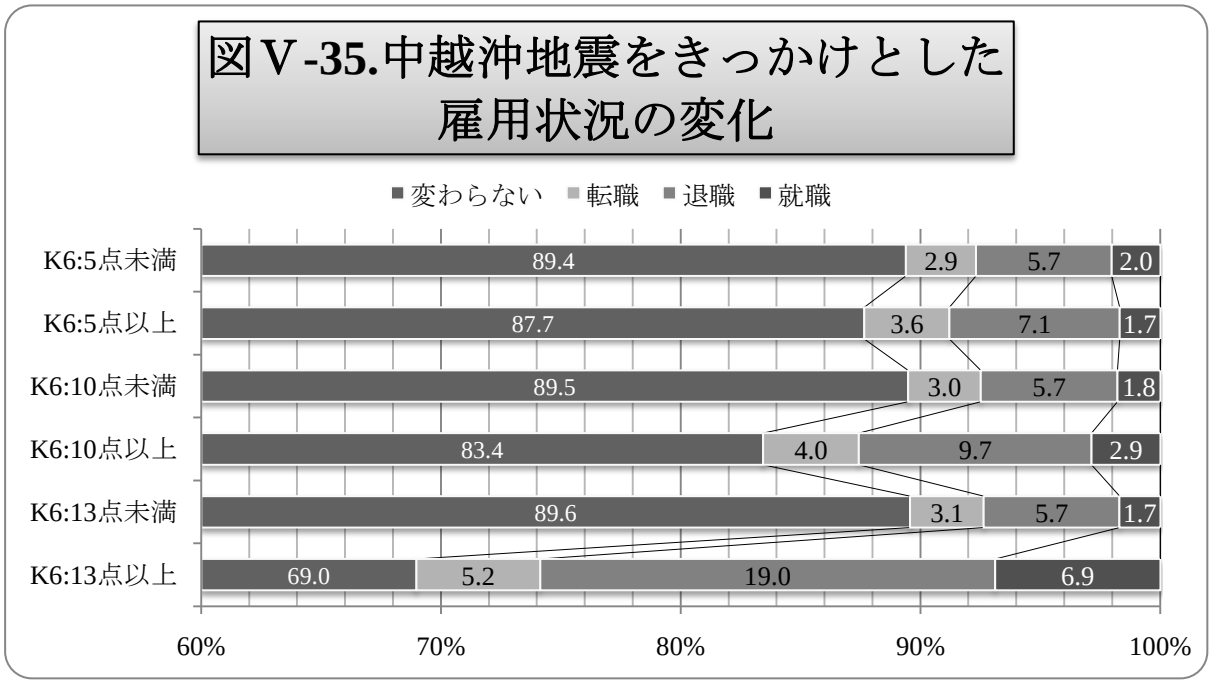
※( ) 内の数字は人数



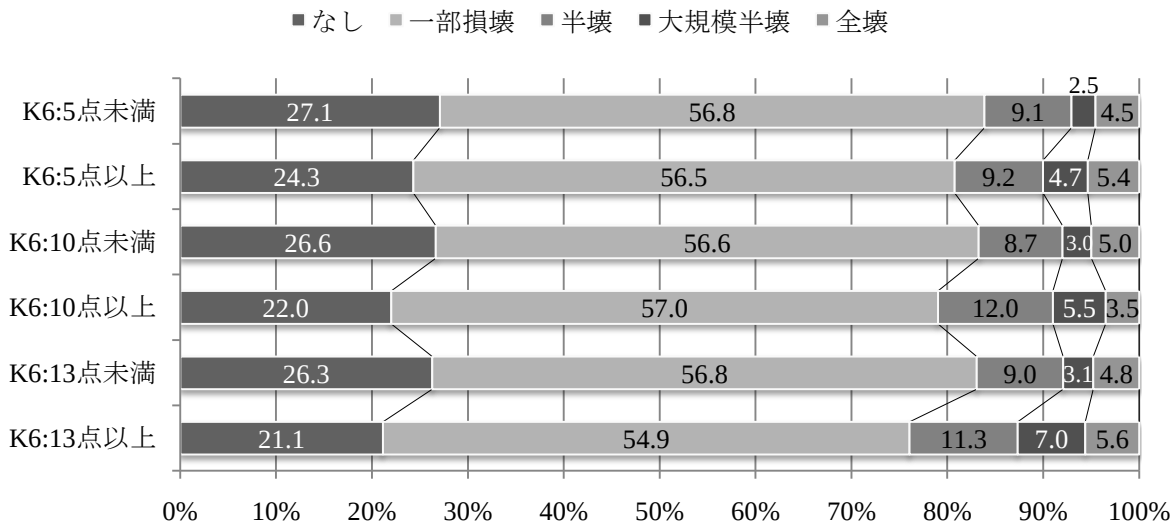
内訳：高町地区（正明寺,下高町,上高町,新屋敷）　赤田地区（枯木,赤田町方,赤田北方）
刈羽地区（大塚,西谷,割町新田,刈羽,井岡）　油田地区（黒川,油田）
勝山地区（十日市, 西元寺,寺尾,滝谷,滝谷新田,入和田）

図Ⅴ-34~37（表Ⅴ-5~7）に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の、震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。K6 で 5 点以上の方は、中越大震災と中越沖地震をきっかけとして、暮らし向きの悪化した方、中越沖地震における家屋被害が大きかった方の割合が、それ以外の方に比べて統計的に高かった。さらに、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較においても、K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合と同様に、K6 で 10 点以上の方、また K6 で 13 点以上の方では、中越大震災と中越沖地震をきっかけとして、暮らし向きの悪化した方の割合が高くなっていた。中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化において、K6 で 13 点以上の方とそれ以外の方との間に差異がみられたが、K6 で 13 点以上に該当した方の人数は少なく、また雇用状況に変化のあった方の人数も少ないため、統計的検定の解釈には注意を要する。

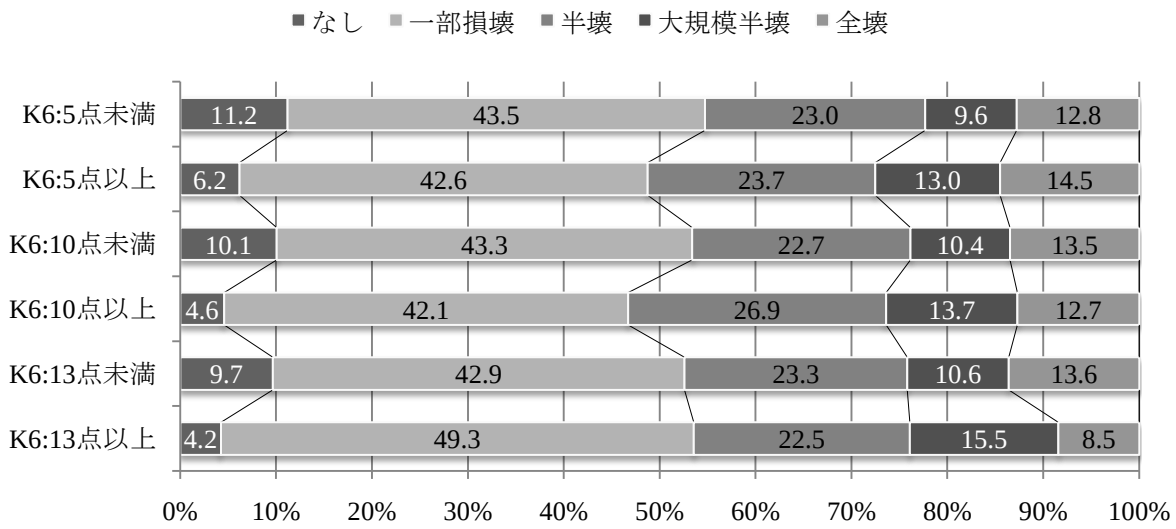




図Ⅴ-36.中越大震災時の家屋被害

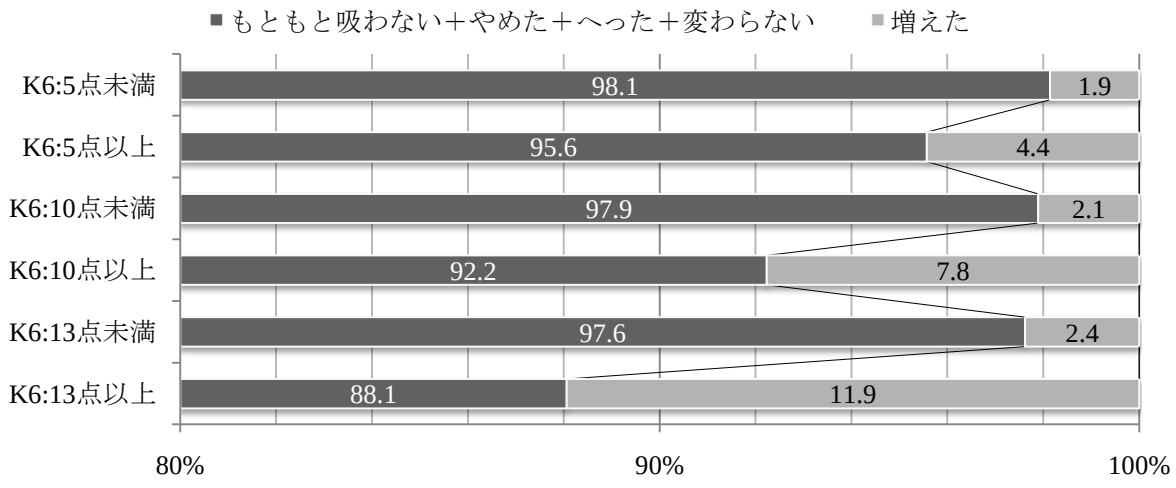


図Ⅴ-37.中越沖地震時の家屋被害

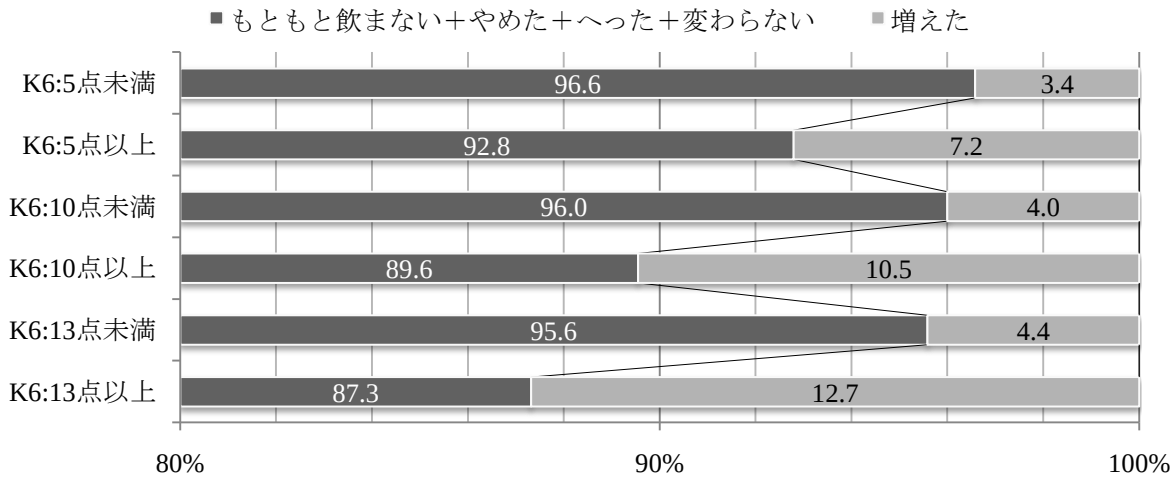


図Ⅴ-38~43（表Ⅴ-8~10）に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の、健康行動に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。K6 が 5 点以上の方は、喫煙が増えた方、飲酒が増えた方、体調の悪化を自覚している方、体重が変化した方（増加、減少とも）、中越沖地震のときに介助が必要だった方（部分的、全面的とも）、現在受診している方の割合が、いずれもそれ以外の方と比較して、統計的に高かった。さらに、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較においても、いずれの変数も上記と同じパターンを示し、カットオフポイントが、5 点、10 点、13 点と高くなり、精神健康が悪化するごとに、それぞれのリスク項目の該当者の割合は増え、これらの傾向は顕著なものとなっていた。

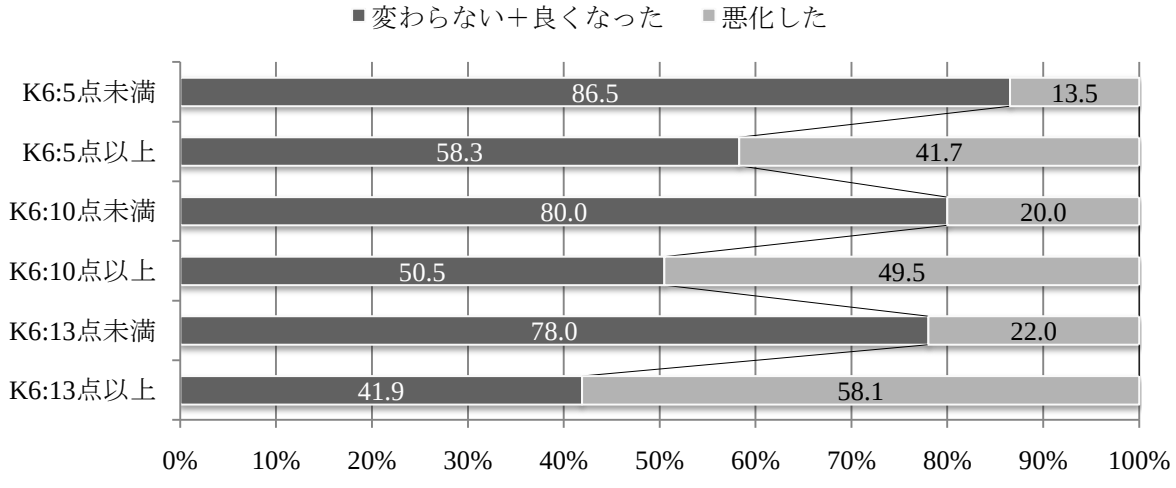
図Ⅴ-38.中越沖地震前と比べた喫煙状況



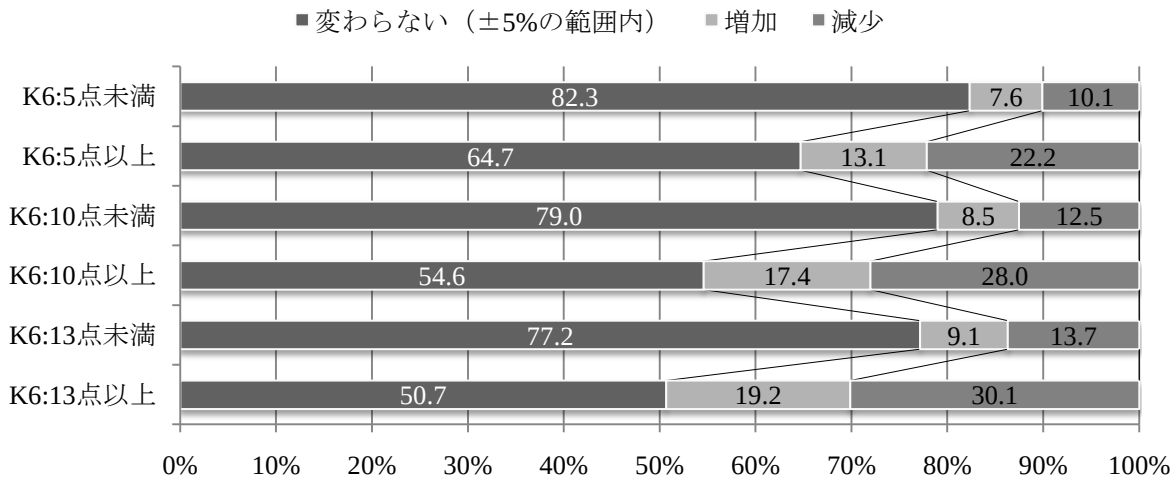
図Ⅴ-39.中越沖地震前と比べた飲酒状況



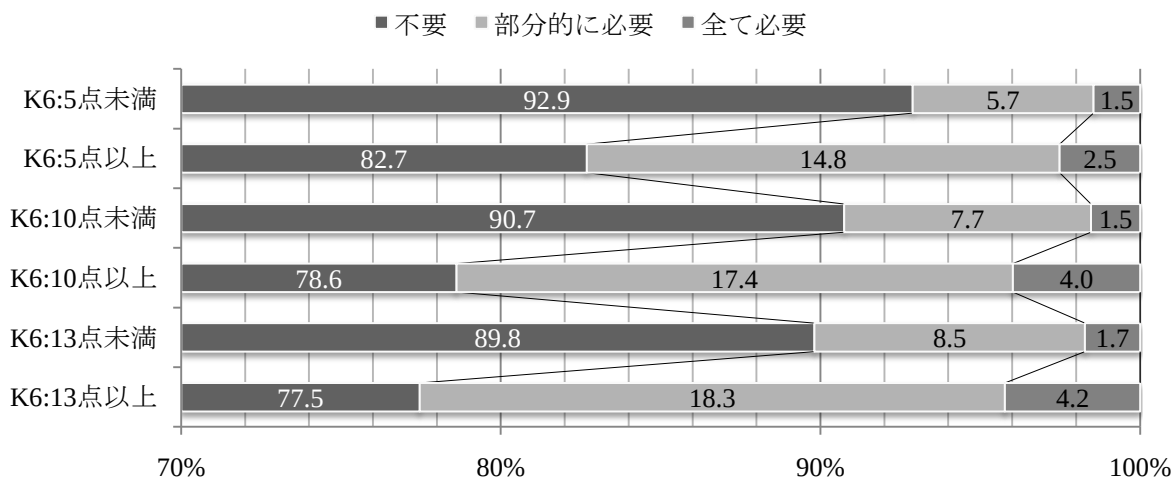
図Ⅴ-40.中越沖地震前と比べた体調の変化



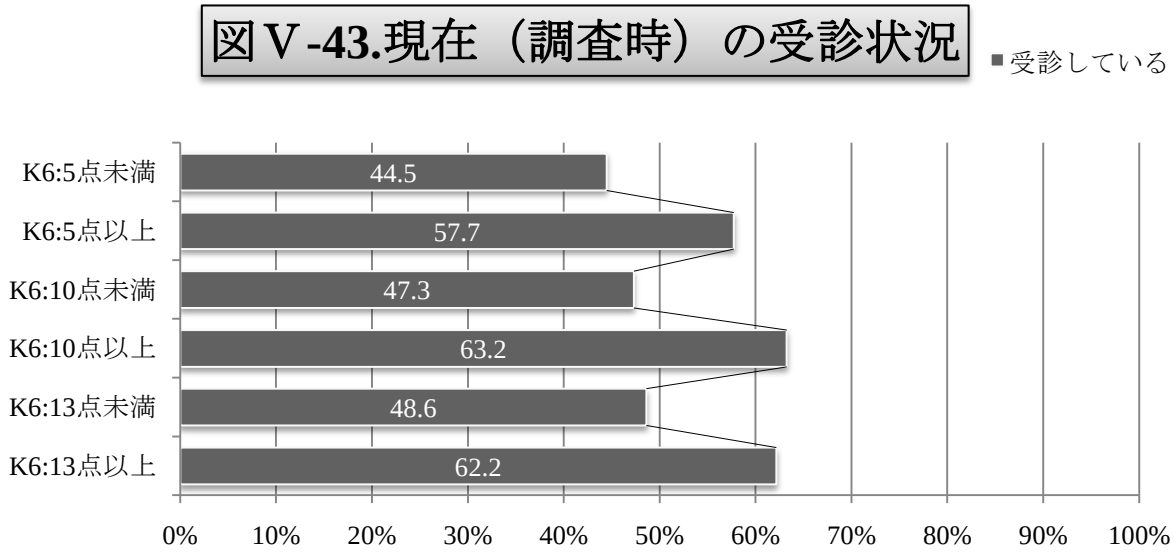
図Ⅴ-41.中越沖地震前と比べた体重の変化



図Ⅴ-42.中越沖地震の時の介助の必要度



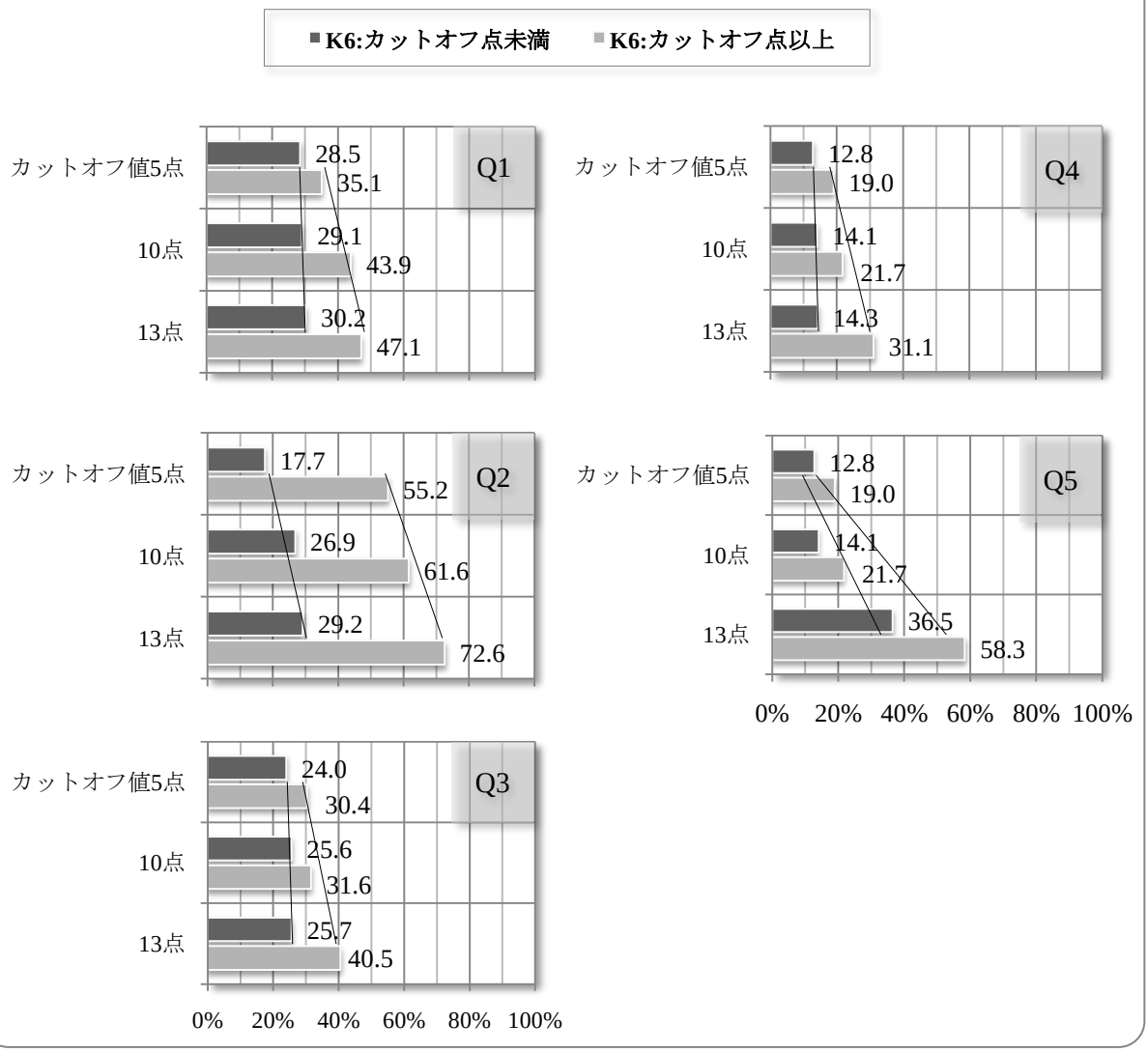
図Ⅴ-43.現在（調査時）の受診状況



図Ⅴ-44（表Ⅴ-11~13）に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の、ソーシャルサポート等に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較を示した。それぞれの項目について否定的な回答をした割合について、カットオフ値以上の方とそれ以外の方について検討した。ソーシャルサポート、仕事以外のやりがいについて、いずれも否定的な回答をした方の割合が、カットオフ値以上の方ではそれ以外の方に比べて統計的に有意に高かった。さらに、K6 のカットオフ値を 10 点、13 点に設定した場合の精神健康度別の比較においても、いずれの変数も上記とほぼ同じパターンを示し、カットオフポイントが、5 点、10 点、13 点と高まるごとに、それぞれのリスク項目の該当者の割合は増え、これらの傾向は顕著なものとなっていた。

図Ⅴ-44.ソーシャルサポート等に関する認識

Q1	わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。「そう感じない」
Q2	わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。（反転項目）「そう感じる」
Q3	わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。「そう感じない」
Q4	わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。「そう感じない」
Q5	わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。「そう感じない」

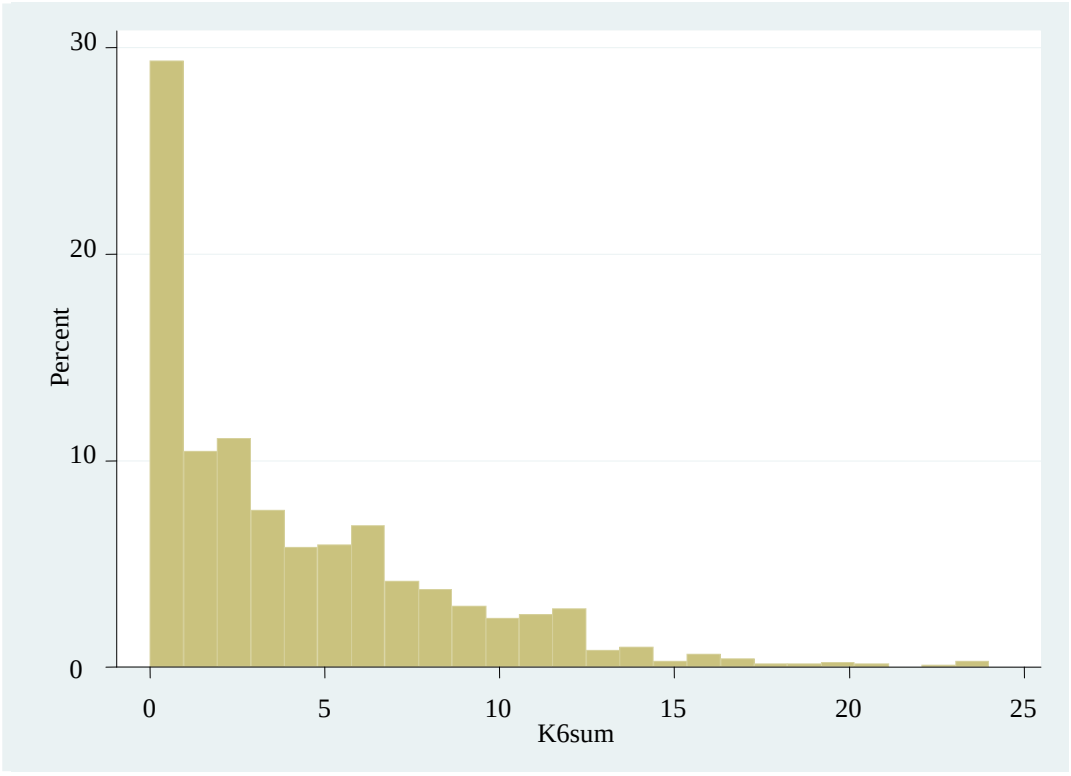


図Ⅴ-45（表Ⅴ-14~16）に、K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の、年齢階級別における精神健康度の性別比較を示した。30 歳未満（Fisher's exact test、p=0.014）と 70 歳代（Fisher's exact test、p=0.007）では、男性よりも女性において、重度ストレスを感じている方の割合が高かった。そして、K6 のカットオフ値を 10 点にした場合には、30 歳未満では女性においてカットオフ値を越える方の割合が高く（Fisher's exact test、p=0.024）、40 歳代（Fisher's exact test、p=0.002）と 80 歳以上（Fisher's exact test、p=0.033）においては、男性でカットオフ値を越える方の割合が高かった。K6 のカットオフ値を 13 点にした場合には、性別でカットオフ値を越える方の割合に統計的な差異はみられなかった。

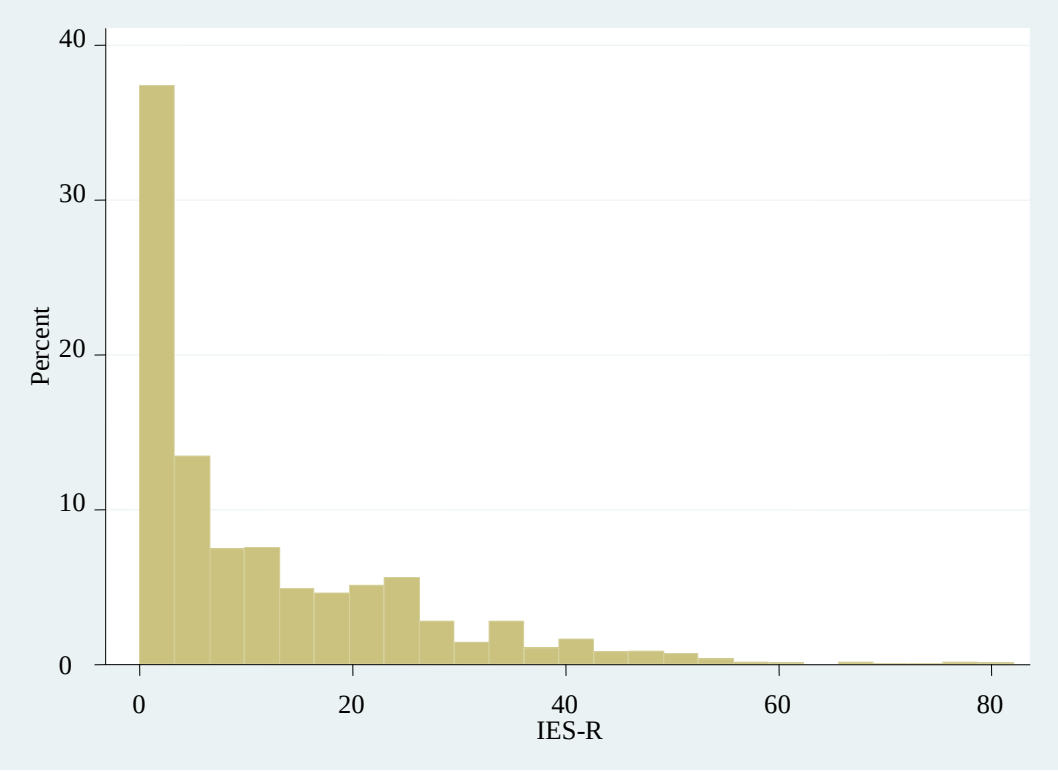


最後に、図Ⅴ-46 に刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 合計点の度数分布、そして、図Ⅴ-47 に刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の IES-R 合計点の度数分布を示した。K6 の合計点の分布は、平均値が 3.9、標準偏差が 4.4、最小値が 0、最大値が 24 であり、0 から低得点に偏った分布であった。IES-R の合計点の分布は、平均値が 11.8、標準偏差が 13.6、最少値は 0、最大値は 82 であった。これらの分布は、1 年後調査の分布と比較して、平均値が若干下がったものの、同様のパターンであった。図Ⅴ-48 に、刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 と IES-R 合計点の散布図を示した。K6 と IES-R 得点の相関係数は 0.5869 であり、両者に相関がみられた。

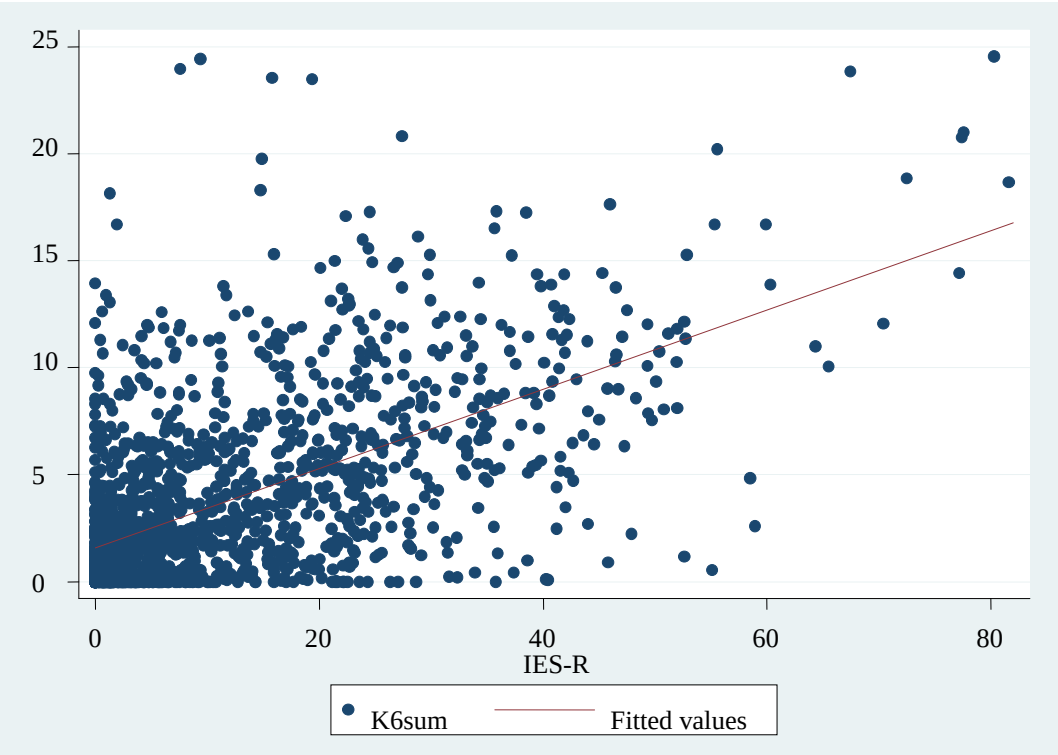
図Ⅴ-46. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 合計点の分布



図Ⅴ-47. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の IES-R 合計点の分布



図Ⅴ-48. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の K6 と IES-R 合計点の散布図



表Ⅴ-2. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上					
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2/t		p
	1,724		1,108		616					
性別										
男性	851	49.6	561	50.8	290	47.4	1	1.9		0.173
女性	865	50.4	543	49.2	322	52.6				
年齢階級										
20 歳未満	53	3.1	44	4.0	9	1.5	8	42.9	†	<0.001
20-29 歳	129	7.6	85	7.7	44	7.2				
30-39 歳	175	10.3	127	11.6	48	7.9				
40-49 歳	184	10.8	134	12.2	50	8.2				
50-59 歳	331	19.4	200	18.2	131	21.5				
60-69 歳	362	21.2	243	22.1	119	19.5				
70-79 歳	316	18.5	170	15.5	146	23.9				
80-89 歳	135	7.9	77	7.0	58	9.5				
90 歳以上	23	1.4	18	1.6	5	0.8				
平均年齢 (標準偏差)	56.5	(18.3)	55.1	(18.5)	59.2	(17.7)	1,706	-4.4	†	<0.001
教育年数 (標準偏差)	11.8	(2.3)	12.0	(2.3)	11.5	(2.3)	1,676	3.6	†	<0.001
世帯主との関係										
本人	705	41.6	447	41.0	258	42.6	4	2.2		0.699
配偶者	482	28.4	309	28.3	173	28.6				
子	287	16.9	187	17.1	100	16.5				
親（義親も含む）	160	9.4	103	9.4	57	9.4				
その他	62	3.7	45	4.1	17	2.8				
回答者の職業										
会社員	518	31.3	350	32.7	168	28.6	8	28.2	†	<0.001
公務員	53	3.2	39	3.7	14	2.4				
自営	96	5.8	68	6.4	28	4.8				
パート	138	8.3	87	8.1	51	8.7				
専業主婦	126	7.6	90	8.4	36	6.1				
年金受給者	435	26.3	269	25.2	166	28.3				
学生	50	3.0	39	3.7	11	1.9				
無職	182	11.0	98	9.2	84	14.3				
その他	58	3.5	29	2.7	29	4.9				
主たる家計者の職業										
会社員	754	46.4	505	48.0	249	43.4	8	23.0	†	0.003
公務員	89	5.5	71	6.8	18	3.1				
自営	145	8.9	94	8.9	51	8.9				
パート	31	1.9	14	1.3	17	3.0				
専業主婦	31	1.9	18	1.7	13	2.3				
年金受給者	402	24.7	251	23.9	151	26.3				
学生	4	0.3	3	0.3	1	0.2				
無職	122	7.5	71	6.8	51	8.9				
その他	48	3.0	25	2.4	23	4.0				
中越沖地震時の住まい										
村内	1,560	91.5	1,004	91.4	556	91.8	1	0.1		0.780
村外	145	8.5	95	8.6	50	8.3				
中越沖地震をきっかけとした住まいの変化										
なし	1,428	85.0	932	85.4	496	84.2	1	0.4		0.534
転居した	253	15.1	160	14.7	93	15.8				
現在の住まい										
仮設住宅	28	1.7	15	1.4	13	2.3	1	1.6		0.208
仮設住宅以外	1,604	98.3	1,043	98.6	561	97.7				

Chi-square tests or t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅴ-3. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2/t	p
	1,724		1,516		208				
性別									
男性	851	49.6	747	49.4	104	51.0	1	0.2	0.673
女性	865	50.4	765	50.6	100	49.0			
年齢階級									
20 歳未満	53	3.1	48	3.2	5	2.4	8	17.3 *	0.028
20-29 歳	129	7.6	106	7.1	23	11.2			
30-39 歳	175	10.3	159	10.6	16	7.8			
40-49 歳	184	10.8	169	11.2	15	7.3			
50-59 歳	331	19.4	291	19.4	40	19.5			
60-69 歳	362	21.2	329	21.9	33	16.1			
70-79 歳	316	18.5	265	17.6	51	24.9			
80-89 歳	135	7.9	117	7.8	18	8.8			
90 歳以上	23	1.4	19	1.3	4	2.0			
平均年齢 (標準偏差)	56.5	(18.3)	56.4	(18.2)	57.8	(19.6)	1,706	-1.1	0.290
教育年数 (標準偏差)	11.8	(2.3)	11.9	(2.3)	11.4	(2.5)	1,676	2.8 †	0.005
世帯主との関係									
本人	705	41.6	605	40.4	100	50.3	4	9.6 *	0.047
配偶者	482	28.4	430	28.7	52	26.1			
子	287	16.9	256	17.1	31	15.6			
親（義親も含む）	160	9.4	150	10.0	10	5.0			
その他	62	3.7	56	3.7	6	3.0			
回答者の職業									
会社員	518	31.3	471	32.2	47	24.2	8	18.9 †	0.016
公務員	53	3.2	48	3.3	5	2.6			
自営	96	5.8	86	5.9	10	5.2			
パート	138	8.3	119	8.1	19	9.8			
専業主婦	126	7.6	119	8.1	7	3.6			
年金受給者	435	26.3	378	25.9	57	29.4			
学生	50	3.0	44	3.0	6	3.1			
無職	182	11.0	149	10.2	33	17.0			
その他	58	3.5	48	3.3	10	5.2			
主たる家計者の職業									
会社員	754	46.4	681	47.5	73	38.2	8	21.4 †	0.006
公務員	89	5.5	83	5.8	6	3.1			
自営	145	8.9	128	8.9	17	8.9			
パート	31	1.9	23	1.6	8	4.2			
専業主婦	31	1.9	29	2.0	2	1.1			
年金受給者	402	24.7	350	24.4	52	27.2			
学生	4	0.3	3	0.2	1	0.5			
無職	122	7.5	99	6.9	23	12.0			
その他	48	3.0	39	2.7	9	4.7			
中越沖地震時の住まい									
村内	1,560	91.5	1,377	91.7	183	90.2	1	0.5	0.463
村外	145	8.5	125	8.3	20	9.9			
中越沖地震をきっかけとした住まいの変化									
なし	1,428	85.0	1,267	85.2	161	83.0	1	0.7	0.417
転居した	253	15.1	220	14.8	33	17.0			
現在の住まい									
仮設住宅	28	1.7	25	1.7	3	1.6	1	0.0	0.870
仮設住宅以外	1,604	98.3	1,416	98.3	188	98.4			

Chi-square tests or t-test were used.

*: $p<0.05$, †: $p<0.01$

表Ⅴ-4. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の基本的属性に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2/t	p
	1,724		1,650		74				
性別									
男性	851	49.6	813	49.5	38	52.1	1	0.2	0.667
女性	865	50.4	830	50.5	35	48.0			
年齢階級									
20 歳未満	53	3.1	51	3.1	2	2.7	8	15.0	0.059
20-29 歳	129	7.6	118	7.2	11	14.9			
30-39 歳	175	10.3	168	10.3	7	9.5			
40-49 歳	184	10.8	177	10.8	7	9.5			
50-59 歳	331	19.4	318	19.5	13	17.6			
60-69 歳	362	21.2	354	21.7	8	10.8			
70-79 歳	316	18.5	295	18.1	21	28.4			
80-89 歳	135	7.9	130	8.0	5	6.8			
90 歳以上	23	1.4	23	1.4	0	0.0			
平均年齢 (標準偏差)	56.5	(18.3)	56.6	(18.2)	55.3	(20.1)	1,706	0.6	0.540
教育年数 (標準偏差)	11.8	(2.3)	11.8	(2.3)	11.8	(2.6)	1,676	0.2	0.871
世帯主との関係									
本人	705	41.6	674	41.5	31	43.1	4	1.3	0.867
配偶者	482	28.4	461	28.4	21	29.2			
子	287	16.9	274	16.9	13	18.1			
親（義親も含む）	160	9.4	154	9.5	6	8.3			
その他	62	3.7	61	3.8	1	1.4			
回答者の職業									
会社員	518	31.3	501	31.6	17	24.3	8	11.2	0.188
公務員	53	3.2	50	3.2	3	4.3			
自営	96	5.8	94	5.9	2	2.9			
パート	138	8.3	132	8.3	6	8.6			
専業主婦	126	7.6	124	7.8	2	2.9			
年金受給者	435	26.3	415	26.2	20	28.6			
学生	50	3.0	48	3.0	2	2.9			
無職	182	11.0	168	10.6	14	20.0			
その他	58	3.5	54	3.4	4	5.7			
主たる家計者の職業									
会社員	754	46.4	729	46.7	25	39.1	8	10.3	0.243
公務員	89	5.5	87	5.6	2	3.1			
自営	145	8.9	140	9.0	5	7.8			
パート	31	1.9	29	1.9	2	3.1			
専業主婦	31	1.9	29	1.9	2	3.1			
年金受給者	402	24.7	387	24.8	15	23.4			
学生	4	0.3	4	0.3	0	0.0			
無職	122	7.5	114	7.3	8	12.5			
その他	48	3.0	43	2.8	5	7.8			
中越沖地震時の住まい									
村内	1,560	91.5	1,495	91.6	65	90.3	1	0.1	0.705
村外	145	8.5	138	8.5	7	9.7			
中越沖地震をきっかけとした住まいの変化									
なし	1,428	85.0	1,372	85.1	56	82.4	1	0.4	0.541
転居した	253	15.1	241	14.9	12	17.7			
現在の住まい									
仮設住宅	28	1.7	27	1.7	1	1.5	1	0.0	0.886
仮設住宅以外	1,604	98.3	1,538	98.3	66	98.5			

Chi-square tests or t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅴ-5. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	1,724		1,108		616				
中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化									
悪化	599	36.0	310	28.8	289	49.0	1	67.1 †	<0.001
不変・良くなった	1,066	64.0	765	71.2	301	51.0			
中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化									
転職	48	3.2	29	2.9	19	3.6	3	1.9	0.587
退職	94	6.2	56	5.7	38	7.1			
就職	29	1.9	20	2.0	9	1.7			
不変	1,354	88.8	885	89.4	469	87.7			
中越大震災時の家屋被害									
なし	437	26.1	292	27.1	145	24.3	4	7.3	0.121
一部損壊	950	56.7	613	56.8	337	56.5			
半壊	153	9.1	98	9.1	55	9.2			
大規模半壊	55	3.3	27	2.5	28	4.7			
全壊	81	4.8	49	4.5	32	5.4			
中越沖地震時の家屋被害									
なし	159	9.4	122	11.2	37	6.2	4	15.8 †	0.003
一部損壊	729	43.2	474	43.5	255	42.6			
半壊	392	23.2	250	23.0	142	23.7			
大規模半壊	182	10.8	104	9.6	78	13.0			
全壊	226	13.4	139	12.8	87	14.5			

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅴ-6. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	1,724		1,516		208				
中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化									
悪化	599	36.0	472	32.1	127	65.1	1	81.5 †	<0.001
不変・良くなった	1,066	64.0	998	67.9	68	34.9			
中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化									
転職	48	3.2	41	3.0	7	4.0	3	6.1	0.107
退職	94	6.2	77	5.7	17	9.7			
就職	29	1.9	24	1.8	5	2.9			
不変	1,354	88.8	1,208	89.5	146	83.4			
中越大震災時の家屋被害									
なし	437	26.1	393	26.6	44	22.0	4	7.7	0.102
一部損壊	950	56.7	836	56.6	114	57.0			
半壊	153	9.1	129	8.7	24	12.0			
大規模半壊	55	3.3	44	3.0	11	5.5			
全壊	81	4.8	74	5.0	7	3.5			
中越沖地震時の家屋被害									
なし	159	9.4	150	10.1	9	4.6	4	8.8	0.067
一部損壊	729	43.2	646	43.3	83	42.1			
半壊	392	23.2	339	22.7	53	26.9			
大規模半壊	182	10.8	155	10.4	27	13.7			
全壊	226	13.4	201	13.5	25	12.7			

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅴ-7. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の震災による影響に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	1,724		1,650		74				
中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化									
悪化	599	36.0	551	34.6	48	67.6	1	32.2 †	<0.001
不変・良くなった	1,066	64.0	1,043	65.4	23	32.4			
中越沖地震をきっかけとした雇用状況の変化									
転職	48	3.2	45	3.1	3	5.2	3	27.4 †	<0.001
退職	94	6.2	83	5.7	11	19.0			
就職	29	1.9	25	1.7	4	6.9			
不変	1,354	88.8	1,314	89.6	40	69.0			
中越大震災時の家屋被害									
なし	437	26.1	422	26.3	15	21.1	4	4.4	0.354
一部損壊	950	56.7	911	56.8	39	54.9			
半壊	153	9.1	145	9.0	8	11.3			
大規模半壊	55	3.3	50	3.1	5	7.0			
全壊	81	4.8	77	4.8	4	5.6			
中越沖地震時の家屋被害									
なし	159	9.4	156	9.7	3	4.2	4	5.7	0.227
一部損壊	729	43.2	694	42.9	35	49.3			
半壊	392	23.2	376	23.3	16	22.5			
大規模半壊	182	10.8	171	10.6	11	15.5			
全壊	226	13.4	220	13.6	6	8.5			

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅴ-8. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	1,724		1,108		616				
中越沖地震前と比べた喫煙状況									
もともと吸わない・やめた・減った・不変	1,616	97.2	1,055	98.1	561	95.6	1	9.3 †	0.002
増えた	46	2.8	20	1.9	26	4.4			
中越沖地震前と比べた飲酒状況									
もともと飲まない・やめた・減った・不変	1,597	95.2	1,044	96.6	553	92.8	1	12.2 †	<0.001
増えた	80	4.8	37	3.4	43	7.2			
体調の変化									
不変・良くなった	1,307	76.4	951	86.5	356	58.3	1	174.2 †	<0.001
悪化した	403	23.6	148	13.5	255	41.7			
体重の変化									
変わらない	1,297	76.0	903	82.3	394	64.7	2	68.1 †	<0.001
増加	163	9.6	83	7.6	80	13.1			
減少	246	14.4	111	10.1	135	22.2			
中越沖地震のとき介助が必要									
不要	1,510	89.3	1,018	92.9	492	82.7	2	43.1 †	<0.001
部分的に必要	150	8.9	62	5.7	88	14.8			
全て必要	31	1.8	16	1.5	15	2.5			
現在の受診	837	49.2	486	44.5	351	57.7	1	27.5 †	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅴ-9. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	1,724		1,516		208				
中越沖地震前と比べた喫煙状況									
もともと吸わない・やめた・減った・不変	1,616	97.2	1,438	97.9	178	92.2	1	20.3 †	<0.001
増えた	46	2.8	31	2.1	15	7.8			
中越沖地震前と比べた飲酒状況									
もともと飲まない・やめた・減った・不変	1,597	95.2	1,417	96.0	180	89.6	1	16.2 †	<0.001
増えた	80	4.8	59	4.0	21	10.5			
体調の変化									
不変・良くなった	1,307	76.4	1,203	80.0	104	50.5	1	87.5 †	<0.001
悪化した	403	23.6	301	20.0	102	49.5			
体重の変化									
変わらない	1,297	76.0	1,184	79.0	113	54.6	2	59.6 †	<0.001
増加	163	9.6	127	8.5	36	17.4			
減少	246	14.4	188	12.5	58	28.0			
中越沖地震のとき介助が必要									
不要	1,510	89.3	1,352	90.7	158	78.6	2	27.4 †	<0.001
部分的に必要	150	8.9	115	7.7	35	17.4			
全て必要	31	1.8	23	1.5	8	4.0			
現在の受診	837	49.2	708	47.3	129	63.2	1	18.3 †	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅴ-10. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の健康行動に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	1,724		1,650		74				
中越沖地震前と比べた喫煙状況									
もともと吸わない・やめた・減った・不変	1,616	97.2	1,557	97.6	59	88.1	1	21.8 †	0.002
増えた	46	2.8	38	2.4	8	11.9			
中越沖地震前と比べた飲酒状況									
もともと飲まない・やめた・減った・不変	1,597	95.2	1,535	95.6	62	87.3	1	10.2 †	0.001
増えた	80	4.8	71	4.4	9	12.7			
体調の変化									
不変・良くなった	1,307	76.4	1,276	78.0	31	41.9	1	51.2 †	<0.001
悪化した	403	23.6	360	22.0	43	58.1			
体重の変化									
変わらない	1,297	76.0	1,260	77.2	37	50.7	2	26.9 †	<0.001
増加	163	9.6	149	9.1	14	19.2			
減少	246	14.4	224	13.7	22	30.1			
中越沖地震のとき介助が必要									
不要	1,510	89.3	1,455	89.8	55	77.5	2	10.9 †	0.004
部分的に必要	150	8.9	137	8.5	13	18.3			
全て必要	31	1.8	28	1.7	3	4.2			
現在の受診	837	49.2	791	48.6	46	62.2	1	5.2 *	0.023

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01

表Ⅴ-11. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポート等に関する K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	1,724		1,108		616				
わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。									
そう感じない	509	30.9	302	28.5	207	35.1	1	7.7 †	0.005
わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。§									
そう感じる	525	31.1	192	17.7	333	55.2	1	255.9 †	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。									
そう感じない	446	26.3	261	24.0	185	30.4	1	8.1 †	0.004
わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。									
そう感じない	255	15.0	139	12.8	116	19.0	1	11.9 †	0.001
わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。									
そう感じない	255	15.0	139	12.8	116	19.0	1	11.9 †	0.001

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01
§:反転項目

表Ⅴ-12. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポート等に関する K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	1,724		1,516		208				
わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。									
そう感じない	509	30.9	422	29.1	87	43.9	1	18.1 †	<0.001
わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。§									
そう感じる	525	31.1	400	26.9	125	61.6	1	100.4 †	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。									
そう感じない	446	26.3	381	25.6	65	31.6	1	3.3	0.068
わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。									
そう感じない	255	15.0	210	14.1	45	21.7	1	8.4 †	0.004
わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。									
そう感じない	255	15.0	210	14.1	45	21.7	1	8.4 †	0.004

Chi-square tests and t-test were used.
*: p<0.05, †: p<0.01
§:反転項目

表Ⅴ-13. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者のソーシャルサポート等に関する K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合の精神健康度別の比較(n=1,724)

	全体		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上				
	n	%	n	%	n	%	df	χ^2	p
	1,724		1,650		74				
わたしは、グループや、社会の一員であると感じる。									
そう感じない	509	30.9	477	30.2	32	47.1	1	8.7 †	0.003
わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。§									
そう感じる	525	31.1	472	29.2	53	72.6	1	61.5 †	<0.001
わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人・知人がいると感じる。									
そう感じない	446	26.3	416	25.7	30	40.5	1	8.1 †	0.004
わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。									
そう感じない	255	15.0	232	14.3	23	31.1	1	15.7 †	<0.001
わたしには仕事以外でやりがいを感じられるものがある。									
そう感じない	255	15.0	587	36.5	42	58.3	1	14.1 †	<0.001

Chi-square tests and t-test were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

§:反転項目

表Ⅴ-14. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較（K6 のカットオフ値を 5 点に設定した場合）(n=1,705)

	全体 (n=1,705)				男性 (n=844)				女性 (n=861)				
	K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		K6: 5 点未満		K6: 5 点以上		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	p
	1,097		608		557		287		540		321		
30 歳未満	129	70.9	53	29.1	75	79.0	20	21.1	54	62.1	33	37.9 *	0.014
30-39 歳	127	72.6	48	27.4	58	65.9	30	34.1	69	79.3	18	20.7	0.062
40-49 歳	134	72.8	50	27.2	58	66.7	29	33.3	76	78.4	21	21.7	0.097
50-59 歳	200	60.6	130	39.4	98	61.6	61	38.4	102	59.7	69	40.4	0.736
60-69 歳	243	67.1	119	32.9	132	68.8	60	31.3	111	65.3	59	34.7	0.503
70-79 歳	170	54.0	145	46.0	98	61.6	61	38.4	72	46.2	84	53.9 †	0.007
80 歳以上	94	59.9	63	40.1	38	59.4	26	40.6	56	60.2	37	39.8	1.000

Fisher's exact tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

年齢階級、性別、K6 に欠損のない 1,705 名を分析対象とした。

表Ⅴ-15. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較（K6 のカットオフ値を 10 点に設定した場合）(n=1,705)

	全体 (n=1,705)				男性 (n=844)				女性 (n=861)					
	K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上		K6: 10 点未満		K6: 10 点以上			p
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%		
	1,502		203		740		104		762		99			
30 歳未満	154	84.6	28	15.4	86	90.5	9	9.5	68	78.2	19	21.8	*	0.024
30-39 歳	159	90.9	16	9.1	77	87.5	11	12.5	82	94.3	5	5.8		0.189
40-49 歳	169	91.9	15	8.2	74	85.1	13	14.9	95	97.9	2	2.1	†	0.002
50-59 歳	291	88.2	39	11.8	140	88.1	19	12.0	151	88.3	20	11.7		1.000
60-69 歳	329	90.9	33	9.1	177	92.2	15	7.8	152	89.4	18	10.6		0.368
70-79 歳	265	84.1	50	15.9	136	85.5	23	14.5	129	82.7	27	17.3		0.539
80 歳以上	135	86.0	22	14.0	50	78.1	14	21.9	85	91.4	8	8.6	*	0.033

Fisher's exact tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

年齢階級、性別、K6 に欠損のない 1,705 名を分析対象とした。

表Ⅴ-16. 刈羽村における中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査参加者の年齢階級別における精神健康度の性別比較（K6 のカットオフ値を 13 点に設定した場合）(n=1,705)

	全体 (n=1,705)				男性 (n=844)				女性 (n=861)				
	K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		K6: 13 点未満		K6: 13 点以上		p
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
	1,632		73		806		38		826		35		
30 歳未満	169	92.9	13	7.1	89	93.7	6	6.3	80	92.0	7	8.1	0.776
30-39 歳	168	96.0	7	4.0	83	94.3	5	5.7	85	97.7	2	2.3	0.444
40-49 歳	177	96.2	7	3.8	81	93.1	6	6.9	96	99.0	1	1.0	0.054
50-59 歳	317	96.1	13	3.9	152	95.6	7	4.4	165	96.5	6	3.5	0.780
60-69 歳	354	97.8	8	2.2	189	98.4	3	1.6	165	97.1	5	2.9	0.482
70-79 歳	295	93.7	20	6.4	151	95.0	8	5.0	144	92.3	12	7.7	0.364
80 歳以上	152	96.8	5	3.2	61	95.3	3	4.7	91	97.9	2	2.2	0.398

Fisher's exact tests were used.

*: p<0.05, †: p<0.01

年齢階級、性別、K6 に欠損のない 1,705 名を分析対象とした。

（5）IES-R 分析と考察

1）2 年後調査の分析と考察

① 基本属性（図Ⅴ-49~51、表Ⅴ-17）

IES-R と基本属性の間には、「性別」以外のいずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「性別」では、PTSD のハイリスク者（IES-R25 点以上）の割合に有意差はなかった。

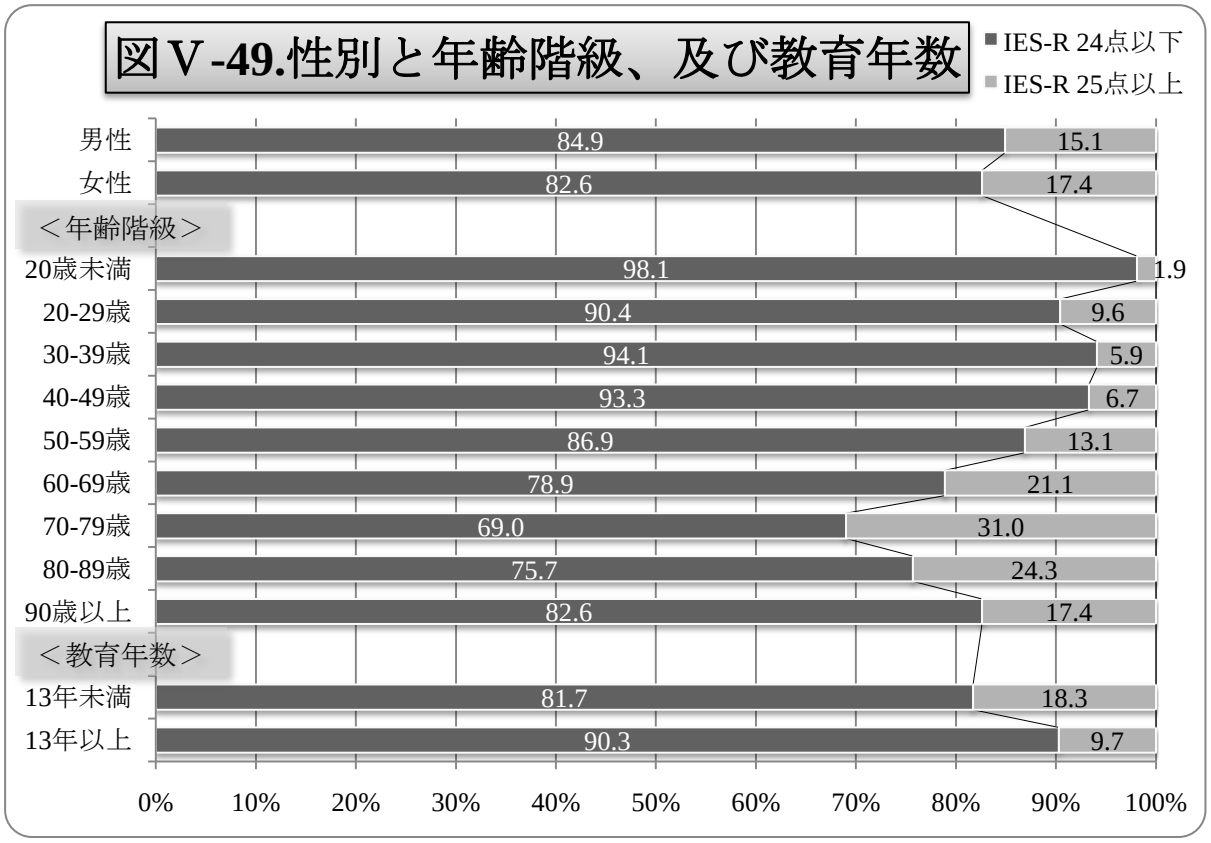
b.「年齢階級」においては、20 歳未満～60 歳未満と答えた方それぞれの集団におけるハイリスク者の割合は 14.0%を割っていたものの、60 歳以上～90 歳未満と答えた方それぞれの集団におけるハイリスク者の割合は 20.0%以上であった。

c.「教育年数」では 13 年未満と答えた方におけるハイリスク者の割合は 18.3%、13 年以上と答えた方の内では 9.7%であった。

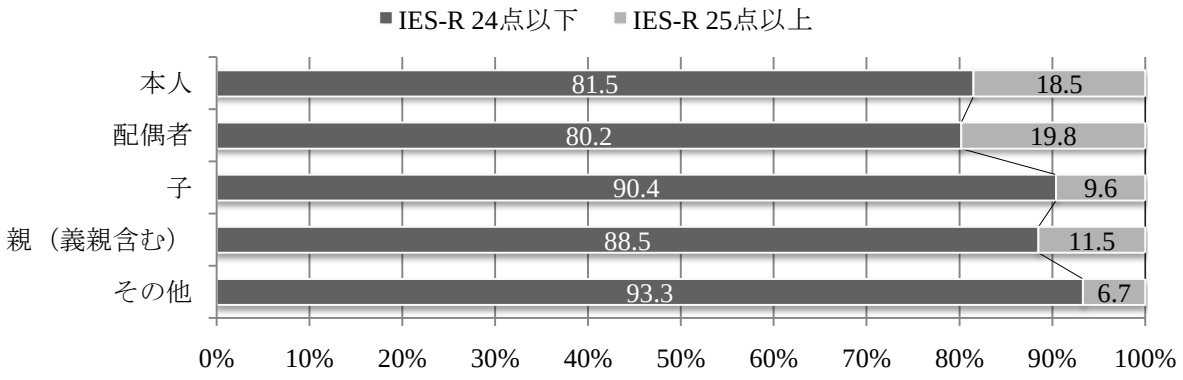
d.「世帯主との関係」については、配偶者と答えた方におけるハイリスク者の割合は 19.8%、本人と答えた方の内では 18.5%、子と答えた方の内では 9.6%、その他と答えた方の内では 6.7%であった。

e.「主たる家計者の現在の職業」については、専業主婦と答えた方におけるハイリスク者の割合は 38.5%、パートと答えた方の内では 34.5%、無職と答えた方の内では 28.8%、年金受給者と答えた方の内では 22.3%、会社員と答えた方の内では 10.6%、公務員と答えた方の内では 4.8%であった。

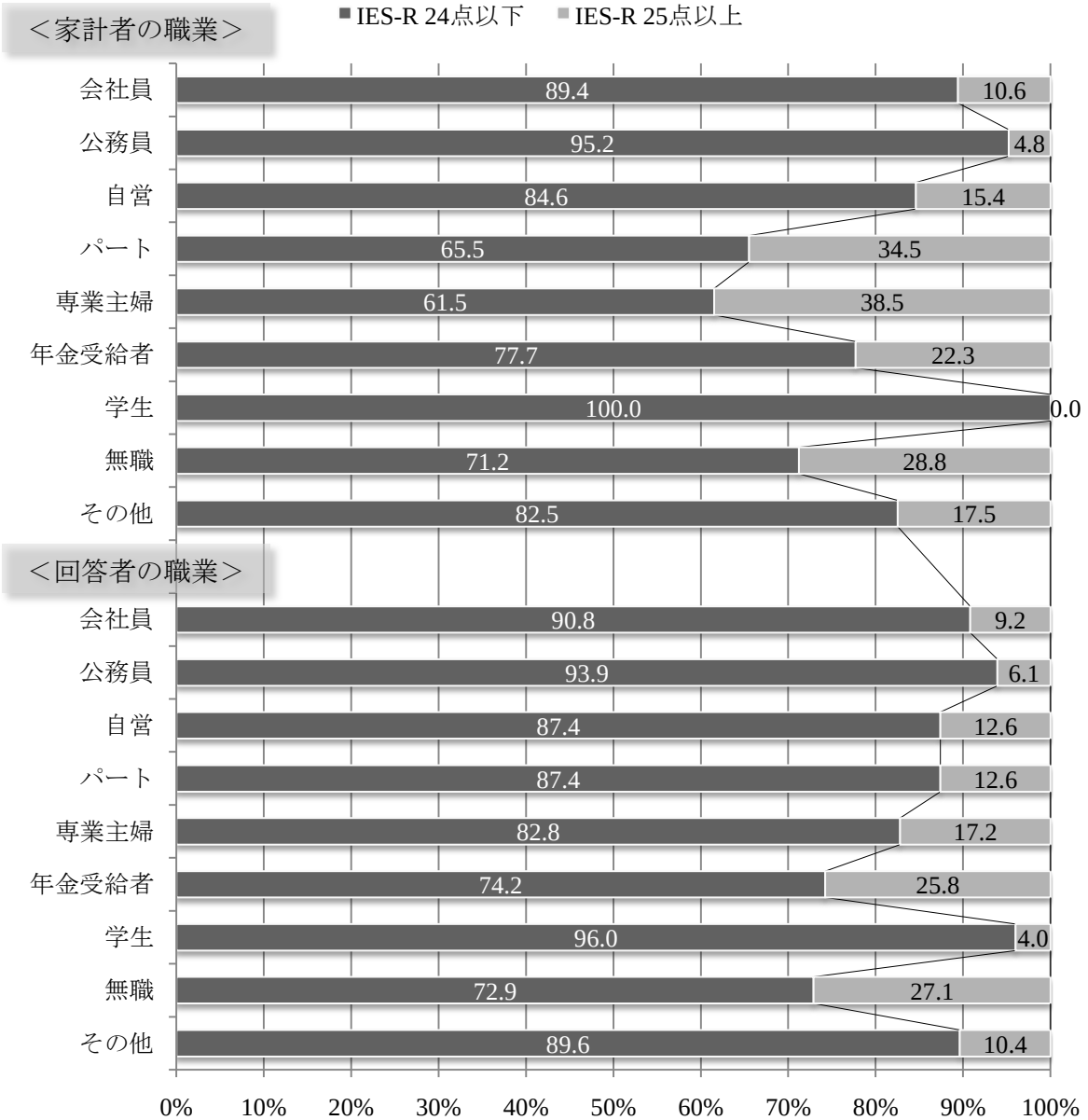
f.「回答者の現在の職業」では、年金受給者と答えた方におけるハイリスク者の割合は 25.8%会社員と答えた方の内では 9.2%、公務員と答えた方の内では 6.1%、学生と答えた方の内では 4.0%であった。



図Ⅴ-50.世帯主との関係



図Ⅴ-51.家計者の職業、及び回答者の職業



② 震災状況、住まいの変化、経済について（図Ⅴ-52~55、表Ⅴ-18）

IES-R と震災状況、住まいの変化、経済的変化に対する意識には、「中越沖地震時の住まい」、「中越沖地震による住む場所の変化」以外において、いずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「中越沖地震時の介助の必要性」については、全てにおいて介助が必要と答えた方におけるハイリスク者の割合は 34.5%、部分的に介助が必要と答えた方の内では 28.0%、介助は必要ないと答えた方の内では 14.7%であった。

b.「中越沖地震時の住まい」においては、PTSD のハイリスク者の割合に有意差はなかった。

c.「中越沖地震による住む場所の変化」においては、PTSD のハイリスク者の割合に有意差はなかった。

d.「現在の住まい」については、仮設以外と答えた方におけるハイリスク者の割合は 15.7%に留まっているが、仮設住宅と答えた方の内では 30.4%であった。

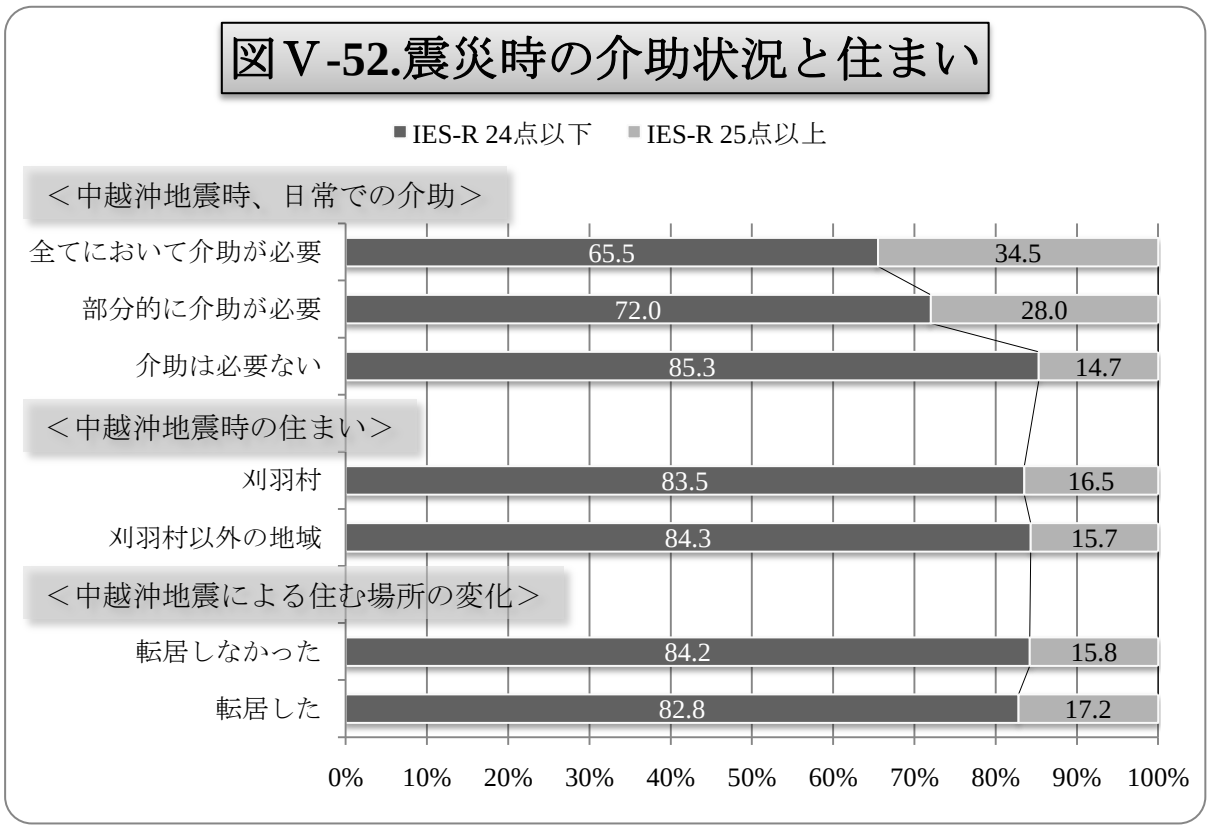
e.「地域分布」においては、PTSD のハイリスク者の割合に有意差はなかった。

f.「中越大震災・中越沖地震後の暮らし向きの変化」については、「悪くなった」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 27.3%、「変わらなかった」と答えた方の内では 9.7%であった。

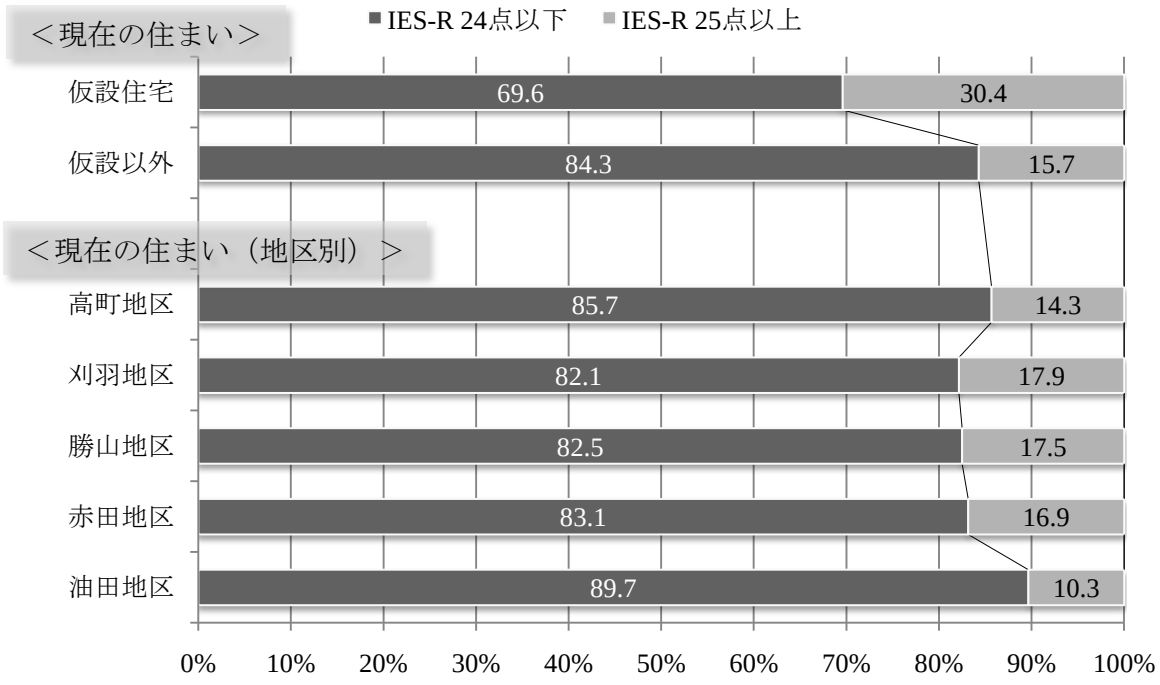
g.「中越沖地震以降の雇用状況」については、退職したと答えた方におけるハイリスク者の割合は 29.1%、変わらなかったと答えた方の内では 14.8%、就職したと答えた方の内では 3.4%であった。

h.「中越大震災時の家屋被害」については、大規模半壊と答えた方におけるハイリスク者の割合は 24.4%、半壊と答えた方の内では 23.0%、被害なしと答えた方の内では 11.3%であった。

i.「中越沖地震時の家屋被害」については、大規模半壊と答えた方におけるハイリスク者の割合は 26.1%、被害なしと答えた方の内では 7.7%であった。

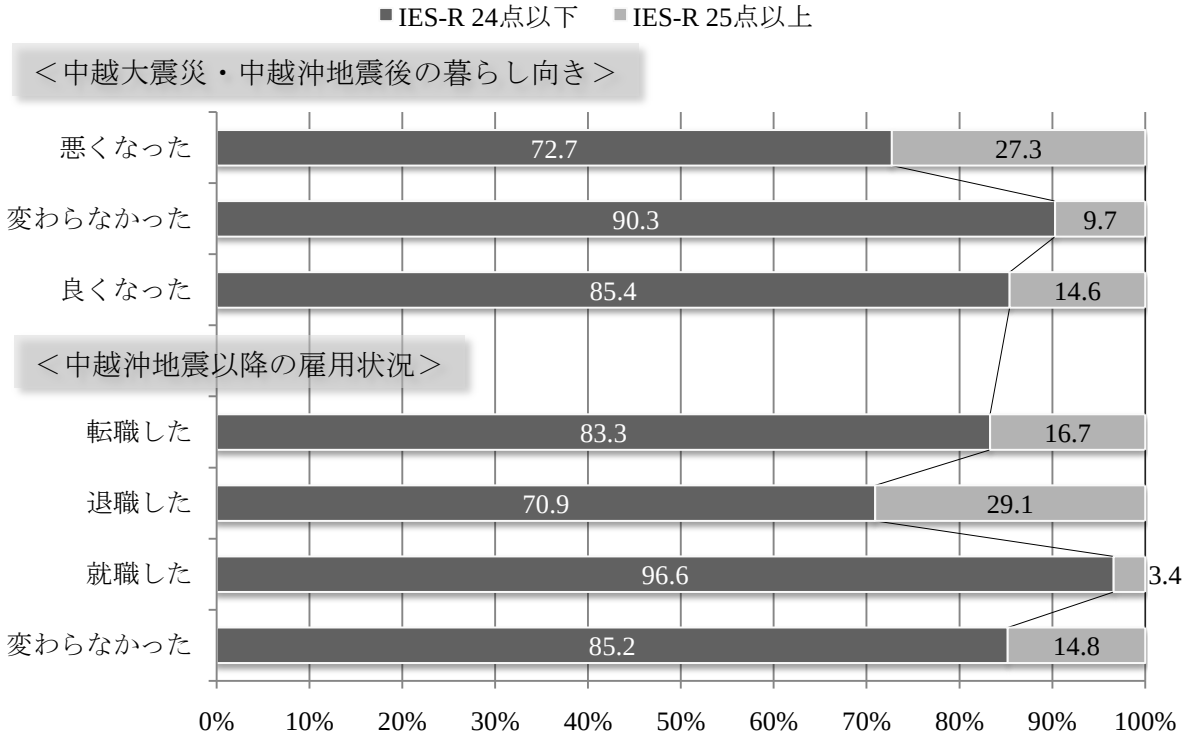


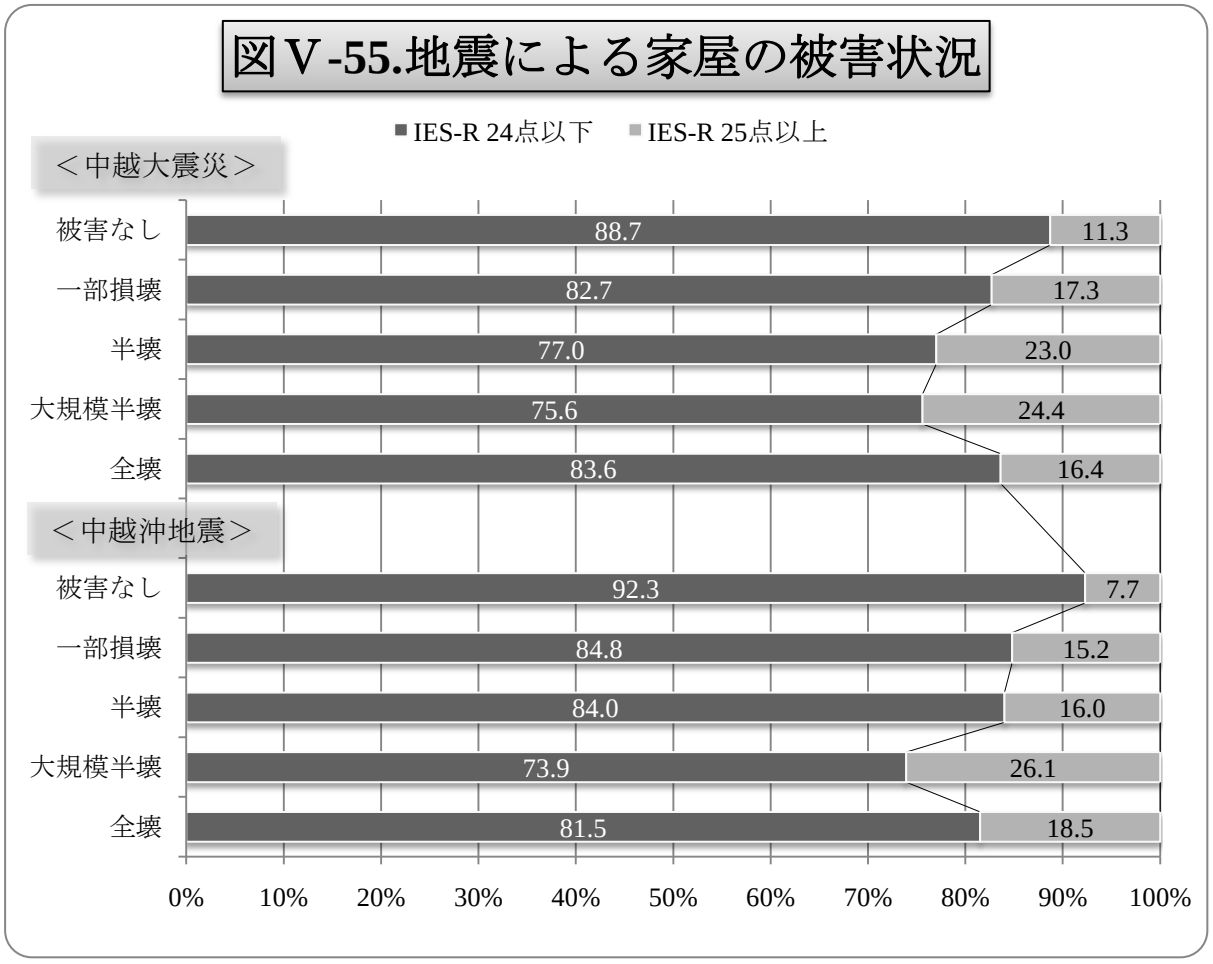
図Ⅴ-53.現在の住まいと地域分布



内訳：高町地区（正明寺,下高町,上高町,新屋敷）　赤田地区（枯木,赤田町方,赤田北方）
刈羽地区（大塚,西谷,割町新田,刈羽,井岡）　油田地区（黒川,油田）
勝山地区（十日市, 西元寺,寺尾,滝谷,滝谷新田,入和田）

図Ⅴ-54.震災後の暮らし向きと雇用状況





③ 震災後の健康行動について（図Ⅴ-56、表Ⅴ-19）

IES-R と健康行動の間には、「中越沖地震と比較しての現在の喫煙状況」以外、いずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「現在定期的に医者にかかっている病気の有無」については、「ある」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 24.2%、「ない」と答えた方の内では 9.5%であった。

b.「中越沖地震前と比較しての現在の喫煙状況」においては、ハイリスク者の割合に有意差はなかった。

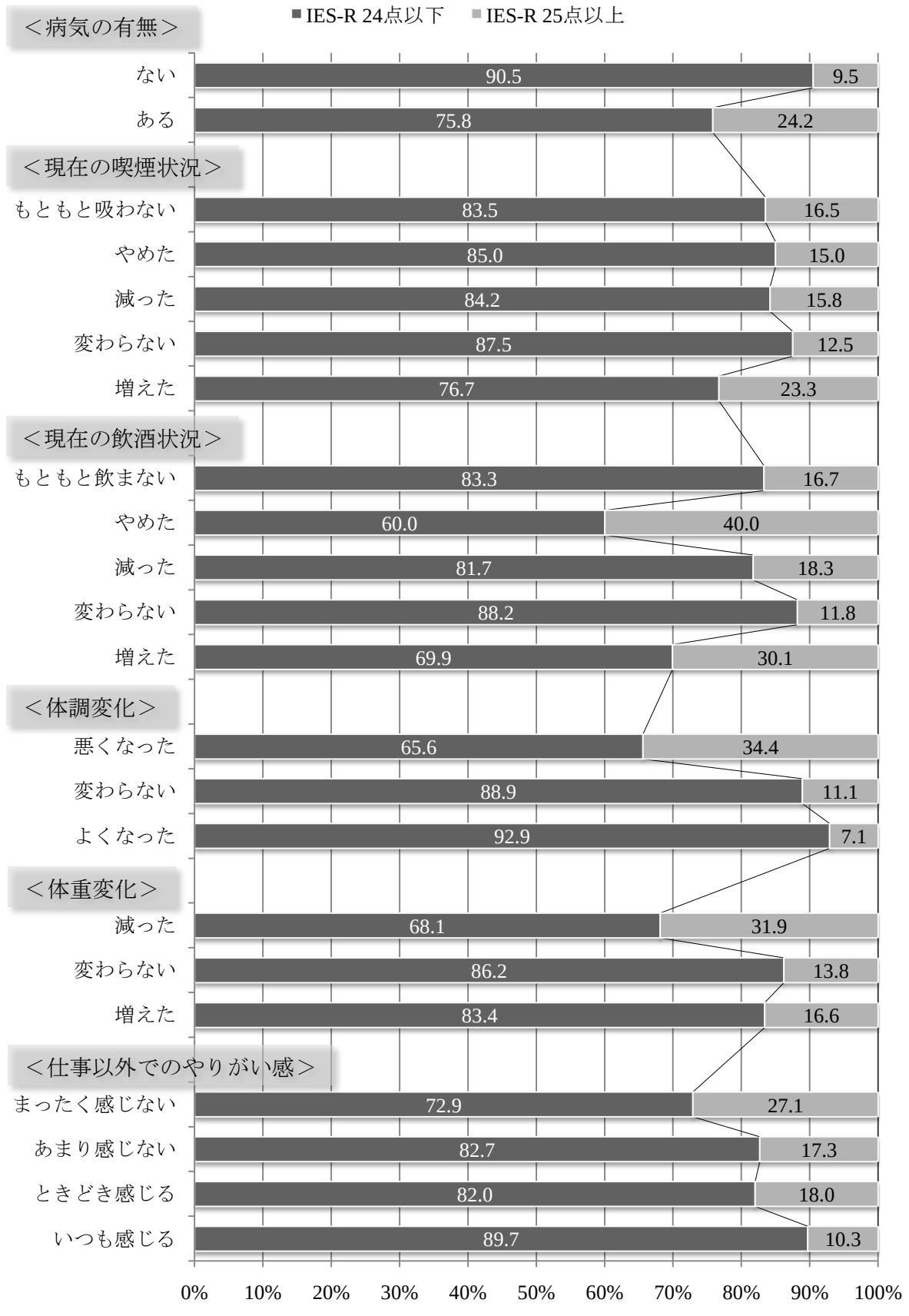
c.「中越沖地震前と比較しての現在の飲酒状況」については、中越沖地震後にやめたと答えた方におけるハイリスク者の割合は 40.0%、増えたと答えた方の内では 30.1%、変わらないと答えた方の内では 11.8%であった。

d.「体調変化」については、「悪くなった」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 34.4%、「変わらない」と答えた方の内では 11.1%であった。

e.「中越沖地震前と比較しての体重変化」については、「減った」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 31.9%、「変わらない」と答えた方の内では 13.8%であった。

f.「仕事以外でやりがいを感じられるものがあるかどうか」については、「まったく感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 27.1%、「いつも感じる」と答えた方の内では 10.3%であった。

図Ⅴ-56.健康行動、及び状況



④ ソーシャルサポート（人とのつながり）について（図Ⅴ-57,58、表Ⅴ-20）

IES-R とソーシャルサポートにおいて、「家族と相談できると感じる」以外、いずれの項目についても有意に差が認められた。

a.「社会の一員であると感じる」については、「あまり感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 21.3%、「いつも感じる」と答えた方の内では 13.3%であった。

b.「ひとりでいると孤独に感じる」については、「いつも感じる」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 51.7%、「ときどき感じる」と答えた方の内では 25.0%、「あまり感じない」と答えた方の内では 13.9%、「まったく感じない」と答えた方の内では 5.5%であった。

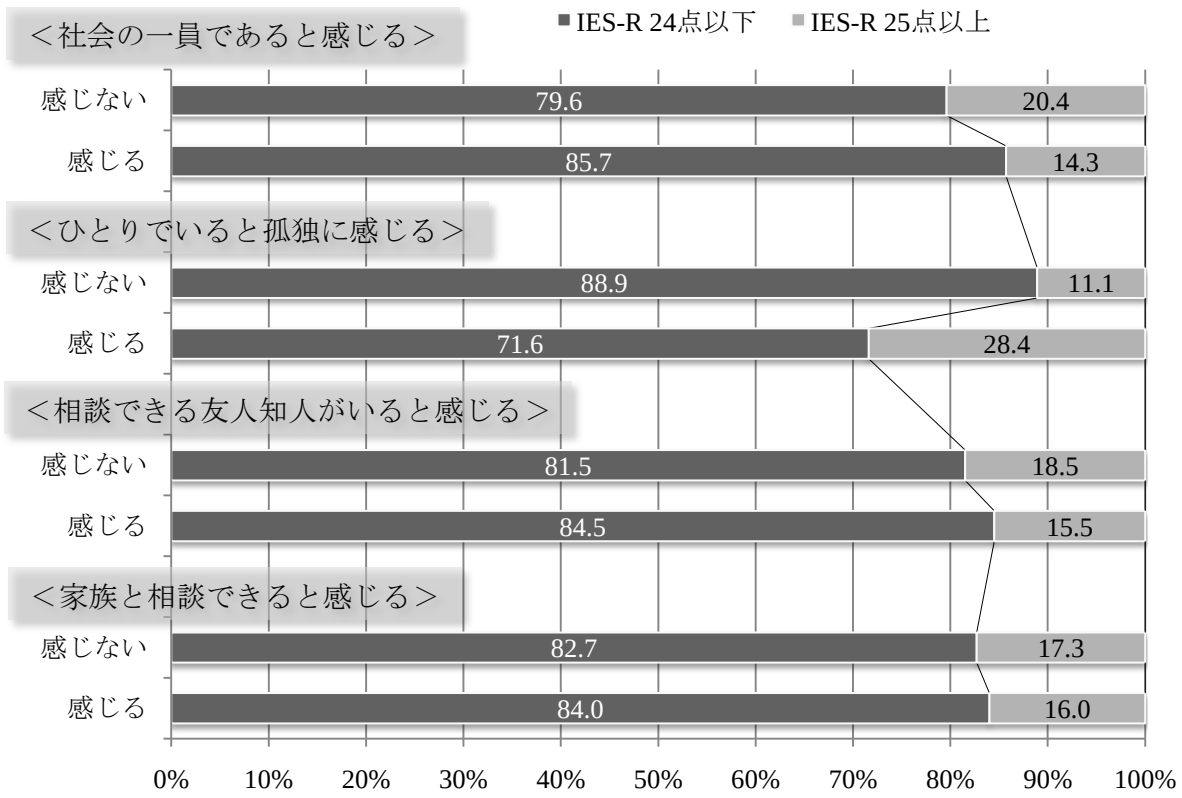
c.「相談できる友人知人がいると感じる」については、「まったく感じない」と答えた方におけるハイリスク者の割合は 19.7%であった。

d.「家族と相談できると感じる」においては、ハイリスク者の割合に有意差はなかった。

図Ⅴ-57.震災後のソーシャルサポート



図Ⅴ-58.震災後のソーシャルサポート2分類



（考察）

全体的な傾向として、高齢者、世帯を支えている方、教育年数が高校卒業程度あるいはそれに満たない方、年金受給者、無職者、日常生活で介助が必要な方、中越沖地震前後で何らかの変化（住まい、飲酒量、雇用状況など）があった方、中越大震災時の家屋被害が大きい、中越沖地震時の家屋被害が大きい、持病がある方、孤立しがちな方あるいは孤立していると感じている方、身近に相談できる方に乏しい方、に中越沖地震のショック傾向が強く出ている。1 年後調査と比較しても、この傾向に大きな変化はない。

表Ⅴ-17. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 基本属性×IES-R 比較

基本属性×IES-R		全体	IES-R24 点以下		IES-R25 点以上		df	χ2	p	
		n	n	%	n	%				
		1,556	1,301	83.6	255	16.4				
性別										
	男性	782	664	84.9	118	15.1	1	1.538	0.208	n.s
	女性	768	634	82.6	134	17.4				
年齢階級										
	20 歳未満	53	52	98.1	1	1.9	8	90.125	<0.000	***
	20-29 歳	125	113	90.4	12	9.6				
	30-39 歳	170	160	94.1	10	5.9				
	40-49 歳	178	166	93.3	12	6.7				
	50-59 歳	313	272	86.9	41	13.1				
	60-69 歳	322	254	78.9	68	21.1				
	70-79 歳	252	174	69.0	78	31.0				
	80-89 歳	111	84	75.7	27	24.3				
	90 歳以上	23	19	82.6	4	17.4				
世帯主との関係										
	本人	622	507	81.5	115	18.5	4	21.775	<0.000	***
	配偶者	434	348	80.2	86	19.8				
	子	271	245	90.4	26	9.6				
	親（義親含む）	148	131	88.5	17	11.5				
	その他	60	56	93.3	4	6.7				
教育年齢										
	13 年未満	1,150	940	81.7	210	18.3	1	15.414	<0.000	***
	13 年以上	373	337	90.3	36	9.7				
主たる家計者の現在の職業										
	会社員	715	639	89.4	76	10.6	8	64.536	<0.000	****
	公務員	83	79	95.2	4	4.8				
	自営	130	110	84.6	20	15.4				
	パート	29	19	65.5	10	34.5				
	専業主婦	26	16	61.5	10	38.5				
	年金受給者	345	268	77.7	77	22.3				
	学生	4	4	100.0	0	0.0				
	無職	104	74	71.2	30	28.8				
	その他	40	33	82.5	7	17.5				
回答者の現在の職業										
	会社員	498	452	90.8	46	9.2	8	69.967	<0.000	***
	公務員	49	46	93.9	3	6.1				
	自営	87	76	87.4	11	12.6				
	パート	127	111	87.4	16	12.6				
	専業主婦	116	96	82.8	20	17.2				
	年金受給者	372	276	74.2	96	25.8				
	学生	50	48	96.0	2	4.0				
	無職	155	113	72.9	42	27.1				
	その他	48	43	89.6	5	10.4				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

表Ⅴ-18. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査震 震災状況、住まいの変化、経済×IES-R 比較

震災状況、住まい、経済×IES-R	全体	IES-R 24 点以下		IES-R 25 点以上		df	χ2	p	
	n	n	%	n	%				
	1,556	1,301	83.6	255	16.4				
中越沖地震時、日常生活での介助									
全てにおいて介助が必要	29	19	65.5	10	34.5	2	22.81	<0.000	***
部分的に介助が必要	132	95	72.0	37	28.0				
介助は必要ない	1,370	1,168	85.3	202	14.7				
中越沖地震時の住まい									
刈羽村内	1,401	1,170	83.5	231	16.5	1	0.056	0.814	n.s
刈羽村以外の地域	140	118	84.3	22	15.7				
中越沖地震をきっかけとして住む場所の変化									
転居しなかった	1,292	1,088	84.2	204	15.8	1	0.308	0.579	n.s
転居した	232	192	82.8	40	17.2				
現在の住まい									
仮設住宅	23	16	69.6	7	30.4	1	3.691	0.055	#
仮設以外	1,455	1,227	84.3	228	15.7				
現在の住まいの地区									
高町地区	426	365	85.7	61	14.3	4	4.104	0.392	n.s
刈羽地区	616	506	82.1	110	17.9				
勝山地区	257	212	82.5	45	17.5				
赤田地区	172	143	83.1	29	16.9				
油田地区	58	52	89.7	6	10.3				
中越大震災・中越沖地震をきっかけとして、暮らし向き									
悪くなった	549	399	72.7	150	27.3	2	78.640	<0.000	***
変わらなかった	911	823	90.3	88	9.7				
良くなった	48	41	85.4	7	14.6				
平成 19 年 7 月の中越沖地震以降の雇用状況									
転職した	42	35	83.3	7	16.7	3	15.888	0.001	**
退職した	86	61	70.9	25	29.1				
就職した	29	28	96.6	1	3.4				
変わらなかった	1,246	1,062	85.2	184	14.8				
平成 16 年 10 月中越地震時の家屋被害認定結果									
被害なし	398	353	88.7	45	11.3	4	14.595	0.006	**
一部損壊	867	717	82.7	150	17.3				
半壊	139	107	77.0	32	23.0				
大規模半壊	45	34	75.6	11	24.4				
全壊	67	56	83.6	11	16.4				
平成 19 年 7 月中越沖地震時の家屋被害認定結果									
なし	143	132	92.3	11	7.7	4	20.470	<0.000	***
一部損壊	652	553	84.8	99	15.2				
半壊	363	305	84.0	58	16.0				
大規模半壊	161	119	73.9	42	26.1				
全壊	205	167	81.5	38	18.5				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

表Ⅴ-19. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 震災後の健康行動×IES-R 比較

震災後の健康行動×IES-R	全体 n	IES-R24 点以下 n	%	IES-R25 点以上 n	%	df	χ2	p	
	1,556	1,301	83.6	255	16.4				
現在、定期的に医者にかかっている病気の有無									
ない	810	733	90.5	77	9.5	1	60.375	<0.000	***
ある	731	554	75.8	177	24.2				
中越沖地震前と比較しての現在の喫煙状況									
もともと吸わない	1,045	873	83.5	172	16.5	4	4.479	0.345	n.s
やめた	113	96	85.0	17	15.0				
減った	38	32	84.2	6	15.8				
変わらない	280	245	87.5	35	12.5				
増えた	43	33	76.7	10	23.3				
中越沖地震前と比較しての現在の飲酒状況									
もともと飲まない	687	572	83.3	115	16.7	4	32.668	<0.000	***
やめた	30	18	60.0	12	40.0				
減った	115	94	81.7	21	18.3				
変わらない	619	546	88.2	73	11.8				
増えた	73	51	69.9	22	30.1				
体調変化									
悪くなった	349	229	65.6	120	34.4	2	107.256	<0.000	***
変わらない	1,184	1,052	88.9	132	11.1				
よくなった	14	13	92.9	1	7.1				
中越沖地震前と比較しての体重変化									
減った	210	143	68.1	67	31.9	2	42.462	<0.000	***
変わらない ±5%の範囲内	1,189	1,025	86.2	164	13.8				
増えた	145	121	83.4	24	16.6				
仕事以外でやりがいを感じられるものがある									
まったく感じない	107	78	72.9	29	27.1	3	21.877	<0.000	***
あまり感じない	450	372	82.7	78	17.3				
ときどき感じる	549	450	82.0	99	18.0				
いつも感じる	419	376	89.7	43	10.3				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

表Ⅴ-20. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 震災後のソーシャルサポート×IES-R 比較

震災後のソーシャサポート ×IES-R	全体 n	IES-R 24 点以下 n	%	IES-R 25 点以上 n	%	df	χ2	p	
	1,556	1,301	83.6	255	16.4				
グループや社会の一員であると感じる									
まったく感じない	108	89	82.4	19	17.6	3	10.763	0.013	*
あまり感じない	352	277	78.7	75	21.3				
ときどき感じる	454	383	84.4	71	15.6				
いつも感じる	588	510	86.7	78	13.3				
ひとりでいると孤独に感じる									
まったく感じない	364	344	94.5	20	5.5	3	109.940	<0.000	***
あまり感じない	711	612	86.1	99	13.9				
ときどき感じる	400	300	75.0	100	25.0				
いつも感じる	58	28	48.3	30	51.7				
何か問題があったときに、相談できる友人知人がいると感じる									
まったく感じない	66	53	80.3	13	19.7	3	6.297	0.098	#
あまり感じない	339	277	81.7	62	18.3				
ときどき感じる	522	428	82.0	94	18.0				
いつも感じる	610	528	86.6	82	13.4				
何か問題があったときに、家族と相談できると感じる									
まったく感じない	46	40	87.0	6	13.0	3	4.477	0.214	n.s
あまり感じない	180	147	81.7	33	18.3				
ときどき感じる	432	351	81.3	81	18.8				
いつも感じる	878	749	85.3	129	14.7				
グループや社会の一員であると感じる 2 分類									
感じない	460	366	79.6	94	20.4	1	8.858	0.003	**
感じる	1,042	893	85.7	149	14.3				
ひとりでいると孤独に感じる 2 分類									
感じない	1,075	956	88.9	119	11.1	1	70.774	<0.000	***
感じる	458	328	71.6	130	28.4				
何か問題があったときに、相談できる友人知人がいると感じる 2 分類									
感じない	405	330	81.5	75	18.5	1	1.927	0.165	n.s
感じる	1,132	956	84.5	176	15.5				
何か問題があったときに、家族と相談できると感じる 2 分類									
感じない	226	187	82.7	39	17.3	1	0.213	0.644	n.s
感じる	1,310	1,100	84.0	210	16.0				

Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

2）1 年後調査と 2 年後調査の比較（表Ⅴ-21）

1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。

IES-R での PTSD ハイリスク者の割合は、1 年後調査では有効回答者の 21.0%（n＝1,879、平均値＝14.3、標準偏差＝13.34）だったのに対して、2 年後調査では 16.4%（n＝1,556、平均値＝11.8、標準偏差＝13.65）と 4.6 ポイント減少した（図Ⅴ-59,60）。平均値も下がってきており、時間の経過で中越沖地震のショック状態が緩和されてきていると考えられるが、3 年後調査の結果を踏まえて評価する必要がある。

a.「性別」において、女性（24.5%⇒17.4% 7.1 ポイント減少）では 1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。男性では有意な変化は認められなかった。

b.「年齢階級」において、20 歳未満（9.6%⇒1.9% 7.7 ポイント減少）、30 代（18.1%⇒5.9% 12.2 ポイント減少）、40 代（16.0%⇒6.7% 9.3 ポイント減少）、50 代（20.5%⇒13.1% 7.4 ポイント減少）で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。20 代、60 代、70 代、80 代、90 歳以上では有意な変化は認められなかった。

c.「世帯主との関係」において、配偶者（24.7%⇒19.8% 4.9 ポイント減少）、子（17.2%⇒9.6% 7.6 ポイント減少）、親（義親含む）（20.7%⇒11.5% 9.2 ポイント減少）、その他（19.5%⇒6.7% 12.8 ポイント減少）で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。本人では有意な変化は認められなかった。

d.「教育年数」において、13 年未満（23.2%⇒18.3% 4.9 ポイント減少）、13 年以上（14.6%⇒9.7% 4.9 ポイント減少）共に、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。

e.「主たる家計者の職業」において、会社員（17.4%⇒10.6% 6.8 ポイント減少）、公務員（14.0%⇒4.8% 9.2 ポイント減少）で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。年金受給者、自営、パート、専業主婦、学生、無職、その他では有意な変化は認められなかった。

f.「回答者の職業」において、会社員（15.6%⇒9.2% 6.4 ポイント減少）、専業主婦（27.9%⇒17.2% 10.7 ポイント減少）、その他（22.9%⇒10.4% 12.5 ポイント減少）で、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。公務員、自営、パート、年金受給者、学生、無職では有意な変化は認められなかった。

g.「現在の住まい」において、仮設以外（25.4%⇒15.7% 9.7 ポイント減少）では、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。仮設住宅では有意な変化

は認められなかった。

h.「中越大震災時の家屋被害認定結果」において、被害なし（15.7%⇒11.3% 4.4 ポイント減少）、一部損壊（21.6%⇒17.3% 4.3 ポイント減少）、全壊（32.9%⇒16.4% 16.5 ポイント減少）では、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。半壊、大規模半壊では有意な変化は認められなかった。

i.「中越沖地震時の家屋被害認定結果」において、一部損壊（19.5%⇒15.2% 4.3 ポイント減少）、全壊（29.8%⇒18.5% 11.3 ポイント減少）では、1 年後調査と比較して 2 年後調査で有意に PTSD ハイリスク者の割合が減った。被害なし、半壊、大規模半壊では有意な変化は認められなかった。

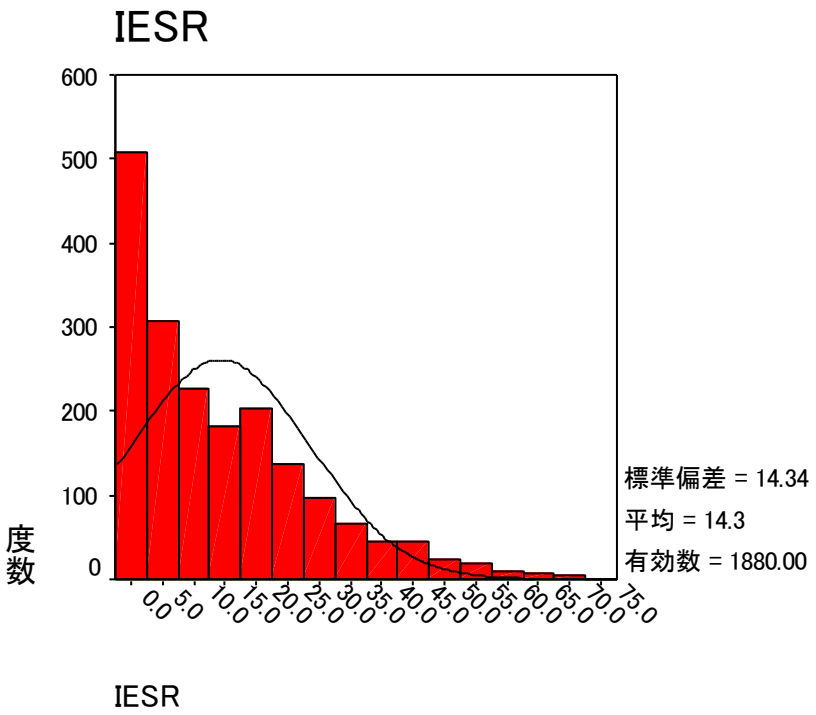
表Ⅴ-21. 中越沖地震 2 年後のこころと身体の健康調査 1 年後、2 年後 IES-R ハイリスク者割合比較

		1 年後 IES-R ハイリスク		2 年後 IES-R ハイリスク						
		n	%	n	%	df	χ2	p		
		395	21.0	255	16.4	1	11.91	0.001	**	↓
性別										
	男性	160	17.3	118	15.1	1	1.463	0.226	n.s	→
	女性	231	24.5	134	17.4	1	12.530	<0.000	***	↓
年齢階級										
	20 歳未満	8	9.6	1	1.9	1	3.145	0.076	#	↓
	20-29 歳	22	12.7	12	9.6	1	0.697	0.404	n.s	→
	30-39 歳	37	18.1	10	5.9	1	12.53	<0.000	***	↓
	40-49 歳	41	16.0	12	6.7	1	8.340	0.004	**	↓
	50-59 歳	85	20.5	41	13.1	1	6.795	0.009	**	↓
	60-69 歳	90	26.4	68	21.1	1	2.539	0.111	n.s	→
	70-79 歳	75	31.0	78	31.0	1	0.000	0.992	n.s	→
	80-89 歳	34	23.8	27	24.3	1	0.010	0.919	n.s	→
	90 歳以上	2	11.1	4	17.4	1	0.319	0.572	n.s	→
世帯主との関係										
	本人	153	20.7	115	18.5	1	1.043	0.307	n.s	→
	配偶者	125	24.7	86	19.8	1	3.148	0.076	#	↓
	子	56	17.2	26	9.6	1	7.183	0.007	**	↓
	親（義親含む）	42	20.7	17	11.5	1	5.184	0.023	*	↓
	その他	16	19.5	4	6.7	1	4.725	0.030	*	↓
教育年数										
	13 年未満	316	23.2	210	18.3	1	9.135	0.003	**	↓
	13 年以上	69	14.6	36	9.7	1	4.625	0.032	*	↓
主たる家計者の現在の職業										
	会社員	170	17.4	76	10.6	1	15.21	<0.000	***	↓
	公務員	15	14.0	4	4.8	1	4.395	0.036	*	↓
	自営	36	19.8	20	15.4	1	0.995	0.319	n.s	→
	パート	8	24.2	10	34.5	1	0.786	0.375	n.s	→
	専業主婦	12	57.1	10	38.5	1	1.628	0.202	n.s	→
	年金受給者	80	26.3	77	22.3	1	1.408	0.235	n.s	→
	学生	1	12.5	0	0.0	1	0.545	0.460	n.s	→
	無職	49	32.2	30	28.8	1	0.333	0.564	n.s	→
	その他	15	26.8	7	17.5	1	0.455	0.500	n.s	→
回答者の現在の職業										
	会社員	101	15.6	46	9.2	1	10.07	0.002	*	↓
	公務員	6	8.6	3	6.1	1	0.247	0.619	n.s	→
	自営	22	19.3	11	12.6	1	1.592	0.207	n.s	→
	パート	28	17.9	16	12.6	1	1.526	0.217	n.s	→
	専業主婦	38	27.9	20	17.2	1	4.045	0.044	*	↓
	年金受給者	75	26.5	96	25.8	1	0.04	0.841	n.s	→
	学生	7	8.3	2	4.0	1	0.939	0.332	n.s	→
	無職	86	32.3	42	27.1	1	1.268	0.260	n.s	→
	その他	19	22.9	5	10.4	1	3.163	0.075	#	↓
現在の住まい										
	仮設住宅	199	18.3	7	30.4	1	0.267	0.605	n.s	→
	仮設以外	46	25.4	228	15.7	1	3.106	0.078	#	↓
平成 16 年 10 月中越地震時の家屋被害認定結果										
	被害なし	86	15.7	45	11.3	1	3.620	0.057	#	↓
	一部損壊	203	21.6	150	17.3	1	5.292	0.021	*	↓
	半壊	51	25.8	32	23.0	1	0.329	0.566	n.s	→
	大規模半壊	17	27.0	11	24.4	1	0.088	0.768	n.s	→
	全壊	28	32.9	11	16.4	1	5.363	0.021	*	↓
平成 19 年 7 月中越沖地震時の家屋被害認定結果										
	なし	22	11.9	11	7.7	1	1.522	0.217	n.s	→
	一部損壊	159	19.5	99	15.2	1	4.582	0.032	*	↓
	半壊	79	18.9	58	16.0	1	1.180	0.277	n.s	→
	大規模半壊	54	30.5	42	26.1	1	0.811	0.368	n.s	→
	全壊	73	29.8	38	18.5	1	7.614	0.006	**	↓

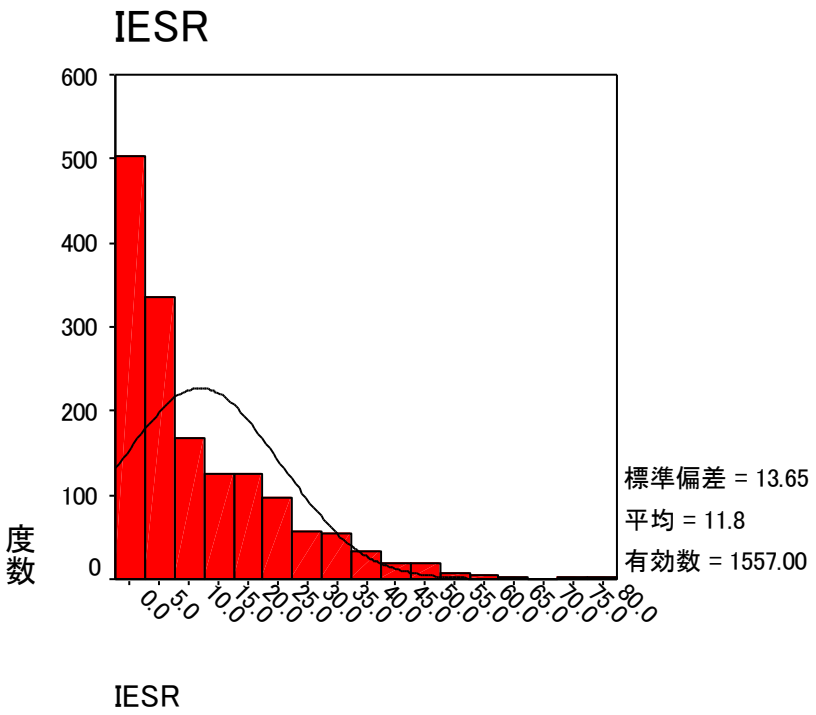
Chi-square tests were used.

***p<0.001,**p<0.01,*p<0.05,#p<0.1,n.s 有意差なし

＜図Ⅴ-59. 平成 20 年実施　IES-R ヒストグラム＞



＜図Ⅴ-60. 平成 21 年実施　IES-R ヒストグラム＞



3.自由記載・こころのケア事業からみた刈羽村の状況

2 年後調査時（H21 年 7 月末）の仮設住宅入居者世帯は 35 世帯、110 人でピーク時（H20 年 2 月 150 世帯 530 人）からすると数的には住宅再建は順調に進んでいるように見える。

しかし、中越沖地震後の大型スーパーマーケットの閉店、原発の全号機停止等を経験し、世界同時不況の中、現在も雇用と経済的不安を抱えながらの生活再建が続いている。

1 年後調査時に比べ、仮設住宅での生活者は大幅に減少しており家屋の新築や修復が落ち着きを見せ始めているが、ローン返済への不安、家屋被害調査への不満、資金不足による修理困難を抱える方は多い。

地震後の心身の状態としては、震災そのもの、あるいは復興期におけるストレスに起因したうつ症状、地震の夢、不眠、物音や揺れへの過敏な反応、下痢、動悸、息切れ、目まい等を表す方がいる。また、倒壊した家屋がそのまま残されていることにより、被災体験のフラッシュバックを起こす方もいる。さらに、原発立地地域という事情もあり、被災後に一層原発に対する現在、過去、未来への不安を強めている方が多い。

こころのケア事業を実施している中では高齢者や障害、持病等を抱える方の中に震災の影響を引きずっている方が多いことが把握されている。また、健診後の相談会は相談時間を超過することが多く、精神的ストレスを溜め込んでいる方が多いことがうかがえる。

4.まとめと今後のこころのケアの課題

今回の 2 年後調査への参加者は、60 歳以上の方が過半数を占めていた。昨年の 1 年後調査への参加者と比較すると、60 歳代、70 歳代の方がやや多く、平均年齢も若干高くなっていた。また、回答された方および主たる家計者の職業の構成は、今回の 2 年後調査において年金受給者が大幅に多くなっていた。

本調査では昨年の 1 年後調査と同様、こころの健康を K6（範囲 0-24 点）を用いて測定したが、K6 への回答者 1,724 人のうち、重度ストレスレベルといわれる 5 点以上の方は 616 人（35.7%）、気分・不安障害レベルが疑われる 10 点以上の方は 208 人（12.1%）、重度精神障害レベルが疑われる 13 点以上の方は 74 人（4.3%）であった。昨年の 1 年後調査では、回答者 2,271 人のうち、5 点以上の方は 867 人（41.8%）、10 点以上の方は 291 人（14.0%）、13 点以上の方が 113 人（5.5%）であったため、今回の 2 年後調査の方が昨年の調査と比べ、いずれのカットオフ値についても越える方の割合は減少していた。

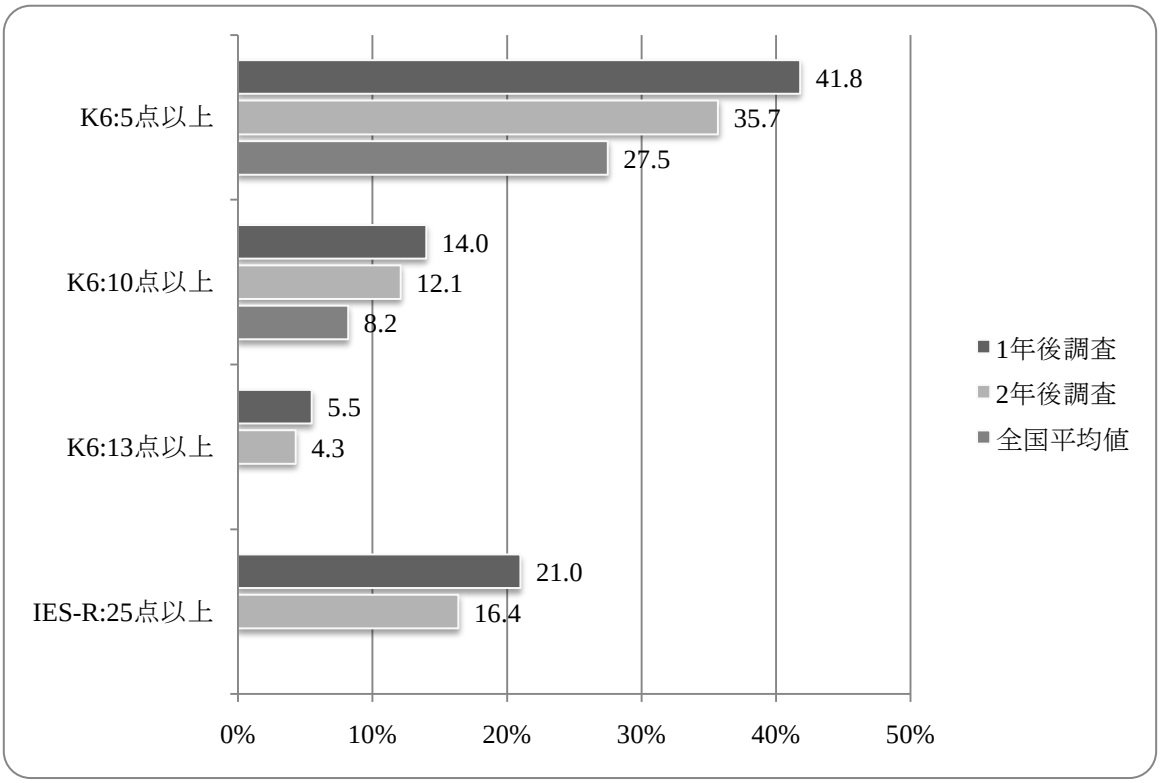
K6 のカットオフ値が重度ストレスレベルといわれる 5 点以上の方をハイリスクであると設定した場合、このハイリスク集団においては、属性では 70 歳代の方が約 4 分の 1 という一番大きな割合を占め、職業では年金受給者である方が約 3 割を占めていた。中越大震災と中越沖地震をきっかけとした暮らし向きの変化について、約 6 割の方は不変と回答した一方、3 分の 1 以上の方が、暮らし向きが悪化したと回答しており、ハイリスク集団の中では暮らし向きが悪化した方の割合が半数に及んでいた。また、中越沖地震の際の家屋の被害については、半数弱の方が半壊以上の被害を受けており、ハイリスク集団の中で被害の規模の大きい方の割合が高くなる傾向がみられた。さらに身体的な健康については、体調が悪化した方が約 24%、5kg 以上の体重の増減のあった方が約 25%、現在受診している方が 5 割ほどであったが、これらに該当する方もハイリスク集団の中に占める割合が高くなっていた。

横断研究であることの限界から、震災による影響が続いているのか否かといったことは明らかにはできないが、高齢者や年金受給者、地震により大きな被害を受けた方、身体的な健康が悪化している方の精神健康が、中越沖地震から 2 年が経過した調査時点でも回復していなかったという可能性はある。前述の「自由記載・こころのケア事業からみた刈羽村の状況」からうかがわれる、経済的不安を抱えながらの生活再建の厳しさや、身体的な健康問題を抱える方が引きずっている震災の影響といったものが、本調査における数値としても現れていると考えられる。

また、IES-R を用いたトラウマ反応の検討から、従来から指摘されているように、高齢者、震災による家屋などの物的損傷が大きかった方、年金受給者や身体疾患の既往のある方は、精神健康においてもリスクが高いことがうかがわれた。自由記載からは、震災やそこからの復興によるストレスからのうつ症状や身体症状、またトラウマ後の過覚醒症状が出現していることがうかがわれる。これらの症状や社会機能の変化に注意を払い、継続的な関わりが求められよう。

また、こころのケア事業を実施している中でも、高齢者や障害、持病等を抱える方

の中に震災の影響を引きずっている方が多いことが把握されており、健診後の相談会は相談時間を超過することが多く、精神的ストレスを溜め込んでいる方が多いことがうかがわれている。これらに対しては、相談体制を充実させ、こころのケアを必要としている当人だけでなく、そのまわりで支援を提供している家族や介護職員等への支援も提供できるよう、地域全体の予備力を上げていくための仕組みづくりが求められていると考えられる。



巻末資料：各市町村の中越沖地震「被災者こころと身体の健康調査」関係書類

（調査の主旨とご協力のお願い、調査用紙、調査結果速報、健康調査の結果のお知らせ）

新潟県中越沖地震
平成21年度

「被災者こころと身体の健康調査」

－調査の主旨とご協力のお願い－

平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震から約2年が経ちますが、皆様におかれましては今も復旧・復興のために忙しい毎日をおくっておられることと思います。

この度、昨年と同様に柏崎市・出雲崎町・刈羽村にお住まいの16歳以上の方を対象に「被災者こころと身体の健康調査」を実施することになりました。この調査は、平成20年から3年間、中越沖地震後の心身の健康状態等を継続してお聞きすることで、皆様への今後の支援に役立てることを目的としています。ご回答いただきました内容につきましては個人情報を削除した上で、国立精神・神経センター精神保健研究所に協力いただき統計的に処理をいたします。その目的以外に使用されることはありません。

個人の事情に関わる質問も多くありますが、調査の主旨をご理解いただき、回答にご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお昨年度の本調査の結果から、市民皆さまへの相談窓口の周知や健康情報提供のため、市広報にあわせた「元気宅配便」の発行や、地域や職域での健康講座の実施に至りましたことをご報告いたします。

平成21年7月1日

柏崎市長　会田　洋
こころのケアセンター
（新潟県精神保健福祉協会）

問い合わせ先：

〒945-0064　柏崎市中央町1-14田中中央ビル301
柏崎地域こころのケアセンター
電話 0257-28-6070　FAX0257-35-6789

〒945-0061 柏崎市栄町18-26（元気館）
柏崎市福祉保健部元気支援課
元気相談係・地域保健係
電話 0257-20-4210　FAX0257-22-1077

新潟県中越沖地震

「被災者こころと身体の健康調査」

（ご記入と回収にあたってのお願い）

- ご記入は、ご家庭にいらっしゃる16歳以上（平成21年4月2日現在）の全員にお願いします。
- ご記入は、黒または青のボールペン（鉛筆ではっきり記入なら可）をご使用ください。
- 災害によるものかどうかにこだわらず、今のご自分の状態をそのままお答えください。
- 返信用封筒が調査用紙と同数入っておりますが、他のご家族に気兼ねなくお答えいただくためのものです。
- 記入された調査票は返信用の封筒に入れ、**7月31日までに**投函してください。
- ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

※調査票記入にあたって、震災時を思い出してつらいと感じることはごく自然な反応ですが、あまりに動揺が激しい、感情が高ぶり落ち着かないなどの場合は下記までご相談ください。

問い合わせ先：

〒945-0064　柏崎市中央町1-14田中中央ビル301
柏崎地域こころのケアセンター
電話 0257-28-6070　FAX0257-35-6789

〒945-0061　柏崎市栄町18-26
柏崎市福祉保健部　元気支援課元気相談係・地域保健係
電話 0257-20-4210　FAX0257-22-1077

Ⅰ　質問をよく読んで、あてはまるものを「○」でかこんでください。（　）には、あてはまる数字や言葉を記入してください。					
1. あなたの年齢を教えてください。	（　　）歳				
2. あなたの性別を教えてください。	1. 女性	2. 男性			
3. あなたと世帯主との関係を教えてください。	1. 本人	2. 配偶者	3. 子	4.親（義親含む）	5. その他
4. あなたの小学校からの学校教育年数を教えてください。（高卒の場合、12 年）	（　　）年				
5. あなたは中越沖地震の時、日常生活の中で介助が必要でしたか。	1. 全てにおいて介助が必要	2. 部分的に介助が必要	3. 介助は必要ない		
6. 中越沖地震の時はどちらにお住まいでしたか。	1. 柏崎市内	2. 柏崎市以外の地域			
7. 中越沖地震をきっかけとして、住む場所が変わりましたか。（住所の移動の有無は問わない）	1. 転居しなかった	2. 転居した（仮設住宅、アパート、借家、親戚、その他）あてはまるものにすべて○をつけてください			
8. 現在の住まいはどちらですか。	1. 仮設	2. 仮設以外（自宅、アパート、借家、親戚、その他）あてはまるものに○をつけてください			
9. あなたが現在お住まいの地域を中学校区で教えてください。	1.一中校区　2.二中校区　3.三中校区　4.鏡が沖中校区　5.瑞穂中校区 6.松浜中校区　7.南中校区　8.東中校区　9.五中校区　10.北条中校区 11.高柳中校区　12.西山中校区				
10.中越大震災・中越沖地震をきっかけとして、暮らし向きは変わりましたか。	1. 悪くなった	2. 変わらなかった	3. 良くなった		
11.平成 19 年7月の中越沖地震以降、雇用状況に変化がありましたか。近いものに○をつけてください。	1. 転職した	2. 退職した	3. 就職した	4. 変わらなかった	

12.主たる家計者の現在の状況で、あてはまるもの１つに○を付けてください。	1.会社員	2.公務員	3.自営	4.パート	5.専業主婦	6.年金受給者	7.学生	8.無職	9.その他
13.あなたの現在の状況で、あてはまるもの１つに○を付けてください。	1.会社員	2.公務員	3.自営	4.パート	5.専業主婦	6.年金受給者	7.学生	8.無職	9.その他
14.平成16年10月の中越地震に関し、行政による家屋被害認定結果について教えてください。				1.被害なし	2.一部損壊	3. 半壊	4. 大規模半壊		5. 全壊
15.平成19年7月の中越沖地震に関し、行政による家屋被害認定結果について教えてください。				1.被害なし	2.一部損壊	3. 半壊	4. 大規模半壊		5. 全壊
16.現在、定期的に医者にかかっている病気がありますか。				1. ない	2. ある　病名（　　）				

Ⅱ 次のことについて、平成１９年７月の中越沖地震前と比べ、あてはまるものを「○」でかこんでください。（　　）には、あてはまる数字を記入してください。					
1. あなたは何人の家族と一緒に住んでいますか(自分を含む)	地震前（　　）人			現在（　　）人	
2. 中越沖地震前と比べ、あなたの現在の喫煙状況を教えてください。	1.もともと吸わない	2.やめた	3.減った	4.変わらない	5.増えた
3. 中越沖地震前と比べ、あなたの現在の飲酒状況を教えてください。	1.もともと飲まない	2.やめた	3.減った	4.変わらない	5.増えた
4. 中越沖地震前と比べ、体調に変化はありますか。	1. 悪くなった	2. 変わらない		3. 良くなった	
5. 中越沖地震前と比べ、現在±5%を超える体重の変化がありますか。（例：体重60Kgの人なら3Kg以上の増減）	1. 減った	2. 変わらない　±5%の範囲内			3. 増えた

Ⅲ 最近１ヶ月で、次のことについて、あてはまる数字に「○」を付けてください。				
1．わたしは、グループや社会の一員であると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
2．わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
3．わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人知人がいると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
4．わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
5．わたしは満足した睡眠がとれていると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
6．わたしは仕事以外でやりがいを感じられるものがある。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる

Ⅳ 最近２週間で、次のことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字に「○」を付けてください。					
1. 神経過敏に感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
2. 絶望的だと感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
3. そわそわ、落ち着かなく感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
4. 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
5. 何をするのも骨折りだと感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも

6. 自分は価値のない人間だと感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも

V 下記の項目はいずれも、強いストレスを伴うような出来事に巻き込まれた方々に、後になって生じることのあるものです。中越沖地震の経験に関して、この１週間で、それぞれの項目の内容について、どの程度強く悩まされましたか。あてはまる欄に「○」をつけてください。（なお、問いの中の「そのこと」は「中越沖地震」をさします。答えに迷われた場合は不明とせず、もっとも近いと思うものを選んでください。）					
1. どんなきっかけでも、そのことを思い出すと、そのときの気もちがぶり返してくる。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
2. 睡眠の途中で目が覚めてしまう。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
3. 他のことをしていても、そのことが頭から離れない。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
4. イライラして、怒りっぽくなっている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
5. そのことについて考えたり思い出すときは、なんとか気を落ち着かせるようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
6. 考えるつもりはないのに、そのことを考えてしまうことがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
7. そのことは、実際には起きなかったとか、現実のことではなかったような気がする。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
8. そのことを思い出させるものには近よらない。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
9. そのときの場面が、いきなり頭にうかんでくる。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に

10.神経が敏感になっていて、ちょっとしたことでどきっとしてしまう。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
11.そのことは考えないようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
12.そのことについては、まだいろいろな気もちがあるが、それには触れないようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
13.そのことについての感情は、マヒしたようである。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
14.気がつくと、まるでそのときにもどってしまったかのように、ふるまったり感じたりすることがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
15.寝つきが悪い。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
16.そのことについて、感情が強くこみあげてくることがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
17.そのことを何とか忘れようとしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
18.ものごとに集中できない。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
19.そのことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、どきどきすることがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
20.そのことについての夢を見る。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
21.警戒して用心深くなっている気がする。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
22.そのことについては話さないようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に

災害について思うこと、困っていることなど、ご自由にご意見などをお書きください。

質問は以上でおしまいです。ご協力、どうもありがとうございました。本調査結果の全体概要は、回覧にてお知らせします。

ご希望の方には「個別結果の送付」「個別相談」をおこないます。ご希望の方は、以下もお答えください。

「個別結果の送付」「個別相談」のいずれかまたは両方を希望する場合は、柏崎市とこころのケアセンターで情報を共有することになりますが、そのことについて、同意する・同意しない のいずれかを選び「○」をつけてください。
（この情報は、調査の目的以外に使用されることはありません。）

同意する　・　同意しない

同意した方は以下もお答え下さい。		
個別結果の送付を希望しますか。	希望する	希望しない
個別相談を希望しますか。	希望する	希望しない

結果は個別に送付します。ご自分のお名前と住所をお書き下さい。
個別相談をご希望の方は、電話番号もお書き下さい。

名前
住所
電話番号 ※電話番号は個別相談希望者のみ

※同意しない方へは個別結果の送付、ならびに
今回の調査に基づいた個別相談はおこなえませんので
ご了承ください。

柏崎市　「新潟県中越沖地震　被災者こころと身体の健康調査」
２年目調査の速報についてのお知らせ

柏崎市元気館元気支援課
こころのケアセンター
（新潟県精神保健福祉協会）

ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。

大きな災害後、長期間にわたって人々の健康状態を見守っていくことは大切であると言われています。今回の調査では去年に引き続き、平成 21 年 7 月に、柏崎市にお住まいの 2737 世帯 6718 人のうち、16 歳以上の方へアンケート調査を郵送し、3229 名(回収率：48.1%)の方からご協力をいただきました。

調査内容

アンケートでは、1 年目の調査の時と同様に、中越大震災や中越沖地震による生活面での影響、身体の健康、こころの健康などについてお尋ねしました。

調査結果

調査に協力してくださった方は、男性と女性がほぼ同数、年齢では 50 歳代から 70 歳代の方が多く、職業では会社員、年金受給者の方が多くを占めていました。

経済的な状況について、34%の方が中越大震災と中越沖地震により、暮らし向きの悪化を感じていました。

身体の健康については、25%の方が体調が悪くなったと感じていました。また、飲酒が増えたと答えた方が 5%いらっしゃいました。

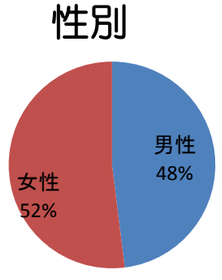
人とのつながりについては、家族と相談できると感じている方が 85%、友人や知人と相談できると感じている方が 73%、地域社会の一員であると感じている方が 68%でした。ひとりでいると孤独に感じる方は 32%でした。

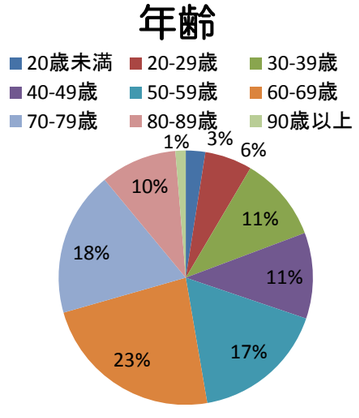
こころの健康については、回答者の 40.7%の方がストレスを感じており、14.5%の方が、さらにうつ病や非常に不安が高まっていると思われる状態でした。

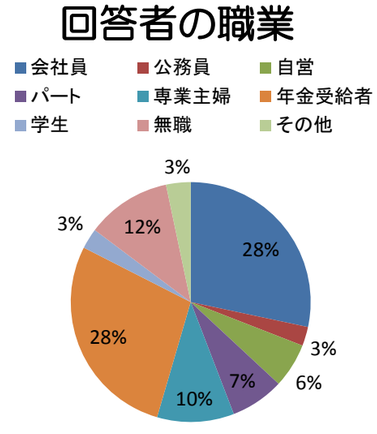
まとめ

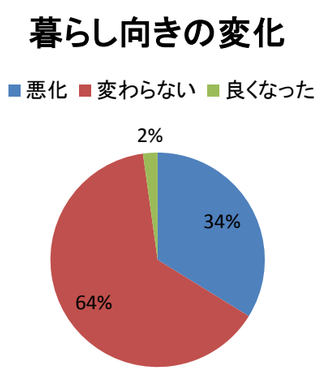
こころの健康については、去年の調査より、ストレスを感じている人の割合やうつや不安が高まっている人の割合はやや多いという結果であり、全国調査の数値と比べても若干多い状態でした。また、調査にご協力いただいた方のうちの 4 分の 1 の方が、体調の悪化を感じていらっしゃいました。

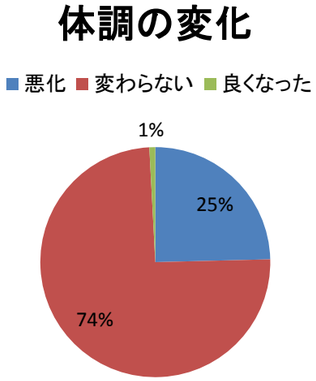
これからも、健康な生活を送るにあたり、こころや身体の健康について心配ごとや相談がございましたら、以下までご連絡ください。

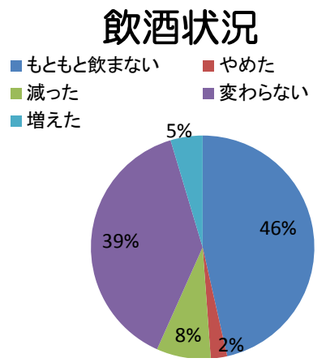


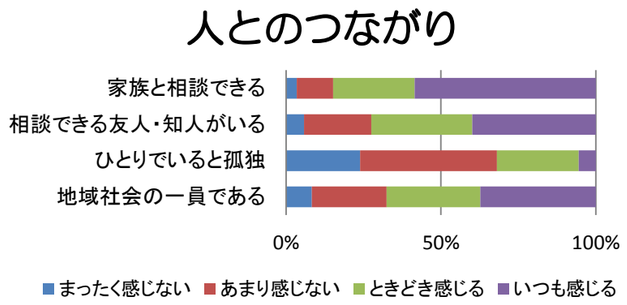


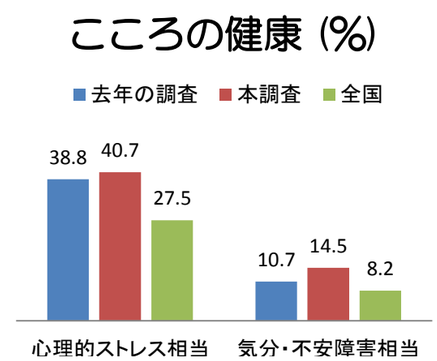












連絡先：柏崎市元気館元気支援課元気相談係・地域保健係　電話 0257-20-4210 柏崎地域振興局健康福祉部　電話：0257-22-4165　柏崎地域こころのケアセンター　電話：0257-28-6070

平成 21 年度健康調査の結果のお知らせ

様

拝啓

この度の調査ではお忙しい中、多大なご協力を賜りまして、誠に有り難うございました。

その時の調査データの一部を、「こころと身体の健康診断」として、希望の有りました方にお返しいたします。 これはその時のこころと身体の状態を調べたもので、調査時点から今までの間に、こころや身体の状態が変わっていることもありますし、またこの状態がこれからもずっと続くということではありません。

結果は 3 段階〈A…問題なし B…要観察 C…要注意または受診〉(無回答は na)で判定しています。これは「病気」そのものを直接に見つけるものではありませんが、皆様のこころの状態に応じて、生活のお役に立てていただければ幸いです。ご自身の健康状態や生活を振り返り、気になることがある方は、こころのケアセンター又は柏崎市元気支援課や医療機関に相談してください。

敬具

1. 身体の健康状態

□

被災後の生活環境の変化や繰り返す引っ越しなどは、身体の変調の原因になります。毎年、基本健診を受けましょう。定期的に医療機関にかかっている方は、生活を整え自己管理を継続しましょう。気になる症状のある方は、早めに医療機関を受診しましょう。

2. 飲酒・喫煙

□

被災後にお酒の量が増えたり、飲み始める時間が早くなった方、また、煙草を吸う本数が増えた方は、体調や気分、睡眠状況を振り返り、気になる症状がある方は、早めに医療機関を受診しましょう。

3. こころの健康状態

□

普段の生活への支障があったり、不安や不眠があることは、こころの健康状態があまりよくない指標です。そのようなときは、自分なりのストレス解消法を見つけたり、専門家に相談して不安や不眠を和らげる薬を処方してもらうのもよいでしょう。

4. 災害によるこころの症状

□

大きな災害は、こころの健康に長期にわたって影響を与えることがあります。災害のことを考えたくないのに頭に浮かんできてしまったり、神経過敏になってしまったりして、日常生活に支障が出てくるようなときは、専門家に相談しましょう。

5. 社会的な支援状況

□

生活の中には悩みやストレスの原因になる事柄が多くありますが、それらを誰かに話すだけでも、こころの健康状態がよくなることがあります。身近な人に話しにくいときには、専門家に相談するのもよいでしょう。

新潟県中越沖地震
平成21年度

「被災者こころと身体の健康調査」

－調査の主旨とご協力のお願い－

平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震から約2年が経ちますが、皆様におかれましては今も復旧・復興のために忙しい毎日をおくっておられることと思います。

この度、昨年と同様に出雲崎町・柏崎市・刈羽村にお住まいの16歳以上の方を対象に「被災者こころと身体の健康調査」を実施することになりました。

この調査は、平成20年から3年間、中越沖地震後の心身の健康状態等を継続してお聞きすることで、皆様への今後の支援に役立てることを目的としています。ご回答いただきました内容につきましては個人情報を削除した上で、国立精神・神経センター精神保健研究所に協力いただき統計的に処理をいたします。その目的以外に使用されることはありません。

個人の事情に関わる質問も多くありますが、調査の主旨をご理解いただき、回答にご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成21年7月1日

出雲崎町長　小林則幸

こころのケアセンター
（新潟県精神保健福祉協会）

問い合わせ先：

〒949-4392　三島郡出雲崎町大字川西140番地
出雲崎町役場　保健福祉課　保険健康係
電話 0258-78-2293　FAX 0258-78-4483

〒945-0064　柏崎市中央町1-14田中中央ビル301
柏崎地域こころのケアセンター
電話 0257-28-6070　FAX 0257-35-6789

新潟県中越沖地震

「被災者こころと身体の健康調査」

（ご記入と回収にあたってのお願い）

- ご記入は、ご家庭にいらっしゃる16歳以上（平成21年4月2日現在）の全員にお願いします。
- ご記入は、黒または青のボールペン（鉛筆ではっきり記入なら可）をご使用ください。
- 災害によるものかどうかにこだわらず、今のご自分の状態をそのままお答えください。
- 返信用封筒が調査用紙と同数入っておりますが、他のご家族に気兼ねなくお答えいただくためのものです。
- 記入された調査票は返信用の封筒に入れ、**7月31日までに**投函してください。
- ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

※調査票記入にあたって、震災時を思い出してつらいと感じることはごく自然な反応ですが、あまりに動揺が激しい、感情が高ぶり落ち着かないなどの場合は下記までご相談ください。

問い合わせ先：

〒949-4391　三島郡出雲崎町大字川西140番地
出雲崎町役場　保健福祉課　保険健康係
電話 0258-78-2293　FAX0258-78-4483

〒945-0064　柏崎市中央町1-14 田中中央ビル301
柏崎地域こころのケアセンター
電話 0257-28-6070　FAX0257-35-6789

Ⅰ　質問をよく読んで、あてはまるものを「○」でかこんでください。（　）には、あてはまる数字や言葉を記入してください。					
1. あなたの年齢を教えてください。	（　　）歳				
2. あなたの性別を教えてください。	1. 女性	2. 男性			
3. あなたと世帯主との関係を教えてください。	1. 本人	2. 配偶者	3. 子	4.親（義親含む）	5. その他
4. あなたの小学校からの学校教育年数を教えてください。（高卒の場合、12 年）	（　　）年				
5. あなたは中越沖地震の時、日常生活の中で介助が必要でしたか。	1. 全てにおいて介助が必要	2. 部分的に介助が必要	3. 介助は必要ない		
6. 中越沖地震の時はどちらにお住まいでしたか。	1. 出雲崎町内	2.出雲崎町以外の地域			
7. 中越沖地震をきっかけとして、住む場所が変わりましたか。（住所の移動の有無は問わない）	1. 転居しなかった	2. 転居した（仮設住宅、アパート、借家、親戚、その他）あてはまるものにすべて○をつけてください			
8. 現在の住まいはどちらですか。	1.自宅	2.アパート	3.借家	4.親戚	5.その他
9. あなたが現在お住まいの地域を教えてください。	1. 海岸（上）	2.海岸（下）	3.西越	4.中越	5.五ヶ字　6.八手 ＊別紙を参照の上あてはまるものに○をつけてください。
10.中越大震災・中越沖地震をきっかけとして、暮らし向きは変わりましたか。	1. 悪くなった	2. 変わらなかった	3. 良くなった		
11.中越沖地震以降、雇用状況に変化がありましたか。近いものに○をつけてください。	1. 転職した	2. 退職した	3. 就職した	4. 変わらなかった	

12. 主たる家計者の現在の状況で、あてはまるもの１つに○を付けてください。	1.会社員	2.公務員	3.自営	4.パート	5.専業主婦	6.年金受給者	7.学生	8.無職	9.その他
13. あなたの現在の状況で、あてはまるもの１つに○を付けてください。	1.会社員	2.公務員	3.自営	4.パート	5.専業主婦	6.年金受給者	7.学生	8.無職	9.その他
14. 平成 16 年 10 月の中越地震に関し、行政による家屋被害認定結果について教えてください。	1.被害なし	2.一部損壊	3. 半壊	4. 大規模半壊					5. 全壊
15. 平成 19 年７月の中越沖地震に関し、行政による家屋被害認定結果について教えてください。	1.被害なし	2.一部損壊	3. 半壊	4. 大規模半壊					5. 全壊
16. 現在、定期的に医者にかかっている病気がありますか。	1. ない	2. ある　病名（　　）							

Ⅱ 次のことについて、平成１９年７月の中越沖地震前と比べ、あてはまるものを「○」でかこんでください。（　　）には、あてはまる数字を記入してください。					
1. あなたは何人の家族と一緒に住んでいますか(自分を含む)	地震前（　　）人			現在（　　）人	
2. 中越沖地震前と比べ、あなたの現在の喫煙状況を教えてください。	1.もともと吸わない	2.やめた	3.減った	4.変わらない	5.増えた
3. 中越沖地震前と比べ、あなたの現在の飲酒状況を教えてください。	1.もともと飲まない	2.やめた	3.減った	4.変わらない	5.増えた
4. 中越沖地震前と比べ、体調に変化はありますか。	1. 悪くなった	2. 変わらない		3. 良くなった	
5. 中越沖地震前と比べ、現在±5%を超える体重の変化がありますか。（例：体重 60Kg の人なら３Kg 以上の増減）	1. 減った	2. 変わらない　±5%の範囲内			3. 増えた

Ⅲ 最近１ヶ月で、次のことについて、あてはまる数字に「○」を付けてください。				
1．わたしは、グループや社会の一員であると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
2．わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
3．わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人知人がいると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
4．わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
5．わたしは、満足した睡眠がとれていると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
6．わたしは、仕事以外でやりがいを感じられるものがある。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる

Ⅳ 最近２週間で、次のことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字に「○」を付けてください。					
1. 神経過敏に感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
2. 絶望的だと感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
3. そわそわ、落ち着かなく感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
4. 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
5. 何をするのも骨折りだと感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも

6. 自分は価値のない人間だと感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも

Ⅴ 下記の項目はいずれも、強いストレスを伴うような出来事に巻き込まれた方々に、後になって生じることのあるものです。中越沖地震の経験に関して、ここ最近１週間で、それぞれの項目の内容について、どの程度強く悩まされましたか。あてはまる欄に「○」をつけてください。（なお、問いの中の「そのこと」は「中越沖地震」をさします。答えに迷われた場合は不明とせず、もっとも近いと思うものを選んでください。）					
1. どんなきっかけでも、そのことを思い出すと、そのときの気もちがぶり返してくる。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
2. 睡眠の途中で目が覚めてしまう。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
3. 他のことをしていても、そのことが頭から離れない。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
4. イライラして、怒りっぽくなっている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
5. そのことについて考えたり思い出すときは、なんとか気を落ち着かせるようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
6. 考えるつもりはないのに、そのことを考えてしまうことがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
7. そのことは、実際には起きなかったとか、現実のことではなかったような気がする。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
8. そのことを思い出させるものには近よらない。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
9. そのときの場面が、いきなり頭にうかんでくる。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に

10.神経が敏感になっていて、ちょっとしたことでどきっとしてしまう。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
11.そのことは考えないようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
12.そのことについては、まだいろいろな気もちがあるが、それには触れないようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
13.そのことについての感情は、マヒしたようである。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
14.気がつくと、まるでそのときにもどってしまったかのように、ふるまったり感じたりすることがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
15.寝つきが悪い。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
16.そのことについて、感情が強くこみあげてくることがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
17.そのことを何とか忘れようとしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
18.ものごとに集中できない。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
19.そのことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、どきどきすることがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
20.そのことについての夢を見る。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
21.警戒して用心深くなっている気がする。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
22.そのことについては話さないようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に

災害について思うこと、困っていることなど、ご自由にご意見などをお書きください。

質問は以上でおしまいです。ご協力、どうもありがとうございました。本調査結果の全体概要は、回覧にてお知らせします。

ご希望の方には「個別結果の送付」「個別相談」をおこないます。ご希望の方は、以下もお答えください。

調査の結果について以下もお答え下さい。		
個別結果の送付を希望しますか。	希望する	希望しない
個別相談を希望しますか。	希望する	希望しない
結果は個別に送付します。ご自分のお名前と住所をお書き下さい。個別相談をご希望の方は、電話番号もお書き下さい。		
名前		
住所		
電話番号 ※電話番号は個別相談希望者のみ		

別紙　　質問Ｉ－９ の地域について、現在お住まいの行政区からあてはまる地域を選んで○をつけてください。

地　域	行　　政　　区
西　越	沢田・藤巻・神条・吉川・滝谷・柿木・馬草・乙茂・大寺・久田・上中条
中　越	駅前・大門・川西１区・川西２区・川西３区・川東・松本・山谷・大釜谷・小釜谷・深町・別ケ谷・桂沢・吉水
五ケ字	立石・中山・米田・上小竹・下小竹・上野山
八　手	船橋・稲川・田中・市野坪・豊橋・常楽寺・小木・相田
海岸（上）	勝見・尼瀬１区・尼瀬２区・尼瀬３区・諏訪本町・伊勢町・稲荷町・岩船町・住吉町
海岸（下）	石井町１区・石井町２区・石井町２丁目・羽黒町１区・羽黒町２区・羽黒町３区・羽黒町４区・羽黒町５区 鳴滝町１区・鳴滝町２区・木折町１区・木折町２区・井鼻１区・井鼻２区・井鼻３区・井鼻４区

出雲崎町　「新潟県中越沖地震　被災者こころと身体の健康調査」
２年目調査の速報についてのお知らせ

出雲崎町保健福祉課
こころのケアセンター
（新潟県精神保健福祉協会）

ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。

大きな災害後、長期間にわたって人々の健康状態を見守っていくことは大切であると言われています。今回の調査では去年に引き続き、平成 21 年７月に、出雲崎町にお住まいの 1711 世帯 4544 人のうち、16 歳以上の方へアンケート調査を郵送し、2587 人(回収率：56.9%)の方からご協力をいただきました。

調査内容

アンケートでは、１ 年目の調査の時と同様に、中越大震災や中越沖地震による生活面での影響、身体の健康、こころの健康などについてお尋ねしました。

調査結果

調査に協力してくださった方は、女性の方がやや多く、年齢では 50 歳代から 70 歳代の方が多く、職業では会社員、年金受給者の方が多くを占めていました。

経済的な状況について、18%の方が中越大震災と中越沖地震により、暮らし向きの悪化を感じていました。

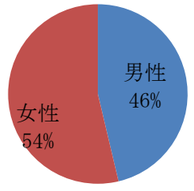
身体の健康については、16%の方が体調が悪くなったと感じていました。また、飲酒が増えたと答えた方が 3%いらっしゃいました。

人とのつながりについては、家族と相談できると感じている方が 85%、友人や知人と相談できると感じている方が 73%、地域社会の一員であると感じている方が 66%でした。ひとりでいると孤独に感じる方は 28%でした。

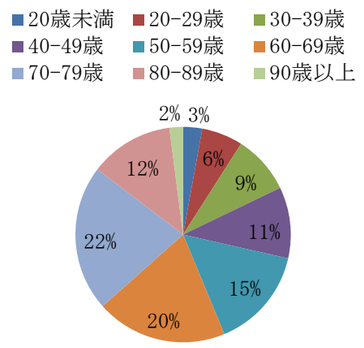
こころの健康については、回答者の 32.4%の方がストレスを感じており、9.5%の方が、さらにうつ病や非常に不安が高まっていると思われる状態でした。去年の調査より、ストレスを感じている人の割合やうつや不安が高まっている人の割合はやや多いという結果であり、全国調査の数値と比べても若干多い状態でした。

※これからも、健康な生活を送るにあたり、こころや身体の健康について心配ごとや相談がございましたら、以下までご連絡ください。

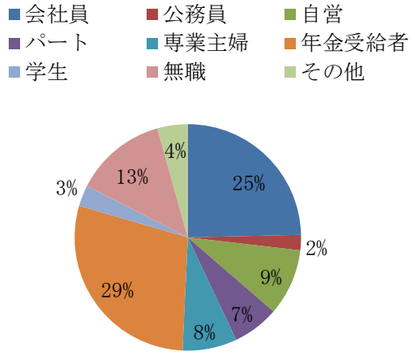
性別



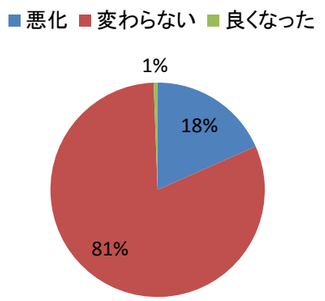
年齢



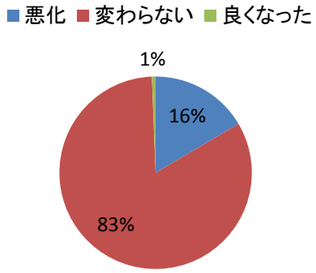
回答者の職業



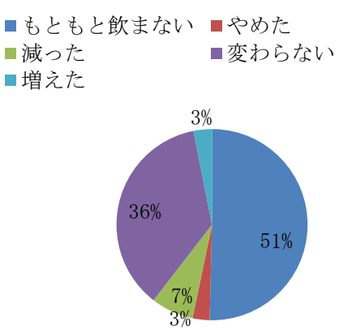
暮らし向きの変化



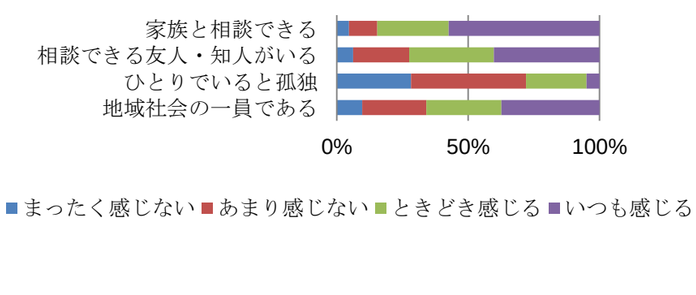
体調の変化



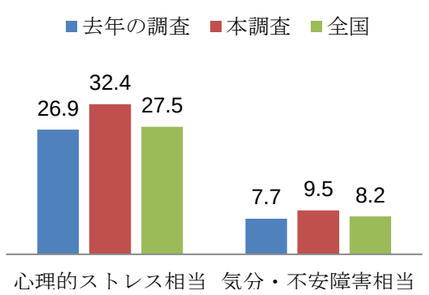
飲酒状況



人とのつながり



こころの健康 (%)



連絡先:出雲崎町役場保健福祉課　電話:0258−78−2293　長岡地域振興局健康福祉環境部　電話:0258-33-4931　柏崎地域こころのケアセンター　電話：0257-28-6070

平成 21 年度健康調査の結果のお知らせ

様

拝啓

この度の調査ではお忙しい中、多大なご協力を賜りまして、誠に有り難うございました。

その時の調査データの一部を、「こころと身体の健康診断」として、希望の有りました方にお返しいたします。 これはその時のこころと身体の状態を調べたもので、調査時点から今までの間に、こころや身体の状態が変わっていることもありますし、またこの状態がこれからもずっと続くということではありません。

結果は 3 段階〈A…問題なし B…要観察 C…要注意または受診〉(無回答は na)で判定しています。これは「病気」そのものを直接に見つけるものではありませんが、皆様のこころの状態に応じて、生活のお役に立てていただければ幸いです。ご自身の健康状態や生活を振り返り、気になることがある方は、町の保健福祉課や医療機関に相談してください。

敬具

1. 身体の健康状態

□

被災後の生活環境の変化や繰り返す引っ越しなどは、身体の変調の原因になります。毎年、基本健診を受けましょう。定期的に医療機関にかかっている方は、生活を整え自己管理を継続しましょう。気になる症状のある方は、早めに医療機関を受診しましょう。

2. 飲酒・喫煙

□

被災後にお酒の量が増えたり、飲み始める時間が早くなった方、また、煙草を吸う本数が増えた方は、体調や気分、睡眠状況を振り返り、気になる症状がある方は、早めに医療機関を受診しましょう。

3. こころの健康状態

□

普段の生活への支障があったり、不安や不眠があることは、こころの健康状態があまりよくない指標です。そのようなときは、自分なりのストレス解消法を見つけたり、専門家に相談して不安や不眠を和らげる薬を処方してもらうのもよいでしょう。

4. 災害によるこころの症状

□

大きな災害は、こころの健康に長期にわたって影響を与えることがあります。災害のことを考えたくないのに頭に浮かんできてしまったり、神経過敏になってしまったりして、日常生活に支障が出てくるようなときは、専門家に相談しましょう。

5. 社会的な支援状況

□

生活の中には悩みやストレスの原因になる事柄が多くありますが、それらを誰かに話すだけでも、こころの健康状態がよくなることがあります。身近な人に話しにくいときには、専門家に相談するのもよいでしょう。

新潟県中越沖地震
平成21年度

「被災者こころと身体の健康調査」

－調査の主旨とご協力のお願い－

平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震から約2年が経ちますが、皆様におかれましては今も復旧・復興のために忙しい毎日をおくっておられることと思います。

この度、昨年と同様に刈羽村・柏崎市・出雲崎町にお住まいの16歳以上の方を対象に「被災者こころと身体の健康調査」を実施することになりました。この調査は、平成20年から3年間、中越沖地震後の心身の健康状態等を継続してお聞きすることで、皆様への今後の支援に役立てることを目的としています。ご回答いただきました内容につきましては個人情報を削除した上で、国立精神・神経センター精神保健研究所に協力いただき統計的に処理をいたします。その目的以外に使用されることはありません。

個人の事情に関わる質問も多くありますが、調査の主旨をご理解いただき、回答にご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成21年7月1日

刈羽村長　品田宏夫
こころのケアセンター
（新潟県精神保健福祉協会）

問い合わせ先：

〒945-0397　刈羽村大字割町新田215-1
刈羽村役場福祉保健課
電話 0257-45-3916　FAX0257-45-2818

〒945-0064　柏崎市中央町1-14　田中中央ビル301
柏崎地域こころのケアセンター
電話 0257-28-6070　FAX0257-35-6789

新潟県中越沖地震

「被災者こころと身体の健康調査」

（ご記入と回収にあたってのお願い）

- ご記入は、ご家庭にいらっしゃる16歳以上（平成21年4月2日現在）の全員にお願いします。
- ご記入は、黒または青のボールペン（鉛筆ではっきり記入なら可）をご使用ください。
- 災害によるものかどうかにこだわらず、今のご自分の状態をそのままお答えください。
- 返信用封筒が調査用紙と同数入っておりますが、他のご家族に気兼ねなくお答えいただくためのものです。
- 記入された調査票は返信用の封筒に入れ、**7月31日までに**投函してください。
- ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

※調査票記入にあたって、震災時を思い出してつらいと感じることはごく自然な反応ですが、あまりに動揺が激しい、感情が高ぶり落ち着かないなどの場合は下記までご相談ください。

問い合わせ先：

〒945-0397　刈羽郡刈羽村大字割町新田215-1
刈羽村役場 福祉保健課
電話 0257-45-3916　FAX0257-45-2818

〒945-0064　柏崎市中央町1-14 田中中央ビル301
柏崎地域こころのケアセンター
電話 0257-28-6070　FAX0257-35-6789

Ⅰ 質問をよく読んで、あてはまるものを「○」でかこんでください。（ ）には、あてはまる数字や言葉を記入してください。					
1. あなたの年齢を教えてください。	（ ）歳				
2. あなたの性別を教えてください。	1. 女性		2. 男性		
3. あなたと世帯主との関係を教えてください。	1. 本人	2. 配偶者	3. 子	4.親（義親含む）	5. その他
4. あなたの小学校からの学校教育年数を教えてください。（高卒の場合、12 年）	（ ）年				
5. あなたは中越沖地震の時、日常生活の中で介助が必要でしたか。	1. 全てにおいて介助が必要		2. 部分的に介助が必要		3. 介助は必要ない
6. 中越沖地震の時はどちらにお住まいでしたか。	1.刈羽村内		2.刈羽村以外の地域		
7. 中越沖地震をきっかけとして、住む場所が変わりましたか。（住所の移動の有無は問わない）	1. 転居しなかった	2. 転居した（仮設住宅、アパート、借家、親戚、その他）あてはまるものにすべて○をつけてください			
8. 現在の住まいはどちらですか。	1. 仮設	2. 仮設以外（自宅、アパート、借家、親戚、その他）⬆ あてはまるものに○をつけてください			
9. あなたが現在お住まいの集落を教えてください。	1.正明寺　2.下高町　3.上高町　4.新屋敷　5.大塚　6.西谷　7.割町新田 8.刈羽　9.井岡　10.十日市　11.西元寺　12.寺尾　13.滝谷　14.滝谷新田 15.入和田　16.枯木　17.赤田町方　18.赤田北方　19.黒川　20.油田				
10.中越大震災・中越沖地震をきっかけとして、暮らし向きは変わりましたか。	1. 悪くなった		2. 変わらなかった		3. 良くなった

11.平成19年7月の中越沖地震以降、雇用状況に変化がありましたか。近いものに○をつけてください。	1．転職した	2．退職した	3．就職した	4．変わらなかった					
12.主たる家計者の現在の状況で、あてはまるもの1つに○を付けてください。	1.会社員	2.公務員	3.自営	4.パート	5.専業主婦	6.年金受給者	7.学生	8.無職	9.その他
13.あなたの現在の状況で、あてはまるもの1つに○を付けてください。	1.会社員	2.公務員	3.自営	4.パート	5.専業主婦	6.年金受給者	7.学生	8.無職	9.その他
14.平成16年10月の中越地震に関し、行政による家屋被害認定結果について教えてください。	1.被害なし	2.一部損壊	3．半壊	4．大規模半壊	5．全壊				
15.平成19年7月の中越沖地震に関し、行政による家屋被害認定結果について教えてください。	1.被害なし	2.一部損壊	3．半壊	4．大規模半壊	5．全壊				
16.現在、定期的に医者にかかっている病気がありますか。	1．ない	2．ある　病名（　　）							
17.食育に関心がありますか。	1.関心がある	2.どちらかといえば関心がある	3.どちらかといえば関心がない	4.関心がない	5.わからない				
18.コマ型の「食事バランスガイド」を見たことがありますか。	1.はい	2.いいえ							
19.朝食を毎日食べている。	1.はい	2.いいえ							
20.食事はいつも腹八分目にしている。	1.はい	2.いいえ							
21.主食（ご飯等）、主菜（中心となるおかず）、副菜（野菜等のおかず）をバランスよく食べている。	1.はい	2.いいえ							
22.野菜のおかずを毎食食べていますか。	1.はい	2.いいえ							

Ⅱ 次のことについて、平成１９年７月の中越沖地震前と比べ、あてはまるものを「○」でかこんでください。 （　　）には、あてはまる数字を記入してください。					
1. あなたは何人の家族と一緒に住んでいますか(自分を含む)	地震前（　　）人			現在（　　）人	
2. 中越沖地震前と比べ、あなたの現在の喫煙状況を教えてください。	1.もともと吸わない	2.やめた	3.減った	4.変わらない	5.増えた
3. 中越沖地震前と比べ、あなたの現在の飲酒状況を教えてください。	1.もともと飲まない	2.やめた	3.減った	4.変わらない	5.増えた
4. 中越沖地震前と比べ、体調に変化はありますか。	1. 悪くなった	2. 変わらない		3. 良くなった	
5. 中越沖地震前と比べ、現在±5%を超える体重の変化がありますか。 （例：体重 60Kg の人なら３Kg 以上の増減）	1. 減った	2. 変わらない　±5%の範囲内			3. 増えた

Ⅲ 最近１ヶ月で、次のことについて、あてはまる数字に「○」を付けてください。				
1．わたしは、グループや社会の一員であると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
2．わたしは、ひとりでいると孤独に感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
3．わたしは、何か問題があったときに、相談できる友人知人がいると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
4．わたしは、何か問題があったときに、家族と相談できると感じる。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる
5．わたしは仕事以外でやりがいを感じられるものがある。	1.まったく感じない	2．あまり感じない	3．ときどき感じる	4．いつも感じる

Ⅳ 最近２週間で、次のことは、どれくらいありましたか。あてはまる数字に「○」を付けてください。					
1. 神経過敏に感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
2. 絶望的だと感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
3. そわそわ、落ち着かなく感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
4. 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
5. 何をするのも骨折りだと感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも
6. 自分は価値のない人間だと感じましたか。	1.全くない	2.少しだけ	3.ときどき	4.たいてい	5.いつも

Ⅴ 下記の項目はいずれも、強いストレスを伴うような出来事に巻き込まれた方々に、後になって生じることのあるものです。中越沖地震の経験に関して、この１週間で、それぞれの項目の内容について、どの程度強く悩まされましたか。あてはまる欄に「○」をつけてください。（なお、問いの中の「そのこと」は「中越沖地震」をさします。答えに迷われた場合は不明とせず、もっとも近いと思うものを選んでください。）					
1. どんなきっかけでも、そのことを思い出すと、そのときの気もちがぶり返してくる。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
2. 睡眠の途中で目が覚めてしまう。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
3. 他のことをしていても、そのことが頭から離れない。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に

4. イライラして、怒りっぽくなっている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
5. そのことについて考えたり思い出すときは、なんとか気を落ち着かせるようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
6. 考えるつもりはないのに、そのことを考えてしまうことがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
7. そのことは、実際には起きなかったとか、現実のことではなかったような気がする。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
8. そのことを思い出させるものには近よらない。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
9. そのときの場面が、いきなり頭にうかんでくる。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
10.神経が敏感になっていて、ちょっとしたことでどきっとしてしまう。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
11.そのことは考えないようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
12.そのことについては、まだいろいろな気もちがあるが、それには触れないようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
13.そのことについての感情は、マヒしたようである。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
14.気がつくと、まるでそのときにもどってしまったかのように、ふるまったり感じたりすることがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
15.寝つきが悪い。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
16.そのことについて、感情が強くこみあげてくることがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に

17.そのことを何とか忘れようとしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
18.ものごとに集中できない。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
19.そのことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、どきどきすることがある。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
20.そのことについての夢を見る。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
21.警戒して用心深くなっている気がする。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に
22.そのことについては話さないようにしている。	1.全くなし	2.少し	3.中くらい	4.かなり	5.非常に

災害について思うこと、困っていることなど、ご自由にご意見などをお書きください。

質問は以上でおしまいです。ご協力、どうもありがとうございました。本調査結果の全体概要は、回覧にてお知らせします。
ご希望の方には「個別結果の送付」「個別相談」をおこないます。ご希望の方は、以下もお答えください。

「個別結果の送付」「個別相談」のいずれかまたは両方を希望する場合は、刈羽村とこころのケアセンターで情報を共有することになりますが、そのことについて、同意する・同意しない のいずれかを選び「○」をつけてください。
（この情報は、調査の目的以外に使用されることはありません。）

同意する			同意しない
同意した方は以下もお答え下さい。			※同意しない方へは個別結果の送付、ならびに 今回の調査に基づいた個別相談はおこなえませんので ご了承ください。
個別結果の送付を希望しますか。	希望する	希望しない	
個別相談を希望しますか。	希望する	希望しない	
結果は個別に送付します。ご自分のお名前と住所をお書き下さい。 個別相談をご希望の方は、電話番号もお書き下さい。			
名前			
住所			
電話番号 ※電話番号は個別相談希望者のみ			

刈羽村役場福祉保健課
こころのケアセンター
（新潟県精神保健福祉協会）

刈羽村　「新潟県中越沖地震　被災者こころと身体の健康調査」２年目調査の速報についてのお知らせ

ご協力いただきまして、まことにありがとうございました。

大きな災害後、長期間にわたって人々の健康状態を見守っていくことは大切であると言われています。今回の調査では去年に引き続き、平成 21 年 7 月に、刈羽村にお住まいの 1554 世帯 4301 人のうち、16 歳以上の方へアンケート調査を郵送し、1850 名(回収率：43.0%)の方からご協力をいただきました。

調査内容

アンケートでは、1 年目の調査の時と同様に、中越大震災や中越沖地震による生活面での影響、身体の健康、こころの健康などについてお尋ねしました。

調査結果

調査に協力してくださった方は、男性と女性がほぼ同数、年齢では 50 歳代から 70 歳代の方が多く、職業では会社員の方が多くを占めていました。

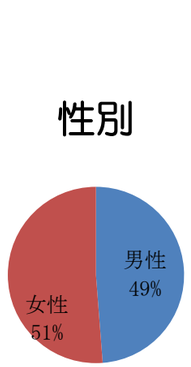
経済的な状況について、37%の方が中越大震災と中越沖地震により、暮らし向きの悪化を感じていました。

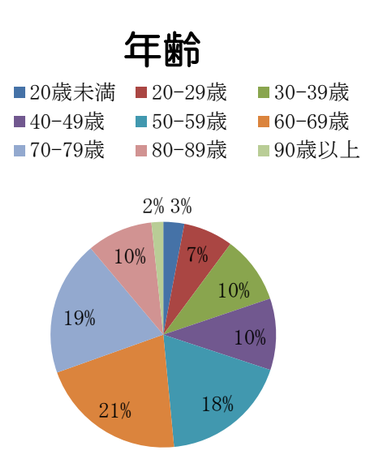
身体の健康については、25%の方が体調が悪くなったと感じていました。また、飲酒が増えたと答えた方が 5%いらっしゃいました。

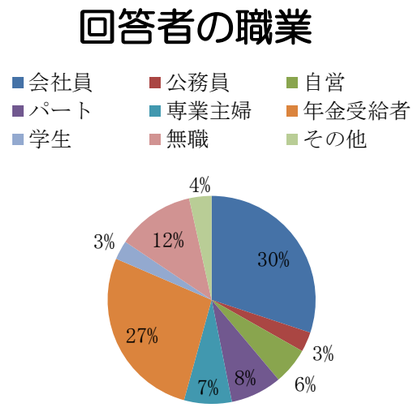
人とのつながりについては、家族と相談できると感じている方が 85%、友人や知人と相談できると感じている方が 73%、地域社会の一員であると感じている方が 69%でした。ひとりでもあまり孤独を感じない方は 68%でした。

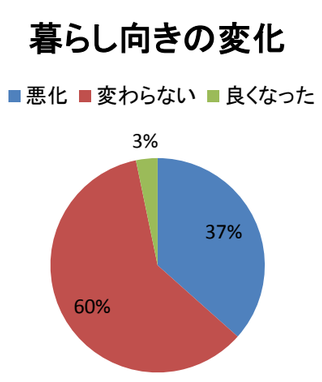
こころの健康については、回答者の 35.7%の方がストレスを感じており、12.1%の方が、さらにうつ病や非常に不安が高まっていると思われる状態でした。去年の調査より、ストレスを感じている人の割合やうつや不安が高まっている人の割合はやや少ないという結果でしたが、全国調査の数値と比べると若干多い状態でした。

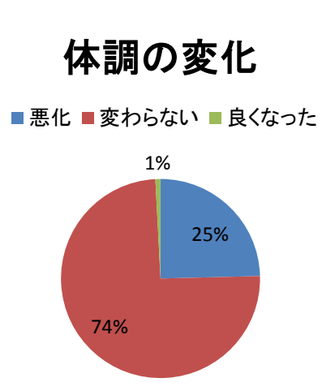
※これからも、健康な生活を送るにあたり、こころや身体の健康について心配ごとや相談がございましたら、以下までご連絡ください。

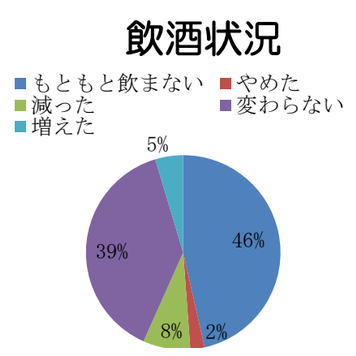


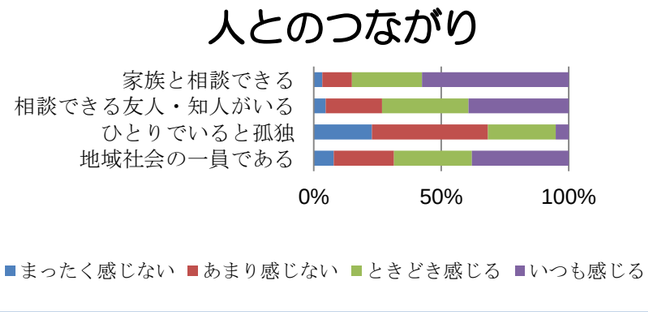


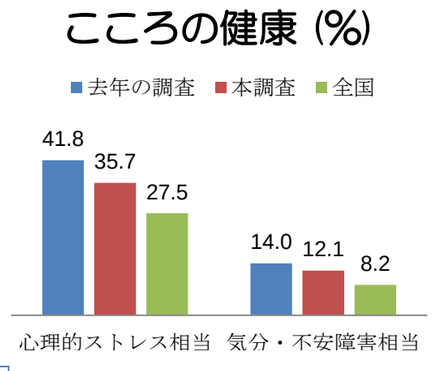












連絡先：刈羽村役場福祉保健課　電話：0257-45-3916　柏崎地域振興局健康福祉部　電話：0257-22-4165　柏崎地域こころのケアセンター　電話：0257-28-6070

平成 21 年度健康調査の結果のお知らせ

様

拝啓

この度の調査ではお忙しい中、多大なご協力を賜りまして、誠に有り難うございました。

その時の調査データの一部を、「こころと身体の健康診断」として、希望の有りました方にお返しいたします。 これはその時のこころと身体の状態を調べたもので、調査時点から今までの間に、こころや身体の状態が変わっていることもありますし、またこの状態がこれからもずっと続くということではありません。

結果は 3 段階〈A…問題なし B…要観察 C…要注意または受診〉(無回答は na)で判定しています。これは「病気」そのものを直接に見つけるものではありませんが、皆様のこころの状態に応じて、生活のお役に立てていただければ幸いです。ご自身の健康状態や生活を振り返り、気になることがある方は、こころのケアセンター又は柏崎市元気支援課や医療機関に相談してください。

敬具

1. 身体の健康状態

□

被災後の生活環境の変化や繰り返す引っ越しなどは、身体の変調の原因になります。毎年、基本健診を受けましょう。定期的に医療機関にかかっている方は、生活を整え自己管理を継続しましょう。気になる症状のある方は、早めに医療機関を受診しましょう。

2. 飲酒・喫煙

□

被災後にお酒の量が増えたり、飲み始める時間が早くなった方、また、煙草を吸う本数が増えた方は、体調や気分、睡眠状況を振り返り、気になる症状がある方は、早めに医療機関を受診しましょう。

3. こころの健康状態

□

普段の生活への支障があったり、不安や不眠があることは、こころの健康状態があまりよくない指標です。そのようなときは、自分なりのストレス解消法を見つけたり、専門家に相談して不安や不眠を和らげる薬を処方してもらうのもよいでしょう。

4. 災害によるこころの症状

□

大きな災害は、こころの健康に長期にわたって影響を与えることがあります。災害のことを考えたくないのに頭に浮かんできてしまったり、神経過敏になってしまったりして、日常生活に支障が出てくるようなときは、専門家に相談しましょう。

5. 社会的な支援状況

□

生活の中には悩みやストレスの原因になる事柄が多くありますが、それらを誰かに話すだけでも、こころの健康状態がよくなることがあります。身近な人に話しにくいときには、専門家に相談するのもよいでしょう。

柏崎地域こころのケアセンター	〒945-0064 柏崎市中央町 1-14 田中中央ビル 301 TEL 0257-28-6070　FAX 0257-35-6789
柏崎市福祉保健部元気支援課	〒945-0061 柏崎市栄町 18 番 26 号 TEL 0257-20-4210　FAX 0257-22-1077
出雲崎町保健福祉課	〒949-4392 三島郡出雲崎町大字川西 140 番地 TEL 0258-78-2293　FAX 0258-78-4483
刈羽村福祉保健課	〒945-0397 刈羽郡刈羽村大字割町新田 215 番地 1 TEL 0257-45-3916　FAX0257-45-2818